Nikon

ソフトウェア

Capture NX 2

使用説明書

Jp

ご注意

・使用説明書の一部あるいは全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。

・使用説明書に記載されている内容は予告なしに変更されることがあります。

・使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

・仕様、性能は予告なく変更することがありますのでご了承ください。

・使用説明書を使用して操作した結果については、当社はいかなる責任も負いかねますので、ご了承ください。

・本製品の不具合に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用または利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

・CD-ROMに収録された画像は、「クイックスタートガイド」で使用する以外、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用したり、コピーしたり、配布することはできません。

・下記ホームページから使用説明書（カラー版）のPDFファイルをダウンロードできます。
http://www.nikon-image.com/jpn/support/manual/m_pdf.htm

・ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

・本製品は米国の特許権によって保護されています。米国および、またはその他の各国において特許出願中です。

© 2006-2008 NIKON CORPORATION
© 2006-2008 Nik Software, Inc.
All Rights Reserved.

⚠注 意

CD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと

機器に損傷を与えたり大きな音がして、聴力に悪影響を及ぼす場合があります

商標について

U Pointは、Nik Software, Inc.の登録商標です。NikまたはNikのロゴはNik Software, Inc.の商標です。Microsoft、Windows、Windows Vista は米国Microsoft Corporation の米国またはその他の国における登録商標です。Macintosh、Mac OSは米国またはその他の国で登録されたApple Inc. の商標です。Adobe、Adobe Photoshop はAdobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標、または特定地域における同社の登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

目次

はじめに 1
使用説明書について 2
目的別かんたん検索 3
コントロールポイントとは 6
インストール（Windows） 7
インストール（Mac OS） 12

第1章：
Capture NX 2の基本概要 17
Capture NX 2を起動する 18
Capture NX 2を終了する 19
Capture NX 2の各部名称 20
ウィンドウの使い方 22
ウィンドウの分離合体方法 22
ウィンドウの最大化/ 最小化 22
ウィンドウサイズの変更 23
ウィンドウの配置（ワークスペース）を変更する 24
ワークスペースの切り換え 24
ワークスペースの保存 26
ワークスペースの読み込み 26
ワークスペースの管理 27
2台のモニターでワークスペースを使用 28
ワークスペースの切り換え/画像の転送/プリントを行う 29
アクティビティツールバー 29

第2章：画像を開く 31
「Welcome」画面から開く 32
「Welcome」画面 32
メニューから開く 33
ブラウザーで開く 34
ブラウザーを開く 34
ブラウザーで効率よく画像を選ぶ 35
ブラウザー 35
ラベルとレーティングツールバー 38
ビューコントロールバー 41
フォルダ 43
イメージウィンドウで開いた画像を確認する 45
開いた画像の並べ方を設定する 47
画像を閉じる 48
ファイルメニューから閉じる 48
イメージウィンドウから閉じる 48

第3章：
Capture NX 2の基本操作 49
表示部分をスクロールする 50
手のひらツール 50
画像を拡大/縮小表示する 51
ズームツール 51
メニューから拡大/ 縮小 52
画像を回転/反転する 54
回転ツール/ 回転 54
反転 56
画像の傾きを調整する 57
傾きツール/ 傾き 57
画像を切り抜く 59
クロップツール 59
表示部分の位置を確認する 61
ナビゲーター 61
画像の階調を確認する 62
ヒストグラム 62
ポインター部分のピクセル情報を確認する 64
モニターポイント 64
白とび/黒つぶれを確認する 65
白とび表示 65
黒つぶれ表示 66
フォーカスポイント（フォーカスエリア）を確認する 67

フォーカスポイント表示 67
画像に関連する情報を確認する 68
ファイル/撮影情報 68
XMP/IPTC情報（作成者に関する情報など）を確認する 69
XMP/IPTC 情報 69
処理した画像を比較する 70
画像の比較 70

第4章：エディットリスト 73
エディットリストを使用する 74
エディットリスト 74
処理をする順序について 77
［現像］セクションと［調整］セクションの違い 77
処理の一時キャンセル 78
おすすめの処理の順序 78
新規ステップを作成する 79
新規ステップボタン 79
処理の内容を調整する 80
不透明度 80
選択範囲表示領域 82
画像処理ステップを編集する 84
画像処理ステップを削除する 84
画像処理ステップをコピーし貼り付ける 84
画像処理ステップをリンクして1 つの選択範囲内に複数の処理を適用する 86
画像処理ステップの置き換え 87

第5章：RAW画像の現像処理をする 89
RAW画像のメリット 90
RAW画像とは 90
RAW画像とTIFF、JPEG形式との違い 90
RAW画像の持つ階調 91
RAW画像を現像するには 91
［現像］セクション 92
［現像］セクション 92
ホワイトバランスを調整する 94
ホワイトバランス 94
ピクチャーコントロールを設定する 97
ピクチャーコントロール 97
ピクチャーコントロールを使用していない画像を調整する 104
ピクチャーコントロール不使用 104
画像のノイズを低減する 106
ノイズリダクション 106
白とびや黒つぶれを軽減する 107
アクティブD- ライティング 107
色モアレを軽減する 108
色モアレリダクション 108
ゴミやホコリの写り込みを軽減する 109
イメージダストオフ 109
色ずれを軽減する 111
自動色収差補正 111
赤目現象を自動的に補正する 112
自動赤目補正 112
レンズによる画像周辺部の明るさの低下を調整する 113
ヴィネットコントロール 113
フィッシュアイレンズで撮影した画像を広角レンズで撮影したように変換する 114
フィッシュアイレンズ 114

第6章：画像を調整する 115
簡単に複数の効果を画像に適用する 116
クイックフィックス 116
コントロールポイントを使用して画像を調整する 119
コントロールポイントとは 119
コントロールポイントを移動する 122
コントロールポイントを削除する 122
コントロールポイントを複製する 123
コントロールポイントの表示/非表示を切り換える 123
コントロールポイントのスライダーを非表示にする 124
複数のコントロールポイントを同時に選ぶ 124
コントロールポイントを調節する 126
選択ツール 126
画像内のもっとも暗い部分と明るい部分を設定する 127
ブラックコントロールポイント 127
ホワイトコントロールポイント 127

ブラックコントロールポイントと
ホワイトコントロールポイントの
用途 128
画像内の中間色の部分を設定する 133
ニュートラルコントロールポイント ... 133
ニュートラルコントロールポイントの
用途 133
画像の色と明るさを簡単に調整する 137
カラーコントロールポイント 137
カラーコントロールポイントの
用途 137
人物の赤目現象を補正する 141
赤目補正コントロールポイント 141
赤目補正コントロールポイントの
使用方法 141
画像内の不要なゴミを取る 143
自動レタッチブラシ 143
画像の明るさを調整する 145
レベルとトーンカーブ 145
コントラスト / 明るさ 151
自動レベル 152
D- ライティング 153
画像のカラーを調整する 154
LCH エディター 154
カラーバランス 160
カラーブースター 161
彩度 / 暖色 162
画像をぼかす 163
ぼかし（ガウス） 163
画像の細部を消去する 164
ハイパス 164
画像のシャープネスを向上させる 166
アンシャープマスク 166
画像のゆがみを補正する 168
ゆがみ補正 168
色ずれを補正する 169
色収差補正 169
画像のざらつきを軽減する 170
ノイズリダクション 170
画像にカラープロファイルを適用する ... 171
カラープロファイル 171
白黒やセピアの画像にする 174
色変換 174
ノイズを加えてフィルム粒子風の効果を
出す 176
粒状 / ノイズを加える 176
特定色のコントラストを調整する 177
コントラスト：色範囲 177
画像に色を加える 178
カラー化する 178
白黒画像に変換する 179
白黒変換 179
画像のサイズを調整する 180
画像サイズ / 画像解像度 180
解像度と出力サイズの関係 185
画像の大きさを合わせる 186

第7章：
画像の一部分を選択して調整する...187
画像に適用する処理の範囲を
簡単に設定する 188
選択コントロールポイント 188
選択コントロールポイントの用途 188
［全体不透明度］と選択コントロール
ポイントの［不透明度］の関係 190
画像処理を行う部分を選択する 197
なげなわと選択ツール 197
一部に対して処理効果を調整する 200
選択ブラシ 200
画像処理をグラデーション状に
適用する 205
選択範囲グラデーション 205
選択範囲内に処理を適用 / 削除する 209
塗りつぶし / 削除ツール 209
選択範囲を表示する 210
選択範囲の表示 210

第8章：画像を保存する.....211
編集した画像を保存する 212
保存 212
名前を付けて保存 213
復帰 216
プロテクト設定 216
ファイル形式の違い 217
NEF形式 217
TIFF形式 218
JPEG形式 218

第9章：画像を印刷する.....219
印刷する形態を設定する 220

ページ設定 220
編集した画像を印刷する 221
印刷 221

第10章：作業を効率的に行う 231
画像処理の履歴を1枚の画像内に複数残す 232
編集バージョンメニュー 232
編集バージョンの種類 232
編集バージョンの新規作成、編集 233
複数の画像に同じ処理を適用する（バッチ処理） 234
バッチ処理とは 234
バッチ処理の実行 235
調整のコピー 241
調整の貼り付け 241
調整の保存 242
調整の読み込み 243
IPTC情報のコピー 244
IPTC情報の貼り付け 244
XMP/IPTCプリセットの保存 244
XMP/IPTCプリセットの読み込み ... 244
監視フォルダ 245

第11章：
Capture NX 2を使いこなす 247
環境設定を変更する 248
一般 249
カラーマネージメント 250
レベルとサンプリング 252
表示 253
キャッシュ設定 254
XMP/IPTC プリセット 255
ラベル 257
設定の管理 258
ワークスペース 259
カラーピッカーで色を選ぶ 260
ピクチャーコントロールを管理する 262
ピクチャーコントロールユーティリティー（Picture Control Utility） 263
ピクチャーコントロールユーティリティーの起動 264
カスタムピクチャーコントロールの作成 264
レベル調整の設定項目 267
カスタムピクチャーコントロールをカメラと共有する 269
ピクチャーコントロールを管理する ... 271
オプションピクチャーコントロールをダウンロードする 271
ピクチャーコントロールユーティリティーを終了する 271
メニュー 一覧 272
ファイルメニュー 272
Capture NX メニュー（Mac OSのみ） 272
編集メニュー 273
調整メニュー 275
フィルタメニュー 275
バッチメニュー 276
表示メニュー 276
ウィンドウメニュー 278
ヘルプメニュー 279
ショートカットキー 一覧 280

資料.....283
Capture NX 2がサポートする色空間について 284
ヒントと追加情報 287
アンインストール 296
トラブルシューティング 298
用語集 300

はじめに

このたびはCapture NX 2をお買いあげくださいまして、誠にありがとうございます。
ご使用の前に、この使用説明書をよくお読みいただき、正しく使用してください。
お読みいただいた後は、ご使用になる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

使用説明書について.....P.2
目的別かんたん検索.....P.3
コントロールポイントとは.....P.6
インストール（**Windows**）.....P.7
インストール（**Mac OS**）.....P.11

使用説明書について

ここでは、使用説明書の記載について説明しています。

表記について

・この使用説明書は、カメラやパソコンのOS に関する基礎的な知識をお持ちの方にお読みいただくことを想定しています。基本的な用語や操作などについてはカメラやパソコンの使用説明書などでご確認ください。

・使用説明書では、D1、D1X、D1H をまとめて「D1 シリーズ」、D2Xs、D2X、D2Hs、D2H をまとめて「D2 シリーズ」、D70S、D70 をまとめて「D70 シリーズ」、D40、D40X をまとめて「D40 シリーズ」と表記しています。

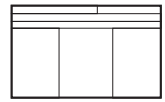
・Windows Vista 32bit 版のすべてのエディション（Home Basic、Home Premium、Business、Enterprise、Ultimate）を「Windows Vista」と総称しています。

・Windows XP Home Edition とWindows XP Professional を「Windows XP」と総称しています。

・OSによってメニュー名が異なる場合は、「Windows のメニュー名（Mac OS のメニュー名）」と表記しています。

・コンパクトフラッシュ（CF）カードやSDメモリーカードなどを「メモリーカード」と表記しています。

・使用説明書では、右のような図で各ウィンドウやメニューの大まかな位置を表示しています。



使用説明書で使用する画面について

使用説明書は、Windows とMac OS を同時に説明しています。説明中では、Windows Vista Ultimate の画面を主に使用していますが、操作方法はWindows/Mac OS でほぼ共通です。画面に表示されている画像ははめ込み合成によるものが含まれています。

OS の種類やバージョンの違いによって、画面の外観や操作が使用説明書に掲載されているものと一部異なる場合があります。OS 特有の操作や表示画面については、ご使用のOS の使用説明書をご覧ください。

目的別かんたん検索

使いたいことや知りたいことから、説明が記載されているページを簡単に調べられます。

わかりやすいインターフェイス

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	参照
ウィンドウの位置を切り換えたり、自分好みに配置したウィンドウの位置を記憶して作業を効率化したい	ワークスペース	P.24
サムネイル（縮小画像）や画像のデータを見ながら画像を選びたい	ブラウザー	P.35
画像にラベルを付けて分類分けしたり、レーティング（重要度）を設定して、画像の整理をしたい	ラベルとレーティングツールバー	P.38
ラベルやレーティングによって画像を簡単に選びたい	ビューコントロールバー	P.41
画像を保存しているフォルダを簡単に選びたい	フォルダ	P.43
フォルダを「お気に入り」として登録したい	お気に入りフォルダ	P.43
画像に関する情報を確認したい	ファイル/撮影情報	P.68
画像のXMP/IPTC情報を確認したい	XMP/IPTC情報	P.69
画像処理を「画像処理ステップ」として管理して、処理のやり直しなどをしたい	エディットリスト	P.73

使いやすい基本操作

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	参照
画像を回転したり、反転したい	回転ツール/回転 反転	P.54 P.56
画像の傾きを調整したい	傾きツール/傾き	P.57
画像を切り抜いて必要な部分だけを使用したい	クロップツール	P.59
画像の階調を確認したい	ヒストグラム	P.62
特定のピクセル部分の情報を常に表示させたい	モニターポイント	P.64
画像の白とびや黒つぶれを確認したい	白とび表示 黒つぶれ表示	P.65 P.66
画像のフォーカスポイント（フォーカスエリア）を確認したい	フォーカスポイント表示	P.67
複数の画像を比較したり、処理前後の画像を比較したりしたい	比較	P.70
画像を保存したい 画像を別名や別の形式で保存したい	保存 名前を付けて保存	P.212 P.213
処理を適用した画像を印刷したい 複数の画像をさまざまなレイアウトで印刷したい	印刷	P.219

RAW画像の現像作業

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	参照
RAW画像特有の機能を調整したい	[現像] セクション	P.92
ホワイトバランスを調整したい	ホワイトバランス	P.94
ピクチャーコントロールを使って、画像の仕上がりを簡単に設定したい	ピクチャーコントロール	P.97

多彩な画像調整機能

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	参照
簡単に複数の効果を画像に適用したい	クイックフィックス	P.116
画像のもっとも暗い場所/明るい場所を設定して、画像の階調を調整したい	ブラックコントロールポイント ホワイトコントロールポイント	P.127
画像の一部の色と明るさを、簡単に調整したい	カラーコントロールポイント	P.137
赤く写ってしまった人物の目を補正したい	赤目補正コントロールポイント	P.141
画像内に写り込んだゴミを消したい	自動レタッチブラシ	P.143
画像の明るさを調整したい	レベルとトーンカーブ コントラスト/明るさ 自動レベル D-ライティング	P.145 P.151 P.152 P.153
画像のカラーを調整したい	LCHエディター カラーバランス カラーブースター 彩度/暖色	P.154 P.160 P.161 P.162
画像をぼかしたり、シャープニングをかけたりしたい	ぼかし（ガウス） アンシャープマスク	P.163 P.166
レンズによる画像のゆがみや色ずれを補正したい	ゆがみ補正 色収差補正	P.168 P.169
白黒画像やセピア色の画像にしたい	色変換 白黒変換	P.174 P.179
画像にノイズを加えてメリハリを加えたい	粒状/ノイズを加える	P.176
特定色部分のコントラストを調整したい	コントラスト：色範囲	P.177
画像に任意の色を乗せてブレンドしたい	カラー化する	P.178
画像のサイズを変更したり、出力サイズを変更したりしたい	画像サイズ/画像解像度	P.180
複数の画像サイズを合わせたい	画像の大きさを合わせる	P.186

画像の一部だけに処理を適用する選択範囲機能

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	参照
処理を適用する範囲を簡単に指定したい	選択コントロールポイント	P.188
フリーハンドで選択範囲を作成したり、長方形や円形の選択範囲を作成したりしたい	なげなわと選択ツール	P.197
ブラシで塗る感覚で選択範囲を作成したい	選択ブラシ	P.200
グラデーション状の選択範囲を作成したい	選択範囲グラデーション	P.205
選択範囲内に処理を適用/削除したい	塗りつぶし/削除ツール	P.209

作業を効率化する機能

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	参照
途中までの作業工程を残したい	編集バージョン	P.232
複数の画像に同じ処理を自動的に適用したい	バッチ処理	P.234

コントロールポイントとは

コントロールポイントは、Capture NX 2の多くのツールで使用されているU Pointテクノロジーをもとにした技術です。コントロールポイントを画像に置くと、位置や色、彩度などの特性を識別し、コントロールポイント対象箇所を判定します。

たとえば空の部分にコントロールポイントを置くと空の部分だけに、花の部分にコントロールポイントを置くと花と同じ系統の色の部分だけに処理が適用されます。また、画像のもっとも明るい場所や暗い場所を指定して画像全体にメリハリを与えたり、色かぶりをとったりなど、さまざまな用途に使用できます。

他のアプリケーションで同様の処理をするには、処理の適用部分を細かく指定するなど、選択範囲の作成に時間がかかります。Capture NX 2では、コントロールポイントを使用すれば、簡単に画像の特定の部分だけに処理を適用できます。

Capture NX 2のコントロールポイントにはカラーコントロールポイント、ブラックコントロールポイント、ニュートラルコントロールポイント、ホワイトコントロールポイント、赤目補正コントロールポイント、選択コントロールポイントの6つがあります。画像内のカラーや階調の調整、画像調整など、多くの処理でコントロールポイントを使用できます。

ブラックコントロールポイントとホワイトコントロールポイントを除いたコントロールポイントは、ひとつの画像処理ステップ内に複数配置できます。コントロールポイントの数を増やすほど、細かい調整が可能になります。コントロールポイントの効果を画像全体に適用すると、自然な状態で画像調整ができます。

インストール（Windows）

Mac OSをご使用の方は12ページを参照してください。

動作環境

OS*1	32-bit版のWindows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate（Service Pack 1） Windows XP Home Edition/Professional（Service Pack 2）
プロセッサー	Pentium 4相当以上
RAM	768MB以上実装（1GB以上実装を推奨）
ハードディスク容量	インストール時に200MB以上の空き容量が必要
モニター解像度	1024×768ピクセル以上（1280×1024以上を推奨）で16ビット色以上（32ビット色推奨）
その他	・インストール時には、CD-ROM ドライブが必要 ・Nikon Message Center機能を使うには、インターネットに接続できる環境が必要 ・「カスタムピクチャーコントロール」をインポート/エクスポートするには、メモリーカード（カメラで動作確認しているカード）にファイルの読み込み/書き込みができる環境（カードリーダーなど）が必要

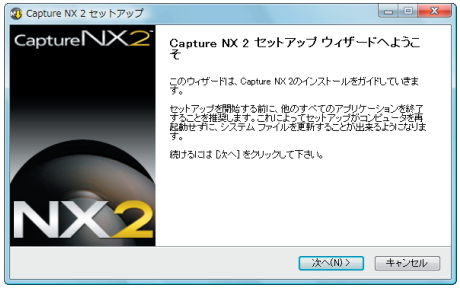
*1 すべて日本語版のプリインストールモデルのみ対応

手順

1 Capture NX 2 CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入する

セットアップウィザードが自動的に起動します。

セットアップウィザードが自動的に起動しない場合は［**スタート**］メニューから［**マイコンピュータ**］を選び、Capture NX 2セットアップアイコンをダブルクリックしてください。

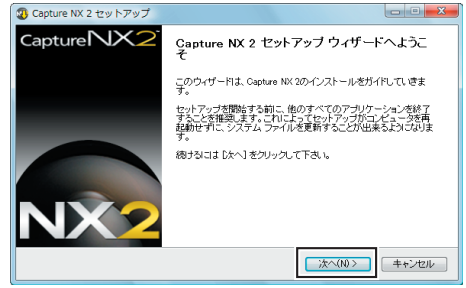


MEMO

- ダウンロード版をご使用の方は、パソコンにダウンロードしたセットアップファイルをダブルクリックしてセットアップウィザードを起動してください。
- Capture NX 2のインストールをする場合は、管理者権限のアカウントでログインする必要があります。
- Windows Vistaで「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示された場合、「許可」をクリックしてください。

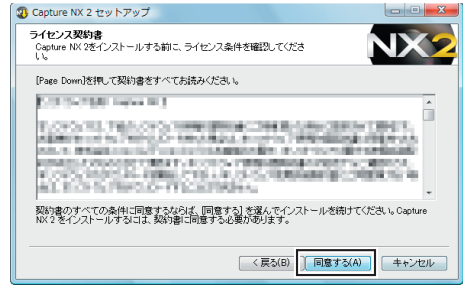
2 [次へ] をクリックする

["Read Me"ファイル] ダイアログが表示されます。["Read Me"ファイル] ダイアログには使用説明書に書かれていない内容や重要な情報が記載されています。内容をよくお読みの上、[**次へ**] をクリックして、[**ライセンス契約書**] ダイアログを表示してください。



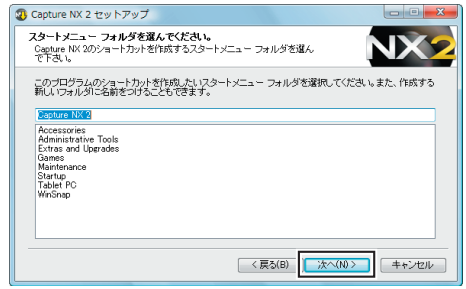
3 [ライセンス契約書] ダイアログの内容をよくお読みの上、[同意する] をクリックする

ライセンス条件に関する情報が書かれていますので、内容をよくお読みになってください。



4 Capture NX 2のショートカットを作成するフォルダを指定して [次へ] をクリックする

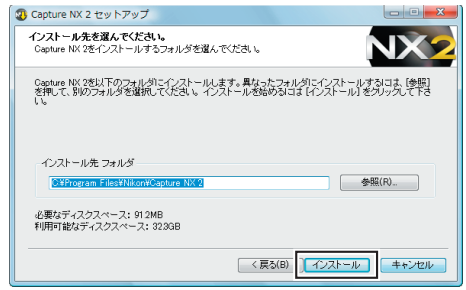
任意の名前のフォルダにショートカットを作成することもできます。



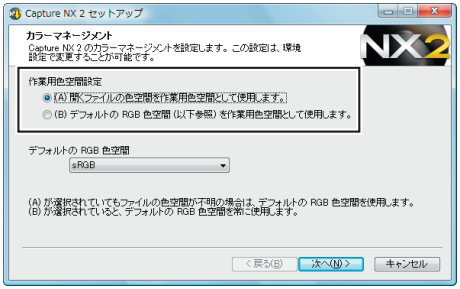
5 Capture NX 2をインストールするフォルダを指定して [インストール] をクリックする

[参照] をクリックして、インストール先を任意のフォルダに設定することもできます。

[**インストール**] をクリックすると、インストールが開始されます。



6 [作業用色空間設定] と [デフォルトのRGB色空間] を指定して [次へ] をクリックする



[作業用色空間設定] には以下の項目があります。

[(A) 開くファイルの色空間を作業用色空間として使用します。]
常に画像に設定されているカラープロファイルを使用します。通常はこちらをおすすめします。

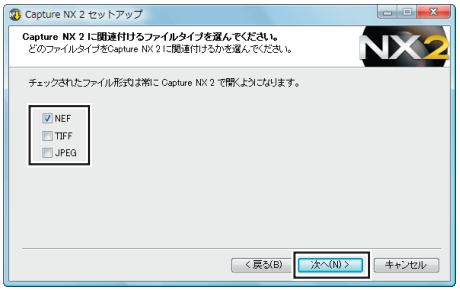
[(B) デフォルトのRGB色空間 (以下参照) を作業用色空間として使用します。]
常に [**デフォルトのRGB色空間**] で設定したRGB色空間に変換して画像を開きます。

これらの設定は、後から [**環境設定**] で変更することもできます。

参照 「資料：Capture NX 2がサポートする色空間について」(P.284)

7 Capture NX 2で開く画像形式を指定して [次へ] をクリックする

ここでチェックされた形式の画像をエクスプローラー上でダブルクリックすると、その形式の画像は常にCapture NX 2で開かれます。また、画像のアイコンもCapture NX 2のアイコンになります。

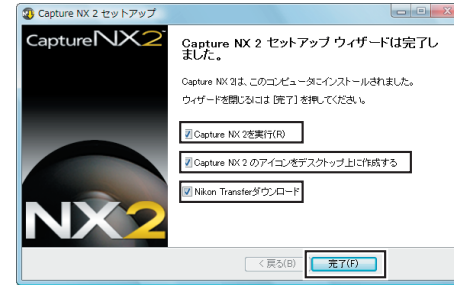


MEMO

- ここでチェックを外した形式の画像もCapture NX 2の [**ブラウザー**] やメニューから開けます。
- ここでチェックを入れた形式の画像をダブルクリックしてもCapture NX 2が起動しないようにするには、画像を右クリックして表示されるメニューから [**プロパティ**] を選び、[**プログラム**] の [**変更**] をクリックしてその形式のファイルが開かれるアプリケーションを指定します。

8 [完了] をクリックする

Capture NX 2が自動的に起動します。



[Capture NX 2を実行]

チェックを外すと、セットアップウィザード終了後にCapture NX 2は自動的に起動しません。

[Capture NX 2のアイコンをデスクトップ上に作成する]

チェックを外すと、Capture NX 2のショートカットはデスクトップ上に作成されません。

[Nikon Transferダウンロード]

チェックを入れると、インストール終了後、インターネットブラウザーが自動的に起動してNikon Transferをダウンロードできます。

9 [プロダクトキーを入力する] をクリックする

［**体験版の使用を継続**］、［**プロダクトキーを購入する**］、［**プロダクトキーを入力する**］、［**終了する**］のボタンがあるCapture NX 2の起動画面が表示されます。この画面は、プロダクトキーを入力すると、次回の起動からは表示されません。



MEMO

［**体験版の使用を継続**］をクリックすると、プロダクトキーを入力しなくても60日間Capture NX 2を試用できます。試用期間が過ぎると［**体験版の使用を継続**］はクリックできず、試用できなくなります。

［**プロダクトキーを購入する**］をクリックすると、インターネットブラウザーが起動し、「ニコンダイレクト」のCapture NX 2の販売ページが表示されます。ダウンロード版をご利用の方は、こちらからプロダクトキーをご購入ください。

［**終了する**］をクリックすると、Capture NX 2は起動せずに終了します。

体験版を使用したり、プロダクトキーを購入する場合は、インターネットに接続できる環境が必要です。

10 プロダクトキーを入力して［OK］をクリックする

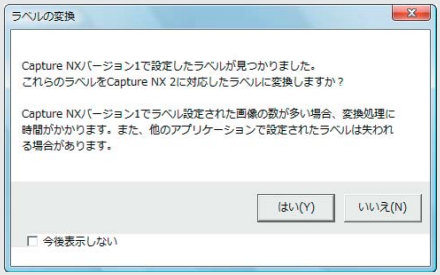
お名前（必須）、会社名（任意）、ケースに添付されているプロダクトキー（必須）を入力してください。



- **CDケースにあるプロダクトキーは大切に保管してください。プロダクトキーを紛失された場合、再発行できません。**このプロダクトキーは、本ソフトウェアをインストールする際に必要になります。また、新しいバージョンにアップグレードする際にも必要になります。ダウンロード版をご使用の方は、購入の領収書として送信される電子メールにプロダクトキーが記載されています。アップグレード版の場合は、前のバージョンのプロダクトキーも必要になります。

MEMO

- Capture NX Ver1.xでラベルを設定した画像がある場合、Capture NX 2を起動する際に右のようなダイアログが表示されます。Capture NX 2に対応するラベルに置き換える場合は、［**はい**］をクリックしてください。画像の数が多い場合、時間がかかることがあります。



インストール（Mac OS）

Windowsをご使用の方は7ページを参照してください。

動作環境

OS	日本語版Mac OS X（version 10.4.11, 10.5.2）
プロセッサー	PowerPC G4、PowerPC G5、Intel Core Duo、Intel Core 2 Duo、Intel Xeon相当以上
RAM	768MB以上実装（1GB以上実装を推奨）
ハードディスク容量	インストール時に200MB以上の空き容量が必要
モニター解像度	1024×768ピクセル以上（1280×1024以上を推奨）で64000色以上（1670万色推奨）
その他	・インストール時には、CD-ROM ドライブが必要 ・Nikon Message Center機能を使うには、インターネットに接続できる環境が必要 ・「カスタムピクチャーコントロール」をインポート/エクスポートするには、メモリーカード（カメラで動作確認しているカード）にファイルの読み込み/書き込みができる環境（カードリーダーなど）が必要

インストール手順

1 Capture NX 2 CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、デスクトップ上のCD-ROM（Capture NX 2 Setup）アイコンをダブルクリックする

Capture NX 2 CD-ROMの内容が表示されます。

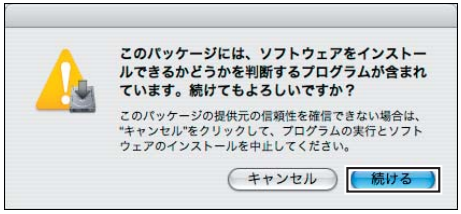


MEMO

- ダウンロード版をご使用の方は、パソコンに保存されているセットアップファイルをダブルクリックして内容を表示してください。
- Capture NX 2のインストールをする場合は、管理者権限のアカウントでログインする必要があります。

2 [Capture NX 2 セットアップ] アイコンをダブルクリックし、[続ける] をクリックする

インストーラーが起動します。OSが警告を表示したら［**続ける**］をクリックして次に進みます。



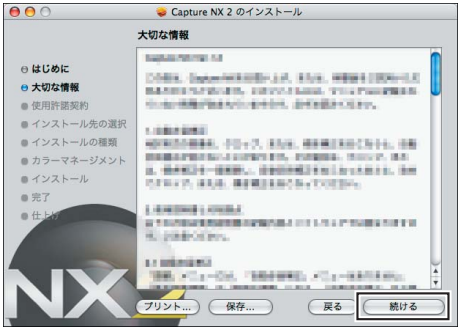
3 [続ける] をクリックする

［**大切な情報**］ダイアログが表示されます。［**大切な情報**］ダイアログには重要な情報が表示されています。内容をよくお読みの上、［**続ける**］をクリックすると、［**使用許諾契約**］ダイアログが表示されます。

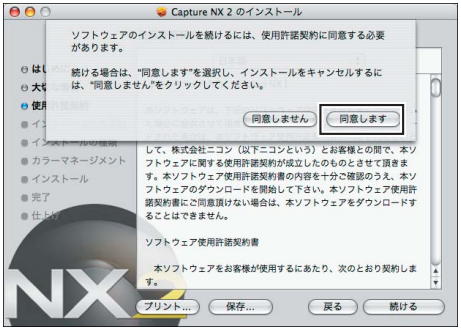


4 [使用許諾契約] ダイアログの内容をよくお読みの上、[続ける] をクリックする

使用許諾契約に関する情報が書かれていますので、内容をよくお読みになってください。



5 表示されるダイアログで [同意します] をクリックする



6 Capture NX 2をインストールするハードディスクとフォルダを指定して［続ける］をクリックし、［インストール］をクリックする

［**選択**］で任意の名前のフォルダにインストールすることもできます。



7 管理者の［名前］と［パスワード］を入力して、［OK］をクリックする



8 ［作業用色空間設定］と［デフォルトのRGB色空間］を指定して［次へ］をクリックする

［**作業用色空間設定**］には以下の項目があります。

［(A) 開くファイルの色空間を作業用色空間として使用します。］

常に画像に設定されているカラープロファイルを使用します。通常はこちらをおすすめします。

［(B) デフォルトのRGB色空間（以下参照）を作業用色空間として使用します。］

常に［デフォルトのRGB色空間］で設定したRGB色空間に変換して画像を開きます。



これらの設定は、後から［**環境設定**］で変更することもできます。

［**次へ**］をクリックするとインストールが開始されます。

参照 「資料：Capture NX 2がサポートする色空間について」(P.284)

9 [続ける] をクリックする



[Capture NX 2を実行]
チェックを外すと、セットアップウィザード終了後にCapture NX 2は自動的に起動しません。

[Capture NX 2のアイコンをDockに加える]
チェックを外すと、Capture NX 2のショートカット（エイリアス）はDockに登録されません。

[Nikon Transferダウンロード]
チェックを入れると、インストール終了後、インターネットブラウザーが自動的に起動してNikon Transferをダウンロードできます。

10 [閉じる] をクリックしてインストールを完了する



11 [プロダクトキーを入力する] をクリックする

[**体験版の使用を継続**]、[**プロダクトキーを購入する**]、[**プロダクトキーを入力する**]、[**終了する**] のボタンがあるCapture NX 2の起動画面が表示されます。この画面は、プロダクトキーを入力すると、次回の起動からは表示されません。



MEMO

[**体験版の使用を継続**] をクリックすると、プロダクトキーを入力しなくても60日間Capture NX 2を試用できます。試用期間が過ぎると [**体験版の使用を継続**] はクリックできず、試用できなくなります。

[**プロダクトキーを購入する**] をクリックすると、インターネットブラウザーが起動し、「ニコンダイレクト」のCapture NX 2の販売ページが表示されます。ダウンロード版をご利用の方は、こちらからプロダクトキーをご購入ください。

[**終了する**] をクリックすると、Capture NX 2は起動せずに終了します。

体験版を使用したり、プロダクトキーを購入する場合は、インターネットに接続できる環境が必要です。

12 プロダクトキーを入力して［OK］をクリックする

お名前（必須）、会社名（任意）、ケースに添付されているプロダクトキー（必須）を入力してください。



- **CDケースにあるプロダクトキーは大切に保管してください。プロダクトキーを紛失された場合、再発行できません。**このプロダクトキーは、本ソフトウェアをインストールする際に必要になります。また、新しいバージョンにアップグレードする際にも必要になります。ダウンロード版をご使用の方は、購入の領収書として送信される電子メールにプロダクトキーが記載されています。アップグレード版の場合は、前のバージョンのプロダクトキーも必要になります。

MEMO

- Capture NX Ver1.xでラベルを設定した画像がある場合、Capture NX 2を起動する際に右のようなダイアログが表示されます。Capture NX 2に対応するラベルに置き換える場合は、［**はい**］をクリックしてください。画像の数が多い場合、時間がかかることがあります。



Capture NX 2の基本概要

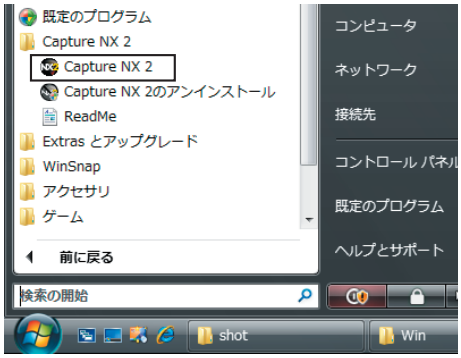
Capture NX 2は、デジタル画像の編集アプリケーションです。シンプルでわかりやすいインターフェースと、さまざまなツールやウィンドウを使用して、簡単に思い通りの画像編集ができます。

Capture NX 2を起動する P.18
Capture NX 2を終了する P.19
Capture NX 2の各部名称 P.20
ウィンドウの使い方 P.22
ウィンドウの配置（ワークスペース）を変更する P.24
ワークスペースの切り換え/画像の転送/プリントを行う P.29

Capture NX 2を起動する

Capture NX 2の起動方法を説明します。

Windows



WindowsでCapture NX 2を起動するには、2通りの方法があります。

・スタートのプログラム一覧から［**Capture NX 2**］→［**Capture NX 2**］の順に選びます。

・インストール時にデスクトップにCapture NX 2のショートカットアイコンを作成した場合、ショートカットアイコンをダブルクリックします。

MEMO

・Capture NX 2起動時にプロダクトキーを入力する画面が表示された場合は、CDケースにあるプロダクトキーを入力してください。アップグレード版をご使用の場合、以前のバージョンのプロダクトキーも必要になります。

・Capture NX 2を使用する場合は、管理者権限のアカウントでログインする必要があります。

・Capture NXまたはNikon Captureと、Capture NX 2を同時に起動しないでください。

Mac OS



Mac OSでCapture NX 2を起動するには、2通りの方法があります。

・Capture NX 2をインストールしたフォルダ内の［**Capture NX 2**］を開き、Capture NX 2アイコンをダブルクリックします。

・インストール時にDockにCapture NX 2を登録した場合、Dock上のCapture NX 2のアイコンをクリックします。

MEMO

・Capture NX 2起動時にプロダクトキーを入力する画面が表示された場合は、CDケースにあるプロダクトキーを入力してください。アップグレード版をご使用の場合、以前のバージョンのプロダクトキーも必要になります。

・Capture NX 2を使用する場合は、管理者権限のアカウントでログインする必要があります。

・Capture NXまたはNikon Captureと、Capture NX 2を同時に起動しないでください。

Capture NX 2を終了する

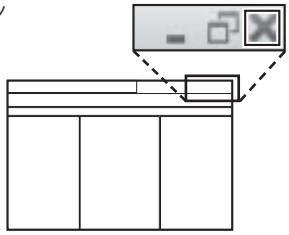
Capture NX 2の終了方法を説明します。

Windows

WindowsでCapture NX 2を終了するには、2通りの方法があります。

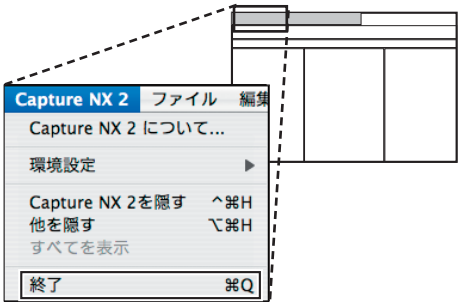
・Capture NX 2のアプリケーションウィンドウの右上にある ボタンをクリックします。

・[**ファイル**] メニューの [**終了**] を選びます。



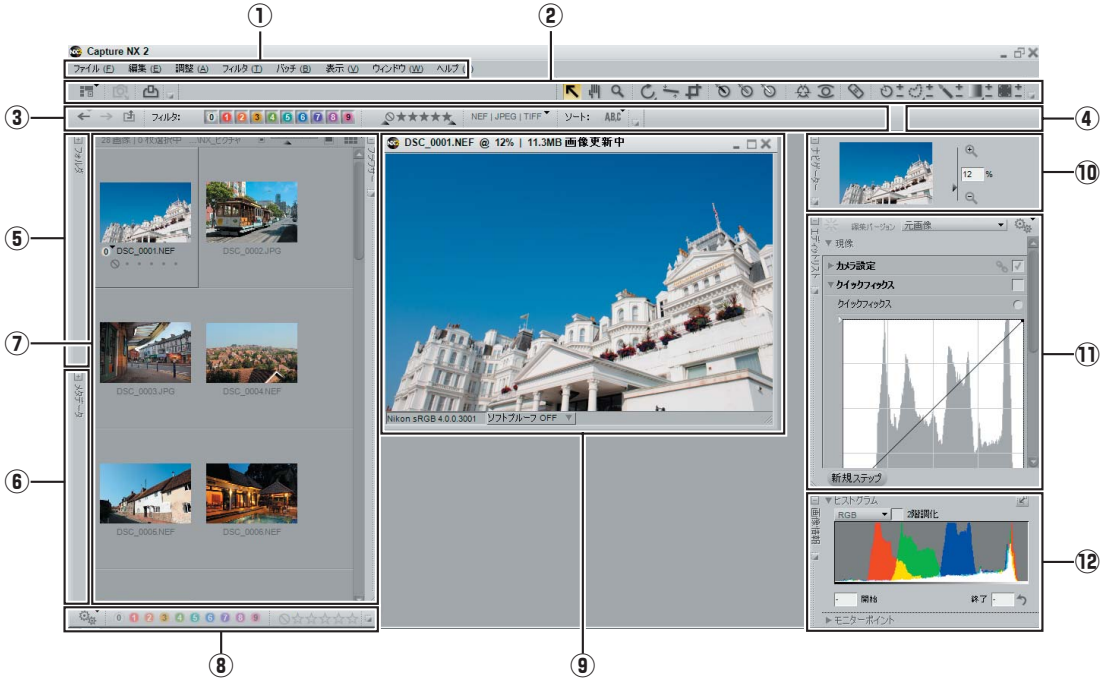
Mac OS

Mac OSでCapture NX 2を終了するには、[**Capture NX 2**] メニューの [**終了**] を選びます。



Capture NX 2の各部名称

Capture NX 2では、さまざまなツールが手軽に使用できます。



名称	説明	参照
① メニューバー	Capture NX 2で行う画像の調整などをここから選べます。画像の保存や印刷、色の調整やCapture NX 2の表示方法など、さまざまな機能が用意されています。	—
② ツールバー	ツールバーには［**ツールバー**］と［**アクティビティツールバー**］があります。［**ツールバー**］には画像の拡大/縮小や回転、選択範囲の設定などの編集作業ができるツールなどが用意されています。似た機能を持つツールごとにまとめられ、点線で区切られています。 ［**アクティビティツールバー**］にはウィンドウの配置を切り換えたり、画像を印刷するツールなどが用意されています。	—
③ ビューコントロールバー	ラベル（画像の分類）やレーティング（重要度）、ファイル形式などによって［**ブラウザー**］上で表示する画像を選別できます。表示の並べ順の切り換えもできます。	P.41
④ ツールオプションバー	それぞれのツールを使用する場合に、オプションの値を設定できます。ここの表示はツールごとに切り替わります。オプションがないツールもあります。	—

⑤ フォルダ	[**ブラウザー**] で表示するフォルダを、階層表示できます。よく使うフォルダを簡単に呼び出せる [**お気に入りフォルダ**] を設定することができます。	P.43
⑥ メタデータ	画像に関する [**ファイル/撮影情報**] と、キャプションやキーワード、カテゴリー、著作権情報などを表示する [**XMP/IPTC情報**] の2つのウィンドウがあります。	P.68
⑦ ブラウザー	フォルダ内にある画像やフォルダをサムネイル（縮小画像）で確認でき、整理や並び替えができます。表示されているサムネイルをダブルクリックすると、その画像が開きます。一度に複数の画像を回転させたり、削除したりすることもできます。	P.35
⑧ ラベルとレーティングツールバー	画像に画像の分類分けをするラベルや、画像の重要度を表すレーティングを設定します。[**ブラウザー**] 内の複数の画像に同じ処理を適用するバッチ処理もできます。	P.38
⑨ イメージウィンドウ	編集する画像やファイル名、拡大率などを表示します。	P.45
⑩ ナビゲーター	イメージウィンドウで表示している画像の縮小された全体画像が表示されます。画像を拡大すると、イメージウィンドウでの表示部分以外は半透明のグレーになります。ナビゲーター内の表示部分をドラッグすると、イメージウィンドウ内の表示も連動して移動します。	P.61
⑪ エディットリスト	[**エディットリスト**] では、ピクチャーコントロールなどのRAW画像の調整や、[**レベルとトーンカーブ**] などの調整ができます。 適用した画像処理は、画像処理ステップとして順番に表示します。画像処理ステップでは処理の内容を再調整したり、効果の有効/無効を切り換えたりできます。 複数の画像に同じ処理を適用するバッチ処理の設定をしたり、画像調整の状態を複数保存できる編集バージョンを作成/管理するなど、Capture NX 2のメインとなる機能を備えています。	P.74
⑫ 画像情報	イメージウィンドウで表示している画像の階調を表示するヒストグラムや、画像の一部の情報を常に表示するモニターポイントを使用できます。	P.62

ウィンドウの使い方

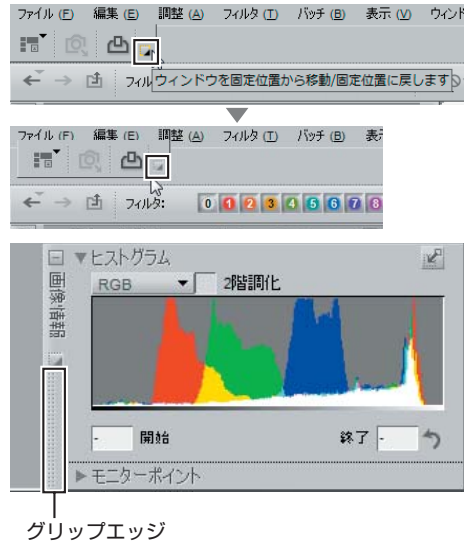
Capture NX 2では、[**ツールバー**]、[**ビューコントロールバー**]、[**ツールオプションバー**]、[**ラベルとレーティングツールバー**]、[**フォルダ**]、[**メタデータ**]、[**ブラウザー**]、[**ナビゲーター**]、[**エディットリスト**]、[**画像情報**] を「**ウィンドウ**」と呼びます。それぞれのウィンドウで共通の使用方法があります。

ウィンドウの分離/合体

それぞれのウィンドウは、初期設定では画面上に固定されています。 ボタンをクリックするか、[**グリップエッジ**] をドラッグすると分離します。ボタンの上の部分や [**グリップエッジ**] をドラッグすると好みの位置に自由に移動できます。

この機能は、よく使用するツールバーを画像の近くに移動したいときなどに便利です。

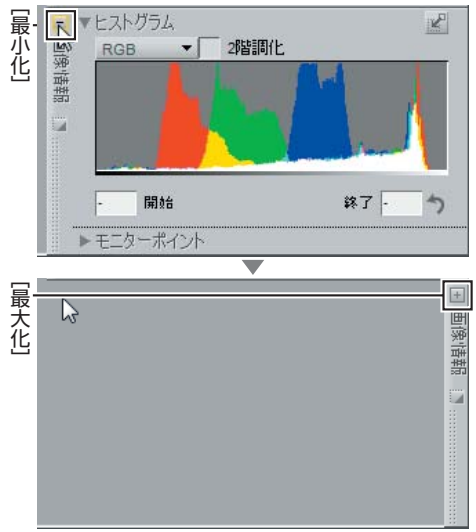
一度分離したウィンドウを元の位置に戻したい場合には、 ボタンをクリックします。



ウィンドウの最大化/最小化

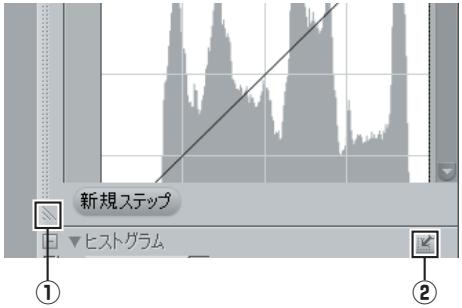
[**最小化** **/最大化**] ボタンがあるウィンドウでは、[**最小化**] をクリックするとウィンドウが小さく、[**最大化**] をクリックするとウィンドウが大きくなります。[**グリップエッジ**] をクリックしても、ウィンドウが最小化/最大化されます。

この機能は、イメージウィンドウの場所を広く確保したいときなどに便利です。



ウィンドウサイズの変更

［**ブラウザー**］と［**エディットリスト**］には、［**サイズ変更コントロール**］があります。［**サイズ変更コントロール**］（①）にポイントを置いてドラッグすると、ウィンドウのサイズを変更できます。ウィンドウによっては、最大/最小のサイズがあり、そのサイズよりも大きく/小さくすることはできません。ウィンドウによっては［**拡大表示** ］（②）でサイズを変更できます。



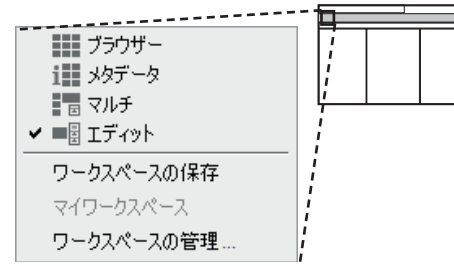
ウィンドウの配置（ワークスペース）を変更する

Capture NX 2にはあらかじめ4つのウィンドウの配置（ワークスペース）が設定されています。

ワークスペースの切り換え

ワークスペースを切り換えるには、［**アクティビティツールバー**］の［**ワークスペース切り換え**］を使用します。

ワークスペースには［**ブラウザー**］［**メタデータ**］［**マルチ**］［**エディット**］の4種類があります。



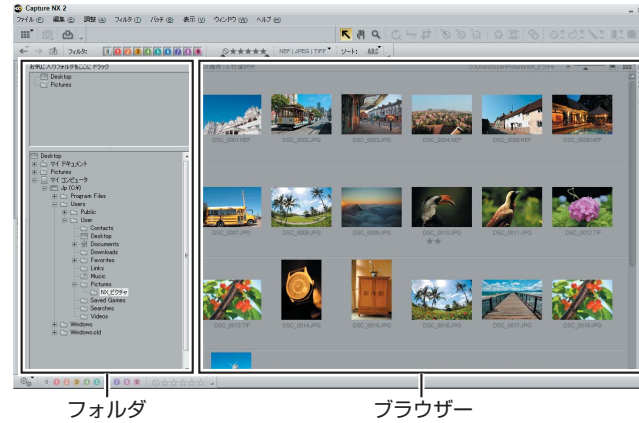
MEMO ［**ウィンドウ**］メニューの［**ワークスペース**］のサブメニューからも選べます。

■ ブラウザー

ブラウザーとフォルダを表示します。複数の画像に処理を適用したり、処理をする画像を選ぶ場合に便利です。

サムネイル（縮小画像）を大きく表示できる［**サムネイル一覧**］と、画像の情報を一覧できる［**サムネイル情報**］の2つの表示方法があります。

サムネイルをダブルクリックすると画像が開き、ワークスペースが［**エディット**］に切り替わります。



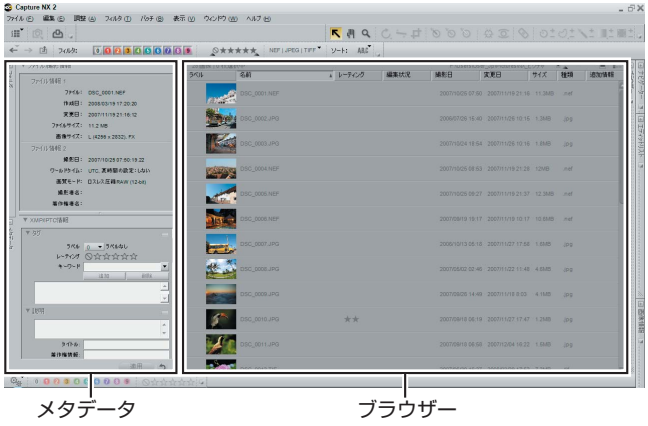
ショートカット Alt（Mac OSはoptionキー）+1

参照 「ブラウザーで効率よく画像を選ぶ」（P.35）

■ メタデータ

メタデータとブラウザーを表示します。ブラウザーもリスト形式で表示され、ラベルや名前、レーティングなどで並べかえができるため、「○月×日に撮影した画像を選びたい」「ファイルサイズ順に並べたい」というような場合に便利です。サムネイルをダブルクリックすると画像が開き、ワークスペースが［**エディット**］に切り替わります。

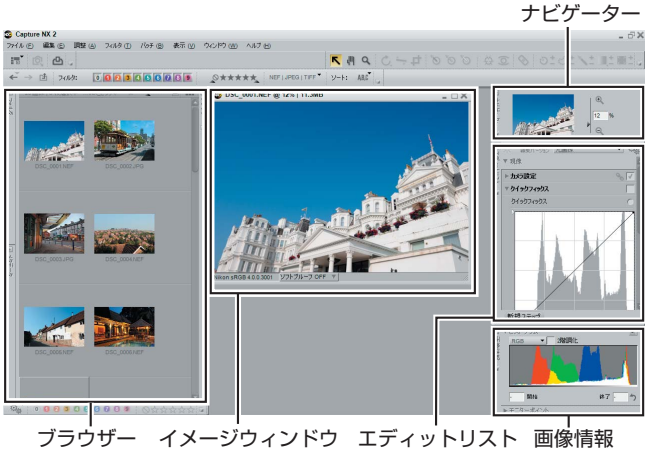
ショートカット　Alt（Mac OSはoptionキー）+2



■ マルチ

ブラウザーとイメージウィンドウ、ナビゲーター、エディットリスト、画像情報が表示されます。「画像を開く」→「編集を加える」→「効果を確認する」という画像編集の一連の処理が一画面でできます。

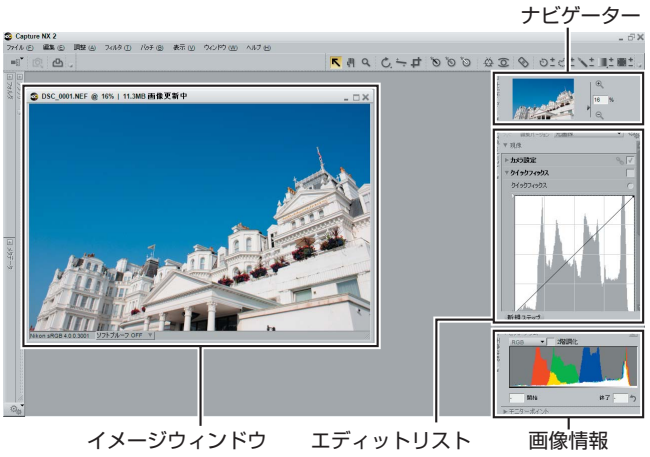
ショートカット　Alt（Mac OSはoptionキー）+3



■ エディット

イメージウィンドウ、ナビゲーター、エディットリスト、画像情報が表示されます。イメージウィンドウのスペースを広く確保できるため、1つの画像に対してさまざまな処理を加える場合に便利です。

ショートカット　Alt（Mac OSはoptionキー）+4



ワークスペースの保存

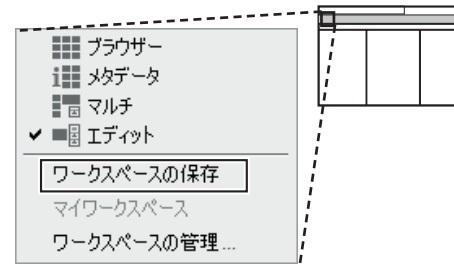
自分が使いやすいように並べかえたウィンドウを［**マイワークスペース**］として保存できます。画像を細かく編集するときにはイメージウィンドウとエディットリストだけを表示、撮影した画像を確認したいだけのときにはブラウザーとイメージウィンドウだけを表示など、用途に合わせたワークスペースを作成しておき、必要に応じて読み込めば、作業の効率を高められます。

ワークスペースを保存する

1 ウィンドウの位置を変更する

用途や好みに合わせて、ウィンドウの位置を変更します。

2 ［アクティビティツールバー］の［ワークスペース切り換え］から［ワークスペースの保存］を選ぶ



MEMO ［**ウィンドウ**］メニューにある［**ワークスペース**］の［**ワークスペースの保存**］からも選べます。

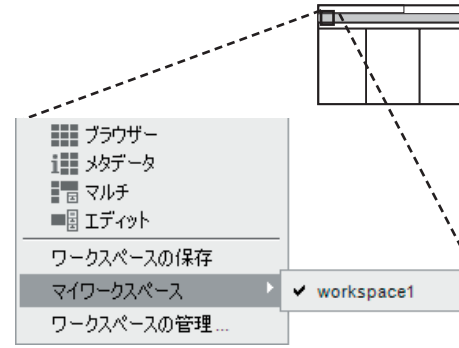
3 ［ワークスペースの保存］ダイアログで任意の名前を入力する

新しいワークスペースが［**マイワークスペース**］として保存されます。



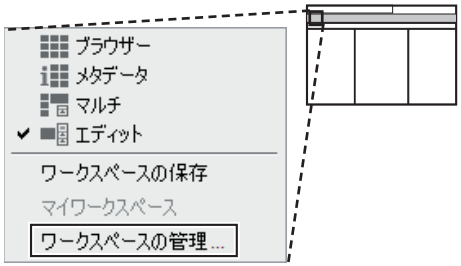
ワークスペースの読み込み

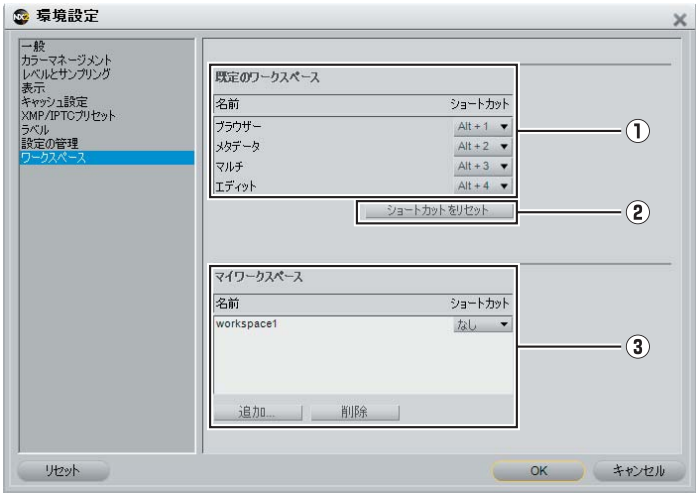
保存したワークスペースを読み込むには、［**アクティビティツールバー**］の［**ワークスペース切り換え**］か、［**ウィンドウ**］メニューにある［**ワークスペース**］の［**マイワークスペース**］のサブメニューから選びます。



ワークスペースの管理

保存したワークスペースは、削除やショートカットキーの割り当てができます。ワークスペースの編集は、[**アクティビティツールバー**] の [**ワークスペース切り換え**] か、[**ウィンドウ**] メニューの [**ワークスペース**] から [**ワークスペースの管理**] を選びます。また、[**編集**] メニュー（Mac OSは [**Capture NX 2**] メニュー）の [**環境設定**] サブメニューから [**ワークスペース**] を選択しても同様です。





① 既定のワークスペース	あらかじめ設定されているワークスペースのショートカットキーの割り当てを変更できます。ポップアップメニューで [**なし**] または [Altキー（Mac OSではoption）＋1キー] ～ [Altキー＋9キー] までを割り当てられます。すでに割り当てられているショートカットキーを選択した場合、新たに設定した方が有効となり、以前に割り当てられていた方は [**なし**] に変更されます。
② ショートカットをリセット	あらかじめ設定されているワークスペースのショートカットキーの割り当てが変更されている場合、初期設定に戻します。
③ マイワークスペース	カスタマイズしたワークスペースの削除やショートカットキーの割り当てを設定できます。また、ワークスペースの保存もできます。 **追加**：[追加] をクリックすると、現在のワークスペースを新規ワークスペースとして保存します。[**ワークスペースの追加**] ダイアログで任意の名前を入力します。 **削除**：ワークスペースを選んで [**削除**] をクリックすると、そのワークスペースが削除されます。

2台のモニターでワークスペースを使用

Capture NX 2がインストールされたパソコンに、モニターを2台接続している場合、サブモニターにメインモニターと異なるワークスペースを表示できます。サブモニターに表示するワークスペースを選択するには、[**アクティビティツールバー**] の [**ワークスペース切り換え**] か、[**ウィンドウ**] メニューの [**ワークスペース**] の [**第2画面**] サブメニューから表示したいワークスペースを選択します。このメニューはサブモニターを接続していない場合は表示されません。

サブモニターにワークスペースを表示しない場合は [**デスクトップ**] を選択します。また、[**マイワークスペース**] はメインモニターとサブモニター両方のレイアウトをまとめて1つの [**マイワークスペース**] として保存されます。このため、[**マイワークスペース**] を選んだときは、メインモニターとサブモニター両方が切り替わります。どちらか一方だけ [**マイワークスペース**] を選ぶことはできません。

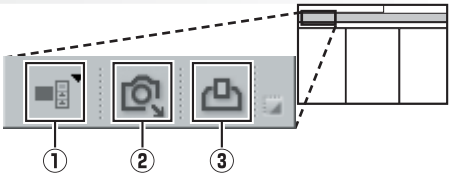
メインモニターとサブモニターのワークスペースを入れ換えるには [**ワークスペースの交換**] を選びます。サブモニターで表示できるワークスペースは、メインモニターで使用するワークスペースによって変わります。

メインモニターのワークスペース	サブモニターで表示できるワークスペース				
	デスクトップ	ブラウザー	メタデータ	マルチ	エディット
デスクトップ	×	○	○	○	○
ブラウザー	○	×	×	×	○
メタデータ	○	×	×	×	○
マルチ	○	×	×	×	×
エディット	○	○	○	×	×

ワークスペースの切り換え/画像の転送/プリントを行う

[**アクティビティツールバー**] ではワークスペースを切り換えたり、カメラやカードリーダーから画像を転送したり、画像をプリントすることができます。

アクティビティツールバー



① ワークスペース切り換え	ワークスペースの切り換えや保存などができます。[**ウィンドウ**] メニューの [**ワークスペース**] と同様です。 参照 「ワークスペースの切り換え」(P.24)
② Transfer	Capture NX 2を使用しているパソコンにNikon Transferがインストールされている場合、これをクリックするとNikon Transferが起動し、カメラなどからパソコンへ画像を転送できます。Nikon Transferに関しての詳しい説明はNikon Transferのヘルプを参照してください。
③ プリント	プリントをクリックすると、[**印刷レイアウト**] ダイアログが表示されます。[**印刷レイアウト**] ダイアログで [**印刷**] をクリックすると印刷できます。[**ファイル**] メニューの [**印刷**] と同様です。 参照 「印刷」(P.221)

画像を開く

Capture NX 2には、画像を開くための方法が複数用意されています。Capture NX 2で開ける画像形式はNEF形式、TIFF形式（RGB）、JPEG形式です。

「Welcome」画面から開く P.32
メニューから開く P.33
ブラウザーで開く P.34
ブラウザーで効率よく画像を選ぶ P.35
イメージウィンドウで開いた画像を確認する P.45
開いた画像の並べ方を設定する P.47
画像を閉じる P.48

「Welcome」画面から開く

「Welcome」画面は、Capture NX 2を起動すると自動的に表示されます。ここから最近開いた画像やフォルダを開けます。

「Welcome」画面

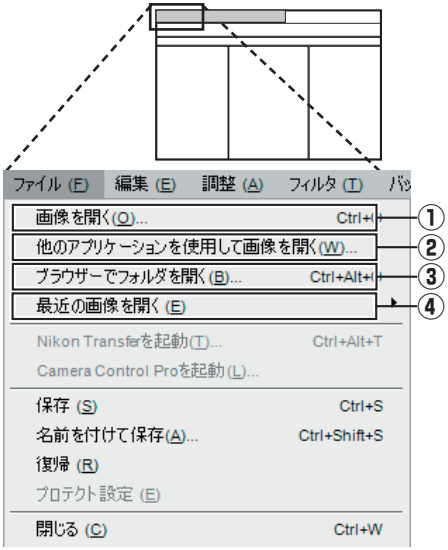
「Welcome」画面は起動したときだけでなく、[**ヘルプ**] メニューの [**「Welcome」画面を表示**] でも表示できます。



① 最近開いた画像を開く	Capture NX 2で最近開いた画像が一覧で表示されます。新しく開いた画像の順に、一覧表示の上位に表示されます。Windowsの場合、画像名にカーソルを合わせると、その画像が保存されている場所が表示されます。クリックすると、イメージウィンドウで画像が開きます。
② 最近のフォルダを開く	[**ブラウザー**] で最近表示したフォルダが一覧で表示されます。新しく使用したフォルダの順に、一覧表示の上位に表示されます。フォルダ名をクリックすると、[**ブラウザー**] にフォルダ内の画像が表示されます。
③ 新規	Capture NX 2で開く画像やフォルダを新たに指定できます。 **ブラウザーでフォルダを開く**：新たに [**ブラウザー**] で表示させたいフォルダを選びます。 **画像を開く**：新たにイメージウィンドウで表示させたい画像ファイルを選びます。
④ 今後表示しない	チェックを入れると、Capture NX 2起動時に「Welcome」画面が表示されなくなります。再度起動時に [**「Welcome」画面**] を表示したい場合は [**ヘルプ**] メニューの [**「Welcome」画面を表示**] を選び、[**今後表示しない**] のチェックを外します。
⑤ ヘルプ	Capture NX 2のヘルプを開きます。
⑥ 画像をここにドラッグして開く（Mac OSのみ）	Mac OSから画像ファイルをこの部分にドラッグすると、イメージウィンドウで画像が開きます。

メニューから開く

画像は［ファイル］メニューからも開けます。



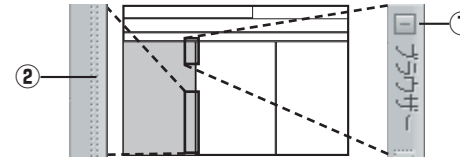
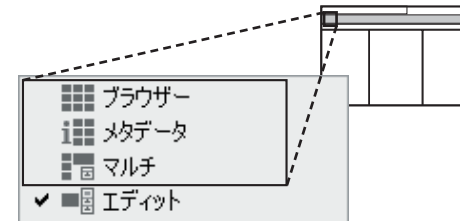
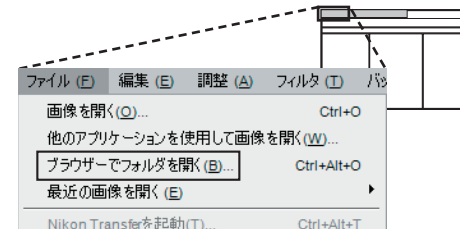
① **画像を開く**	［**ファイルを開く**］ダイアログが表示されます。フォルダを選んでから画像を選び、［開く］をクリックすると画像が開きます。 ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋Oキー
② **他のアプリケーションで開く**	現在イメージウィンドウで編集している画像に行った画像処理をすべて反映した画像がTIFF形式で新たに作成され、その画像を他のアプリケーションで開きます。画像を開くアプリケーションは、［**環境設定**］の［**一般**］で設定できます。 参照 「環境設定を変更する」(P.248)
③ **ブラウザーでフォルダを開く**	［**フォルダの参照**］ダイアログが表示されます。ダイアログで選択したフォルダの内容が［**ブラウザー**］に表示され、［**ブラウザー**］から画像を開けます。 参照 「ブラウザーで開く」(P.34)
④ **最近の画像を開く**	最近Captre NX 2で開いた画像名が表示されます。直近で開いた画像ほど上位に表示されます。このサブメニューで画像を選ぶと、イメージウィンドウで画像が開きます。

ブラウザーで開く

［**ブラウザー**］は、フォルダ内にある複数の画像のサムネイル（縮小画像）を表示して、イメージウィンドウで開く画像を選べます。

ブラウザーを開く

［**ブラウザー**］を開くには、次の方法があります。

［ブラウザー］の［最大化 ］（①）またはグリップエッジ（②）をクリックする	
［アクティビティツールバー］の［ワークスペースの選択］または［ウィンドウ］メニューにある［ワークスペース］の［ブラウザー］、［メタデータ］、［マルチ］のいずれかを選択する	
［ファイル］メニューから［ブラウザーでフォルダを開く］を選択する	

また、［**フォルダ**］ウィンドウを開くと自動的に［**ブラウザー**］も開きます。［**ファイル**］メニューの［**ブラウザーでフォルダを開く**］や［**フォルダ**］ウィンドウでフォルダを選ぶと、そのフォルダ内に保存されている画像がすべてサムネイルとともに表示されます。サムネイルを選んでダブルクリックすると、画像がイメージウィンドウで開きます。

参照 「メニューから開く」（P.33）、「フォルダ」（P.43）

ブラウザーで効率よく画像を選ぶ

［**ブラウザー**］を使うと、画像を効率よく選べます。



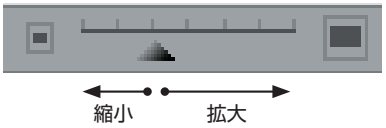
ブラウザー

① ファイル表示ツールバー

現在開いているフォルダの場所や、画像ファイル数を表示します。

② ズーム

スライダーを左右に動かしたり、▪ /■ をクリックしてサムネイル（縮小画像）のサイズを7段階（［**サムネイル情報**］選択時は3段階）で拡大/縮小します。

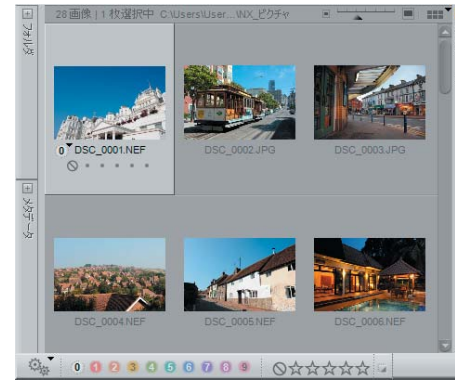


③ 表示

サムネイルの表示形式を変更します。

・**サムネイル一覧**

［**ブラウザー**］の初期設定の表示方法です。この表示を選択すると画像がグリッド状に表示されます。



・**サムネイル情報**

画像をリスト形式で一覧表示します。ファイル名やラベル（分類分け）、レーティング（重要度）、撮影日などの項目をクリックすると、項目別に並べかえができます。項目名をもう一度クリックすると、逆順に並べかえられます。



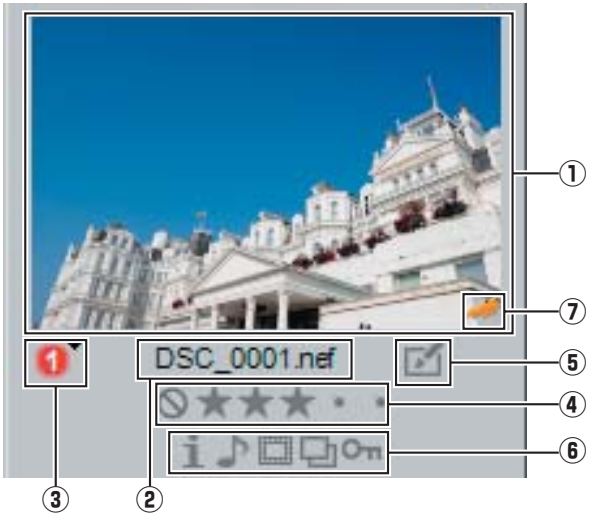
④ サムネイル

画像の内容を表示します。背景のグレーが明るくなっている画像が、現在選ばれている画像です。サムネイルの下または横にはファイル名やラベル、レーティングなどの情報が表示されます。サムネイルの大きさは、［**ズーム**］によって変更できます。

ラベルやレーティングは［**ラベルとレーティングツールバー**］で設定しますが、［**ブラウザー**］でも変更できます。サムネイルの大きさをラベルやレーティングが表示されるまで［ズーム］で設定します。ラベルを設定したい場合は、ラベルの横にある ▼をクリックすると、ラベルの一覧メニューから新たに設定したいラベルを選びます。

レーティングを設定したい場合は、★が表示される部分が「・・・・・」のように表示されているので、設定したい★の数の部分をクリックで設定します。「なし」にする場合は ⊘ をクリックします。

参照「ラベルとレーティングツールバー」（P.38）



① サムネイル	サムネイルを表示します。
② 名前	サムネイルのファイル名を表示します。
③ ラベル	ラベルを表示します。ここでラベルの設定を変更できます。ラベルを設定していない場合は「0」と表示されます。
④ レーティング	レーティングを表示します。ここでレーティングの設定を変更できます。
⑤ 編集状況（NEF形式のみ）	編集されたNEF形式の画像にはこのアイコンが表示されます。
⑥ 追加情報	画像に関する情報がアイコンとして表示されます。 XMP/IPTC情報が付いた画像です。 音声メモ付きの画像です。画像と音声ファイルが同じフォルダにない場合や音声ファイルの名前を変更した場合は表示されません。 撮像範囲切り換え機能の付いたカメラでFXフォーマット以外で撮影した画像、またはクロップ高速機能の付いたカメラでその機能をオンにして撮影した画像にこのアイコンが表示されます。Capture NX 2で編集してもアイコンが表示されますが、Photoshopなどで撮影情報を削除するとアイコンが表示されなくなります。 RAW+JPEG形式で撮影し、同時記録した画像です。NEF形式とJPEG形式が同じ名前の場合のみ表示されます。NEF形式またはJPEG形式のどちらか一方でも画像の調整などを行って保存すると、2つで1つの画像としての扱いは解消され、それぞれ個別の画像として表示します。 画像にプロテクト（保護）を設定した画像です。上書き保存はできません。プロテクトはメニューバーにある［**ファイル**］メニューの［**プロテクト設定**］で設定できます。
⑦ 編集キャッシュ	編集キャッシュが作成されたNEF形式の画像に、このアイコンが表示されます。

ラベルとレーティングツールバー

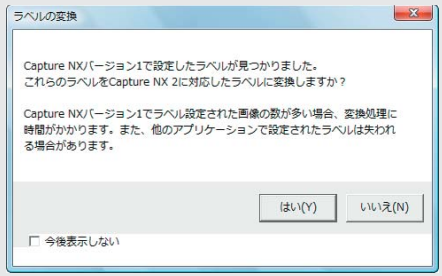
画像にラベル（分類分け）やレーティング（重要度）を設定しておくと、［**ブラウザー**］で効率よく画像を選べます。



① バッチ	［**ブラウザー**］で選んだ画像に、バッチ処理を適用します。 参照 「複数の画像に同じ処理を適用する（バッチ処理）」（P.234）
② ラベル	画像にラベルを設定します。ラベルを設定すると、［**ブラウザー**］でラベル順に並べかえたり、［**ビューコントロールバー**］を使用して特定のラベルの画像だけを表示したりできます。 ラベルは「その画像の分類分け」のようなものです。たとえば人物の写真を「ラベル1」、風景の写真を「ラベル2」と分類分けしておけば、目的の画像を探しやすくなります。ラベルの数は［**環境設定**］の［**ラベル**］で変更できます。画像にラベルを設定していない場合、サムネイルにカーソルを合わせるとラベルとして「0」が表示されますが、これはラベルが設定されていないことを表しています。 参照 「ビューコントロールバー」（P.41） 「ラベル」（P.257）
③ レーティング	画像にレーティングを設定します。レーティングを設定すると、［**ブラウザー**］でレーティング順に並べかえたり、［**ビューコントロールバー**］を使用して特定のレーティングの画像だけ表示したりできます。 レーティングは「その画像の重要度」のようなものです。ラベルとレーティングを合わせて設定しておけば、「ラベル1（人物の写真）：重要度3」「ラベル2（風景写真）：重要度5」などのように分類できます。

MEMO

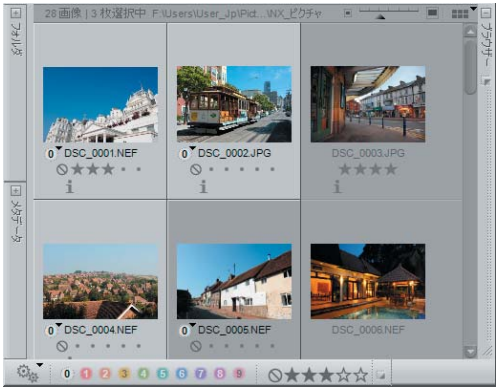
- ラベルやレーティングはViewNXやNikon Transferと連携をとることができます。ただし、ラベルの色を変更すると、色の互換性がなくなります。
- Capture NX Ver1.xでラベルを設定した画像がある場合、Capture NX 2を起動する際に右のようなダイアログが表示されます。Capture NX 2に対応するラベルに置き換える場合は、［**はい**］をクリックしてください。画像の数が多い場合、時間がかかることがあります。



ラベルの設定/変更方法

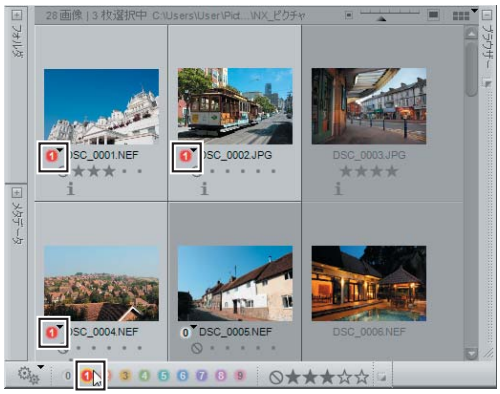
1 [ブラウザー] でラベルを設定する画像を選ぶ

画像は複数選べます。Shiftキーを押しながら画像をクリックすると、最初と最後に選んだ画像の間のすべての画像を選べます。画像をCtrlキー（Mac OSは ⌘ キー）を押しながらクリックすると、クリックした画像だけ選べます。

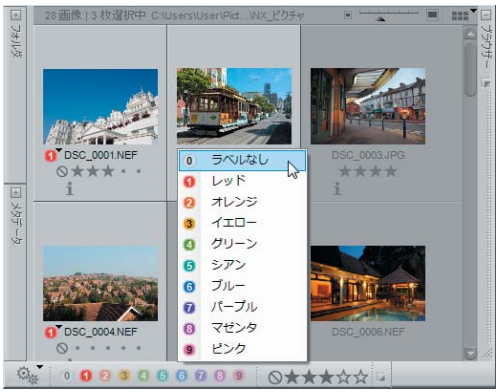


2 ラベルとレーティングツールバーまたは、設定したいラベルをクリックしてラベルを設定する

ラベルとレーティングツールバーで他のラベルをクリックするか、[**ブラウザー**] でファイル名の左横にある ▼ をクリックすると、ラベルの一覧メニューから新たにラベルを設定できます。複数の画像を選んでいる場合は、すべて同じラベルが設定されます。



画像を選んでからラベルとレーティングツールバーのラベルを選ぶと、一気にラベルを変更できます。



[**ブラウザー**] でラベルの変更もできます。

レーティングの設定/変更方法

1 [ブラウザー] でレーティングを設定したい画像を選ぶ

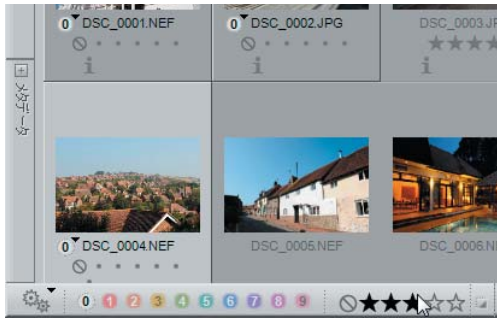
画像は複数選べます。Shiftキーを押しながら画像をクリックすると、最初と最後に選んだ画像の間のすべての画像を選べます。画像をCtrlキー（Mac OSは ⌘ キー）を押しながらクリックすると、クリックした画像だけ選べます。

2 ラベルとレーティングツールバーのレーティングの星マークにマウスポインタを合わせてレーティングを設定する

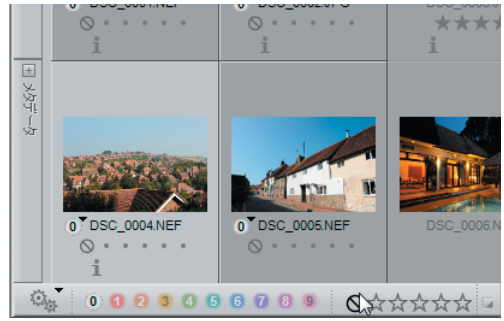
ラベルとレーティングツールバーの場合は、設定したいレーティングの★の位置でクリックするとレーティングが設定/変更されます。

[**ブラウザー**] の場合は、設定したいレーティングの★または • の位置でクリックするとレーティングが設定/変更されます。

ラベルとレーティングツールバーの★の左部分の ⦸ マークをクリックすると、レーティングの設定がなくなります。



ラベルとレーティングツールバーで設定したいレーティングの★の位置をクリックします。



レーティングの設定をなくす場合は ⦸ マークをクリックします。

ビューコントロールバー

［**ブラウザー**］で表示する画像を、ラベルやレーティングなどの特定の条件によって画像を素早く選べます。



① 前のフォルダ
現在［**ブラウザー**］で表示している前のフォルダに戻ります。

② 次のフォルダ
現在［**ブラウザー**］で表示している次のフォルダに進みます。

③ 1つ上の階層のフォルダ
現在［**ブラウザー**］で表示しているフォルダの一階層上のフォルダを表示します。

④ フィルタ：ラベル
表示したい画像のラベルをクリックすると、そのラベルが付けられた画像だけを表示できます。複数のラベルを同時に選べます。ラベルの数は［**環境設定**］で変更できます。ラベルはCapture NX2または互換性のあるソフトウェアで付けられます。もう一度ラベルをクリックすると選択が解除されます。すべてのラベルのフィルタを解除する場合はラベル左の ✓ をクリックします。


すべての画像を表示


ラベル1の画像を表示


ラベル1、3、4の画像を表示

⑤ フィルタ：レーティング
画像に設定したレーティングによって、表示する画像を変更できます。表示したいレーティングの★マークをクリックすると、そのレーティングの画像だけが表示されます。



表示するレーティングの範囲は、ふたつの ▲ を左右にスライドさせて変更できます。▲ に挟まれたレーティングに相当する画像だけが表示されます。連続しないレーティング（レーティング1とレーティング5など）は選べません。レーティングのフィルタを解除する場合はレーティング左の ✓ をクリックします。


すべての画像を表示


レーティング2（★★）の画像のみ表示


レーティングなし、レーティング1（★）、2（★★）の画像を表示

⑥ フィルタ：ファイル形式 NEF | JPEG | TIFF

画像のファイル形式によって表示する画像を変更します。

**NEF+JPEG	TIFF**	NEF形式、JPEG形式、TIFF形式の画像を表示します。カメラで同時記録「RAW + JPEG」形式で撮影したNEF形式とJPEG形式の画像は2つで1つの画像として扱われます。この場合、NEF形式の画像のサムネイルが表示され、画像を開くとNEF形式の画像が開かれます。同時記録していないNEF形式とJPEG形式の画像はそれぞれの画像を表示します。 MEMO 回転、削除、リネーム、XMP/IPTC情報、ラベルやレーティングの設定、画像のコピーなどは、NEF形式とJPEG形式の画像の両方に適用されます。どちらか一方でも画像の調整などを行って保存すると、2つで1つの画像としての扱いは解消され、それぞれ個別の画像として表示します。
**NEF	JPEG	TIFF**	NEF形式、JPEG形式、TIFF形式で撮影した画像をすべて表示します。同時記録したNEF形式とJPEG形式の画像は、それぞれ個別の画像として表示します。
NEFのみ	NEF形式の画像のみを表示します。
JPEGのみ	JPEG形式の画像のみを表示します。
TIFFのみ	TIFF形式の画像のみを表示します。

⑦ ソート ソート: AB,C

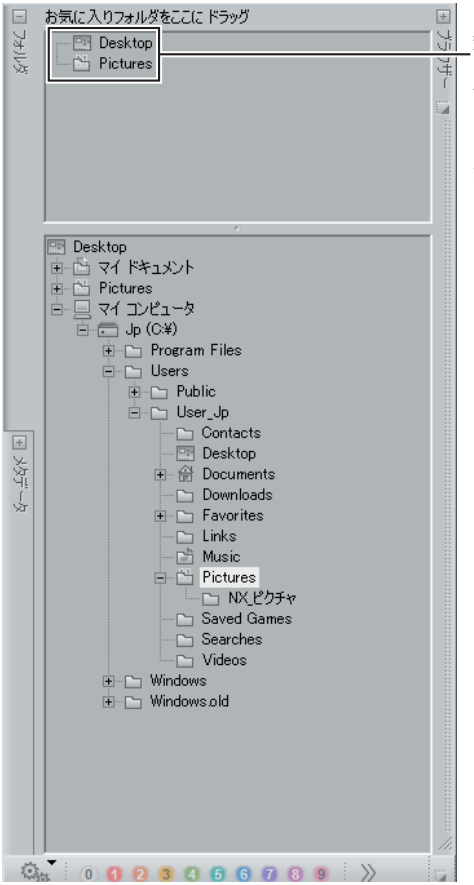
画像の並べ順を変更します。

名前 AB,C	画像をアルファベット順、五十音順に並べます。
撮影日	画像を撮影日時順に並べます。
変更日	画像を更新した日時順に並べます。
サイズ	画像の容量順に並べます。
種類	画像の種類順に並べます。ファイルタイプの順番は「JPEG」「NEF」「TIFF」の順になります。
ラベル ①	画像のラベル順に並べます。
レーティング ☆	画像のレート順に並べます。
二次ソート順：	現在のソートの種類の次に優先するソートの種類を指定します。内容は上記の7種類と同様です。これを使用すると、「ラベル順の名前順」「レート順のファイルタイプ順」などといった複数の条件で並べ替えができます。
昇順	ファイルを昇順に並べます。
降順	ファイルを降順に並べます。

フォルダ

パソコン内のフォルダを右図のように階層表示して、選んだフォルダの内容を［**ブラウザー**］に表示します。［**フォルダ**］ウィンドウを開くと、［**ブラウザー**］も自動的に開きます。目的のフォルダに素早くアクセスでき、効率的に画像を選べます。

また、よく使うフォルダを［**お気に入りフォルダ**］に指定しておけば、階層をたどってフォルダを探す手間が省けます。

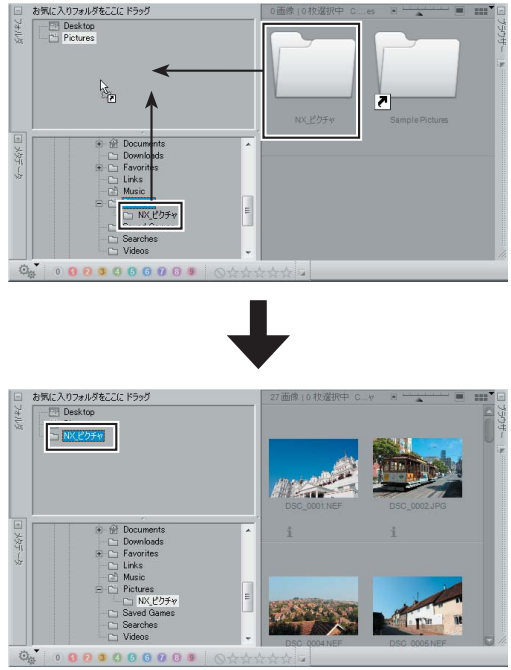


お気に入りフォルダ

■ お気に入りフォルダの設定方法

[**フォルダ**] のファイルディレクトリからよく使うフォルダを [**お気に入りフォルダをここにドラッグ**] のウィンドウにドラッグ＆ドロップします。

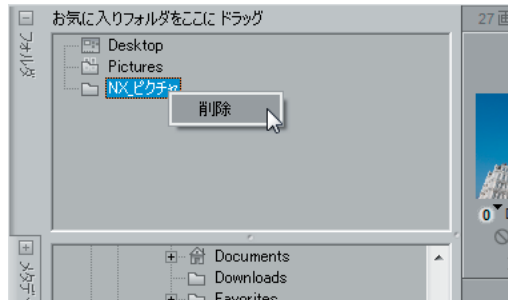
MEMO [**ブラウザー**] からフォルダをドラッグ＆ドロップしても追加できます。



■ お気に入りフォルダの削除方法

削除したいフォルダを [**お気に入りフォルダ**] のウィンドウ内で選び、右クリック（Mac OSはcontrol+クリック）して表示されるメニューで [**削除**] を選んで削除します。

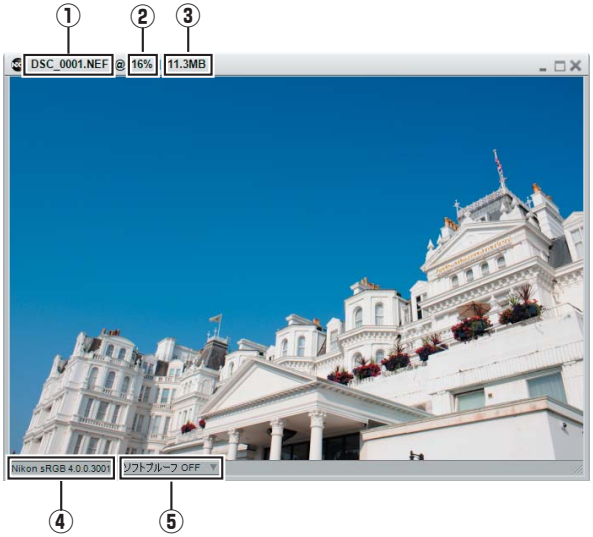
MEMO パソコン内のフォルダは削除されません。



イメージウィンドウで開いた画像を確認する

イメージウィンドウは、画像や画像処理に役立つ重要なデータを表示するウィンドウです。イメージウィンドウに表示される画像を見ながら、画像処理を適用します。

ショートカット　開いているイメージウィンドウの切り換え：Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Tabキー



① ファイル名	現在開いている画像のファイル名を表示しています。
② 拡大率	拡大率はズームツールや［**表示**］メニューの［**ズームイン**］、［**ズームアウト**］で変更できます。100%以上の場合、実際の画像データを見ていることになり、100%未満の場合、画素が間引かれた画像を表示していることになります。 参照　「画像を拡大/縮小表示する」（P.51）
③ ファイルサイズ	現在開いている画像のファイル容量を表示しています。
④ カラープロファイル	現在開いている画像に適用されているカラープロファイルを表示しています。カラープロファイルは［**調整**］メニューで変更できます。 参照　「カラープロファイル」（P.171） 「カラーマネージメント」（P.250）

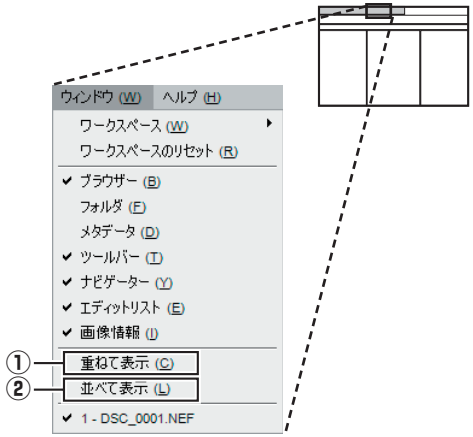
⑤ ソフトプルーフ	ここをクリックすると、[**ソフトプルーフ**] ダイアログが表示され、ソフトプルーフ機能を使用できます。

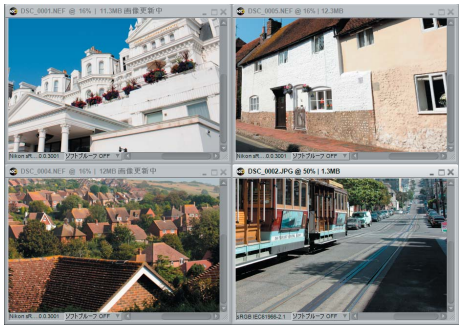
ソフトプルーフ ON/ソフトプルーフ OFF	[**ソフトプルーフON**] を選ぶと、画像上で出力プロファイルの効果をプレビューでき、プリンターによる印刷結果を予想できます。異なるプロファイルの使用結果もプレビューでき、使用するカラーマネージメントシステムに対して異なるパラメーターを設定できます。
デバイスプロファイル	リストからカラープロファイルを選択してカラーマネージメントシステムの結果をプレビューし、異なるカラーマネージメント設定が画像にどのように反映されるかを見ることができます。
マッチング方法	画像に適用するための、4つのマッチング方法を選択することができます。これらのマッチング方法は、画像の色を（プリンタープロファイルによって示される）プリンターが出力できる色に合わせる方法を指定します。 **・知覚的** 選択した画像の色が設定したプリンタープロファイルが持つ色域の外にある場合に、プリンタープロファイルの色域内に収まるように画像の色全体を圧縮します。 **・彩度** 彩度の高い色を作りますが、オリジナルの画像の色と異なる場合があります。 **・相対的な色域** 選択した画像の色が、設定したプリンタープロファイルが持つ色域内にある場合は、色の変更を行いません。設定したプリンタープロファイルが持つ色域外にある場合には、できるだけ近い色に置き換えます。 **・絶対的な色域** 設定したプリンタープロファイルが持つ色域外にある場合には、できるだけ近い色に置き換えます。[相対的な色域] と似ていますが、画像のホワイトポイントをプリンタープロファイルで定義されているホワイトポイントに置き換えません。用紙の色の影響も含めて出力機器の結果を再現するため、普段使用するプリンター以外の印刷機器で画像を校正する場合におすすめです。
黒点補正を使用する	チェックを入れると、黒点補正を使用します。画像の黒点がプリンターの黒点に対応するため、プリンターのカラー範囲をフルに使用できます。印刷結果にグレーのシャドー部分がある場合や画像の絵柄が細かくない場合はチェックを外してください。プリンターとプロファイルの組合せで問題が発生しない限り、常に使用することをおすすめします。

参照 「印刷」（P.221）

開いた画像の並べ方を設定する

複数の画像をイメージウィンドウで開く場合、画像の並べ方を設定しておくと便利です。画像の並べ方はメニューバーの［**ウィンドウ**］メニューで設定します。



① 重ねて表示	現在開いているすべてのイメージウィンドウをそれぞれそのままのサイズで重ねて表示します。	
② 並べて表示	現在開いているすべてのイメージウィンドウのサイズを調整し、モニター上にグリッド（格子）状に並ぶように配置します。	

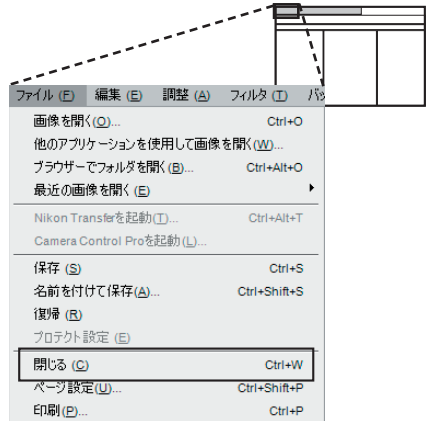
画像を閉じる

画像を閉じるには、メニューバーにある［**ファイル**］メニューから［**閉じる**］を選ぶか、イメージウィンドウの［**閉じる** ×（Mac OSは ●）］ボタンをクリックします。

ファイルメニューから閉じる

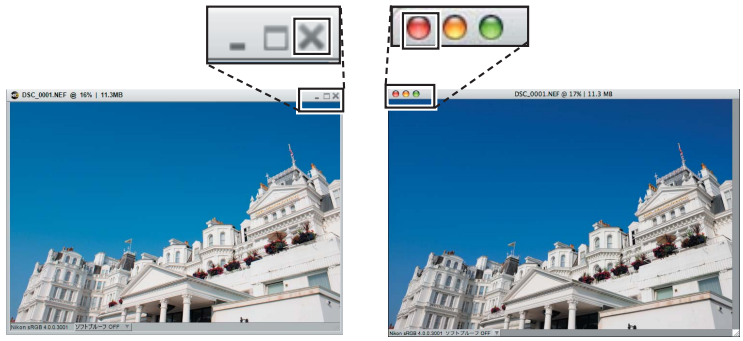
メニューバーの［**ファイル**］メニューから［**閉じる**］を選ぶと、現在使用中のイメージウィンドウを閉じます。

ショートカット　Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋Wキー



イメージウィンドウから閉じる

イメージウィンドウの［**閉じる**］ボタンをクリックしても閉じられます。



Windows　Mac OS

MEMO　変更した画像を保存していない場合、変更を保存するかどうかをたずねるダイアログが表示されます。

Capture NX 2の基本操作

ここでは、Capture NX 2の基本的な使い方を紹介します。

表示部分をスクロールする P.50
画像を拡大/縮小表示する P.51
画像を回転/反転する P.54
画像の傾きを調整する P.57
画像を切り抜く P.59
表示部分の位置を確認する P.61
画像の階調を確認する P.62
ポインター部分のピクセル情報を確認する P.64
白とび/黒つぶれを確認する P.65
フォーカスポイント（フォーカスエリア）を確認する P.67
画像に関連する情報を確認する P.68
XMP/IPTC情報（作成者に関する情報など）を確認する P.69
処理した画像を比較する P.70

表示部分をスクロールする

［**手のひらツール**］は、イメージウィンドウの表示部分や［**ブラウザー**］の表示部分をスクロールできます。現在のイメージウィンドウよりもサイズの大きな画像を表示している場合に便利です。

手のひらツール

イメージウィンドウ内の表示をスクロールさせるには、［**手のひらツール**］を選び、ドラッグします。



MEMO

- イメージウィンドウに画像を表示しているときに［**手のひらツール**］アイコン をダブルクリックすると、［**ブラウザー**］や［**エディットリスト**］の間に、イメージウィンドウが縦横比を保った状態でできる限り大きく表示します。ワークスペースを［**マルチ**］から［**エディット**］に切り換えたときなどに便利です。
- 他のツールが選ばれているときにスペースキーを押すと、一時的に手のひらツールに切り替わります。

ショートカット Hキー

画像を拡大/縮小表示する

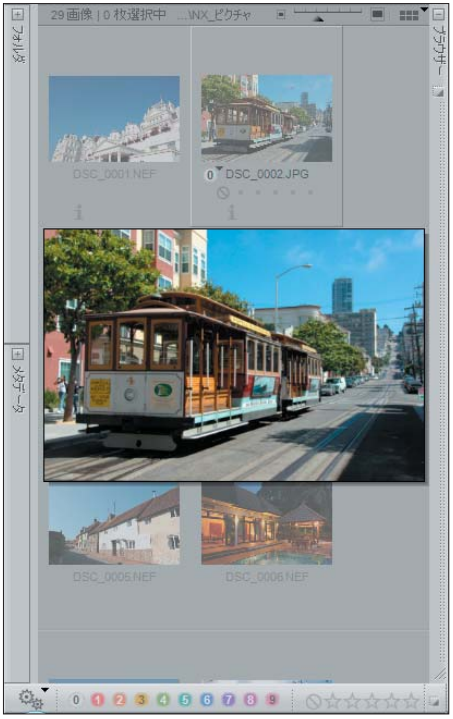
画像の一部を拡大、または画像全体を縮小して表示する場合は、[**ズームツール**] またはメニューバーの [**表示**] メニューで画像の拡大率を変更します。また、[**ブラウザー**] のサムネイル表示の倍率も変更できます。

ズームツール



[**ズームツール**] を選んで、イメージウィンドウの画像をクリックすると、画像が拡大表示されます。Altキー（Mac OSはoptionキー）を押しながらイメージウィンドウの画像をクリックすると、画像が縮小表示されます。[**ブラウザー**] 内でクリックすると、サムネイルの拡大率を変更できます。

[**ブラウザー**] では、画像のサムネイルに [**ズームツール**] を1秒以上置くと、[**ズームツール**] を置いた画像を拡大表示します。拡大表示を解除するには、他の画像のサムネイルをクリックします。

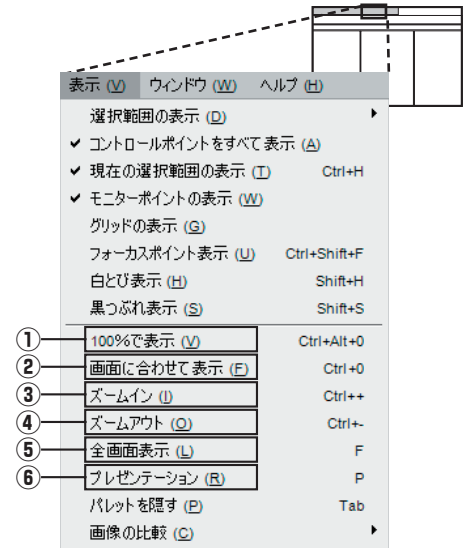


MEMO

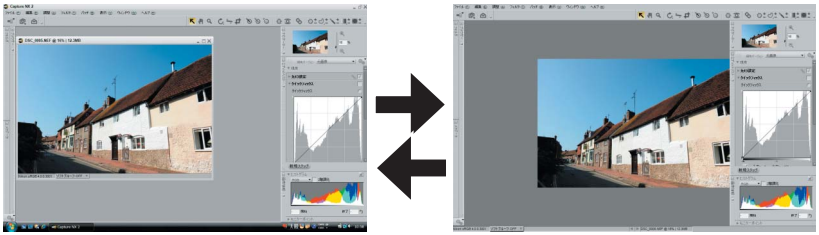
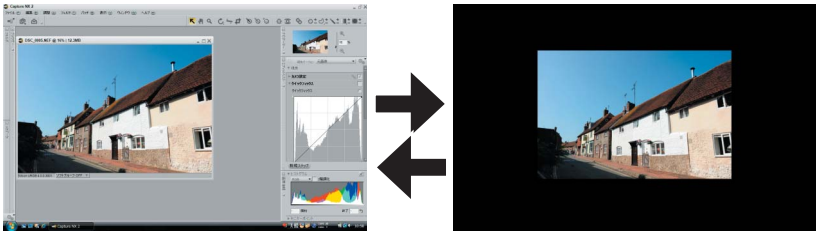
- イメージウィンドウ表示時にズームツールアイコン をダブルクリックすると、100%表示されます。
- 他のツールが選ばれているときにCtrlキー（Mac OSは ⌘ キー）+スペースキーを押すと、一時的にズームツールに切り替わります。Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）+Altキー（Mac OSはoptionキー）+スペースキーを押すと、一時的に縮小ズームツールに切り替わります。

Ctrl ショートカット Zキー

メニューから拡大/縮小



メニュー	説明	ショートカット
① **100%で表示**	イメージウィンドウ内の画像を拡大率100%で表示します。	Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋Altキー（Mac OSはoptionキー）＋0キー
② **画面に合わせて表示**	[**ブラウザー**] や [**エディットリスト**] の間に、イメージウィンドウが縦横比を保った状態でできる限り大きく表示されます。	Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋0キー
③ **ズームイン**	イメージウィンドウ内の画像の拡大率を1～1600%の順に拡大します。ブラウザーが選ばれている場合、7段階（[**サムネイル情報**] 選択時は3段階）で拡大します。	Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋「+」キー
④ **ズームアウト**	イメージウィンドウ内の画像の拡大率を1600～1%の順に縮小します。ブラウザーが選ばれている場合、7段階（[**サムネイル情報**] 選択時は3段階）で縮小します。	Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋「ー」キー

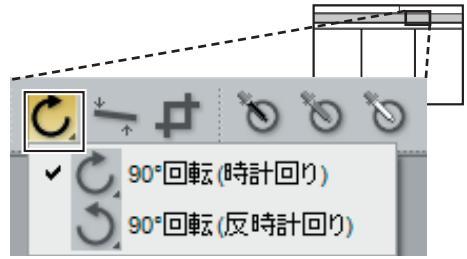
⑤ 全画面表示	Capture NX 2の画像スペースが最大化され、背景がグレーで表示されます。メニューから選ぶか、Fキーを押すたびに全画面表示のオン/オフが切り換えられます。また、全画面表示がオンの場合にEscキーを押すとオフにできます。 ショートカット Fキー  全画面表示オフ　全画面表示オン
⑥ プレゼンテーション	ツールバーやウィンドウを非表示にして、画像だけを表示します。背景が黒で表示されます。Pキーを押すたびにプレゼンテーションのオン/オフが切り換えられます。また、プレゼンテーションがオンの場合にEscキーを押すとオフにできます。 プレゼンテーションモードのときにツールバーや各ウィンドウのあった場所にマウスポインターを置くと、そのツールバーやウィンドウが表示されます。ウィンドウからマウスポインターを離すと非表示になります。それぞれのウィンドウを分離させると、マウスポインターがウィンドウから離れても表示され続けます。マウスポインターを合わせてもメニューバーは表示されません。 ショートカット Pキー  プレゼンテーションオフ　プレゼンテーションオン MEMO 2台のモニターで複数の画像を開いている場合に、[**全画面表示**]や[**プレゼンテーション**]をオンにすると、開いているイメージウィンドウはすべて現在アクティブになっているイメージウィンドウが表示されているモニターに移動します。イメージウィンドウの切り換えは、モニター下部に表示される三角形のボタンで行います。

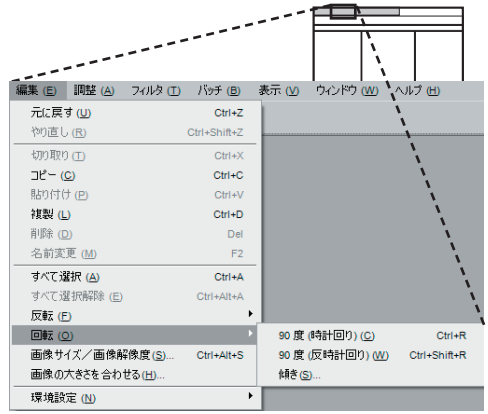
画像を回転/反転する

縦位置で撮影した画像などを90度ずつ回転するには、[**回転ツール**] または [**編集**] メニューの [**回転**] を使用します。

回転ツール/回転

[**回転ツール**] や [**回転**] メニューはイメージウィンドウで表示している画像や [**ブラウザー**] 内で選んだ画像で使用できます。[**ブラウザー**] では複数の画像を選んで回転させることもできます。





ショートカット

- 90度（時計回り）
  Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋Rキー
- 90度（反時計回り）
  Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ shiftキー＋Rキー

MEMO

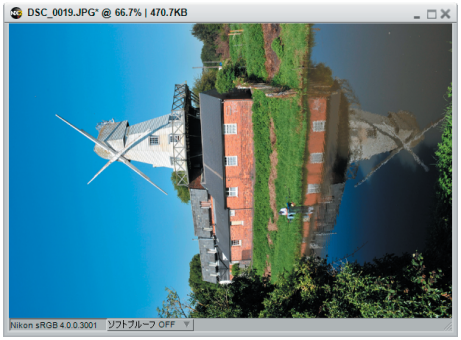
- 回転ツールを長押しするか、アイコン右下の三角形をクリックすると、回転方向を選ぶメニューが表示されます。
- コントロールポイントを設定した後に、[**回転**] を行うと、コントロールポイントの位置がずれて表示される場合があります。コントロールポイントを使用する場合は、これらの画像調整の後に行ってください。

イメージウィンドウの画像を回転させる

1 イメージウィンドウで画像を開く



2 [回転ツール] をクリックする

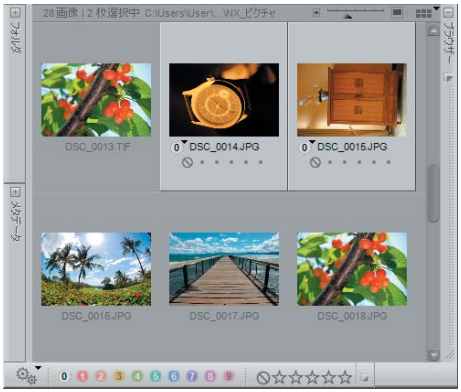


- [**回転ツール**] を長押しすると、回転方向を選ぶメニューが表示されるので、回転させたい方向を選んで [**回転ツール**] をクリックします。
- [**編集**] メニューにある [**回転**] の [**90度 (時計回り)**] か [**90度 (反時計回り)**] を選んでも回転できます。

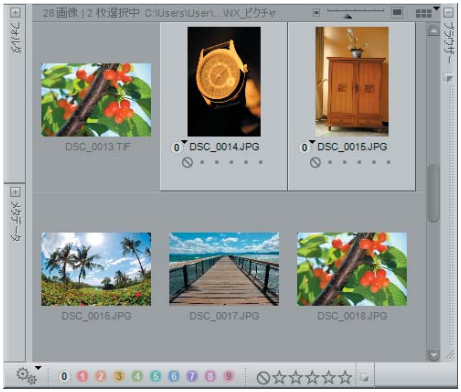
[ブラウザー] 内の画像を回転させる

1 [ブラウザー] 内で回転させたい画像を選ぶ

画像は複数選べます。Shiftキーを押しながら画像をクリックすると、最初と最後に選んだ画像の間のすべての画像を選べます。画像をCtrlキー(MacOSは ⌘ キー) を押しながらクリックすると、クリックした画像だけ選べます。



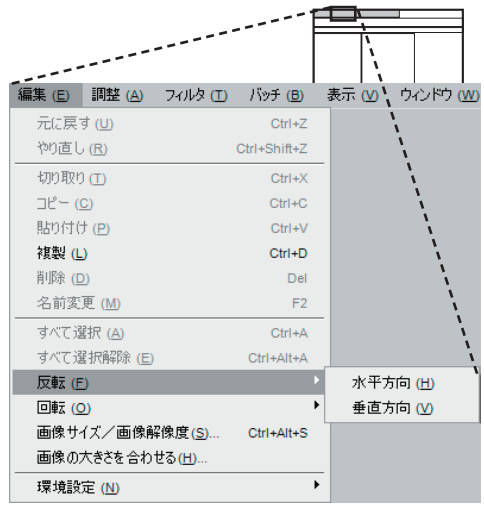
2 [回転ツール] をクリック、または [編集] メニューにある [回転] の [90度 (時計回り)] か [90度 (反時計回り)] を選ぶ



- [**回転ツール**] を長押しすると、回転方向を選ぶメニューが表示されるので、回転させたい方向を選んで [**回転ツール**] をクリックします。
- [**編集**] メニューにある [**回転**] の [**90度 (時計回り)**] か [**90度 (反時計回り)**] を選んでも回転できます。
- [**ブラウザー**] で回転させた場合、[**エディットリスト**] 内に画像処理ステップは作成されません (編集済みのNEF形式の画像のみステップが追加されます)。実際の画像で回転しているのではなく、Exif情報を書き換えているだけのため、画像は劣化しません。

反転

画像を反転させる場合は、メニューバーにある［**編集**］メニューの［**反転**］を使用します。画像は水平方向または垂直方向に反転できます。これは、画像を逆版で使用したい場合などに便利です。

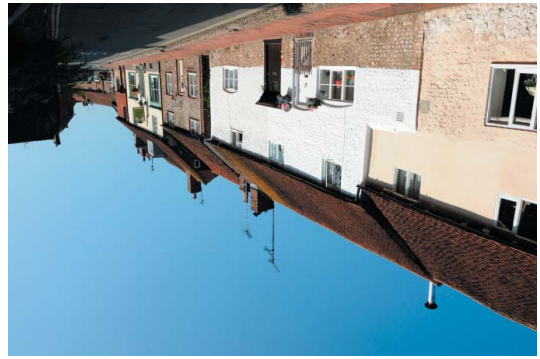




元画像



水平方向



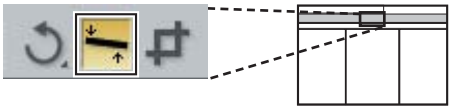
垂直方向

MEMO コントロールポイントを設定した後に、［**反転**］を行うと、コントロールポイントの位置がずれて表示される場合があります。コントロールポイントを使用する場合は、これらの画像調整の後に行ってください。

画像の傾きを調整する

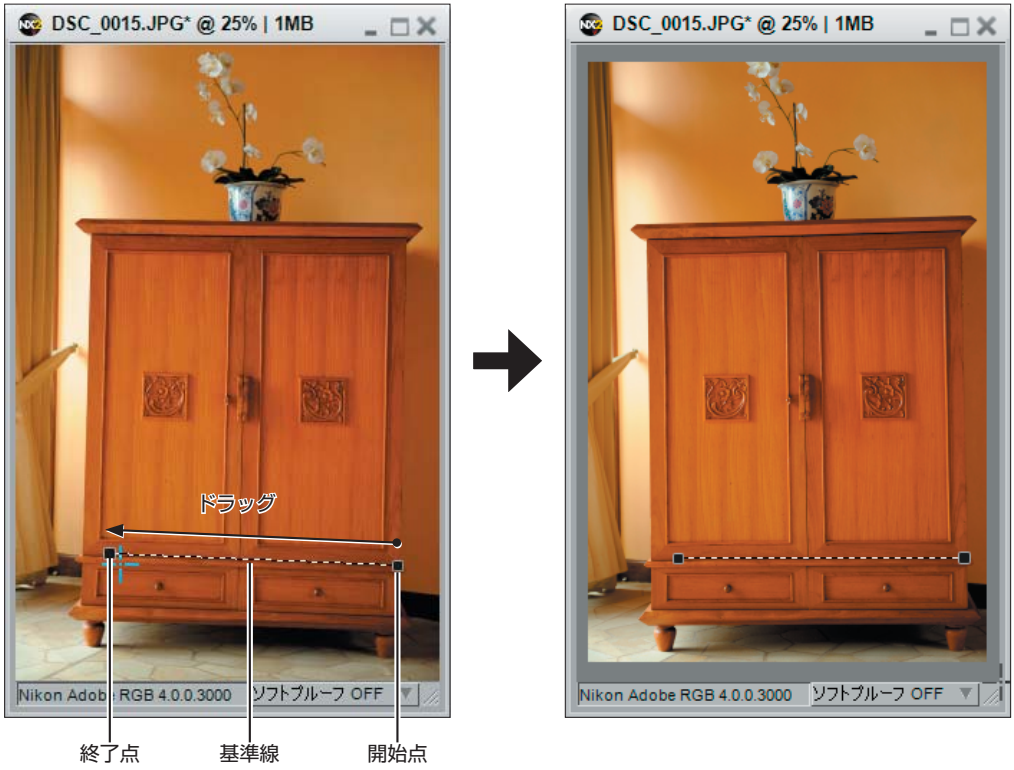
画像の傾斜を調整するには、[**傾きツール**] または [**編集**] メニューにある [**回転**] の [**傾き**] を使用します。

傾きツール / 傾き

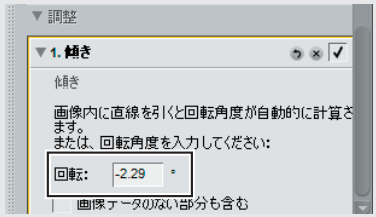


[**傾きツール**] や [**回転**] の [**傾き**] で、画像の傾斜を調整できます。[**ブラウザー**] 内の画像には適用できません。

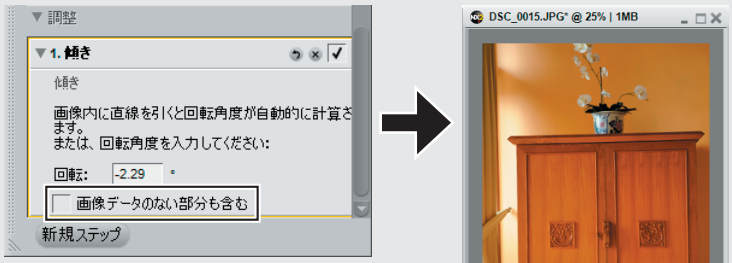
イメージウィンドウの画像の傾きを調整するには、傾きを直したいところをクリックし、傾きに沿ってドラッグします。基準線が引かれて自動的に計算され、傾きを調整して水平になります。傾きを再調整したい場合は、基準線の開始点と終了点をドラッグして角度を調整します。また、新たに基準線を引き直すこともできます。



・［**傾きツール**］を使用して画像の傾きを調整すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップが作成されます。［**回転**］の欄に数値を入力すると、角度を細かく調整できます。プラスの値を入力すると時計回りに、マイナスの値を入力すると反時計回りに画像が回転します。



・画像の傾きを調整すると、画像情報のない部分が生じます。初期設定では、画像情報のない部分が表示されないように縦横比を保ったままで自動的に切り抜かれます。［**エディットリスト**］の［**傾き**］ダイアログ内の［**画像データのない部分も含む**］にチェックを入れると、画像情報のない部分も白で表示されます。





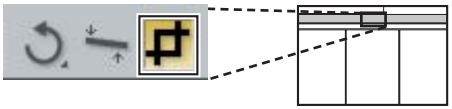
・コントロールポイントを設定した後に、［**傾き**］を行うと、コントロールポイントの位置がずれて表示される場合があります。コントロールポイントを使用する場合は、これらの画像調整の後に行ってください。

画像を切り抜く

画像を切り抜くにはクロップツールを使用します。

クロップツール

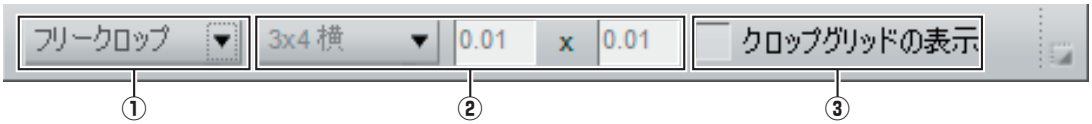
画像の必要な部分だけを切り抜きます。画像を切り抜く際には、縦横比を設定して切り抜いたり、自由に切り抜いて縦横比を変更したりできます。
［**ブラウザー**］ではクロップツールは使用できません。



ショートカット　Cキー

■ クロップオプション

クロップツールを選ぶと、ツールオプションバーに［**クロップオプション**］が表示されます。



① クロップの種類	メニューで、画像を切り抜く縦横比を選びます。 フリークロップ：画像を自由な縦横比で切り抜きます。 縦横比優先：②の［**縦横比**］のメニューから画像の縦横比を選んで、その比率で切り抜きます。
② 縦横比	［**クロップの種類**］で［**縦横比優先**］を選んだ場合に、縦横比を選べます。 ［n×n**横**］となっている項目は横長の比率で、［n×n**縦**］となっている項目は縦長の比率で切り抜かれます。［**カスタム**］を選ぶと、メニューの右にあるテキストボックスに横：縦の比率を設定できます。
③ クロップグリッドの表示	［クロップグリッドの表示］にチェックを入れると、切り抜き範囲を指定する長方形内に、3×3の同じ大きさのグリッド（格子線）を表示します。オフの場合でも、Altキー（Mac OSではoptionキー）を押すと、一時的にクロップグリッドが表示されます。 写真の「三分割法」に基づいて、4本の線が交差する付近に焦点を当てたい対象物を配置する場合に便利です。地平線や構造物など、画像内の自然な水平線や垂直線にグリッドの4本の線のうちの1本に置くと画像を水平にしやすくなります。

MEMO　コントロールポイントを設定した後に、［**クロップ**］を行うと、コントロールポイントの位置がずれて表示される場合があります。コントロールポイントを使用する場合は、これらの画像調整の後に行ってください。

画像を切り抜く

1 クロップツールを選んで切り抜きたい範囲をドラッグする

切り抜かれる部分以外の範囲は、グレーで表示されます。

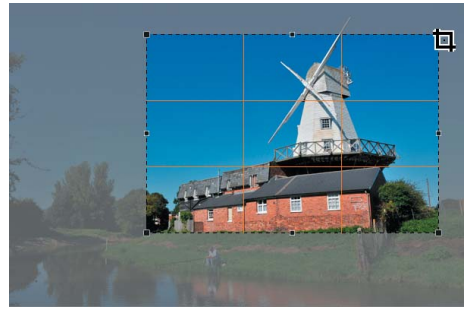


MEMO

- 縦横比を設定せず、必要な部分だけを範囲に指定したい場合は［**フリークロップ**］を選びます。
- ［**フリークロップ**］を選んでいる場合、Shiftキーを押しながらドラッグすると、正方形を保ちながら範囲を設定できます。

2 切り抜きたい範囲を調節する

クロップツールで設定した範囲内をクリックしてドラッグすると、クロップする場所を変更できます。また、上下左右と四隅にある8つの黒い四角（■）をドラッグすると、範囲の形を変更できます。



MEMO

［**フリークロップ**］を選んでいる場合、Shiftキーを押しながらドラッグすると、最初に作成した範囲の縦横比を保ちながら範囲を変更できます。

3 クロップの範囲を決めて、内側をダブルクリックするか、Enterキー（Mac OSはreturnキー）を押す

画像の切り抜きが確定します。ダブルクリックまたはEnterキーを押さないと、切り抜かれません。ダブルクリックかEnterキーを押す以外の操作をすると、キャンセルされます。





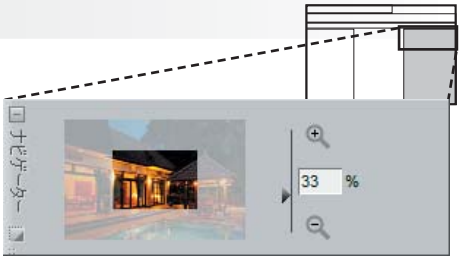
MEMO

- 確定する前に選択範囲外をクリックするか、Escキーを押しても切り抜き操作をキャンセルできます。
- クロップを取り消すには、［**エディットリスト**］内のクロップの画像処理ステップをオフにするか × ボタンで削除します。

表示部分の位置を確認する

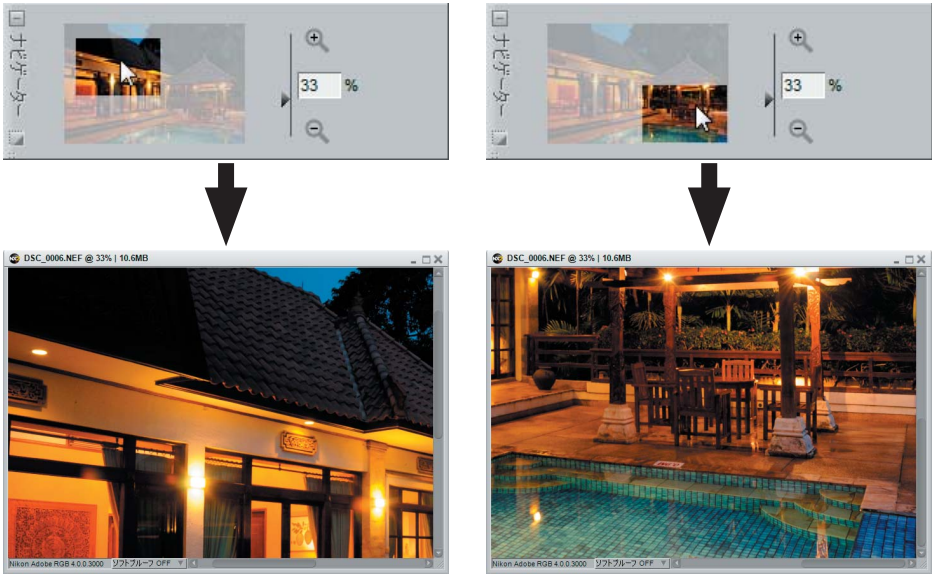
表示部分の位置を確認するには、[**ナビゲーター**] ウィンドウを使用します。

ナビゲーター

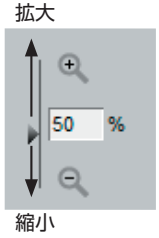


[**ナビゲーター**] ウィンドウは、イメージウィンドウに表示されている画像の縮小画像を表示します。画像を拡大してイメージウィンドウに画像全体が表示されない場合（特に、ワークスペースを [**マルチ**] に設定してイメージウィンドウのサイズが大きくとれないときなど）に便利です。

イメージウィンドウに表示されている部分以外は、半透明になって表示されます。表示部分をドラッグすると、イメージウィンドウに表示される拡大部分を動かせます。



[**ナビゲーター**] ウィンドウで画像を拡大または縮小するには、 または をクリックするか、ズームバーをドラッグして動かします。また、テキストボックスに拡大率を直接入力することもできます。

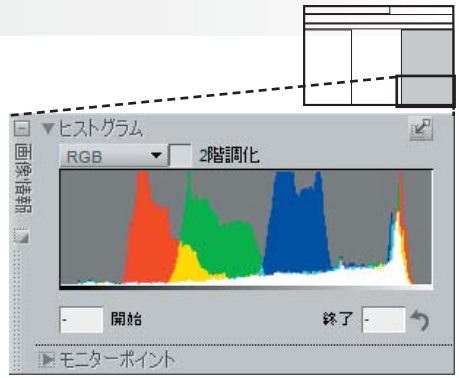


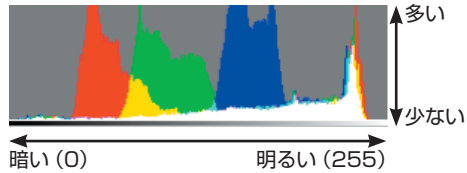
画像の階調を確認する

画像の階調を確認するには、[**画像情報**] ウィンドウのヒストグラムを使用します。

ヒストグラム

イメージウィンドウで開いている画像のヒストグラムをリアルタイムで表示します。ヒストグラムは、[**画像情報**] ウィンドウで確認できます。





MEMO

- ヒストグラムとは、明るさごとに表示されたピクセルの合計数のグラフです。水平軸は明るさを、垂直軸は画像内の明るさごとのピクセル数を表します。水平軸上で、左端がもっとも暗い階調を、右端が画像のもっとも明るい階調を表します。明るさの値は0から255までで、0がもっとも暗く、255がもっとも明るくなります。
- 画像調整を行っていると、ヒストグラムが歯抜けのような状態になる場合があります。その場合、画像を保存してから再度表示させると、正確なヒストグラムが表示できます。

■ チャンネル

表示するヒストグラムのチャンネルを選びます。[**RGB**] と、[**赤**]、[**緑**]、[**青**] それぞれのチャンネルが表示できます。

[**RGB**] (初期設定) では、[**赤**]、[**緑**]、[**青**] のヒストグラムが相互に重なって表示されます。ヒストグラムが重なるところは、他の色が表示されます。シアンの領域は [**緑**] と [**青**]、マゼンタの領域は [**赤**] と [**青**]、黄色の領域は [**赤**] と [**緑**] が重なっていることを示します。白い領域は、3つの色のピクセル数がすべて同じことを示します。

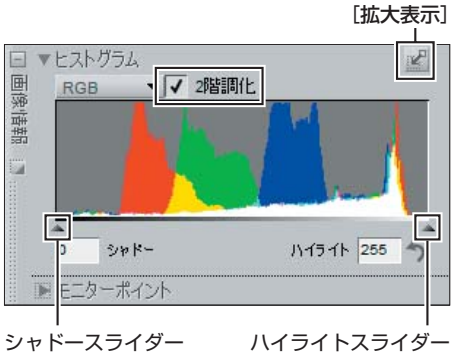
ヒストグラム表示上でマウスをドラッグすると、選んだ範囲のピクセルがイメージウィンドウ内で点滅します。選んだ範囲のピクセルが、画像内のどの部分で使用されているかを確認する場合に便利です。[**開始**] と [**終了**] のテキストボックスに、それぞれ対応するピクセル値を0～255の間で入力することもできます。イメージウィンドウの点滅をキャンセルするには、ヒストグラム内をクリックするか、[**クリア**] をクリックします。

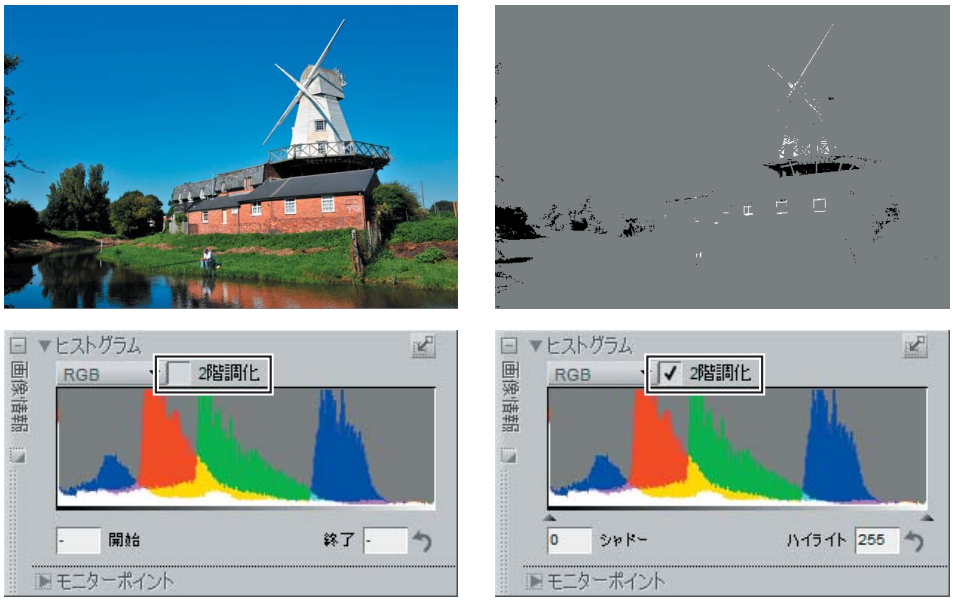


■ 2階調化

［**2階調化**］にチェックを入れると画像全体がグレーになり、画像内の明るさ0の部分が黒、明るさ255の部分が白で表示されます。ヒストグラムの下にシャドースライダーとハイライトスライダーが表示されます。

この機能は、イメージウィンドウ内にブラックコントロールポイントとホワイトコントロールポイントを配置して画像のコントラストを調整する際に使用します。ブラックコントロールポイントを配置するために画像のもっとも暗い部分を、ホワイトコントロールポイントを配置するためにもっとも明るい部分を見つけます。





参照 「ブラックコントロールポイント」(P.127)
「ホワイトコントロールポイント」(P.127)

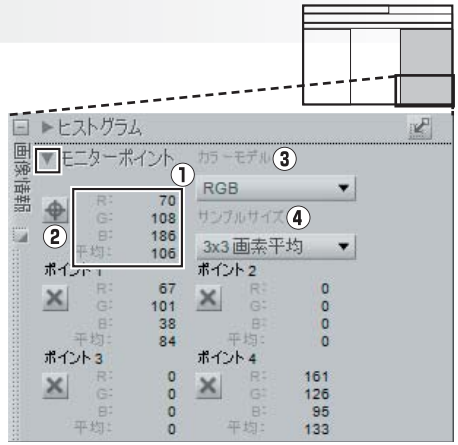
MEMO ［**画像情報**］ウィンドウは、［**拡大表示**］で拡大表示できます。

ポインター部分のピクセル情報を確認する

画像のある一部の情報を常に表示させて確認するには、モニターポイントを使用します。

モニターポイント

モニターポイントは［**画像情報**］ウィンドウ内の ▶ ボタンをクリックすると表示されます。マウスポインターの位置にあるピクセルの情報を、リアルタイムで表示します。また、［**モニターポイント作成**］で画像内に作成したモニターポイントのピクセル情報を常に表示できます。



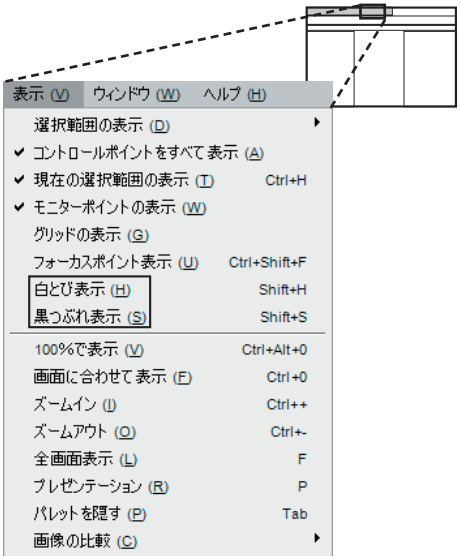
① チャンネル	マウスポインターの位置にあるピクセルの、［**R**（赤）］、［**G**（緑）］、［**B**（青）］の各チャンネルと平均値を表示します。［**カラーモデル**］で［**HSB**］を選んだ場合、［**H**（色相）］、［**S**（彩度）］、［**B**（明度）］が表示されます。［**調整**］セクションで画像処理を行った場合、「元画像のピクセル情報/画像処理後のピクセル情報」と表示されます。
② モニターポイント作成 ⊕	常にその位置のピクセル情報を表示するモニターポイントを作成します。 ［**モニターポイント作成** ⊕ ］をクリックし、イメージウィンドウでクリックした位置に新しいモニターポイントが作成されます。ドラッグすると位置を移動できます。1つの画像に最大4つまでモニターポイントを作成できます。 モニターポイントを削除するには、各モニターポイントの ☒ ボタンをクリックします。
③ カラーモデル	ピクセル情報を表示する際に使用するカラーモデルを、［**RGB**］（赤（Red）、緑（Green）、青（Blue））または［**HSB**］（色相（Hue）、彩度（Saturation）、明度（Brightness））から選べます。
④ サンプルサイズ	マウスポインターの下にある色と、各モニターポイントで色のサンプリングに使用されるピクセル数を変更します。 **1画素**：1ピクセルのみサンプリングします。詳しくそのピクセルの色を確認する場合に使用します。表示倍率を高くして設定することをおすすめします。 **3×3画素平均**：縦横3ピクセルずつサンプリングし、各ピクセルの色の平均値を表示します。一般的に、同じ色に見えていても、隣接する各ピクセルの色は微妙に異なります。これを選ぶと、目標領域の色がより正確に描写できます。 **5×5画素平均**：縦横5ピクセルずつサンプリングし、各ピクセルの色の平均値を表示します。画像サイズの大きい画像の場合に使用をおすすめします。

白とび/黒つぶれを確認する

画像の白とび部分と黒つぶれ部分を確認するには、メニューバーにある［**表示**］メニューの［**白とび表示**］と［**黒つぶれ表示**］を使用します。

白とび表示

画像の白とび（画像が非常に明るい部分＝値が255の部分）をRGBチャンネルごとに色別で表示します。白とび表示は［**表示**］メニューの［**白とび表示**］を選びます。



白とびがない部分は黒で表示されます。黒以外の色が表示されている場合は、以下のチャンネルで白とびが発生しています。

色	説明
白	赤、緑、青チャンネル
黄色	赤、緑チャンネル
マゼンタ	赤、青チャンネル
シアン	緑、青チャンネル
赤	赤チャンネル
緑	緑チャンネル
青	青チャンネル

この機能は、画像を調整している間も使用できます。白とびの部分を確認しながら、トーンカーブなどを調整できます。

白とび表示をキャンセルするには、再度［**表示**］メニューから［**白とび表示**］を選びます。

ショートカット　Shiftキー＋Hキー



黒つぶれ表示

画像の黒つぶれ（画像の非常に暗い部分＝値が0の部分）をRGBチャンネルごとに色別で表示します。黒つぶれ表示はメニューバーにある［**表示**］メニューの［**黒つぶれ表示**］を選びます。



黒つぶれがない部分は白で表示されます。白以外の色が表示されている場合は、以下のチャンネルで黒つぶれが発生しています。

色	説 明
黒	赤、緑、青チャンネル
青	赤、緑チャンネル
緑	赤、青チャンネル
赤	緑、青チャンネル
シアン	赤チャンネル
マゼンタ	緑チャンネル
黄色	青チャンネル

この機能は、画像を調整している間も使用できます。黒つぶれの部分を確認しながら、トーンカーブなどを調整できます。

黒つぶれ表示をキャンセルするには、再度［**表示**］メニューから［**黒つぶれ表示**］を選びます。

ショートカット　Shiftキー＋Sキー

フォーカスポイント（フォーカスエリア）を確認する

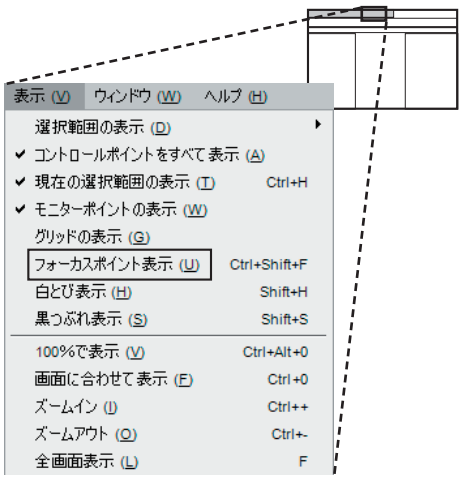
ピントを合わせた位置のフォーカスポイント（フォーカスエリア）を確認するには、メニューバーにある［**表示**］メニューの［**フォーカスポイント表示**］を使用します。

フォーカスポイント表示

［**表示**］メニューの［**フォーカスポイント表示**］でフォーカスポイント（フォーカスエリア）を表示します。
次の場合、フォーカスポイントが表示されない、または正しく表示されないことがあります。

- 回転・傾き調整・反転・クロップを行った画像
- フィッシュアイ画像変換・ゆがみ補正を行った画像
- COOLPIXまたは他社のカメラで撮影した画像
- 非CPUレンズ、マニュアルフォーカスレンズを使って撮影した画像
- マニュアルフォーカスで撮影した画像

MEMO オートエリアAFモードで撮影した画像の場合、ピントが合ったすべてのフォーカスポイントを表示します。





画像に関連する情報を確認する

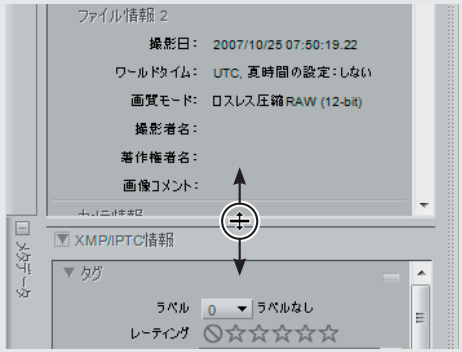
［**メタデータ**］ウィンドウの［**ファイル/撮影情報**］には画像に関する情報が表示されています。［**メタデータ**］ウィンドウは［**最大化** ］をクリックして表示します。

ファイル/撮影情報

［**ファイル/撮影情報**］には、カメラ名、撮影日時、露出など、イメージウィンドウの画像または［**ブラウザー**］で選んだ画像に関連する情報が表示されます。



［**ファイル/撮影情報**］と［XMP/IPTC情報］は、間のバーをドラッグしてサイズを変更できます。



MEMO

XMP/IPTC情報（作成者に関する情報など）を確認する

［**メタデータ**］ウィンドウの［**XMP/IPTC情報**］には画像の作成者に関する情報などが表示されています。［**メタデータ**］ウィンドウは［**最大化** ］をクリックして表示します。

XMP/IPTC情報

［**XMP/IPTC情報**］には、画像の作成者に関する情報や使用条件を表示するテキストフィールドなどの一覧が含まれています。XMPとはExtensible Metadata Platformの略で、ファイルに作成者名やカテゴリーなどをXMLを利用して記録するものです。ファイルを複数の人で共有する場合などに、このファイルがどのように作成されたかを知ることができます。IPTC情報とは、国際新聞電気通信評議会（IPTC）が作成した基準で、写真をさまざまな出版物で共有する場合に必要な情報を簡易化し、明確化するために考案されています。



イメージウィンドウで開いている画像や［**ブラウザー**］で選んでいる画像にキャプション、キーワード、カテゴリー、説明、作成者などの情報を追加または編集できます。［**ブラウザー**］で操作する場合、複数の画像を選んで編集できます。

情報を入力して、［**適用**］をクリックするか、［**ブラウザー**］で他の画像を選んだときなどに表示される変更の保存確認ダイアログで［**はい**（Win）］/［**OK**（Mac）］を選ぶと、追加または編集したXMP/IPTC情報が更新されます。

XMP/IPTCプリセットの追加、削除、変更、インポートやエクスポートは、［**環境設定**］の［**XMP/IPTCプリセット**］で設定できます。

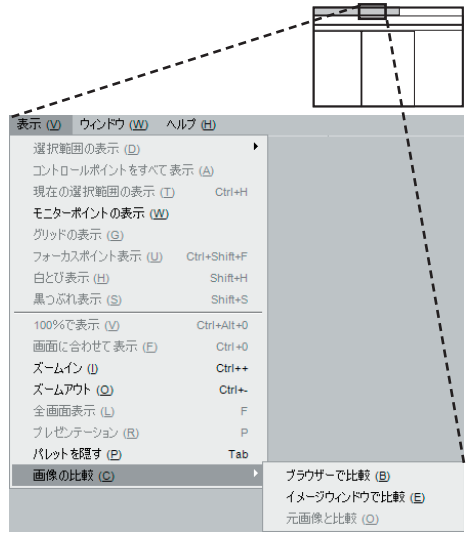
MEMO ラベルとレーティングツールバーまたはメニューバーにある［**バッチ**］メニューの［**XMP/IPTCプリセットとして保存**］を選ぶと、現在の画像に適用されたXMP/IPTC情報を保存できます。保存したXMP/IPTC情報は［**バッチ**］メニューの［**XMP/IPTCプリセットの読み込み**］で複数の画像に適用できます。

参照 「XMP/IPTCプリセットの保存」（P.244）
「XMP/IPTCプリセットの読み込み」（P.244）

処理した画像を比較する

画像を比較するには、メニューバーにある［**表示**］メニューの［**画像の比較**］を使用します。

画像の比較

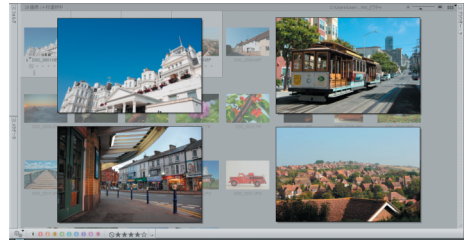


複数の画像を比較したり、処理を適用した画像と元画像を並べて比較したりできます。どの画像に処理を適用するかを決定したり、処理前後の画像を見比べる場合などに便利です。［**表示**］メニューにある［**画像の比較**］のサブメニューから比較処理を選びます。

［**ブラウザーで比較**］と［**イメージウィンドウで比較**］は、［**ブラウザー**］で選んだ画像だけに使用できます。

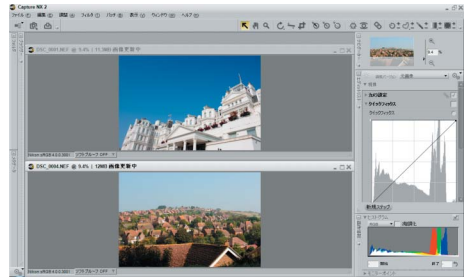
［**元画像と比較**］は、イメージウィンドウで同一画像の元の状態と編集した状態を比較します。

■ ブラウザーで比較



［**ブラウザー**］で選んだ2～4枚の画像を、［**ブラウザー**］内に同じサイズで表示します。画像を比較している時に［**ラベルとレーティングツールバー**］を使用してラベル付けをしたり、レーティングを設定するのに便利です。画像をダブルクリックすると、イメージウィンドウで開きます。
終了するには、［**表示**］メニューで［**ブラウザーで比較**］を再度選ぶか、［**ブラウザー**］内の比較している画像以外をクリックします。

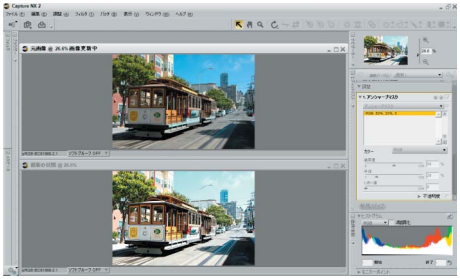
■ イメージウィンドウで比較



［**ブラウザー**］で選んだ2枚の画像を、モニターで利用できるスペースに合うようにイメージウィンドウで表示します。［**ズームツール**］や［**手のひらツール**］を用いて一方の表示を変更すると、もう一方の画像もそれに合わせて変更します。これにより、細部の比較が簡単にできます。
終了するには一方あるいは両方のイメージウィンドウを閉じます。

■ 元画像と比較

イメージウィンドウの画像の元画像と編集した状態を比較します。同じ画像の複製ウィンドウを自動的に開き、2つのウィンドウがモニターで利用できるスペースに収まるようサイズを調整します。左または上の画像が元の状態を表し、右または下の画像が編集した状態を表します。[**ズームツール**] や [**手のひらツール**] を用いて一方の表示を変更すると、もう一方の画像もそれに合わせて変更し、細部の比較が簡単にできます。終了するには、[**表示**] メニューの [**元画像と比較**] を再度選ぶか、一方のイメージウィンドウを閉じます。



MEMO [**元画像と比較**] 中は、画像を編集できません。

エディットリスト

［**エディットリスト**］には［**現像**］セクションと［**調整**］セクションがあり、ここでさまざまな画像編集の効果を調整します。［**調整**］セクションでは、画像に適用された画像処理がすべて適用した順番に保存されているため、以前行った処理を変更するための履歴として使用できます。ここではCapture NX 2のメイン機能である［**エディットリスト**］自体の使用方法を説明します。

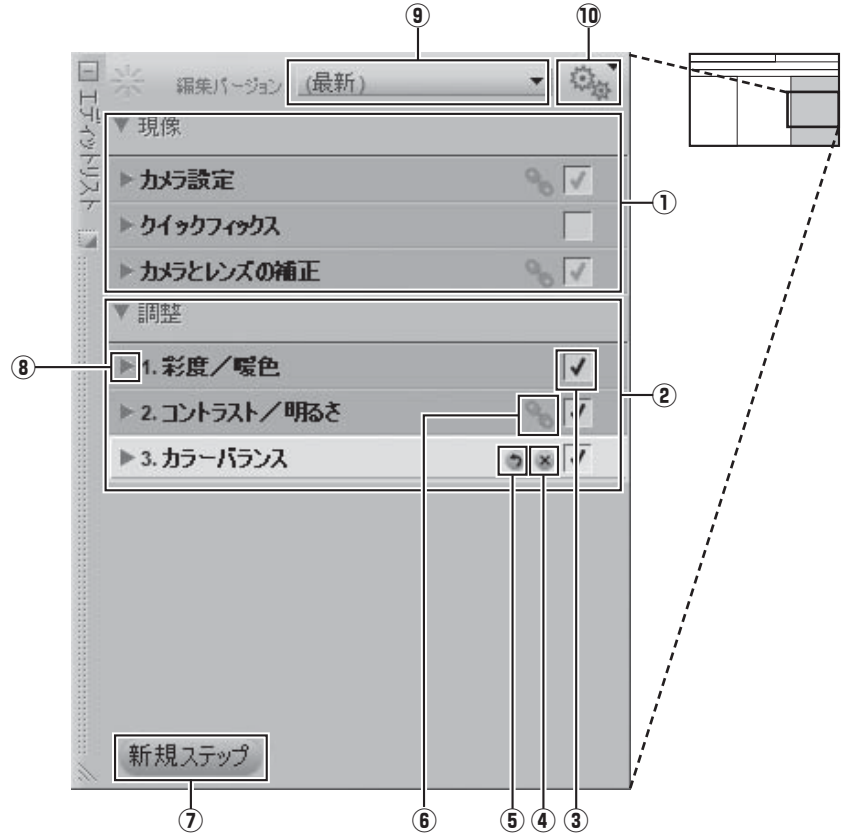
エディットリストを使用する P.74
処理をする順序について P.77
新規ステップを作成する P.79
処理の内容を調整する P.80

エディットリストを使用する

[**エディットリスト**] はCapture NX 2で画像を調整する際に使用します。さまざまな画像調整が [**エディットリスト**] から行えます。

エディットリスト

Capture NX 2で画像に適用した画像処理は、すべて [**エディットリスト**] に記録されます。[**エディットリスト**] を使用して、画像に処理を適用したり、以前に行った処理を再調整できます。



① [現像] セクション

[現像] セクションには、[**カメラ設定**]、[**クイックフィックス**]、[**カメラとレンズの補正**] があります。それぞれの中には、複数の機能がまとめられています。RAW画像でのみ使用できる処理は、TIFF形式やJPEG形式の画像を編集する際には表示されません。

カメラ設定 (RAW画像のみ)	ピクチャーコントロールやホワイトバランスを調整できます。 参照 「ホワイトバランスを調整する」(ホワイトバランス：P.94) 「ピクチャーコントロールを設定する」(ピクチャーコントロール：P.97) 「ピクチャーコントロールを使用していない画像を調整する」(ピクチャーコントロール不使用：P.104) 「画像に現れるノイズを低減する」(ノイズリダクション：P.106) 「白とびや黒つぶれを軽減する」(アクティブD-ライティング：P.107)
クイックフィックス	トーンカーブやコントラストなど、よく使用される複数の画像調整を1つのダイアログの中でできます。 参照 「簡単に複数の効果を画像に適用する」(クイックフィックス：P.116)
カメラとレンズの補正	赤目現象を自動的に補正したり、画像内の色ずれを調整したりできます。 参照 「色モアレを軽減する」(色モアレリダクション：P.108) 「ゴミやホコリの写り込みを軽減する」(イメージダストオフ：P.109) 「色ずれを軽減する」(自動色収差補正：P.111) 「赤目現象を自動的に補正する」(自動赤目補正：P.112) 「レンズによる画像周辺部の明るさの低下を調整する」(ヴィネットコントロール：P.113) 「フィッシュアイレンズで撮影した画像を広角レンズで撮影したように変換する」(フィッシュアイレンズ：P.114)

② [調整] セクション

[**調整**] セクションの画像処理ステップが、実行順に並びます。画像処理ステップとは、それぞれの画像処理が持つ調整内容をダイアログで表示したものです。この内容を調整すれば、いつでも画像処理の結果を変更できます。[**現像**] セクションは、いつ処理をしても他の [**現像**] セクションの処理に影響を与えませんが、[**調整**] セクションの画像処理ステップは同じ処理をしても順序が変われば処理の効果が変わることもあります。画像処理ステップは、コピー、貼り付け、削除などができます。

参照 「処理をする順序について」(P.77)
「処理の内容を調整する」(P.80)

③ [適用] チェックボックス

画像処理の有効/無効を切り換えます。画像処理を調整すると、自動的にチェックが入ります。チェックを外すと、その処理は無効になります。チェックを入れると再び処理の効果は有効になります。

④ 削除ボタン

このボタンをクリックすると、選ばれている画像処理ステップの効果が削除されます。

⑤ リセットボタン

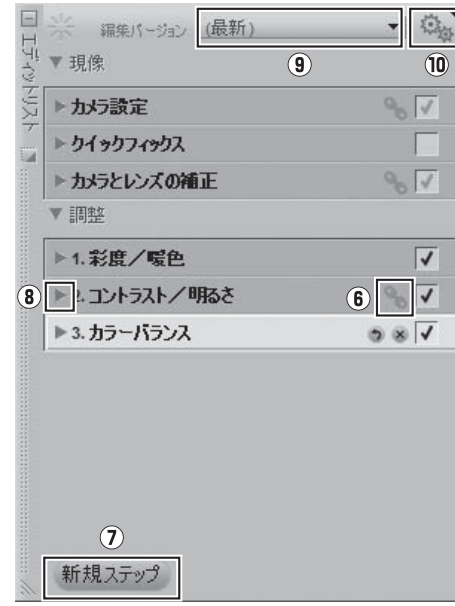
このボタンをクリックすると、調整している画像処理ステップの効果を、調整が確定する以前の状態に戻します。

⑥ リンクアイコン
1つのステップ内で複数の画像処理が適用されていることを示します。

参照 「画像処理ステップをリンクして1つの選択範囲内に複数の処理を適用する」(P.86)

⑦ 新規ステップボタン
新規画像処理ステップが［**調整**］セクション内に作成されます。新しい画像処理をするために［**調整**］セクション内に新しいステップを作成したい場合にこのボタンをクリックします。メニューなどから処理を実行すると自動的に新規画像処理ステップが作成されますが、状況によっては［**新規ステップ**］ボタンを使用した方が便利な場合もあります。

参照 「新規ステップボタン」(P.79)



⑧ 表示/非表示三角形 ▶
その処理のダイアログ内容の表示/非表示を切り換えます。

⑨ 編集バージョンメニュー
編集バージョンを追加すると、そのあとに別の画像調整をした場合でも編集バージョンを追加した時点の画像調整状態に戻せます。

参照 「編集バージョンメニュー」(P.232)

⑩ バッチメニュー
複数の画像に同一の処理を適用できます。画像をNEF形式として保存すると、［**エディットリスト**］にはすべての画像処理ステップが保存されます。この画像処理ステップを、他の複数の画像に適用するのがバッチ処理です。バッチ処理に使用したい画像処理ステップを作成し、バッチメニューで［**調整の保存**］をすると、以後その処理をバッチ処理に使用できるようになります。

参照 「調整のコピー」(P.241)、「調整の貼り付け」(P.241)
「調整の保存」(P.242)、「設定の読み込み」(P.243)

［**エディットリスト**］には適用された画像処理ステップが適用順に表示されます。すでに適用された画像処理の設定を変更したい場合は、変更したい画像処理ステップをダブルクリックするか、そのステップの横にある ▶ をクリックして内容を表示させて処理の設定を変更します。

参照 「処理の内容を調整する」(P.80)

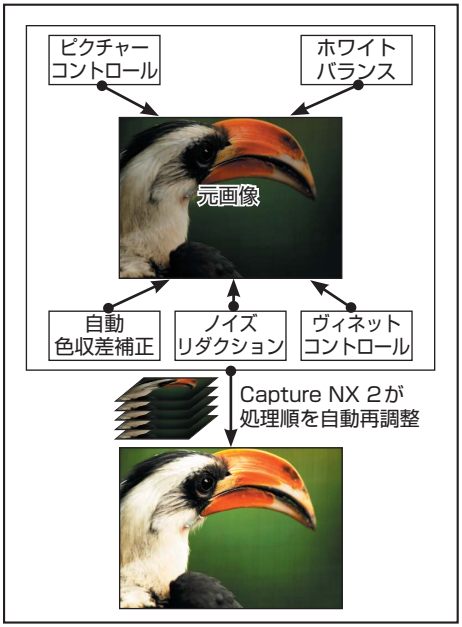
処理をする順序について

Capture NX 2では処理が［**エディットリスト**］に記録されます。［**エディットリスト**］には［**現像**］セクションと［**調整**］セクションがあり、主にここを使用して画像処理を行います。［**調整**］セクションでは処理を行う順序が重要になります。

［現像］セクションと［調整］セクションの違い

［**現像**］セクションに含まれる画像処理は、Capture NX 2内での処理手順があらかじめ決まっています。このため、ユーザーがいつどのような順序で画像処理を行ってもソフト内で自動的に調整されるため、同じ値を適用すれば、最終的な仕上がりは変わりません。

これに対して［**調整**］セクションで行う画像処理は、「前のステップまでの処理（画像処理ステップ）を適用した画像」に対して画像処理ステップが追加されます。このため、処理によっては順序を変更すると効果が変化する場合があります。



［**現像**］セクションの処理イメージ



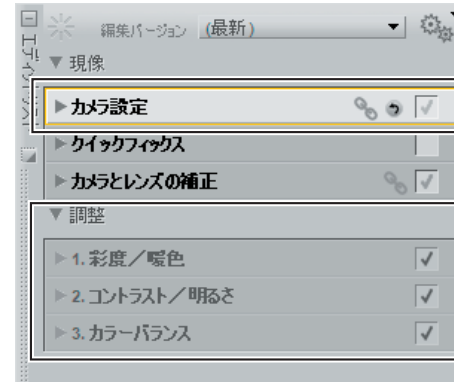
［**調整**］セクションの処理イメージ

処理の一時キャンセル

Capture NX 2では、以前の［**調整**］セクションの画像処理ステップを再編集すると、それ以降に適用した画像処理が一時キャンセルされます（初期設定）。また、［**現像**］セクションの処理を調整すると、［**調整**］セクションのすべての処理が一時キャンセルされます。キャンセルされた［**調整**］セクションの処理は、［**エディットリスト**］内で薄いグレーで表示されます。

これは、処理を一時キャンセルせずに以前の処理を再編集するためには非常に複雑な計算が必要となり、パソコンの処理速度が極端に遅くなるためです。

［**調整**］セクションの最後のステップをクリックすると、すべての画像処理ステップが再適用されます。［**現像**］セクションで調整した画像に再適用されるため、［**現像**］セクション調整前とは印象が大きく変わってしまう場合があります。



［**調整**］セクションの処理を適用した後に［**現像**］セクションの処理を適用すると、［**調整**］セクションの処理が半透明のグレーになります。

MEMO

［**環境設定**］にある［**一般**］項目の［**すべてのステップを有効にする**］にチェックを入れると一時キャンセルされなくなりますが、ご使用になっているパソコンの性能によっては処理に非常に時間がかかる場合があります。

おすすめの処理の順序

Capture NX 2で処理をする際には、まず［**現像**］セクションでの処理を一通り終えてから［**調整**］セクションでの処理をすることをおすすめします。

また、［**調整**］セクション内での処理の順序も充分に考慮しなければなりません。［**調整**］セクションの処理は「前のステップまでの処理を適用した画像に対して処理を行う」もので、現状のピクセル情報を元に画像処理の計算を行います。このため、たとえば［**コントラスト/明るさ**］と［**アンシャープマスク**］をそれぞれまったく同じ値で適用しても、どちらを先に処理するかで結果はまったく変わります。一般的に「正解」と呼ばれる順序はありませんが、画像処理を繰り返すと輪郭が甘くなるため、［**アンシャープマスク**］は最後に適用することをおすすめします。



［**コントラスト/明るさ**］と［**アンシャープマスク**］をそれぞれ同じ値で適用した画像。上は［**コントラスト/明るさ**］を先に、下は［**アンシャープマスク**］を先に適用しています。

新規ステップを作成する

［**調整**］セクションの画像処理ステップは［**エディットリスト**］から作成することもできます。

新規ステップボタン

［**エディットリスト**］の［**新規ステップ**］ボタンをクリックすると、新規画像処理ステップが［**調整**］セクションに作成されます。手動で画像処理ステップを作成したい場合に便利です。

新規ステップを作成して処理を選択する

1 **［新規ステップ］ボタンをクリックする**

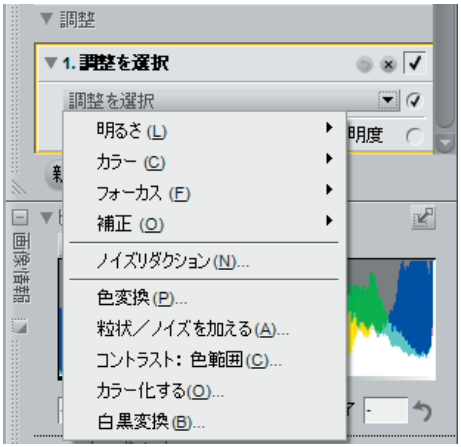
新規画像処理ステップが作成されます。



2 **［調整を選択］メニューから処理を選択する**

MEMO この調整には［**カラープロファイル**］以外の［**調整**］メニューの内容、［**フィルタ**］メニューの全内容が含まれています。

参照 「調整メニュー」(P.275)
「フィルタメニュー」(P.276)

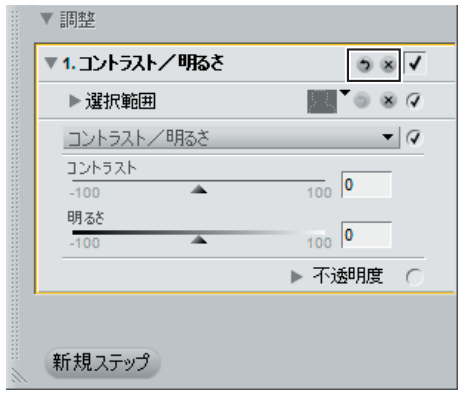


3 **処理を実行する**

［**エディットリスト**］の内容がその処理のダイアログに変更されます。

処理の実行後、［**リセット** ］をクリックするとその画像処理の初期設定の値に戻ります。処理が保存されている画像の場合、保存時の値に戻ります。

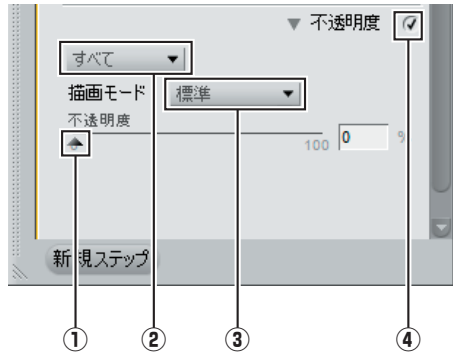
［**削除** ］をクリックすると、画像処理ステップが削除されます。



処理の内容を調整する

［**調整**］セクション内の画像処理ステップには、すべての調整で共通の項目があります。これらを使用して処理の適用度を調整したり、画像処理の内容を変更したりできます。

不透明度



不透明度を使用すると、画像処理の適用度合いを調整できます。［**調整**］、［**コントロールポイント**］、［**フィルタ**］メニューから画像処理を実行すると、不透明度が有効になります。不透明度の ▶ ボタンをクリックするとダイアログが表示され、現在の画像処理が反映される不透明度とチャンネルを調整できます。

① 不透明度

このスライダーは、現在の効果全体の不透明度（画像処理の適用度合い）を調整します。効果が思ったより強すぎる場合、このスライダーを左に動かすと不透明度が下がります。0%にすると、画像処理がまったく適用されていない状態と同様になります。右のテキストボックスに数値を直接入力することもできます。［**チャンネル**］を選択すると、各チャンネルの不透明度を設定するスライダーに変わります。

② チャンネル

現在の画像処理を適用したいチャンネルを選択します。使用できる項目は、［**すべて**］、［**RGB**］、［**明るさと色**］です。

<table>
<tr><td>すべて</td><td>画像のチャンネルすべてに現在の画像処理が適用されます。</td></tr>
<tr><td>RGB</td><td>赤（Red）、緑（Green）、青（Blue）のそれぞれのチャンネルの不透明度スライダーを使用して、画像処理効果を個別に調整します。
<table>
<tr><td>不透明度
（赤チャンネル）</td><td rowspan="3">画像のチャンネルに対する現在の効果の量を調整します。スライダーを左に動かすほど、選んだチャンネルに対する現在の効果が減少します。また、他の2つのスライダーを左端に動かすと、現在の効果が選んだチャンネルにのみ適用されます。</td></tr>
<tr><td>不透明度
（緑チャンネル）</td></tr>
<tr><td>不透明度
（青チャンネル）</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

明るさと色	画像の明るさまたは色に対して不透明度スライダーを使用して、画像処理効果を個別に調整します。 **不透明度（明るさチャンネル）**：画像の明るさに対する現在の効果の量を調整します。スライダーを左に動かすほど、画像の明るさに対する現在の効果の量が減少します。現在の画像処理を、色にのみ適用したい場合にこの操作を行います。 **不透明度（色チャンネル）**：画像の色に対する現在の効果の量を調整します。スライダーを左に動かすほど、画像の色に対する現在の効果の量が減少します。現在の画像処理を、明るさにのみ適用したい場合にこの操作を行います。

③ 描画モード

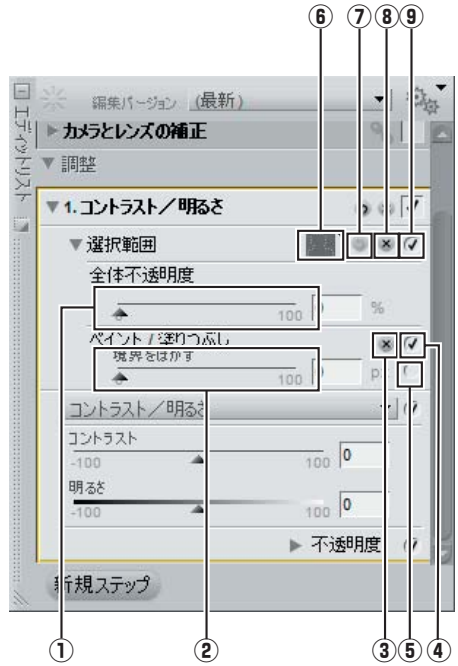
現在の画像処理によって作成された画像を、処理前の画像とどのように合成するかを設定します。これを「ブレンド」といい、画像処理に特殊効果を適用する高度な方法です。使用できる描画モードは、[**標準**]、[**比較（明）**]、[**スクリーン**]、[**オーバーレイ**]、[**乗算**]、[**比較（暗）**] です。

標準	初期設定の描画モードです。
比較（明）	元画像に対応する部分よりも明るい要素（その処理によって明るくなる部分）にのみ、画像処理が適用されます。
スクリーン	処理後の結果画像のピクセル情報を、元画像のピクセル情報まで増加します。処理後の画像は、元画像よりも必ず明るくなります。
オーバーレイ	処理後の画像のピクセル情報を、元画像のピクセル情報から加算または減算するモードです。加算または減算するかどうかは、結果となる画像の値に基づいて決定します。128を上回る値は、画像の対応する部分を明るくしますが、128を下回る値は、画像の対応する部分を暗くします。値が128の場合は、画像は変更されません。
乗算	処理後のピクセル情報を、元画像のピクセル情報から減算します。処理後の画像は、元画像よりも必ず暗くなります。
比較（暗）	元画像に対応する部分よりも暗い要素（その処理によって暗くなる部分）にのみ、画像処理が適用されます。

④［不透明度の適用］チェックボックス

現在の画像処理ステップ内の［**不透明度**］効果の有効/無効を切り換えます。不透明度を調整すると、自動的にチェックが入ります。

選択範囲表示領域



［**選択コントロールポイント**］、［**なげなわと選択ツール**］、［**選択ブラシ**］、［**選択範囲グラデーション**］、［**塗りつぶし／削除ツール**］を使用して画像処理を実行すると、選択範囲表示領域が表示されます。選択範囲表示領域の ▶ ボタンをクリックするとダイアログが表示され、現在の画像処理が反映される選択範囲表示領域を調整できます。

① 全体不透明度

選択範囲部分以外の、画像全体の処理の適用量を調節します。0%では選択範囲外の部分には処理が適用されず、100%では画像全体に処理が適用されます。この機能は、各選択範囲作成ツールのプラスツールとマイナスツールと組み合わせて使用します。全体不透明度を0%に設定して選択範囲作成ツールのプラスツールでなぞると、その部分にだけ処理を適用できます。全体不透明度を100%に設定して選択範囲作成ツールのマイナスツールでなぞると、その部分にだけ処理を適用しなくなります。この値は、使用するツールによって自動的に100%または0%に設定されます。

② 境界をぼかす

［**選択ブラシ**］、［**選択範囲グラデーション**］、［**塗りつぶし／削除ツール**］で作成した選択範囲の境界部分をなめらかにします。これにより、選択過程で生じたノイズを低減したり、選択範囲の境界部分で極端な画像処理の差を出すことなく自然になじませたりできます。スライダーを右に動かして設定値を上げるほど、ぼかしの量が多くなります。

③ 塗りつぶしを削除

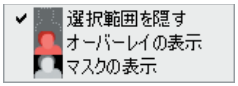
［**なげなわと選択ツール**］、［**選択ブラシ**］、［**選択範囲グラデーション**］、［**塗りつぶし／削除ツール**］で作成した選択範囲が削除されます。［**塗りつぶしを削除**］をクリックすると、選択範囲が削除されます。選択範囲表示領域は削除されず、［**全体不透明度**］が調節できます。

参照
「選択コントロールポイント」(P.188)
「なげなわと選択ツール」(P.197)
「選択ブラシ」(P.200)
「選択範囲グラデーション」(P.205)
「塗りつぶし／削除ツール」(P.209)

④［ペイント/塗りつぶし］適用チェックボックス
現在の画像処理ステップ内の［**ペイント/塗りつぶし**］効果の有効/無効を切り換えます。

⑤［境界をぼかす］適用チェックボックス
現在の画像処理ステップ内の［**境界をぼかす**］効果の有効/無効を切り換えます。［**境界をぼかす**］を調節すると、チェックが自動的に入ります。

⑥ 選択範囲の表示
現在、処理が適用されている場所をメニューで選んで表示できます。



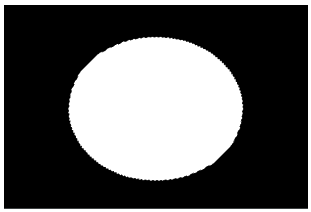
・選択範囲を隠す
　オーバーレイやマスクを表示せず、画像処理の結果が表示されます。処理を適用してから選択範囲を作成した場合の初期設定のモードです。



・オーバーレイの表示
　現在選択されている部分を半透明の単色で塗りつぶします。塗りつぶす色は［**環境設定**］で変更できます。画像処理の結果は一時的にキャンセルされます。画像を見ながら選択範囲を作成したい場合に便利です。



・マスクの表示
　処理が適用される部分が白、適用されない部分が黒で表示されます。適用される度合いによって色の濃淡が変わります。



⑦ リセットボタン
現在の画像処理を適用した最初の状態（選択範囲を作成する前の状態）に戻します。

⑧ 削除ボタン
現在の選択範囲を削除して選択範囲表示領域を非表示にします。

⑨［選択範囲表示領域］適用チェックボックス
現在の画像処理ステップ内の［**全体不透明度**］と［**境界をぼかす**］効果の有効/無効を切り換えます。チェックを外すと選択範囲が無効になり、画像処理ステップで設定している画像処理が画像全体に適用されます。

画像処理ステップを編集する

以前に行った画像処理ステップは、後からでも編集できます。画像をNEF形式で保存すると、画像処理ステップもすべて保存されているため、画像の修正が簡単にできます。編集するには、編集を加えたい［**エディットリスト**］の画像処理ステップを、ダブルクリックまたは ▶ ボタンをクリックして開きます。ステップを右クリック（Mac OSはcontrol+クリック）して表示されるメニューから［**編集**］を選択しても開けます。

MEMO 以前の画像処理ステップを編集すると、それ以降の画像処理ステップは一時的にキャンセルされます。最後の画像処理ステップをクリックすると、すべての画像処理ステップが再適用されます。［**環境設定**］で一時的にキャンセルしないようにも設定できます。

画像処理ステップを削除する

削除するステップをクリックして選択し、［**削除** × ］をクリックします。また、［**編集**］メニューから［**削除**］を選択するか、キーボードのDeleteキーを押しても削除できます。画像処理ステップを複数選んで、右クリック（Mac OSはcontrol+クリック）して表示されるメニューの［**削除**］で複数の画像処理ステップを削除できます。

画像処理ステップをコピーし貼り付ける

ある画像から選択範囲を含めて画像処理ステップをコピーして別の画像に貼り付けたり、同じ画像内で再度貼り付けたりできます。これにより、複数の画像に同じ処理を適用したり、同じ画像処理を重ねて適用したりできます。

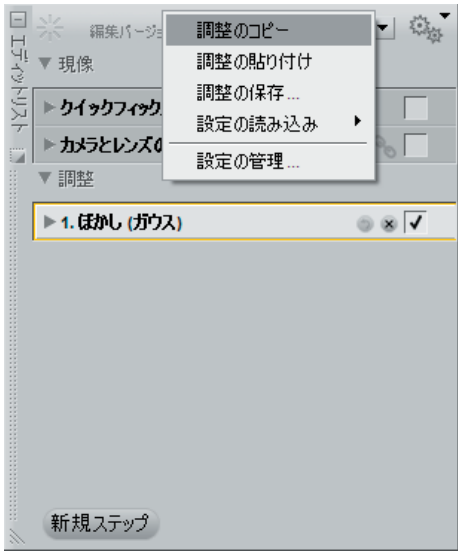
画像処理ステップをコピーして貼り付ける

1 コピーしたい画像処理ステップを選択し、［エディットリスト］の［バッチ］メニューから［調整のコピー］を選択する

画像処理ステップだけでなく、［**現像**］セクションの処理もコピーできます。

他のイメージウィンドウの画像に貼り付けるのではなく、同じイメージウィンドウの画像内に貼り付けるにはステップ3に進みます。

MEMO メニューバーにある［**バッチ**］メニューの「**調整のコピー**」からも実行できます。画像処理ステップを選んでいる状態ならば、［**編集**］メニューの［**コピー**］、［**貼り付け**］でも実行できます。



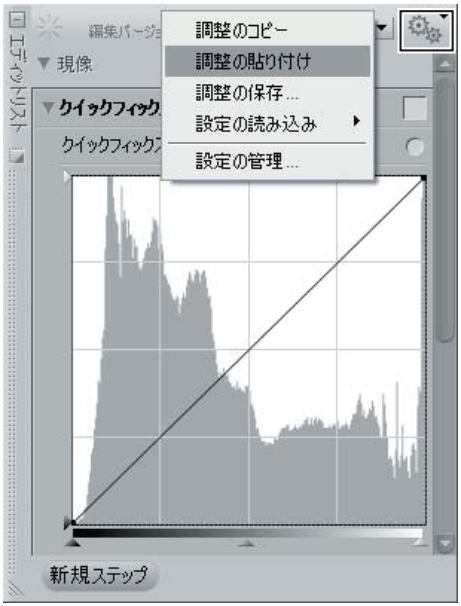
MEMO 複数のステップをコピーすることもできます。画像処理ステップを範囲でコピーしたい場合は、最初の画像処理ステップをクリックし、Shiftキーを押したまま最後の画像処理ステップをクリックします。任意の画像処理ステップを複数選択したい場合は、Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）を押しながらコピーしたい画像処理ステップをクリックします。

2 画像処理ステップを貼り付けたい画像を開く

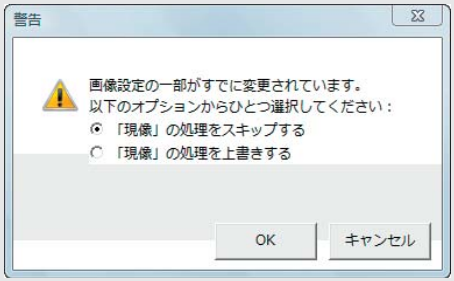
3 [エディットリスト] の [バッチ] メニューから [調整の貼り付け] を選択する

コピーした画像処理ステップは、[**エディットリスト**] の最後に貼り付けられます。

MEMO [**調整の貼り付け**] は [**ブラウザー**] で選んだ画像に対してもできます。この場合、[**待機リスト**] が表示され、[**開始**] をクリックすると画像処理ステップが貼り付けられます。



MEMO [**現像**] セクションの処理は、その性質上１つの画像ファイルに複数の処理内容は作成できません。このため、[**現像**] セクションの処理をコピーして貼り付けた場合、貼り付け先の [**現像**] セクションの処理の内容を上書きするかを確認するダイアログが表示されます。内容を上書きするには [**「現像」の処理を上書きする**] を選んで [OK] をクリックします。



画像処理ステップをリンクして１つの選択範囲内に複数の処理を適用する

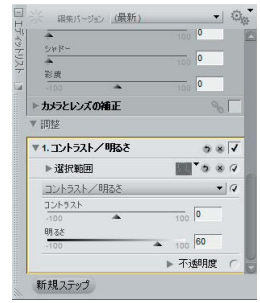
１つのステップ内に複数の画像処理を適用できます。この機能は選択範囲を作成して画像処理を行った際、選択範囲内に他の画像処理を追加する場合に便利です。作成した選択範囲は、そのステップのみ有効です。この機能を使用すれば、同じ選択範囲内に［**レベルとトーンカーブ**］と［**アンシャープマスク**］を適用することなどができます。画像処理のリンクは［**カラープロファイル**］を除くすべての［**調整**］メニューと［**フィルタ**］メニューで実行できます。
同一ステップ内にいくつでも画像処理をリンクできますが、同一ステップ内で適用する画像処理の数が多くなるほど画像処理の結果表示が遅くなる場合があります。

画像処理ステップをリンクする

1 **画像処理ステップを作成する**

ここでは選択コントロールポイントを使用して花の部分以外を選択し、［**コントラスト/明るさ**］で明るくしています。



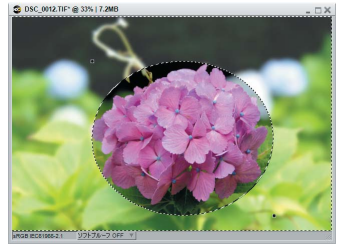


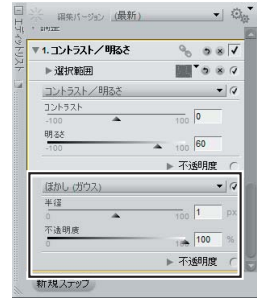
2 **リンクさせたい画像処理ステップをクリックして選ぶ**

3 **Shiftキーを押しながら［調整］メニューまたは［フィルタ］メニューから処理を選んで新規画像処理ステップを作成する**

選択した画像調整が現在の画像処理ステップにリンクされ、同じ画像処理ステップで２つの画像調整が行われます。ここでは［**ぼかし（ガウス）**］を追加しています。ステップ１で選択した部分がぼかされています。

［**エディットリスト**］の［**新規ステップ**］ボタンで画像処理ステップを作成するとリンクされません。



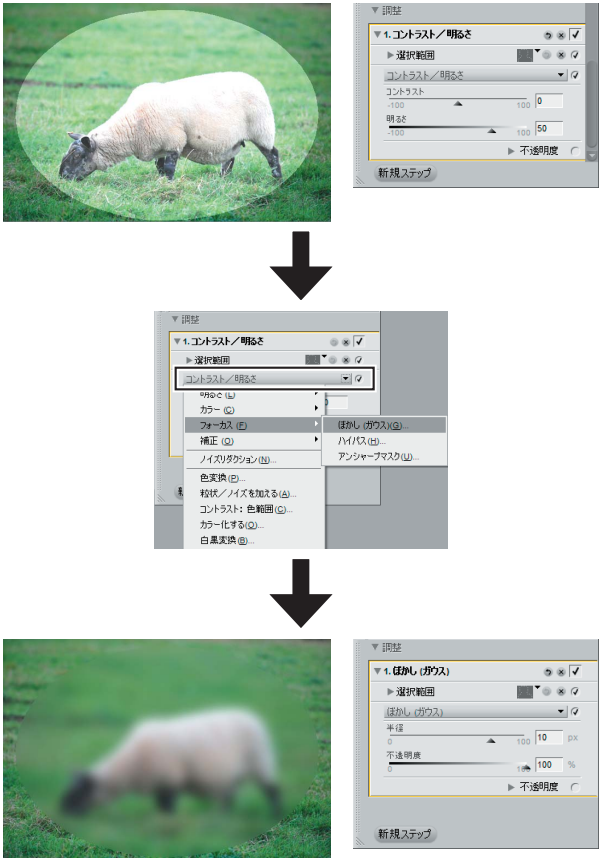


参照
「選択コントロールポイント」（P.188）
「調整メニュー」（P.275）
「フィルタメニュー」（P.275）

画像処理ステップの置き換え

［**調整**］セクションの画像処理ダイアログ内には［**調整を選択**］メニューがあり、通常は現在の処理名が表示されています。ここは［**新規ステップ**］ボタンで画像処理ステップを作成した場合以外でも、［**調整**］メニューまたは［**フィルタ**］メニューの別の項目と置き換えることができます。

この機能は、選択範囲を作成して画像処理を行った際、選択範囲を保持したまま他の画像処理を試す場合に便利です。たとえば「［**レベルとトーンカーブ**］で調整した画像を、［**カラーバランス**］で調整したら選択範囲内はどのような結果になるか」などを試せます。



上の図は［**コントラスト／明るさ**］を［**ぼかし（ガウス）**］に置き換えた場合です。

RAW画像の現像処理をする

Capture NX 2では、RAW形式で撮影した画像を調整し、現像処理をする機能があります。

RAW画像のメリット P.90
[現像] セクション P.92
ホワイトバランスを調整する P.94
ピクチャーコントロールを設定する P.97
ピクチャーコントロールを使用していない画像を調整する P.104
画像のノイズを低減する P.106
白とびや黒つぶれを軽減する P.107
色モアレを軽減する P.108
ゴミやホコリの写り込みを軽減する P.109
色ずれを軽減する P.111
赤目現象を自動的に補正する P.112
レンズによる画像周辺部の明るさの低下を調整する P.113
フィッシュアイレンズで撮影した画像を広角レンズで撮影したように変換する ... P.114

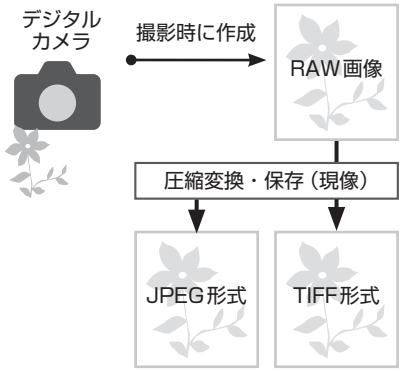
RAW画像のメリット

RAW画像を使用すると、他の形式で保存された画像を扱うのに比べ、さまざまなメリットがあります。Capture NX 2ではRAW画像の情報を利用して、独自の調整方法で現像処理をします。

RAW画像とは

RAWとは、直訳すれば「生の」という意味で、RAW画像は「撮像素子から得られる生データ」のことです。

デジタルカメラで撮影する場合、カメラはまず、RAW画像を生成し、カメラの各種設定値を反映して現像処理をすることでカラーデータを作成します。そして、カラーデータに対して、JPEG形式やTIFF形式に変換して、メモリーカードに画像として記録します。このようにRAW画像とは、現像処理を行う前の「撮像素子から得られる生データ」の状態で記録されたものを指します。



RAW画像とTIFF、JPEG形式との違い

デジタルカメラでTIFF形式やJPEG形式にして撮影する場合、カメラ本体でカラーデータを作成し、画像として完成した状態でメモリーカードに記録します。そのため、例えば、カメラで設定していたホワイトバランスが、撮影時の光源と合っていなかった場合、色かぶりした状態になってしまいます。ソフトウェアを使用して色かぶりを取り除くことは、なかなか容易ではありません。

RAW画像は、「撮像素子から得られる生データ」の状態で記録されているため、カメラの各種設定値を反映する現像処理はソフトウェアで行います。

そのため上記のような場合でも、Capture NX 2に搭載されているRAW画像特有の調整機能を使用することにより、誰でも簡単に色かぶりを取り除くことができます。

つまり、RAW画像であれば、ホワイトバランスやコントラストなどのカメラの各種設定値を簡単に変更することができるので、これらの設定をあまり気にすることなく、撮影に専念できます。

RAW画像の持つ階調

デジタルカメラでTIFF形式やJPEG形式にして撮影した画像は、8bit（各色：256階調）で記録します。

一方、RAW画像は、カメラの機種によって異なりますが、12bit（各色：4096階調）や14bit（各色：16384階調）で記録することができます。

そのため画像調整をする場合、RAW画像の方が階調の幅が広い分、TIFF形式やJPEG形式よりも画像調整によって生じる画像劣化を抑えられます。

RAW画像を現像するには

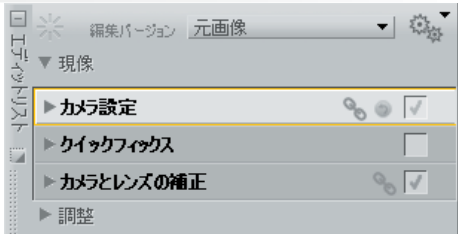
Capture NX 2で処理をした画像を他のアプリケーションで見られるようにする（現像する）には、メニューバーにある［**ファイル**］メニューの［**名前を付けて保存**］を選び、TIFF形式またはJPEG形式で画像を保存します。

参照 「名前を付けて保存」（P.213）

[現像] セクション

Capture NX 2でRAW画像を調整する場合、主に［**エディットリスト**］にある［**現像**］セクションを使用します。

[現像] セクション



［**現像**］セクションには、以下の3つの項目があります。それぞれを使用するには、▶ ボタンをクリックするか、ダブルクリックして内容を表示します。

- カメラ設定
- クイックフィックス
- カメラとレンズの補正

［**カメラ設定**］はRAW画像でのみ使用できます。［**カメラとレンズの補正**］には、RAW画像でのみ使用できる処理が多く含まれています。［**クイックフィックス**］はすべての形式で使用できます。

MEMO ［現像］セクションの処理は、常に画像全体に適用されます。

■ カメラ設定 RAW

［**ピクチャーコントロール**］や［**ホワイトバランス**］の調整などができます。

ホワイトバランス	カメラで設定した画像のホワイトバランスを調整できます。 参照 「ホワイトバランス」(P.94)
ピクチャーコントロール	［**ピクチャーコントロール不使用**］または［**ピクチャーコントロール**］が選べます。
ピクチャーコントロール不使用	カラー設定が可能なカメラの画像を処理する場合に使用します。ピクチャーコントロールシステム対応のカメラで撮影した画像は選べません。 参照 「ピクチャーコントロール不使用」(P.104)
ピクチャーコントロール	ピクチャーコントロールシステムを適用する場合に使用します。COOLPIXで撮影されたRAW画像以外のすべてのRAW画像で選べます。 参照 「ピクチャーコントロール」(P.97)

ノイズリダクション	画像のノイズを低減できます。 参照 「ノイズリダクション」(P.106)
アクティブD-ライティング(アクティブD-ライティングを[しない]以外に設定して撮影した画像のみ)	画像の明るい部分(ハイライト)の白とびや暗い部分(シャドー)の黒つぶれを軽減できます。 参照 「アクティブD-ライティング」(P.107)

■ クイックフィックス RAW TIFF JPEG

[トーンカーブ]や[コントラスト]など、よく使用する画像調整がまとめられています。

参照 「クイックフィックス」(P.116)

■ カメラとレンズの補正 RAW TIFF JPEG

画像の色ずれやゴミなどを補正できます。

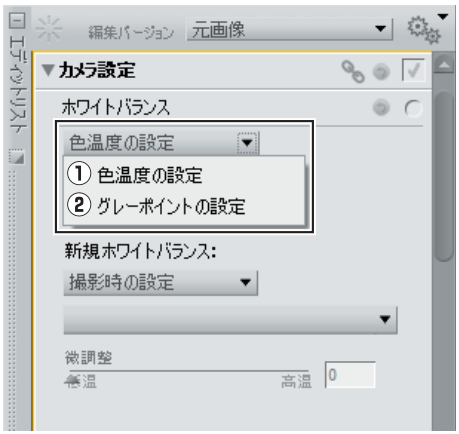
色モアレリダクション RAW(D-SLRのみ)	画像の色モアレを軽減します。 参照 「色モアレリダクション」(P.108)
イメージダストオフ RAW(D-SLRのみ)	カメラの撮像素子表面にあるローパスフィルターに付着したゴミなどの写り込みを軽減できます。 参照 「イメージダストオフ」(P.109)
自動色収差補正(D-SLRのみ)	画像の色ずれを軽減します。 参照 「自動色収差補正」(P.111)
自動赤目補正 RAW TIFF JPEG	赤目現象を自動的に補正します。 参照 「自動赤目補正」(P.112)
ヴィネットコントロール RAW TIFF JPEG(D-SLRのみ)	レンズによる画像周辺部分の明るさの低減を軽減します。 参照 「ヴィネットコントロール」(P.113)
フィッシュアイレンズ RAW TIFF JPEG(対応レンズで撮影した画像のみ)	フィッシュアイレンズで撮影した画像を、通常の広角レンズで撮影したように変換できます。 参照 「フィッシュアイレンズ」(P.114)

ホワイトバランスを調整する

[**エディットリスト**] にある [**カメラ設定**] の [**ホワイトバランス**] でカメラで設定したホワイトバランスを調整できます。

ホワイトバランス RAW

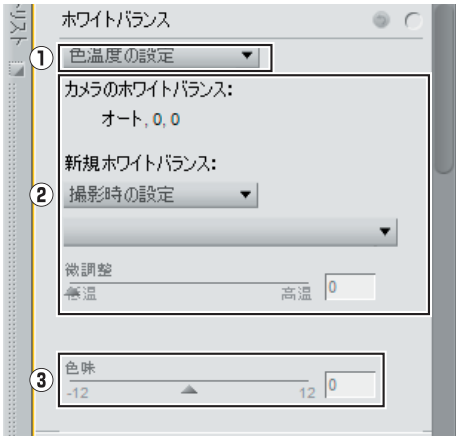
[**ホワイトバランス**] では、[**色温度の設定**] モードか [**グレーポイントの設定**] モードを選びます。



① **色温度の設定**	このモードでは、色温度を調整します。
② **グレーポイントの設定**	画像の中から指定したニュートラルグレーの部分をホワイトバランスの基準とするか、画像の一部分の平均を取ってそこからホワイトバランスを計算するかを選べます。

■ 色温度の設定モード

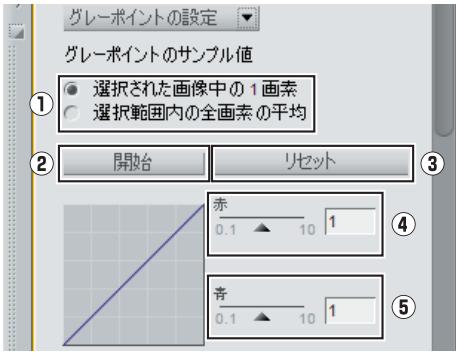
色温度を調整します。



<table>
<tr><td>① カメラのホワイトバランス</td><td>撮影時のカメラで設定されたホワイトバランスを表示します。</td></tr>
<tr><td>② 新規ホワイトバランス</td><td>メニューから適用するホワイトバランスを選びます。選んだホワイトバランスにサブメニューがある場合、その下のメニューが選べるようになります。
<table>
<tr><td>グレーポイントを使用</td><td>グレーポイントの設定モードで設定された値が反映されます。</td></tr>
<tr><td>撮影時の設定</td><td>撮影時の設定に戻します。</td></tr>
<tr><td>自動調整
(D-SLRのみ)</td><td>ホワイトバランスを自動的に調整します。</td></tr>
<tr><td>電球</td><td>白熱電球またはタングステン灯下で撮影した場合に選びます。</td></tr>
<tr><td>自然光</td><td>太陽光で撮影した場合に選びます。
晴天：晴天の屋外で撮影した場合に選びます。
曇天：曇天の屋外で撮影した場合に選びます。
晴天日陰：晴天の屋外の日陰で撮影した場合に選びます。</td></tr>
<tr><td>蛍光灯</td><td>標準の蛍光灯下で撮影した場合に選びます。どの種類の蛍光灯が使用されていたか不明の場合は、画像が自然に見えるまで試してください。サブメニューでは、もっとも一般的に使用されている蛍光ランプの色温度から選べます。</td></tr>
<tr><td>高演色蛍光灯</td><td>高演色蛍光灯下で撮影した場合に選びます。どの種類の蛍光灯が使用されていたか不明の場合は、画像が自然に見えるまで試してください。サブメニューでは、もっとも一般的に使用されている蛍光ランプの色温度から選べます。</td></tr>
<tr><td>フラッシュ</td><td>ニコン製スピードライトや内蔵フラッシュを使用して撮影した場合に選びます。スピードライトにフィルターを装着して撮影した場合、サブメニューからフィルターの種類を選びます。
FL-G1/FL-G2：蛍光灯用フィルター（FL-G1/FL-G2）を装着して撮影した画像を開いた場合に選びます。
TN-A1/TN-A2：電球用フィルター（TN-A1/TN-A2）を装着して撮影した画像を開いた場合に選びます。</td></tr>
<tr><td>ナトリウム
灯混合光</td><td>野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光下で撮影した場合に選びます。</td></tr>
</table>
また、［グレーポイントを使用］、［撮影時の設定］以外の項目では、微調整スライダーを使用して、色温度を±50ミレッドの範囲で調整できます。</td></tr>
<tr><td>③ 色味</td><td>［グレーポイントを使用］、［撮影時の設定］以外の項目では、画像の緑色またはマゼンタ色を取り除けます。スライダーを左に動かすと緑色が弱まり（マゼンタ色が強くなり）、右に動かすとマゼンタ色が弱まり（緑色が強まり）ます。</td></tr>
</table>

■ グレーポイントの設定モード

画像の中から指定したニュートラルグレーの部分をホワイトバランスの基準とするか、画像の一部分の平均を取ってそこからホワイトバランスを計算するかを選べます。



① **グレーポイントのサンプル値**	[**選択された画像中の1画素**] または [**選択範囲内の全画素の平均**] から選びます。 **選択された画像中の1画素**：ホワイトバランス設定の基準としてニュートラルグレーの1画素（ピクセル）を指定できます。 **選択範囲内の全画素の平均**：ホワイトバランス設定の基準としてCapture NX 2が使用する選択範囲を指定できます。画像の範囲をドラッグすると、その範囲の平均値がサンプル値となり、ホワイトバランスが画像に適用されます。
② **開始**	マウスポインタがスポイトの形になり、イメージウィンドウ内をクリックして [**グレーポイントのサンプル値**] を取得できます。
③ **リセット**	グレーポイントの設定を初期設定に戻します。
④ **赤スライダー**	画像のホワイトバランスをシアンから赤にシフトさせ、赤チャンネルのゲインを調整します。
⑤ **青スライダー**	青スライダーで画像のホワイトバランスをイエローから青にシフトさせ、青チャンネルのゲインを調整します。

MEMO ゲイン値をあまり大きくし過ぎたり、または小さくし過ぎたりすると画質の劣化を招くおそれがあります。

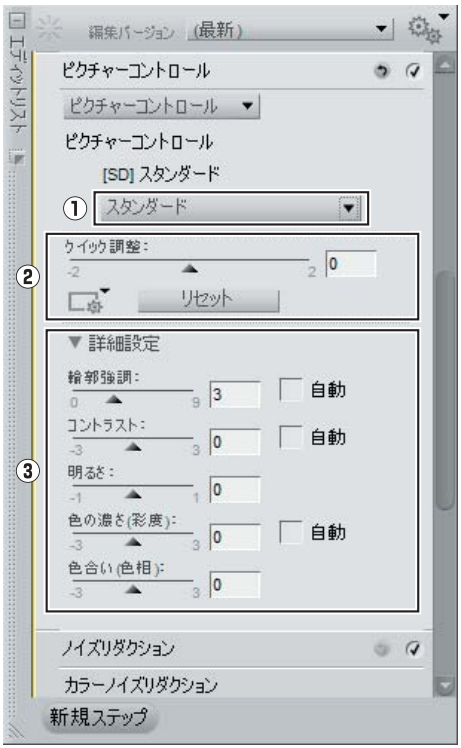
ピクチャーコントロールを設定する

「ピクチャーコントロール（Picture Control）システム」は、対応するカメラもしくはソフトウェアで使用できるニコンの画作り設定システムで、初心者からプロフェッショナルまで、ユーザーの好みに合わせて写真の仕上がりを柔軟に設定できます。

ピクチャーコントロール RAW (D-SLRのみ)

ニコンデジタル一眼レフカメラで撮影したRAWデータに、Capture NX 2で［**ピクチャーコントロール**］を同一の設定で適用すれば、ほぼ同じ仕上がりの画像を得られます。

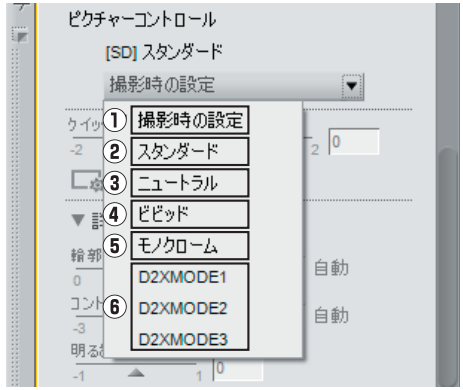
好みに合わせて調整したピクチャーコントロールは、［**カスタムピクチャーコントロール**］として登録できます。［**カスタムピクチャーコントロール**］は、任意に名前を付けたり、後から編集したりすることもできます。また、［**カスタムピクチャーコントロール**］メニューにあるピクチャーコントロールユーティリティー（Picture Control Utility）を使って登録した［**カスタムピクチャーコントロール**］をカメラに登録することもできます。同一の［**ピクチャーコントロール**］を同一の設定で選べば、どの対応カメラで撮影しても、輪郭強調、コントラスト、明るさ、色の濃さ（彩度）、色合い（色相）などがほぼ同じ仕上がりの画像を得られます。



名 称	説 明	参照
① **ピクチャーコントロール**	ピクチャーコントロールの設定をメニューから選びます。	P.98
② **クイック調整**	各項目のレベルを自動的に調整します。	P.99
③ **詳細設定**	輪郭強調、コントラスト、明るさ、色の濃さ、色合いなどを個別に調整します。	P.100

■ ピクチャーコントロール

ピクチャーコントロールの設定をメニューから選びます。



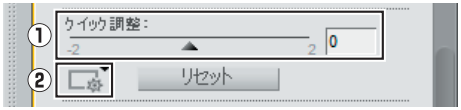
① 撮影時の設定	撮影時の設定を使用します。ピクチャーコントロールに対応している機種でのみ使用できます。
② スタンダード	鮮やかでバランスのとれた標準的な画像になります。
③ ニュートラル	素材性を重視した、自然な画像になります。
④ ビビッド	メリハリがあり、生き生きとした色鮮やかな画像になります。
⑤ モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
⑥ D2XMODE1 D2XMODE2 D2XMODE3	D2XまたはD2XSの［**カラー設定**］の各カラーモードに対応した、3種類の「オプションピクチャーコントロール」のセットです。D2X またはD2XSとほぼ同じ色再現を適用できます。

MEMO

「オプションピクチャーコントロール」は、ニコンのホームページからダウンロードできるピクチャーコントロールです。撮影時にカメラで設定したオプションピクチャーコントロールを使用する場合は、撮影時に設定したオプションピクチャーコントロールをパソコンにインストールする必要があります。インストールされていない場合、Capture NX 2で画像を開くと、［**スタンダード**］が適用される旨のダイアログが表示されます。［**OK**］をクリックして画像を開いてください。

■ クイック調整

各項目のレベルを自動的に調整します。



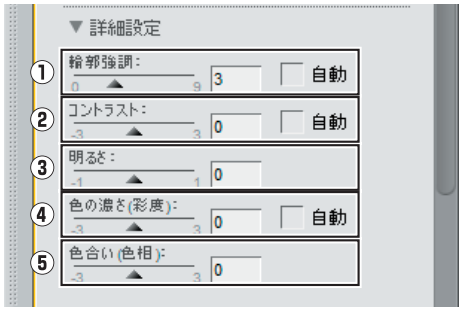
① **クイック調整スライダー**	輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。[**－2**] ～ [**＋2**] まで5段階の調整ができます。－側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を弱めた画像になり、＋側にすると強調した画像になります。たとえば [**ビビッド**] を選んで＋側にクイック調整すると、色鮮やかさを強調します。個別調整した後にクイック調整を行うと、個別調整で設定した値は無効になります。[**リセット**] をクリックすると、初期設定の値に戻ります。 MEMO クイック調整は [**ニュートラル**] と [**モノクローム**] または [**カスタムピクチャーコントロール**] では使用できません。
② **カスタムピクチャーコントロールメニュー**	カスタマイズしたピクチャーコントロールを保存したり、ピクチャーコントロールユーティリティを起動したりできます。ピクチャーコントロールユーティリティを起動すると、保存したピクチャーコントロールをメモリーカードに書き込んだり、読み込んだりすることができます。

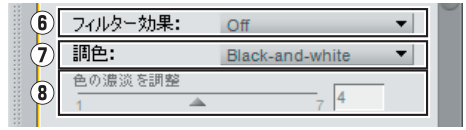
ピクチャーコントロールを現在の設定で登録	現在のピクチャーコントロールの値を、新規カスタムピクチャーコントロールとして登録できます。登録したカスタムピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールリストに追加されます。カスタムピクチャーコントロールで [**クイック調整**] はできません。
カスタムピクチャーコントロールの設定を読み込み	メモリーカード上のカスタムピクチャーコントロールを読み込めます。読み込んだカスタムピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールリストに追加されます。カスタムピクチャーコントロールで [**クイック調整**] はできません。
Picture Control Utility を起動	ピクチャーコントロールユーティリティを起動できます。ピクチャーコントロールユーティリティは、カスタムピクチャーコントロールの作成や編集、削除、読み込み、書き込みなどができます。

参照 「ピクチャーコントロールを管理する」(P.262)

■ 詳細設定

輪郭強調、コントラスト、明るさ、色の濃さ、色合いを個別に調整します。[**詳細設定**] を行うには、▶ ボタンをクリックします。





① 輪郭強調	画像の輪郭強調の強さを調整します。スライダーを左方向（−側）に動かすと輪郭強調の強さが弱まり、右方向（＋側）に動かすと強まります。[**自動**] にチェックを入れると、Capture NX 2が最適な値を判断して自動的に設定します。この場合、スライダーは使用できません。
② コントラスト	画像のコントラストを調整します。スライダーを左方向（−側）に動かすとコントラストが弱まり、右方向（＋側）に動かすと強まります。[**自動**] にチェックを入れると、Capture NX 2が画像の最適なコントラストを判断して自動的に設定します。この場合、スライダーは使用できません。
③ 明るさ	画像の明るさを調整します。スライダーを左方向（−側）に動かすと暗くなり、右方向（＋側）に動かすと明るくなります。 MEMO [**コントラスト**] と [**明るさ**] はカスタムトーンカーブを設定したカスタムピクチャーコントロールを適用している場合や、[**アクティブD-ライティング**] を適用している場合は選べません。
④ 色の濃さ（彩度）	画像の彩度を調整します。スライダーを左方向（−側）に動かすと彩度がが弱まり、右方向（＋側）に動かすと強まります。[**自動**] にチェックを入れると、Capture NX 2が画像の最適な彩度を判断して自動的に設定します。スライダーは使用できません。[**モノクローム**] や、[**モノクローム**] を元にしたカスタムピクチャーコントロールの場合、表示されません。
⑤ 色合い（色相）	画像の明るさまたは彩度設定に影響を与えずに、画像全体の色合い（色相）を調整できます。肌色を基準にした場合、スライダーを左方向（−側）に動かすと赤味が増し、右方向（＋側）に動かすと黄色味が増します。[**モノクローム**] や、[**モノクローム**] を元にしたカスタムピクチャーコントロールの場合、表示されません。

⑥ フィルター効果（モノクロームとモノクロームを元にしたカスタムピクチャーコントロールのみ）

白黒写真の撮影時に使用する色つきフィルターと同様の機能です。使用するフィルターの色に応じて、画像内の被写体の色関係が変化します。

Off	初期設定の白黒画像に変換します。
Yellow	カメラレンズに黄色のフィルターを装着して撮影したような画像にします。画像内の黄色の被写体は明るくなり、青色の被写体は暗くなります。明るめの肌色のコントラストを最適化したい場合などに効果的です。
Orange	カメラレンズにオレンジ色のフィルターを装着して撮影したような画像にします。画像内のオレンジ色の被写体は明るくなり、青色や紫色の被写体は暗くなります。青空が広がる風景写真のコントラストを最適化したい場合などに効果的です。
Red	カメラレンズに赤色のフィルターを装着して撮影したような画像にします。画像内の赤色の被写体は明るくなり、シアン色の被写体は暗くなります。晴天下で撮影した写真のコントラストをよりくっきりさせたい場合などに効果的です。
Green	カメラレンズに緑色のフィルターを装着して撮影したような画像にします。画像内の緑色の被写体は明るくなり、マゼンタ色の被写体は暗くなります。葉の色を明るくしたい場合や、肌や唇の色を抑えたい場合などに効果的です。

⑦ 調色（モノクロームとモノクロームを元にしたカスタムピクチャーコントロールのみ）

印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。

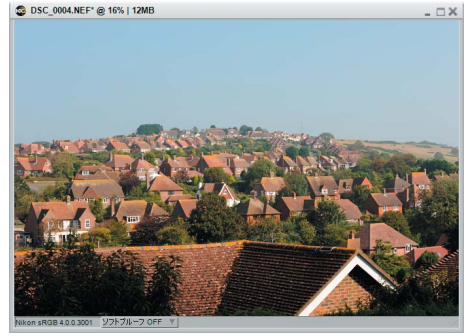
Black-and-white	色味や調色を加えていない白黒画像になります。
Sepia	セピア色の画像になります。
Cyanotype	従来の青写真法で加工したような画像を作成します。特徴的な青味がかかっています
Red	赤色味が加わります。
Yellow	黄色味が加わります。
Green	緑色味が加わります。
Blue Green	青緑色味が加わります。
Blue	シアン色味が加わります。
Purple Blue	青紫色味が加わります。
Red Purple	マゼンタ色味が加わります。

⑧ 色の濃淡を調整（モノクロームとモノクロームを元にしたカスタムピクチャーコントロールのみ）

調色機能で選ばれた調色効果（[**Black-and-White**] 以外）や、色の濃淡を調整できます。スライダーを左方向に動かすと調色効果が薄くなり、右方向に動かすと強く鮮明になります。

ピクチャーコントロールを使用する

1 RAW画像を開く



MEMO TIFF形式、JPEG形式またはそれらを変換したNEF形式の画像を開いた場合、［**エディットリスト**］に［**ピクチャーコントロール**］は表示されません。

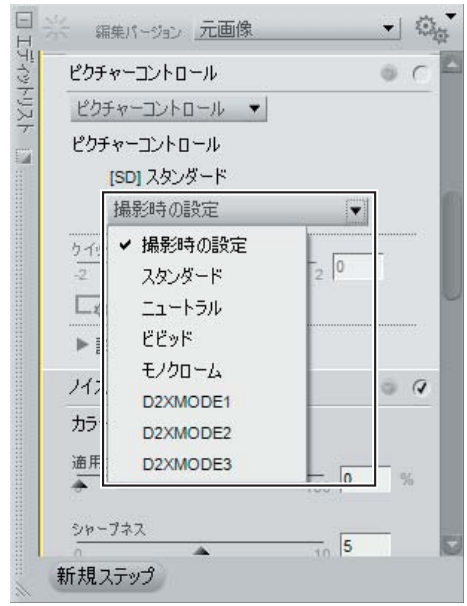
2 ▶ ボタンをクリックして［エディットリスト］にある［カメラ設定］の［ピクチャーコントロール］を選ぶ



MEMO COOLPIXの画像は［**ピクチャーコントロール**］を選べません。

3 メニューからピクチャーコントロールを選ぶ

適用したいピクチャーコントロールを選びます。

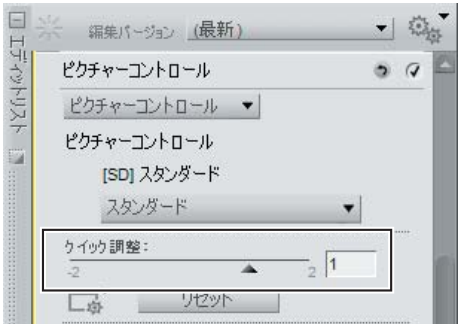


MEMO カスタムピクチャーコントロールを選びたい場合は、［**カスタムピクチャーコントロールメニュー**］の［**ピクチャーコントロールを現在の設定で登録**］で登録するか、［**カスタムピクチャーコントロールの設定を読み込み**］で読み込めば、［**ピクチャーコントロール**］メニューに追加されます。

4 [クイック調整] を適用して自動的に調整する

MEMO

[**ニュートラル**]、[**モノクローム**]、[**カスタムピクチャーコントロール**] を使用した場合、[**クイック調整**] は使用できません。



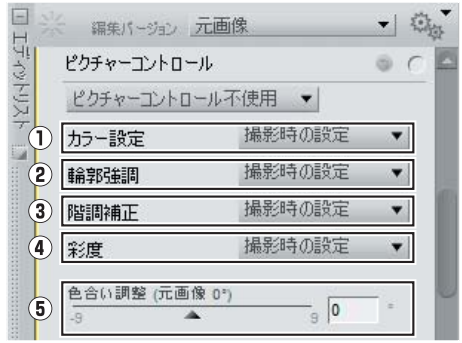
5 必要に応じて [詳細設定] で細かい調整をする

ピクチャーコントロールを使用していない画像を調整する

ピクチャーコントロールシステム非対応カメラで撮影されたRAW画像を開くと、[**エディットリスト**] にある [**カメラ設定**] の [**ピクチャーコントロール**] が [**ピクチャーコントロール不使用**] になっています。

ピクチャーコントロール不使用 RAW

[**ピクチャーコントロール不使用**] には、以下の調整項目があります。



① **カラー設定** **(D-SLRのみ)**	画像の色再現を変更できます。フィルムカメラでは好みの色調に応じてフィルムを選択しますが、カラーモードの選択により色相、彩度、色域を特徴づけることができます。メニューから [**撮影時の設定**]、[**モードⅠ**]、[**モードⅡ**]、[**モードⅢ**]、[**モードⅠa**]、[**モードⅢa**]、[**白黒**] などから選択します。 ・**モードⅠ**：画像調整などを行わなくても肌の色合いやグラデーションを自然で階調豊かに再現します。 ・**モードⅡ**：素材性を重視した色再現です。撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に最適です。 ・**モードⅢ**：風景撮影に適したモードです。画像調整などを行わなくても緑や青空などの色をあざやかに再現します。モードⅠに比べ、やや硬調の画像に再現します。 ・**モードⅠa**：画像調整などを行わなくても肌の色合いやグラデーションを自然で階調豊かに再現します。モードⅠに比べてよりあざやかに再現します。 ・**モードⅢa**：風景撮影に適したモードです。画像調整などを行わなくても緑や青空などの色をあざやかに再現します。モードⅢに比べてよりあざやかに再現します。
② **輪郭強調**	撮影シーンや好みに応じて、画像の輪郭（シャープネス）の変更が可能です。輪郭（シャープネス）を強調する度合いを意図的に調整できます。D1で撮影した画像の場合は、撮影時の輪郭強調設定がファイルに記録されないため、[撮影時の設定] を選択した場合は [しない] と同様になります。
③ **階調補正**	画像のコントラストを変更できます。[**撮影時の設定**] を選ぶと、カメラで設定したコントラストのままとなります。[**ユーザーカスタム**] を選ぶと、ユーザーが作成したカーブにコントラストを設定します。[**ユーザーカスタム**] は別売のCamera Control Pro またはCamera Control Pro 2でニコン製一眼レフデジタルカメラを使用したときのみ可能です。D1で撮影した画像の場合、ユーザーカスタムは画像ファイルに記録されないため、[**ユーザーカスタム**] を選択すると [標準] と同じ設定になります。

④ 彩度	画像のあざやかさを設定できます。[**撮影時の設定**] を選ぶと、カメラで設定した彩度のままとなります。
⑤ 色合い調整	画像に対して色相の調整が可能です。数値は－9°～9°（1ステップ3°）の7段階で0°が初期設定です。肌色を基準とした場合、＋側に数値を高くすると黄色みが増し、－側に数値を低くすると赤みが増します。他の色の場合、調節の度合いにより多少変化することがあります。この処理は0°が設定されているときは実行されません（D1X、D1Hの場合、「－9°」が「0」に、「0°」が「3」に、「9°」が「6」に相当します）

MEMO

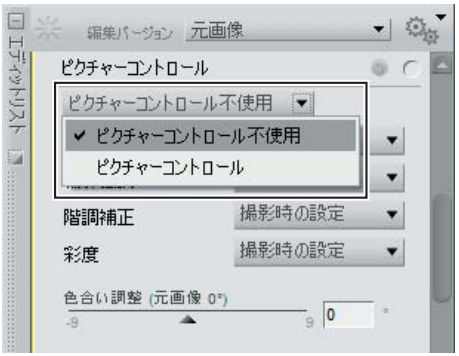
- 各調整項目のメニューには、カメラで設定していた項目に「*」マークが表示されます。調整後の画像を撮影時の状態に戻したい時は、各調整項目のポップアップメニュー内で［**撮影時の設定**］もしくは「*」マークが付いている項目を選びます。ただし、［撮影時の設定］以外の項目が選ばれた場合、Capture NX 2が改めて画像調整を行います。そのため、撮影時のカメラ側の設定と同じ項目を選んでも、結果が同じにならないことがあります。
- COOLPIX シリーズで撮影したRAW 画像の場合、［輪郭強調］、［階調補正］を変更すると、メッセージが表示される場合があります。この場合は、［表示の更新］ボタンをクリックすると、画像調整が行われます。

［ピクチャーコントロール不使用］を使用する

1 ▶ ボタンをクリックして［エディットリスト］にある［カメラ設定］の［ピクチャーコントロール］で［ピクチャーコントロール不使用］を選ぶ

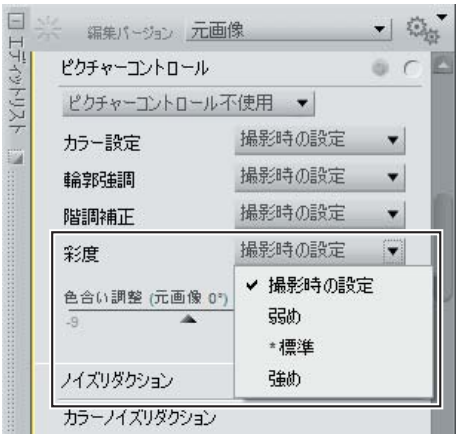
MEMO

［**ピクチャーコントロール不使用**］は、ピクチャーコントロールシステム対応のカメラで撮影されたRAW画像の場合は選べません。



2 各メニューを選ぶ

画像全体に設定が適用されます。選択範囲を作成して一部に処理を適用させることはできません。



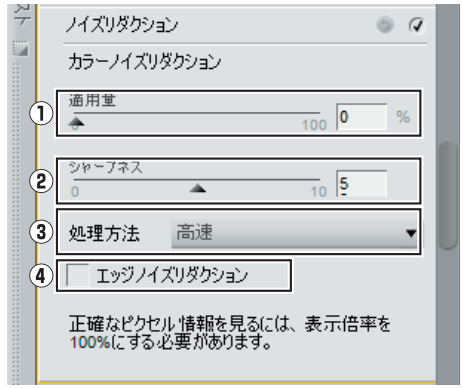
画像のノイズを低減する

［**エディットリスト**］にある［**カメラ設定**］の［**ノイズリダクション**］を使用すると、画像のノイズを低減できます。

ノイズリダクション RAW

高感度で撮影したときに発生するノイズを低減します。ノイズリダクションの量を正確に判断する場合は、拡大率100%で見ることをおすすめします。

参照 「ノイズリダクション」(P.170)



① **適用量**	スライダーを右に移動して値を上げると、画像全体のざらつき感が低減され、なめらかな状態になります。［**適用量**］を上げすぎるとなめらかになりすぎて解像度が低いような画像になります。
② **シャープネス**	スライダーを右に動かして［**シャープネス**］の数値を上げると質感を高められます。
③ **処理方法**	［**高速**］または［**高画質**］から選択します。［**高画質**］の場合、［**高速**］よりも処理時間はかかりますが、精度の高い処理を実行します。
④ **エッジノイズリダクション**	チェックを入れると、境界部に生じるノイズを低減したり、エッジ部分の輪郭をより鮮明にできます。

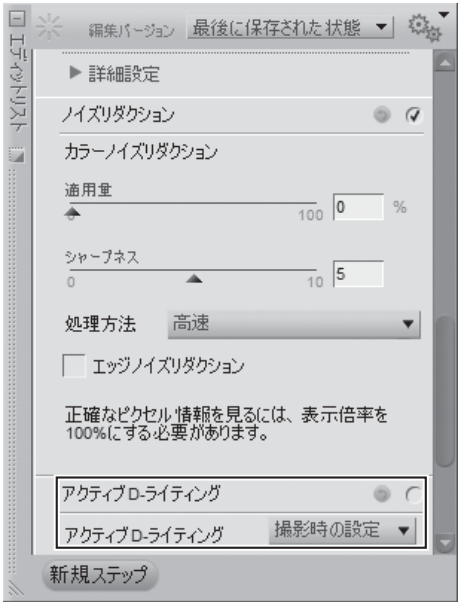
白とびや黒つぶれを軽減する

［**エディットリスト**］にある［**カメラ設定**］の［**アクティブD-ライティング**］を使用すると、画像の明るい部分（ハイライト）の白とびや暗い部分（シャドー）の黒つぶれを軽減できます。

アクティブD-ライティング RAW （D-SLRのみ）

［**アクティブD-ライティング**］は、撮影メニューで［**アクティブD-ライティング**］を［**OFF**］以外に設定しているカメラで撮影されたRAW 画像にのみ有効です。［**アクティブD-ライティング**］を使用すると、画像の明るい部分（ハイライト）の白とびや暗い部分（シャドー）の黒つぶれを軽減する効果が得られます。カメラの撮影メニューでアクティブD-ライティングを設定しておくと、ハイライトの白とびを防ぐために露出をアンダー側に制御した状態で撮影されます。その画像をCapture NX 2の［**アクティブD- ライティング**］で加工すると、シャドーを補正して画像全体の色調を適切なレベルに調整します。これにより、実際の見た目のコントラストに近い状態に画像を仕上げられます。

メニューを選んで［**アクティブD-ライティング**］を適用します。



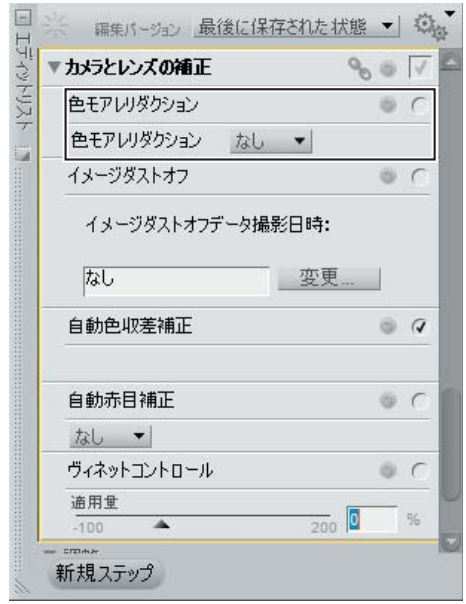
MEMO カメラ側で行うアクティブD-ライティングは、条件により露出をアンダー側に制御した状態で撮影を行います。Capture NX 2でアクティブD-ライティングの設定を変更した場合、設定条件に応じた露出制御は反映されないため、実際にカメラで設定し撮影した結果とは異なる場合があります。また［**しない**］に変更した場合、画像が暗くなることがあります。

色モアレを軽減する

[**エディットリスト**] にある [**カメラとレンズの補正**] の [**色モアレリダクション**] を使用すると、画像の色モアレを軽減できます。

色モアレリダクション RAW (D-SLRのみ)

規則的な重複パターンによる色干渉を「**色モアレ**」と呼びます。メニューを選んで [**色モアレリダクション**] を適用します。[**高**] がもっとも強く効果を適用します。色モアレリダクションの効果を正確に判断する場合は、拡大率100%で見ることをおすすめします。

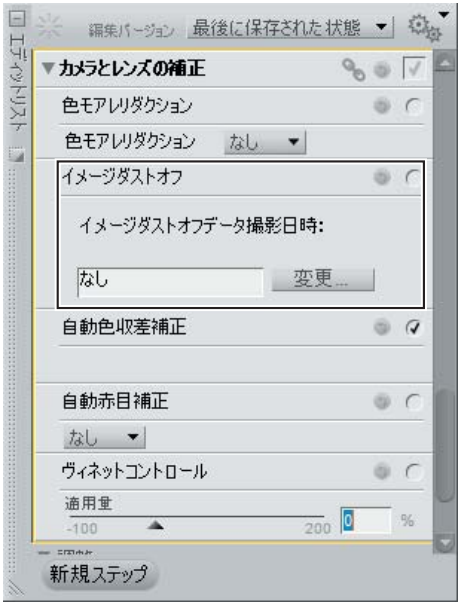


ゴミやホコリの写り込みを軽減する

［**エディットリスト**］にある［**カメラとレンズの補正**］の［**イメージダストオフ**］を使用すると、カメラの撮像素子表面にあるローパスフィルターに付着したゴミやホコリの写り込みを軽減できます。

イメージダストオフ RAW（CPUレンズを装着したD-SLRのみ）

カメラで取得したイメージダストオフ用のデータを、ローパスフィルター上にあるゴミの位置を参照画像（イメージダストオフデータ）として登録できます。登録後に撮影した画像は、この参照画像と比較され、画像にあるゴミを低減することができます。参照画像はカメラで取得します。詳しい説明はカメラの使用説明書を参照してください。



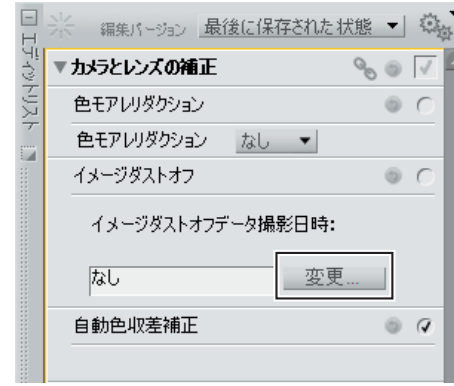
MEMO

- ローパスフィルターについたゴミの量と位置は変わる場合があります。処理を行う場合は、その画像が撮影された1日以内に作成した参照画像の使用をおすすめします。
- ［**イメージセンサークリーニング**］機能があるカメラの場合、イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致しなくなるため、［**イメージダストオフ**］を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、カメラで［**イメージセンサークリーニング後 開始**］を選択後に撮影することをおすすめします。

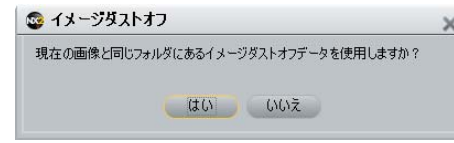
参照 「イメージダストオフデータの取得方法」（P.290）

イメージダストオフを使って画像内のゴミを軽減する

1 **［エディットリスト］にある［カメラとレンズの補正］の［イメージダストオフ］の欄で［変更］をクリックする**



2 **現在のフォルダ内にイメージダストオフ参照画像（イメージダストオフデータ）がある場合、その参照画像をイメージダストオフ処理に使用するかを尋ねるメッセージが表示されるので［はい］または［いいえ］をクリックする**

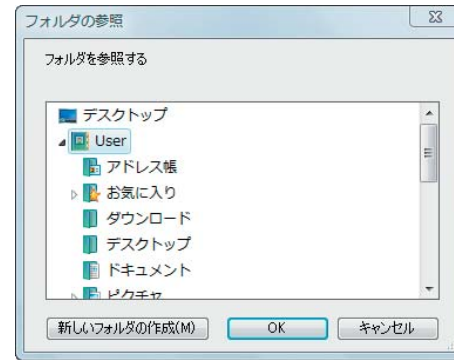


［**はい**］を選んだ場合は、その参照画像が使用され、処理は終了です。

［**いいえ**］を選んだ場合、または現在のフォルダ内にイメージダストオフ参照画像がない場合は次のステップに進んでください。

3 **検索ウィンドウでイメージダストオフ参照画像が入ったフォルダを指定する**

同じフォルダ内に複数のイメージダストオフ参照画像がある場合、使用する参照画像を選択するダイアログが表示されます。できるだけ現在の画像の撮影時間に近い参照画像を選ぶことをおすすめします。



4 **イメージダストオフ参照画像を選択したら、［OK］をクリックする**

MEMO

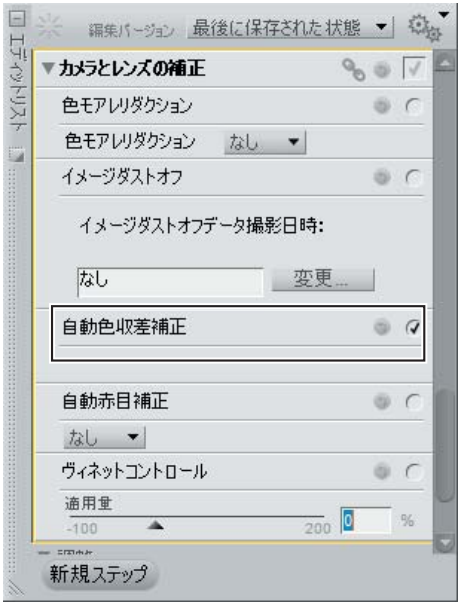
- 現在の画像に多数のゴミが検出された場合、イメージダストオフ機能の結果を保証しないことを示す警告が表示されます。［**はい**］をクリックして進んでください。
- 使用可能な参照画像が複数見つかった場合、表示されるリストからもっとも適する参照画像を選択してください。

色ずれを軽減する

［**エディットリスト**］にある［**カメラとレンズの補正**］の［**自動色収差補正**］を使用すると、画像内の色ずれを軽減できます。

自動色収差補正 (D-SLRのみ)

画像内の倍率色収差（色ずれ）を自動的に低減します。この機能はRAW画像の場合は初期設定でオンに設定されているため自動的に適用されますが、TIFF形式やJPEG形式の場合はオフに設定されています。自動色収差補正をする場合、［**自動色収差補正**］の横にある［**適用**］チェックボックスにチェックを入れます。自動色収差補正効果を無効にする場合は、［**適用**］のチェックを外します。



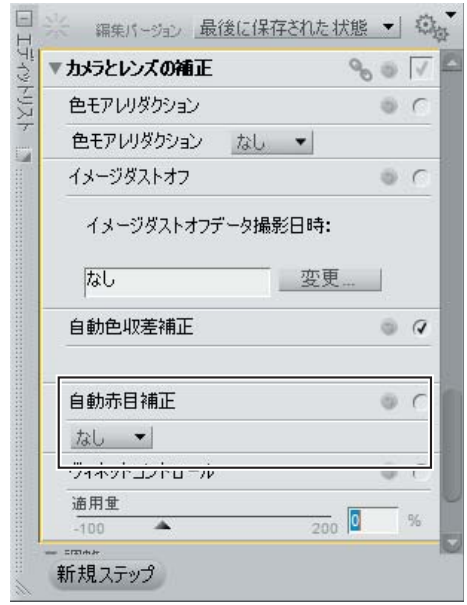
MEMO 多重露出画像や画像合成で作成された画像には利用できません。

赤目現象を自動的に補正する

［**エディットリスト**］にある［**カメラとレンズの補正**］の［**自動赤目補正**］を使用すると、画像から人物の目が赤く写る赤目現象を自動的に見つけ出し補正します。

自動赤目補正 RAW TIFF JPEG

画像から人物の赤目現象を自動的に見つけ出し補正します。自動赤目補正効果を無効にする場合は、メニューから［**なし**］を選びます。



MEMO ごくまれに赤目現象以外の部分も修正されることがあります。うまくいかない場合は［**赤目補正コントロールポイント**］をご使用ください。

参照 「赤目補正コントロールポイント」(P.141)

レンズによる画像周辺部の明るさの低下を調整する

［**エディットリスト**］にある［**カメラとレンズの補正**］の［**ヴィネットコントロール**］を使用すると、レンズによる明るさの低下を軽減できます。

ヴィネットコントロール RAW TIFF JPEG (D-SLRのみ)

レンズの特性により発生する周辺光量の低下を調整することができます。特に開放絞り側で撮影した画像に効果的です。

GまたはDタイプレンズ（距離情報出力機能付きレンズ）を装着して撮影した画像の場合、画像に記録されたレンズ情報を用いてヴィネットコントロールの最適な調整を行います。レンズ情報がない場合、ヴィネットコントロール効果は固定のレンズ特性を使用します。特定のレンズとカメラの組み合わせが距離情報を記録するかどうかは、下の表を参照してください。



カメラ	GまたはDタイプレンズ
D1X/D1H（ファームウェアバージョン1.10以降）	距離情報が記録されます
D1X/D1H（ファームウェアバージョン1.01以前）	距離情報が記録されません
D1	距離情報が記録されません
上記以外のカメラ	距離情報が記録されます

GまたはDタイプレンズ以外のレンズは、距離情報が記録されません。適用量スライダーを右に動かすと画像の周辺部が明るくなり、左に動かすと画像の周辺部が暗くなります。距離情報が記録されていない画像の場合、ヴィネットコントロール効果を適用しすぎないよう注意してください。

MEMO ヴィネットコントロール対応カメラで、設定を［**しない**］以外にして撮影したRAW画像の場合、Capture NX 2で調整すると、画像によってはカメラで確認した状態とは結果が異なる場合があります。

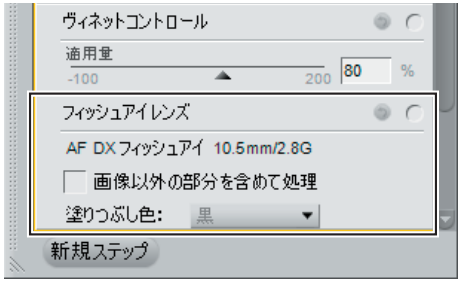
フィッシュアイレンズで撮影した画像を広角レンズで撮影したように変換する

［**エディットリスト**］にある［**カメラとレンズの補正**］の［**フィッシュアイレンズ**］を使用すると、フィッシュアイレンズで撮影した画像を、通常の広角レンズで撮影したように変換できます。

フィッシュアイレンズ RAW TIFF JPEG

この機能は、AF DX Fisheye-Nikkor ED 10.5mm F2.8GまたはAF Fisheye-Nikkor 16mm F2.8Dで撮影した画像にのみ対応しています。その他のレンズを使用して撮影された画像には使用できません。

この機能を使用すると、画像の中心を通る縦幅を基準に、カメラの画角の比率に合わせて画像を切り出します。画像情報が存在しない部分は、すべて切り取られます。



［**画像以外の部分を含めて処理**］にチェックを入れると、画像の中心を通る横幅を基準にワイドレンズで撮影された画像に近い形への変換を行った後、フル画像が表示されます。画像を通常のワイドレンズで撮影された画像に近い形に変形するために画像の一部が湾曲します。湾曲した部分には、画像情報がまったく含まれません。その部分を何色で塗りつぶすかを［**塗りつぶし色**］メニューから選びます。


元画像


［フィッシュアイレンズ］適用後


［画像以外の部分を含めて処理］：オン

画像を調整する

Capture NX 2には、画像の調整をする数多くのツールやウィンドウが用意されています。これらを使用して、思い通りの画像に仕上げていきます。

簡単に複数の効果を画像に適用する....P.116
コントロールポイントを使用して画像を調整する....P.119
コントロールポイントを調節する....P.126
画像内のもっとも暗い部分と明るい部分を設定する....P.127
画像内の中間色の部分を設定する....P.133
画像の色と明るさを簡単に調整する....P.137
人物の赤目現象を補正する....P.141
画像内の不要なゴミを取る....P.143
画像の明るさを調整する....P.145
画像のカラーを調整する....P.154
画像をぼかす....P.163
画像の細部を消去する....P.164
画像のシャープネスを向上させる....P.166
画像のゆがみを補正する....P.168
色ずれを補正する....P.169
画像のざらつきを軽減する....P.170
画像にカラープロファイルを適用する....P.171
白黒やセピアの画像にする....P.174
ノイズを加えてフィルム粒子風の効果を出す....P.176
特定色のコントラストを調整する....P.177
画像に色を加える....P.178
白黒画像に変換する....P.179
画像のサイズを調整する....P.180

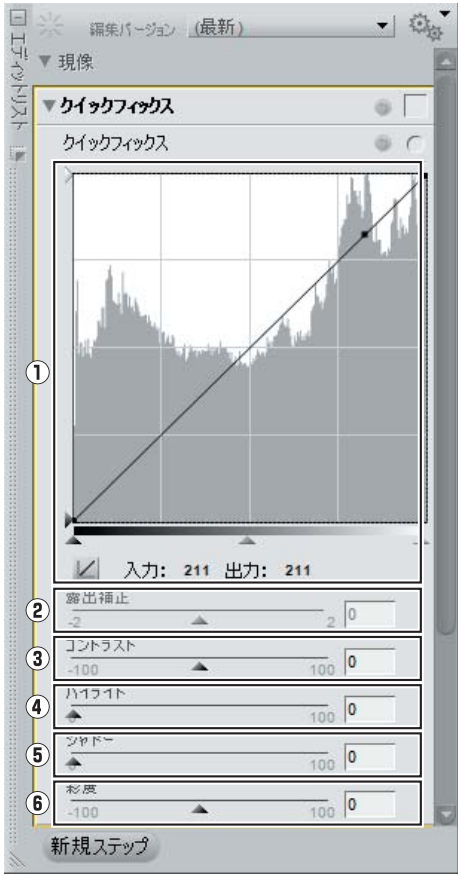
簡単に複数の効果を画像に適用する

[**エディットリスト**] にある [**現像**] セクションの [**クイックフィックス**] は、トーンカーブや露出など、複数の効果をひとつのウィンドウで処理する機能です。

クイックフィックス RAW TIFF JPEG

クイックフィックスは、[**レベルとトーンカーブ**]、[**露出補正**]、[**コントラスト**]、[**ハイライト**]、[**シャドー**]、[**彩度**] をひとつのウィンドウにまとめた機能です。[**クイックフィックス**] で簡単に複数の処理を行い、細かい調整を画像処理ステップの各機能で行うと効率的です。

① **トーンカーブ**	ヒストグラムとトーンカーブが表示され、画像の特定の階調範囲に対してコントラスト、階調（明るさ）レベルが調整できます。画像全体のカラーチャンネルに適用できます。 参照 「レベルとトーンカーブ」(P.145)
② **露出補正** RAW	−2EV から＋2EV までの範囲で撮影画像に対して露出補正ができます。スライダーを左（−側）に動かすと暗くなり、右（＋側）に動かすと明るくなります。
③ **コントラスト**	画像全体のコントラストを調整します。スライダーを左（−側）に動かすとコントラストが弱まり、右（＋側）に動かすとコントラストが強まります。 参照 「コントラスト/明るさ」(P.151)

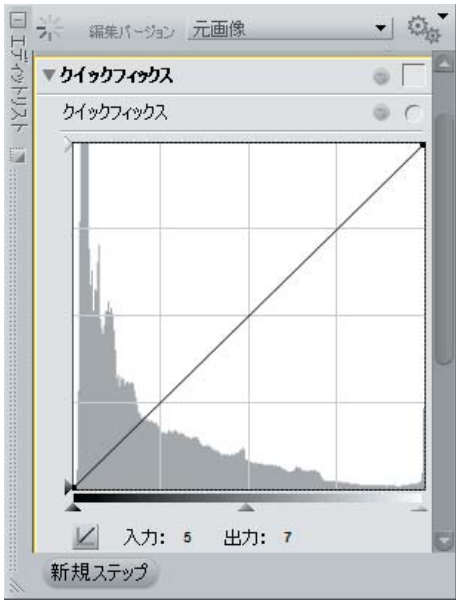


④ ハイライト	スライダーを右に動かすと、ハイライトの細部を調整して白とびを軽減します。 MEMO［**ハイライト**］はRAW画像、JPEG形式、TIFF形式のどの形式でも使用できますが、追加のハイライト情報が保存されるという特質上、RAW画像にもっとも効果が現れます。
⑤ シャドー	スライダーを右に動かすと、画像の暗い部分を明るく調整します。
⑥ 彩度	画像全体の彩度を調整します。スライダーを右（＋側）に動かすと彩度が上がります。

クイックフィックスを使用する

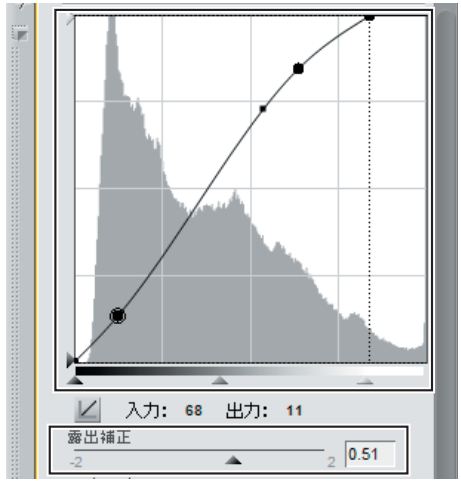
1 ▶ **ボタンをクリックして［エディットリスト］の［クイックフィックス］を開く**

MEMO 初期設定では［**クイックフィックス**］はあらかじめ開かれています。

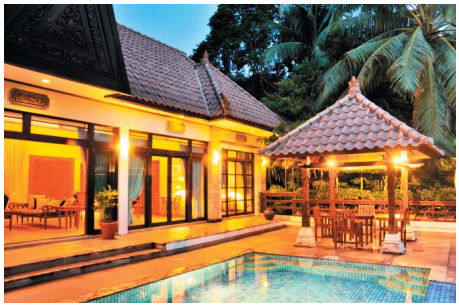


2 [トーンカーブ] でトーンカーブを調整したり、[露出補正 (RAWのみ)] や [コントラスト] のスライダーを左右に動かして、画像全体の明るさとコントラストを調整する





3 [ハイライト]、[シャドー] のスライダーを左右に動かして、白とび/黒つぶれを軽減させる





4 [彩度] のスライダーを左右に動かして彩度を調整する





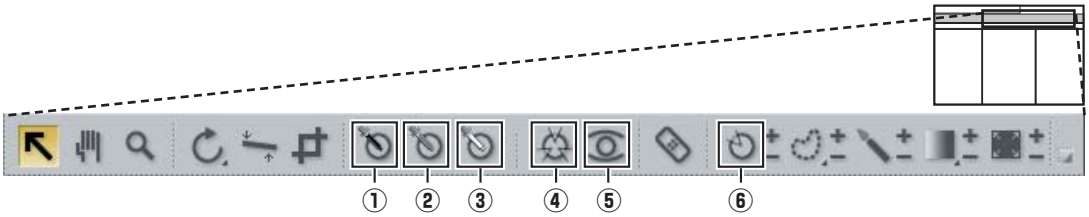
MEMO [**クイックフィックス**] の処理効果を無効にするには、[**クイックフィックス**] の右のチェックを外します。

コントロールポイントを使用して画像を調整する

コントロールポイントを使用すると、細かい選択範囲を作成しなくても位置や色、彩度や輝度などの特性を識別して調整を行えます。

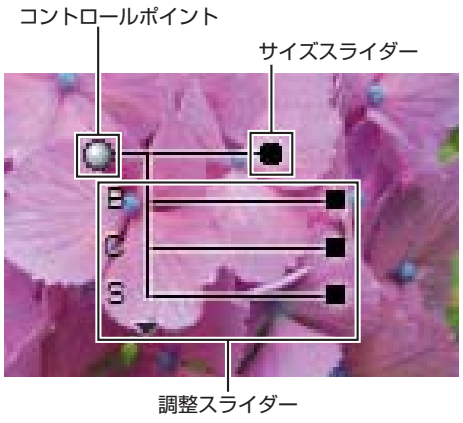
コントロールポイントとは

コントロールポイントはツールバーから選べます。コントロールポイントはすべての形式の画像に使用できます。



コントロールポイント	説 明	参照
① **ブラックコントロールポイント**	画像でもっとも暗い部分を指定して画像にメリハリをつける	P.127
② **ニュートラルコントロールポイント**	画像のグレーの部分を指定して色かぶりを補正する	P.133
③ **ホワイトコントロールポイント**	画像でもっとも白い部分を指定して画像にメリハリをつける	P.127
④ **カラーコントロールポイント**	部分的に色と明るさを調整する	P.137
⑤ **赤目補正コントロールポイント**	人物をフラッシュ撮影したときに起こる赤目現象を補正する	P.141
⑥ **選択コントロールポイント**	部分的に画像処理ステップの処理を適用する	P.188

各コントロールポイントツールでイメージウィンドウをクリックすると、コントロールポイントが配置されます。コントロールポイントには［**サイズスライダー**］と［**調整スライダー**］が付いています。［**調整スライダー**］の内容は、コントロールポイントによって異なります。［**赤目補正コントロールポイント**］には［**調整スライダー**］はありません。また、［**ブラックコントロールポイント**］、［**ホワイトコントロールポイント**］、［**ニュートラルコントロールポイント**］には［**サイズスライダー**］はありません。

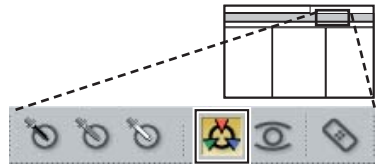


これらのスライダーを動かして、コントロールポイントの適用範囲や適用の値を変更します。

コントロールポイントの基本的な使用方法

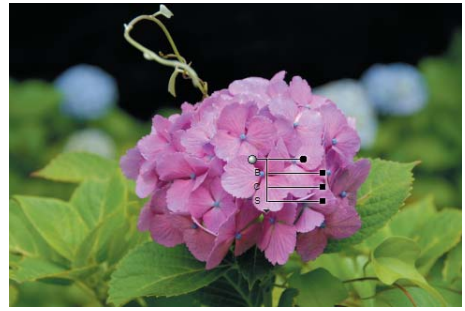
それぞれのコントロールポイントは役割が異なりますが、基本的な使用方法は同じです。ここでは［**カラーコントロールポイント**］を例にとって説明します。

1 ［カラーコントロールポイント］ツールを選ぶ



2 イメージウィンドウ内のコントロールポイントを適用したい場所をクリックする

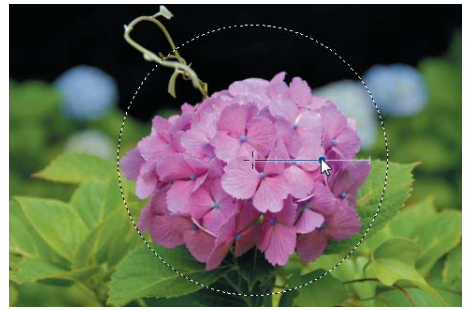
クリックした場所にコントロールポイントが表示されます。



MEMO ［**サイズスライダー**］や［**調整スライダー**］が表示される位置は、コントロールポイントを配置した位置によって異なります。

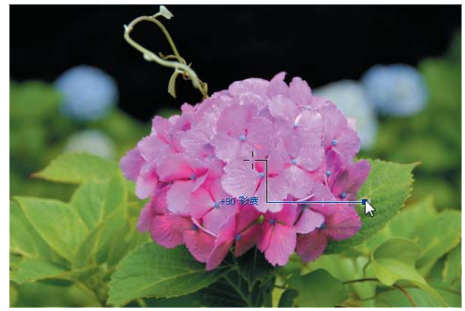
3 ［サイズスライダー］を動かして適用範囲を調整する

コントロールポイントを中心とした円形の内部（点線の円内）に処理が適用されます。境界線部分はグラデーション状に処理が適用され、外側に行くに従って適用量は少なくなります。スライダーが長くなるほど適用範囲が広がります。



4 ［調整スライダー］を動かして適用量を調整する

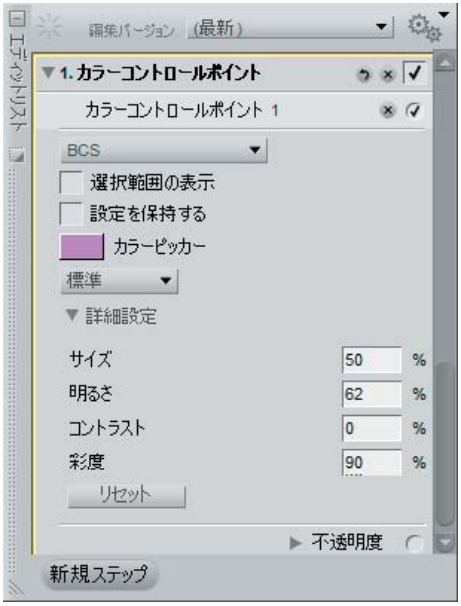
［**調整スライダー**］の長さを動かすと、処理の適用量が変わります。



5 [エディットリスト] のダイアログで微調整する

各コントロールポイントを使用すると、[**エディットリスト**] に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。

ダイアログ内には [**サイズ**] や各調整メニューの内容が表示され、値を入力して調整したり、初期設定に戻したりできます。ダイアログの内容は、それぞれの詳細ページを参照してください。



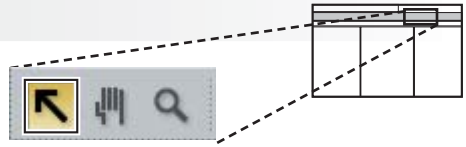
6 必要に応じてステップ１～５を繰り返してコントロールポイントを追加する

コントロールポイントはいくつでも配置できます。コントロールポイントを追加するとより細かく画像調整を行えます。

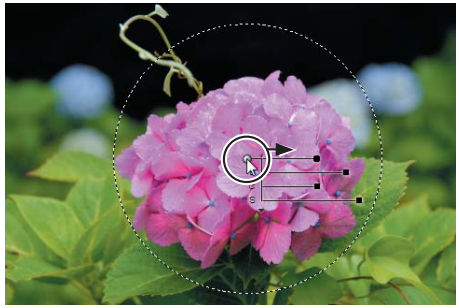
MEMO コントロールポイントを設定した後に、[**回転**]、[**クロップ**]、[**反転**] などの画像調整を行うと、コントロールポイントの位置がずれて表示される場合があります。コントロールポイントを使用する場合は、これらの画像調整の後に行ってください。

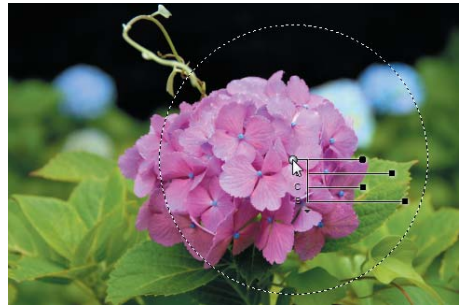
コントロールポイントを移動する

［**選択ツール**］でコントロールポイントをドラッグすると、コントロールポイントを移動できます。



参照 「選択ツール」(P.126)

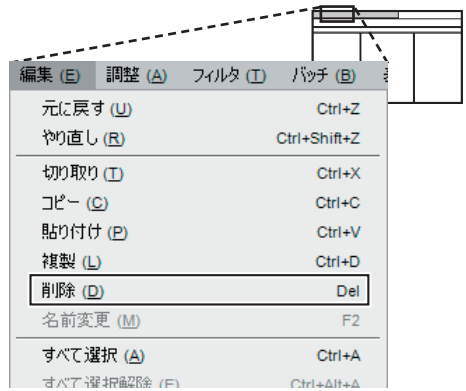




MEMO コントロールポイントを移動すると、［**調整スライダー**］の値が同じでも処理結果が大きく異なる場合があります。

コントロールポイントを削除する

削除したいコントロールポイントを選択ツールでクリックしてから、以下のいずれかの操作をすると削除できます。

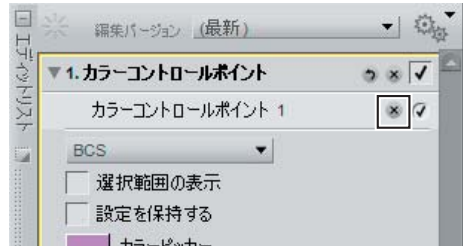


・メニューバーにある［**編集**］メニューで［**削除**］を選ぶ

ショートカット Delキー（Mac OSはdeleteキー）

・コントロールポイントを右クリック（Mac OSはcontrolキー＋クリック）して表示されるメニューから［**コントロールポイントの削除**］を選ぶ

・［**エディットリスト**］にある画像処理ステップ内のコントロールポイントの × ボタンをクリックする



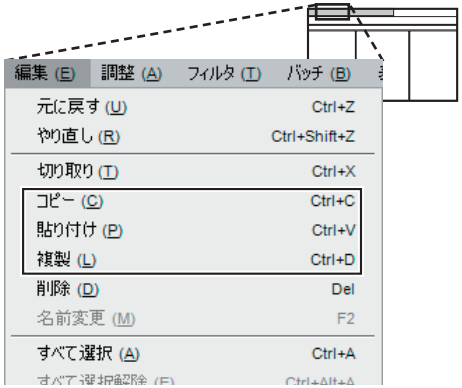
コントロールポイントを複製する

コントロールポイントを複製すると、同じサイズと適用量のコントロールポイントを複数使用できます。ブラックコントロールポイントとホワイトコントロールポイントは１つの画像処理ステップ内に１つずつしか配置できないため、複製できません。

複製したいコントロールポイントを［**選択ツール**］でクリックしてから、以下のいずれかの操作をすると複製できます。

・メニューバーにある［**編集**］メニューで［**コピー**］を選んでから［**貼り付け**］を選ぶ

ショートカット
- コピー
  Ctrlキー（Mac OSは⌘キー）＋Cキー
- 貼り付け
  Ctrlキー（Mac OSは⌘キー）＋Vキー



・メニューバーにある［**編集**］メニューで［**複製**］を選ぶ

ショートカット Ctrlキー（Mac OSは⌘キー）＋Dキー

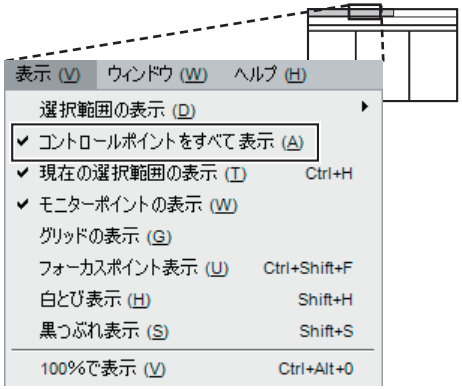
・コントロールポイントを右クリック（Mac OSはcontrolキー＋クリック）して表示されるメニューから［**コントロールポイントの複製**］を選ぶ

・Altキー（Mac OSはoptionキー）を押しながら複製したいコントロールポイントをドラッグする

コントロールポイントの表示/非表示を切り換える

メニューバーにある［**表示**］メニューの［**コントロールポイントをすべて表示**］をオンにすると、現在選ばれている画像処理ステップ内のコントロールポイントが表示されます。異なる画像処理ステップにあるコントロールポイントや画像処理ステップが非表示になっている場合は表示されません。初期設定では［**コントロールポイントをすべて表示**］はオンになっています。

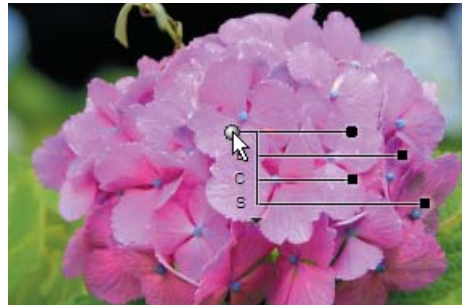
コントロールポイントをすべて非表示にするには、［**コントロールポイントをすべて表示**］がオンの状態でもう一度［**コントロールポイントをすべて表示**］を選びます。



コントロールポイントのスライダーを非表示にする

コントロールポイントとスライダーのハンドル（■の部分）以外をクリックすると、サイズスライダーと調整スライダーは非表示になり、コントロールポイントだけが表示されます。非表示になったスライダーを表示するには、選択ツールでコントロールポイントをクリックすると、サイズスライダーと調整スライダーが表示されます。





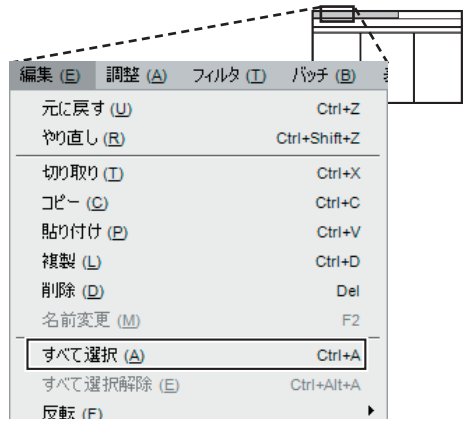
複数のコントロールポイントを同時に選ぶ

同じ画像処理ステップ内にある複数のコントロールポイントを同時に選ぶことができます。複数のコントロールポイントを一度に移動したり、削除したりできます。

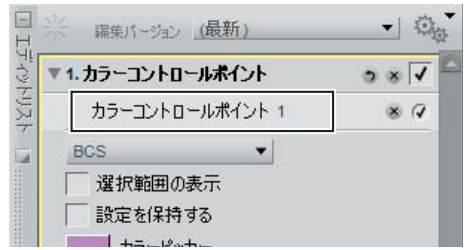
次のいずれかの操作をするとすべてのコントロールポイントを同時に選べます。

・メニューバーにある［**編集**］メニューで［**すべて選択**］を選ぶ

ショートカット　Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋Aキー

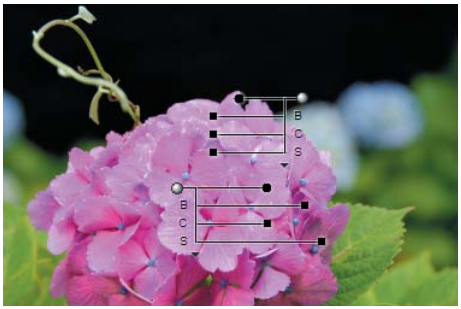


・エディットリスト内の画像処理ステップ名をクリックする

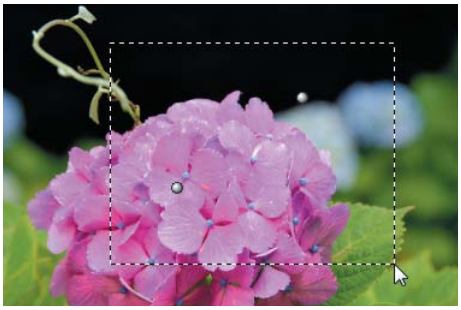


次のいずれかの操作をすると複数のコントロールポイントを同時に選ぶことができます。

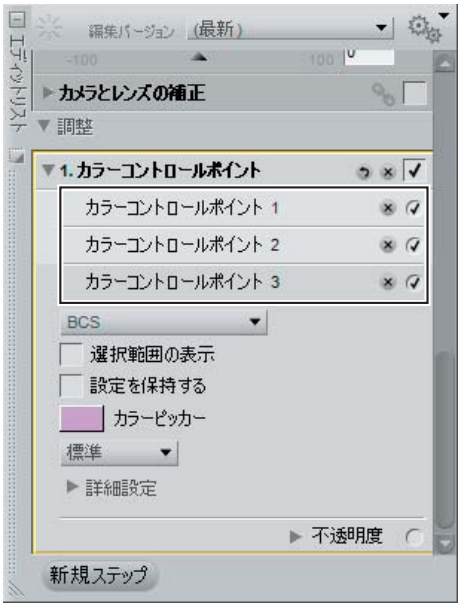
・選択ツールでShiftキーを押しながらコントロールポイントをクリックする



・選択ツールでイメージウィンドウ内のコントロールポイントが含まれる部分をドラッグする



・エディットリストでShiftキーを押しながらコントロールポイント名をクリックする

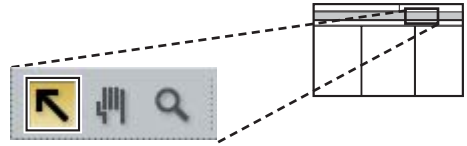


コントロールポイントを調節する

コントロールポイントを複数選択するときは選択ツールを使用します。コントロールポイント以外にも、さまざまな用途で使用できます。

選択ツール

選択ツールは次のものを選ぶことができます。



- コントロールポイント
- [ブラウザー] 上の画像
- エディットリスト内の画像処理ステップ

選択ツールでイメージウィンドウ内をドラッグすると、その範囲内にあるコントロールポイントを複数選ぶことができます。選んだコントロールポイントはドラッグして移動したり、一度に削除したりできます。また、Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）を押しながらコントロールポイントをクリックするとクリックしたコントロールポイントだけが複数選択されます。

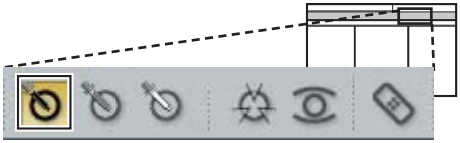
MEMO

［ブラウザー］上の画像を選択する場合、Shiftキーを押しながらクリックすると最初と最後に選んだ画像の間のすべての画像を選べます。Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）を押しながらクリックするとクリックした画像だけ選べます。画像処理ステップを選択する場合、Shiftキーを押しながらクリックすると最初と最後に選んだ画像処理ステップの間のすべての画像処理ステップを選べます。Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）を押しながらクリックするとクリックした画像処理ステップだけ選べます。

画像内のもっとも暗い部分と明るい部分を設定する

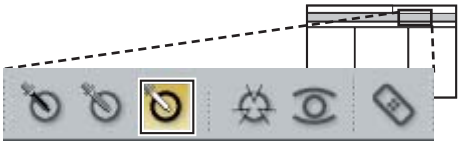
ブラックコントロールポイントとホワイトコントロールポイントを配置すると、画像内のもっとも暗い部分と明るい部分を設定できます。

ブラックコントロールポイント



ブラックコントロールポイントは［**ブラックコントロールポイント**］ツールから使用します。画像をクリックすると、その場所にブラックコントロールポイントが置かれます。ブラックコントロールポイントを置くと、その部分とその部分より暗い部分の色を黒（R = 0、G = 0、B = 0）にします。また、画像の暗い階調部分をニュートラルな黒（RGBの各値が同じ = 彩度なし）にします。

ホワイトコントロールポイント



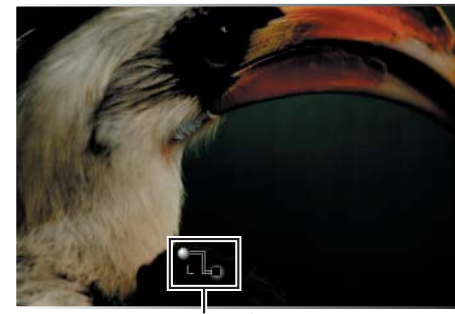
ホワイトコントロールポイントは［**ホワイトコントロールポイント**］ツールから使用します。画像をクリックすると、その場所にホワイトコントロールポイントが置かれます。ホワイトコントロールポイントを置くと、その部分とその部分より明るい部分の色を白（R = 255、G = 255、B = 255）にします。また、画像の明るい階調部分をニュートラルな白（RGBの各値が同じ = 彩度なし）にします。

ブラックコントロールポイントとホワイトコントロールポイントの用途

通常、ブラックコントロールポイントは画像のもっとも暗い場所に置き、ホワイトコントロールポイントは画像のもっとも明るい場所に置きます。画像のダイナミックレンジの黒側と白側を決定することにより、暗い部分と明るい部分の差の少ない（コントラストの低い）画像を、メリハリのある画像に仕上げることができます。

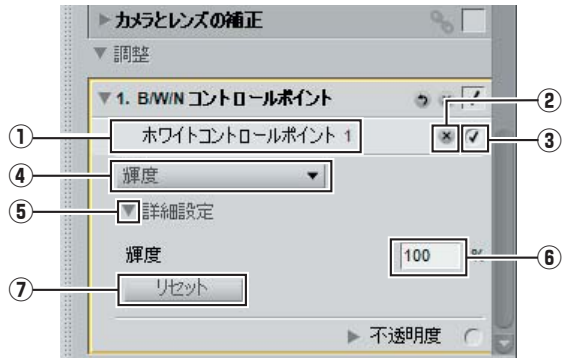
ブラックコントロールポイントとホワイトコントロールポイントによって生じる色の変化は、画像全体に影響します。

それぞれのツールを選んでイメージウィンドウ内をクリックすると、そこにブラックコントロールポイントまたはホワイトコントロールポイントが配置されます。ブラックコントロールポイントまたはホワイトコントロールポイントには、サイズスライダーはなく、調整スライダーだけが表示されます。調整スライダーの内容は［**輝度**］と［**RGB**］があり、画像処理ステップ内の［**コントロール方法**］で変更できます。


輝度スライダー

■ ブラックコントロールポイント/ホワイトコントロールポイントダイアログ

ブラックコントロールポイントまたはホワイトコントロールポイントを置くと、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。ブラックコントロールポイント、ホワイトコントロールポイントはひとつの画像処理ステップ内にまとめられます。



① コントロールポイント	1つの画像処理ステップ内で、ブラックコントロールポイントとホワイトコントロールポイントをひとつずつ置くことができます。
② 削除ボタン	選んだコントロールポイントを削除します。

<table>
<tr><td>③ コントロールポイントの適用チェックボックス</td><td>チェックを入れたコントロールポイントのみ効果が適用されます。</td></tr>
<tr><td>④ コントロール方法</td><td>ブラックコントロールポイントまたはホワイトコントロールポイントの基準を［輝度］または［RGB］から選びます。ここを変更すると、コントロールポイントから表示されるスライダーと、［詳細設定］の内容が変化します。
 

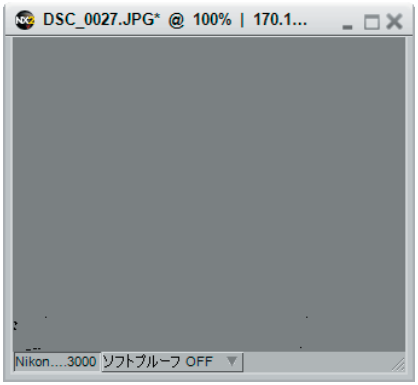
<table>
<tr><td>輝度</td><td>輝度（Luminance）の値を調整できます。ブラックコントロールポイントをニュートラルな黒、ホワイトコントロールポイントをニュートラルな白に設定して、目標とする色を常に変化させます。画像をニュートラルな黒または白に設定すると、多くのプリンターでは最適印刷になります。</td></tr>
<tr><td>RGB</td><td>赤（Red）、緑（Green）、青（Blue）のそれぞれの値を黒または白に設定できます。商業印刷などでニュートラルな黒または白以外をプリンターが要求する場合に便利です。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>⑤ ［詳細設定］表示/非表示ボタン</td><td>［詳細設定］の表示/非表示を切り換えます。設定を詳細に調整できます。</td></tr>
<tr><td>⑥ 入力ボックス</td><td>輝度（［コントロール方法］で［RGB］を選んでいる場合は赤（Red）、緑（Green）、青（Blue）の各値）の値を入力して、ブラックコントロールポイントやホワイトコントロールポイントの値を調整します。</td></tr>
<tr><td>⑦ リセット</td><td>選んだコントロールポイントの値を設定前の値に戻します。</td></tr>
</table>

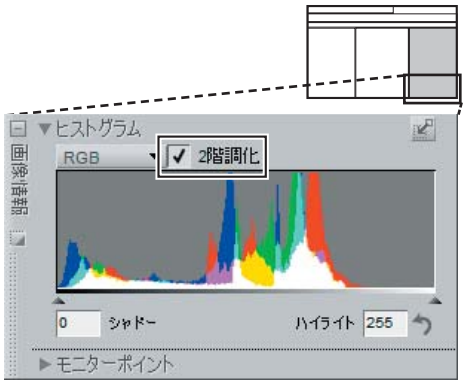
MEMO ブラックコントロールポイントとホワイトコントロールポイントの画像処理ステップには、ニュートラルコントロールポイントも置くことができます。

ブラックコントロールポイントとホワイトコントロールポイントを配置して画像にメリハリをつける

1 [画像情報] にある [ヒストグラム] の [2階調化] にチェックを入れる

画像が2階調化し、グレーで表示されます。

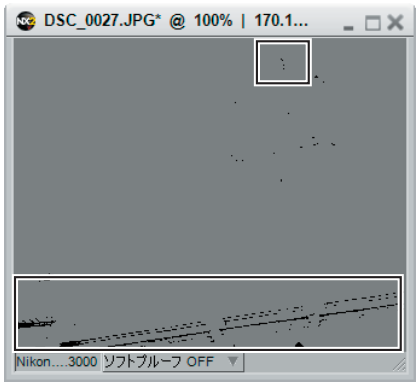


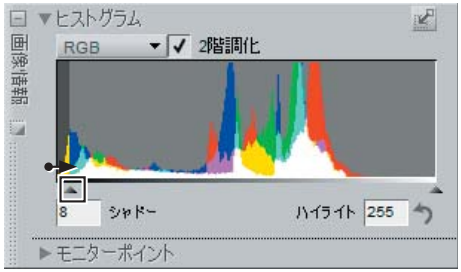


参照 「ヒストグラム」(P.62)

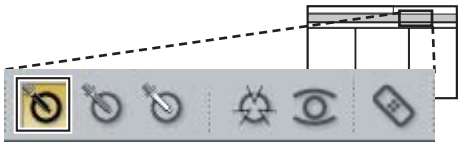
2 [ヒストグラム] の [シャドー] スライダーをヒストグラムが表示されている部分まで移動させる

画像の中でもっとも暗い部分が黒く表示されます。



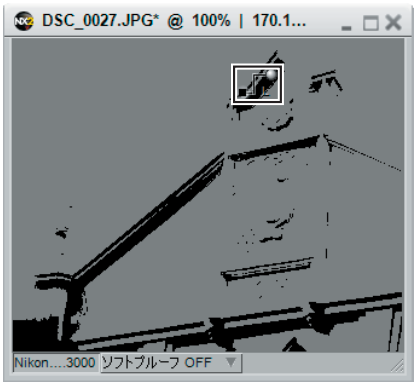


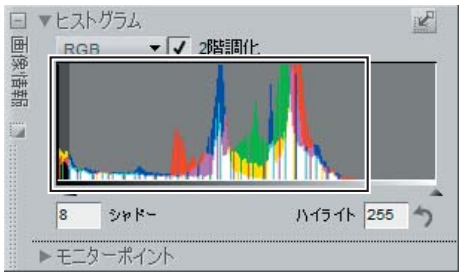
3 [ブラックコントロールポイント] ツールを選ぶ



4 黒く表示された部分をクリックする

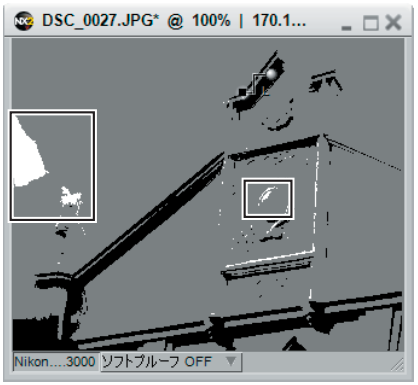
ブラックコントロールポイントが置かれ、それに合わせて黒く表示される部分が増えます。また、それに合わせてヒストグラムも移動し、再分布されます。

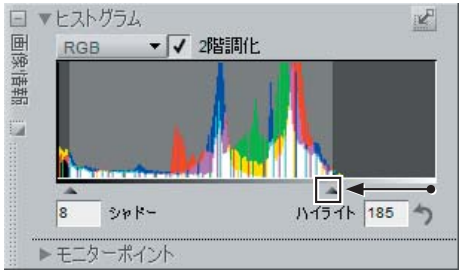




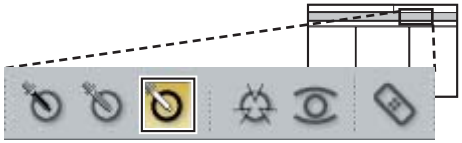
5 [ヒストグラム] の [ハイライト] スライダーをヒストグラムが表示されている部分まで移動させる

画像のもっとも明るい部分が白く表示されます。



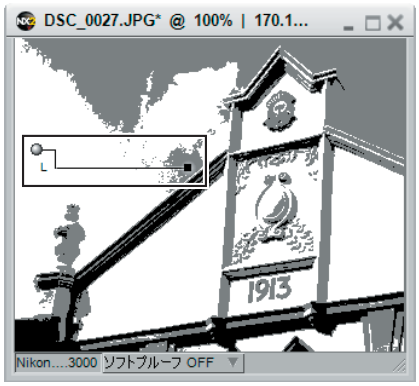


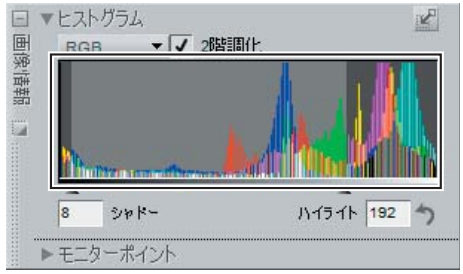
6 [ホワイトコントロールポイント] ツールを選ぶ



7 白く表示された部分をクリックする

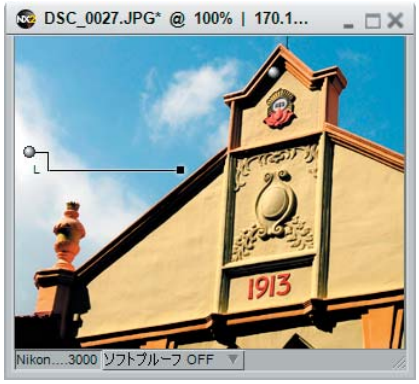
ホワイトコントロールポイントが置かれ、それに合わせて白く表示される部分が増えます。また、それに合わせてヒストグラムも移動し、再分布されます。

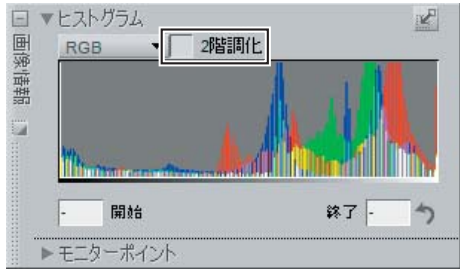




8 [画像情報] にある [ヒストグラム] の [2階調化] のチェックを外す

画像の2階調化がオフになり、カラー画像が表示されます。





9 必要に応じてスライダーや [エディットリスト] の [詳細] を調節する

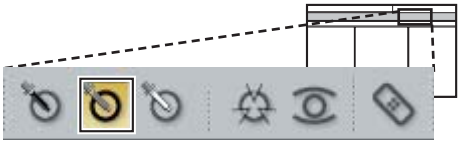
[**コントロール方法**] が [**輝度**] の場合、ブラックコントロールポイントもホワイトコントロールポイントも、スライダーが長くなるほど画像全体が明るくなります。

画像内の中間色の部分を設定する

ニュートラルコントロールポイントを画像に配置すると、対象の色を中間色（RGBの各値が同じ ＝ ニュートラル ＝ 彩度なし）または指定の色にできます。画像の色かぶりを軽減したり、画像全体に特定の色味を加えて色かぶりを意識的に加えることもできます。

ニュートラルコントロールポイント

ニュートラルコントロールポイントは［**ニュートラルコントロールポイント**］ツールから使用します。画像をクリックすると、その場所にニュートラルコントロールポイントが置かれます。ニュートラルコントロールポイントを置くと、その部分の色を中間色（RGBの各値が同じ ＝ 彩度なし）または指定した色にします。

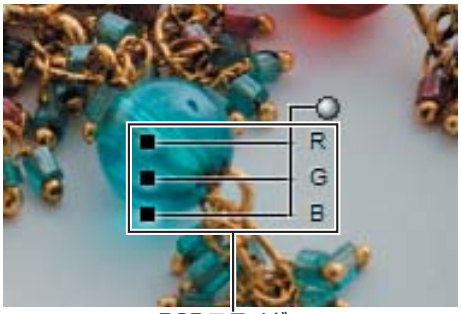


ニュートラルコントロールポイントの用途

ニュートラルコントロールポイントは、被写体にグレーカードが含まれているなど、グレーの被写体がある場合に便利です。その部分をニュートラルコントロールポイントで中間色にすることによって、色かぶりを補正します。また、指定した色味を加えることができます。これにより、たとえば青い空の画像に赤みを加えて、夕焼けにすることもできます。

ニュートラルコントロールポイントによって生じる色の変化は、画像全体に影響します。

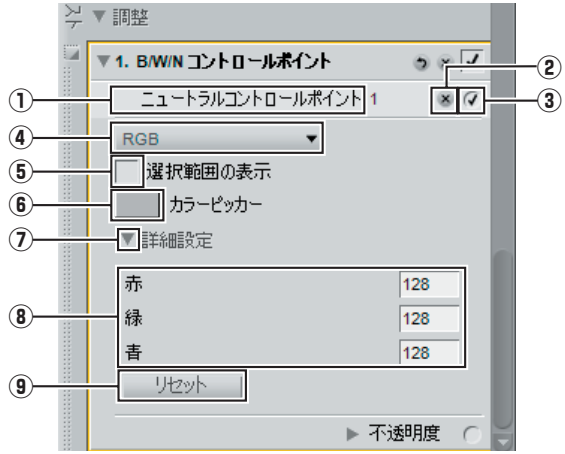
［**ニュートラルコントロールポイント**］ツールでイメージウィンドウ内をクリックすると、そこにニュートラルコントロールポイントが配置されます。ニュートラルコントロールポイントにはサイズスライダーはなく、調整スライダーだけが表示されます。調整スライダーの内容は初期設定では［**RGB**］ですが、画像処理ステップ内の［**コントロール方法**］でRGBと輝度のスライダーがある［**輝度に反映**］に変更することもできます。

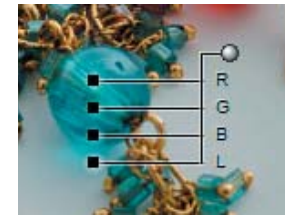


RGBスライダー

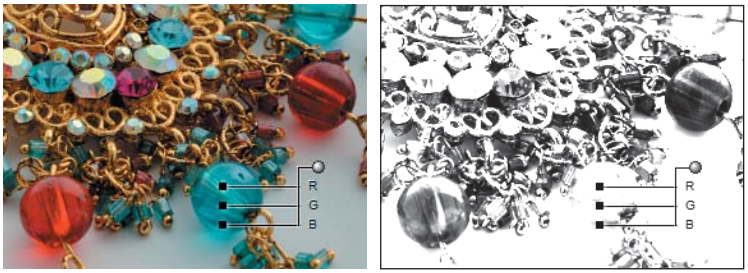
■ ニュートラルコントロールポイントダイアログ

ニュートラルコントロールポイントを置くと、[**エディットリスト**] に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① **コントロールポイント**	1つの画像処理ステップ内で、複数のニュートラルコントロールポイントを置くことができます。
② **削除ボタン**	選んだコントロールポイントを削除します。
③ **コントロールポイントの適用チェックボックス**	チェックを入れたコントロールポイントのみ効果が適用されます。
④ **コントロール方法**	ニュートラルコントロールポイントの基準を [**RGB**] または [**輝度に反映**] から選びます。ここを変更すると、コントロールポイントから表示されるスライダーと、[**詳細設定**] の内容が変化します。 

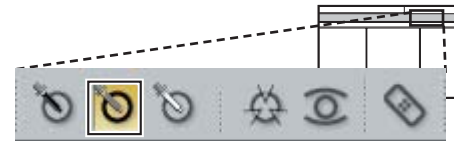
RGB	RGBのそれぞれの値を調整できます。
輝度に反映	RGBに加えて輝度の値を調整できます。

⑤ **選択範囲の表示**	チェックを入れると、ニュートラルコントロールポイントの影響を受ける部分が白く表示されます。 
⑥ **カラーピッカー**	ニュートラルコントロールポイントの基準となる色をカラーピッカーから選べます。ニュートラルコントロールポイントの有効的な利用方法として、空や肌など「記憶色」と呼ばれる色を含んだ被写体の調整があります。たとえば、ニュートラルコントロールポイントを空の部分に置き、カラーピッカーの［**記憶色**］で［**空の色**］を選べば、簡単に空の色を補正できます。 参照 「カラーピッカーで色を選ぶ」(P.260)
⑦ **［詳細設定］表示/非表示ボタン**	［**詳細設定**］の表示/非表示を切り換えます。設定を詳細に調整できます。
⑧ **入力ボックス**	［赤 (Red)］、［緑 (Green)］、［青 (Blue)］の値 (［**コントロール方法**］で［**輝度に反映**］を選んでいる場合はRGBと輝度の各値) を入力して、ニュートラルコントロールポイントの値を調整します。赤、緑、青の値がそれぞれすべて同じ場合、値が0でも255でも結果は同じになります。
⑨ **リセット**	選んだコントロールポイントの値を設定前の値に戻します。

MEMO ニュートラルコントロールポイントの画像処理ステップには、ブラックコントロールポイントとホワイトコントロールポイントもひとつずつ置くことができます。

画像にニュートラルコントロールポイントを配置して色かぶりをとる

1 [ニュートラルコントロールポイント] ツールを選ぶ



2 画像内の本来グレーであるべき場所をクリックする

クリックした場所と色合いの近い部分がニュートラルなグレー（RGBの各値が同じ）になり、色かぶりが軽減されます。





3 必要に応じてスライダーや [エディットリスト] の [詳細設定] を調節する

画像が明るいまたは暗い場合、[**コントロール方法**] で [**輝度に反映**] を選び、輝度のスライダーの長さを調節します。また、RGBスライダーを調整したり、特定の色をカラーピッカーで選んだりすると、全体的にその色味を加えられます。



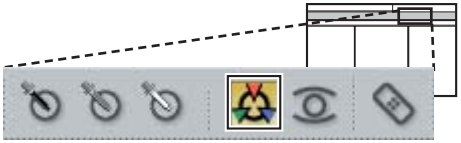
MEMO 色かぶりをとるには、[**ブラックコントロールポイント**] や [**ホワイトコントロールポイント**] と併用すると効果的です。

画像の色と明るさを簡単に調整する

カラーコントロールポイントを使用すると、部分的に特定の色の部分を選択範囲を作成することなく簡単に調整できます。

カラーコントロールポイント

カラーコントロールポイントは［**カラーコントロールポイント**］ツールから使用します。**カラーコントロールポイント**は、部分的に色と明るさの調整をするツールです。画像の色と明るさに対して、「どの範囲に」「どの色を適用するか」を簡単に設定できます。

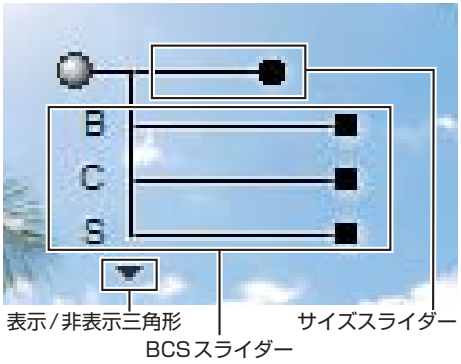


ショートカット　Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Shiftキー ＋ Aキー

カラーコントロールポイントの用途

カラーコントロールポイントは、配置された部分の色の特性を自動的に識別し、その色と似た色の部分を自動的に選びます。通常の画像編集ソフトでは、特定の場所の色を変えるには選択範囲やマスクを作成する必要がありますが、カラーコントロールポイントを使用すればそのような作業は必要ありません。この機能は、たとえばたくさんの葉の中に点在する花の色を変えたいというような場合に便利です。

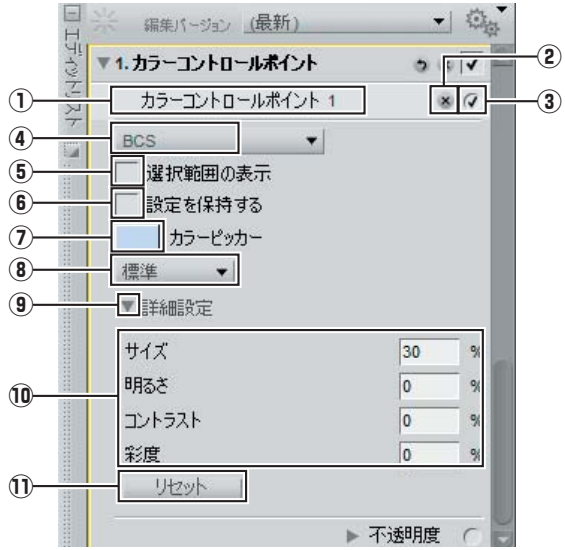
［**カラーコントロールポイント**］ツールでイメージウィンドウ内をクリックすると、そこにカラーコントロールポイントが配置されます。カラーコントロールポイントには、調整する範囲を示す［**サイズスライダー**］と調整スライダーが表示されます。調整スライダーの内容は初期設定では［**BCS**］ですが、画像処理ステップ内の［**コントロール方法**］で［**RGB**］、［**HSB**］、［**すべて**］に変更することもできます。



また、調整スライダーの下（または上）に表示される三角形をクリックすると、現在の［**コントロール方法**］と［**すべて**］を切り換えられます。

■ カラーコントロールポイントダイアログ

カラーコントロールポイントを置くと、[**エディットリスト**] に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



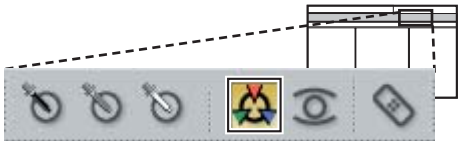
① **カラーコントロールポイント**	1つの画像処理ステップ内で複数のカラーコントロールポイントを置くことができます。
② **削除ボタン**	選んだカラーコントロールポイントを削除します。
③ **コントロールポイントの適用チェックボックス**	チェックを入れたカラーコントロールポイントのみ効果が適用されます。
④ **コントロール方法**	カラーコントロールポイントの基準を選びます。変更すると、カラーコントロールポイントのスライダーと、[**詳細設定**] の内容が変化します。

BCS	初期設定のモードです。サイズ、明るさ (Brightness)、コントラスト (Contrast)、彩度 (Saturation) の値を調整できます。
RGB	サイズ、赤 (Red)、緑 (Green)、青 (Blue) の値を調整できます。
HSB	サイズ、色相 (Hue)、彩度 (Saturation)、明るさ (Brightness) の値を調整できます。
すべて	サイズ、色相 (Hue)、彩度 (Saturation)、明るさ (Brightness)、コントラスト (Contrast)、赤 (Red)、緑 (Green)、青 (Blue)、暖色系調整 (Warmth) の値を調整できます。

<table>
<tr><td>⑤ 選択範囲の表示</td><td>チェックを入れると、カラーコントロールポイントの影響を受ける部分が白く表示されます。
  </td></tr>
<tr><td>⑥ 設定を保持する</td><td>チェックを入れたコントロールポイントの適用範囲は、色が変更されなくなります。コントロールポイントを複数使用するときに、色を変更したくない場所を保護する場合に使用します。チェックを入れると、サイズスライダーだけが表示されます。</td></tr>
<tr><td>⑦ カラーピッカー</td><td>カラーコントロールポイントの基準となる色をカラーピッカーから選べます。画像内でカラーコントロールポイントが置かれた被写体の色は、カラーピッカーで選んだ色に変更されます。
参照 「カラーピッカーで色を選ぶ」(P.260)</td></tr>
<tr><td>⑧ カラーコントロールポイント処理方法</td><td>カラーコントロールポイントの処理方法を選びます。処理方法は、それぞれ異なるタイプの画像に対し最適化されたアルゴリズムを利用します。同じ画像処理ステップ内で複数のカラーコントロールポイントを置いた場合、それらのカラーコントロールポイントはすべて同じ処理方法が適用されます。処理方法の異なるカラーコントロールポイントを置きたい場合、新規画像処理ステップを作成します。
<table>
<tr><td>ベーシック</td><td>もっとも高速で直接的な処理方法です。この処理方法はインターネットのWebページに掲載する画像におすすめです。</td></tr>
<tr><td>標準</td><td>処理速度と細部の保持とのバランスをとります。この処理方法は大半の画像におすすめです。</td></tr>
<tr><td>アドバンスト</td><td>シャドーを明るくする場合や、ノイズや粒状性の高い画像におすすめです。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>⑨ [詳細設定] 表示/非表示ボタン</td><td>[詳細設定] の表示/非表示を切り換えます。設定を詳細に調整できます。</td></tr>
<tr><td>⑩ 入力ボックス</td><td>サイズやカラーの値を入力して、カラーコントロールポイントの値を調整します。表示される内容は、選んでいる [コントロール方法] によって変わります。</td></tr>
<tr><td>⑪ リセット</td><td>選んだカラーコントロールポイントの値を設定前の値に戻します。</td></tr>
</table>

画像にカラーコントロールポイントを配置して簡単に色を変える

1 ［カラーコントロールポイント］ツールを選ぶ



2 色を変更したい場所をクリックする

カラーコントロールポイントが置かれます。



3 サイズスライダーで調整する範囲を決め、カラースライダーの長さを調節して色を変更する

［**コントロール方法**］を変更すれば、色を変更する基準が変更され、色が選びやすくなります。また、カラーピッカーで直接変更したい色を選べます。



4 必要に応じてカラーコントロールポイントを追加する

以前に置いたカラーコントロールポイントの適用範囲内に、新たにカラーコントロールポイントを追加すると、追加したカラーコントロールポイントの位置にある色は以前のカラーコントロールポイントの影響を受けなくなります。

他のカラーコントロールポイントの影響を受けず、元の色を保つには、［**設定を保持する**］にチェックを入れます。

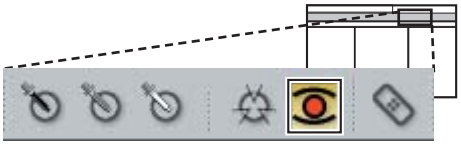


人物の赤目現象を補正する

赤目補正コントロールポイントは、フラッシュ撮影により人物の目が赤く写る赤目現象を補正するツールです。

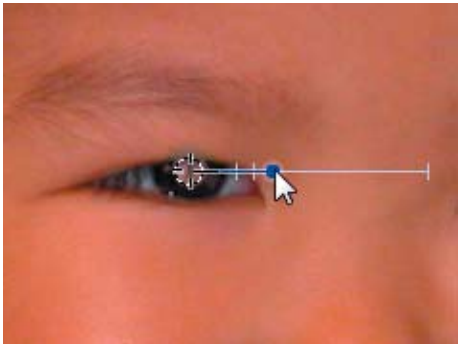
赤目補正コントロールポイント

赤目補正コントロールポイントは［**赤目補正コントロールポイント**］ツールから使用します。［**赤目補正コントロールポイント**］ツールでイメージウィンドウ内をクリックすると、そこに赤目補正コントロールポイントが配置されます。赤目補正コントロールポイントにはサイズスライダーが表示されます。色はCapture NX 2が自動的に補正します。



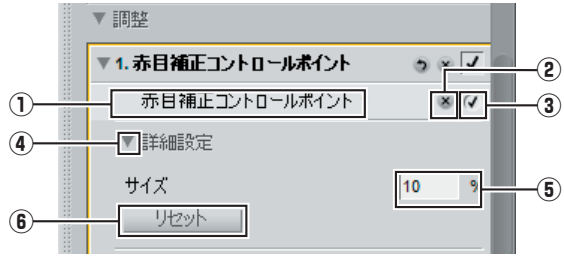
赤目補正コントロールポイントの使用方法

［**赤目補正コントロールポイント**］ツールでイメージウィンドウ内をクリックすると、そこに赤目補正コントロールポイントが配置されます。赤目補正コントロールポイントにはサイズスライダーだけが表示されます。サイズスライダーを動かして、補正範囲を調整します。



■ 赤目補正コントロールポイントダイアログ

赤目補正コントロールポイントを置くと、[**エディットリスト**] に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



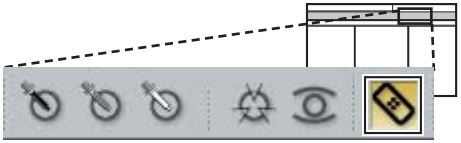
① 赤目補正コントロールポイント	1つの画像処理ステップ内で複数の赤目補正コントロールポイントを置くことができます。
② 削除ボタン	選んだ赤目補正コントロールポイントを削除します。
③ コントロールポイントの適用チェックボックス	チェックを入れた赤目補正コントロールポイントのみ効果が適用されます。
④ [詳細設定] 表示/非表示ボタン	[**詳細設定**] の表示/非表示を切り換えます。設定を詳細に調整できます。
⑤ サイズ	赤目補正コントロールポイントの適用サイズをパーセントで入力できます。
⑥ リセット	赤目補正コントロールポイントの値を初期設定の値に戻します。

画像内の不要なゴミを取る

［**自動レタッチブラシ**］ツールを使用すると、画像内に写り込んだホコリやゴミなどを取ることができます。

自動レタッチブラシ

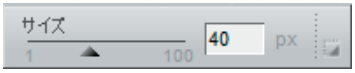
［**自動レタッチブラシ**］ツールを使用してブラシで塗るようにドラッグすると、画像内に写り込んだホコリやゴミを、周辺の色や階調にマッチさせながら取り除けます。



ショートカット Rキー

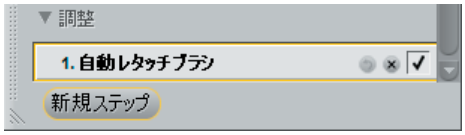
■ 自動レタッチブラシツールオプション

［**自動レタッチブラシ**］ツールには［**サイズ**］のオプションがあります。ブラシのサイズを0～100の間で選べます。



■ 自動レタッチブラシツールダイアログ

［**自動レタッチブラシ**］ツールを使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。リセットボタンや削除ボタンで処理前の状態に戻したり、削除したりできます。



MEMO 処理したいゴミが画像内に複数ある場合、［新規ステップ］ボタンを使用して［自動レタッチブラシ］の画像処理ステップを複数作成することで、それぞれのゴミに対し、修正や削除を行うことができます。

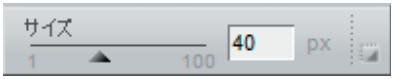
画像内のゴミを取る

1 **［自動レタッチブラシ］ツールを選ぶ**



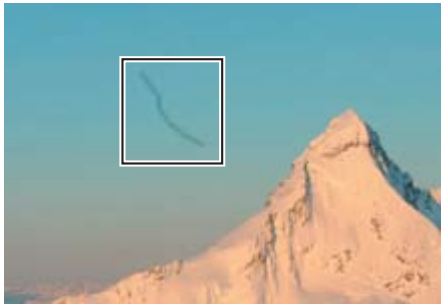
2 **ブラシのサイズを調整する**

ブラシのサイズが大きすぎると、他の部分にまで影響が出るおそれがあります。



3 ゴミの部分をドラッグして塗りつぶす

ドラッグした部分が半透明の赤い色で塗りつぶされます。消したいゴミの部分をすべて塗りつぶしていることを確認してください。





4 マウスボタンを放す

塗りつぶした部分が周囲にとけ込み、ゴミが取り除かれます。画像によっては、処理に時間がかかることがあります。



MEMO

［**自動レタッチブラシ**］ツールは、周囲から似た部分を自動的に塗りつぶした範囲に上書きコピーする機能です。このため、ゴミが広範囲に渡ったり、ドラッグする範囲が長かったり、大きなサイズのゴミの場合、うまく処理されないことがあります。

画像の明るさを調整する

［**調整**］メニューにある［**明るさ**］の各機能を使用すると、画像の明るさを調整できます。

レベルとトーンカーブ RAW TIFF JPEG

［**レベルとトーンカーブ**］はコントラスト、階調レベル(明るさ)、カラーバランスを調整できます。画像の階調の特定の部分に関して調整を行い、細部を保ちながら画像を強調できます。プリンターやモニターなどの特定の出力機器が持つ階調または全カラー領域を最大限に利用できます。

調整は画像全体または特定のカラーチャンネルに対して行えます。初期設定では、すべてのチャンネル(赤緑青)を同時に編集しますが、チャンネルメニューから赤、緑、青の個々のチャンネルを選択できます。

ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋Lキー

■ レベルとトーンカーブダイアログ

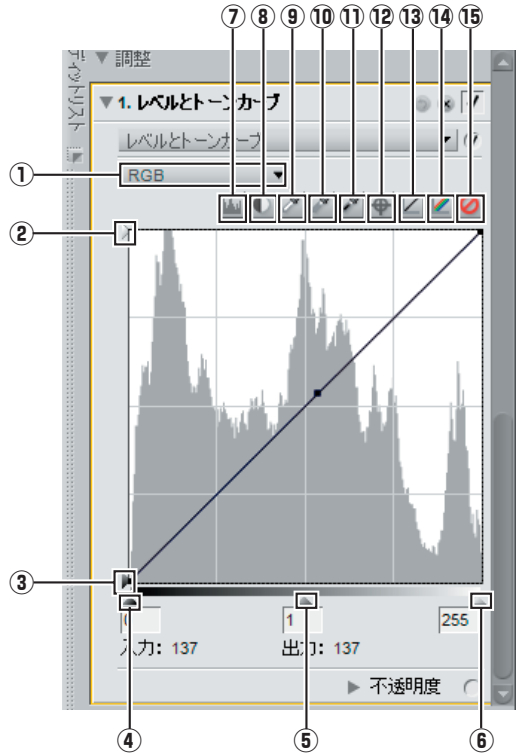
［**レベルとトーンカーブ**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。

画像内の明るさごとのピクセルの合計数を表すヒストグラムが表示されます。入力する明るさの値と出力する明るさの値の関係をコントロールするトーンカーブが、このヒストグラムに重ねて表示されます。

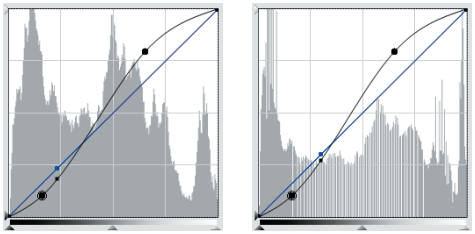
ヒストグラムは、全チャンネルを同時に編集する場合はブラックからホワイトへの明るさを表します。個別のチャンネルを編集する場合は、その色を一切含まないものからその色の最大の明るさまでを表します。画像の明るさを変更するには、［**ブラックポイントスライダー**］、［**ホワイトポイントスライダー**］、［**中間調ポイントスライダー**］を動かすか、トーンカーブを直接編集して行ないます。

トーンカーブをドラッグすると、アンカーポイントが追加されトーンカーブを編集できます。アンカーポイントはダイアログの外までドラッグすると削除できます。

参照 「ヒストグラム」(P.62)



① **チャンネルセレクター**	トーンカーブを適用するチャンネルを切り換えます。 ショートカット RGB：Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋^キー 赤チャンネル：Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋1キー 緑チャンネル：Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋2キー 青チャンネル：Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋3キー
② **ホワイト出力スライダー**	画像の最大明るさレベルを設定します。[**ホワイト出力スライダー**] を下にドラッグすると画像のもっとも明るい部分が暗くなります。一般的にこのスライダーは、画像内でもっとも明るい色が白ではない場合に使用します。
③ **ブラック出力スライダー**	最小明るさレベルを設定します。[**ブラック出力スライダー**] を上にドラッグすると画像のもっとも暗い部分が明るくなります。一般的にこのスライダーは、画像内でもっとも暗い色が黒ではない場合に使用します。
④ **ブラックポイントスライダー**	[**ブラックポイントスライダー**] を右に動かすと、選択した点より左側の明るさを完全な黒（個別チャンネルの場合は、そのチャンネルの色がない色合い）に設定し、可能な数値範囲に明るさの範囲が収まるよう広げて再配分します。表示されているヒストグラムの左端の情報に [**ブラックポイントスライダー**] を合わせることをおすすめします。これにより、画像のもっとも暗い部分が、出力側で表示できるもっとも暗い部分に合うように画像が調整されます。

⑤ **中間調ポイントスライダー**	[**中間調ポイントスライダー**] を左に動かすと画像の中間色調が明るくなり、右に動かすと画像の中間色調が暗くなります。
⑥ **ホワイトポイントスライダー**	[**ホワイトポイントスライダー**] を左に動かすと、選択した点より右側の明るさの値を完全な白（個別チャンネルの場合は、そのチャンネルの色が最大の明るさの値）に設定し、可能な数値範囲に明るさの範囲が収まるよう広げて再配分します。表示されているヒストグラムの右端の情報に [**ホワイトポイントスライダー**] を合わせることをおすすめします。これにより、画像のもっとも明るい部分が、出力側で表示できるもっとも明るい部分に合うように画像が調整されます。
⑦ **調整前/調整後ヒストグラム表示**	このボタンをクリックすると、調整前のヒストグラムと調整後のヒストグラムの表示を切り換えられます。調整後のヒストグラムは、[**レベルとトーンカーブ**] で行なわれた変更と連動して常に更新されます。  調整前　　調整後
⑧ **自動コントラスト**	チャンネル内のホワイトポイントとブラックポイントを変更して、個別チャンネルの色を自動的に配分します。Ctrlキー（Mac OSはOptionキー）を押しながらクリックすると、現在のチャンネルのみ対象になります。 [**自動コントラスト**] は、ホワイトポイントまたはブラックポイントを自動的に選んで除外します。これにより、コントラストを強調するようにトーンカーブは急になります。初期設定では、もっとも明るいピクセルともっとも暗いピクセルの0.5%が除外され、シャドーとハイライトの細部を保ちながら出力色調範囲を最適に利用できるトーンカーブを作成します。除外されるピクセルの厳密な割合は、[**環境設定**] の [**レベルとサンプリング**] で設定できます。 参照 「レベルとサンプリング」(P.252)
⑨ **ホワイトポイントスポイトツール**	このボタンをクリックすると、マウスカーソルがイメージウィンドウ内でスポイトツールに変わります。画像をクリックするとその部分の色が選ばれ、赤、緑、青の3つのカラーチャンネルのホワイトポイントスライダーが、その色の値に変更されます。Ctrlキー（Mac OSはOptionキー）を押しながらクリックすると、現在のチャンネルのみ対象になります。画像情報ウィンドウの [**2階調化**] とこのツールを使用して、画像中のもっとも明るい数値を見つけ出します。[**ホワイトポイントスポイトツール**] は、カラーバランスだけでなく、画像の色調にも影響します。画像中のホワイトポイントをさらに細かく設定するには、[**ホワイトコントロールポイント**] を使用してください。 参照 「ホワイトコントロールポイント」(P.127) 「ヒストグラム」(P.62)



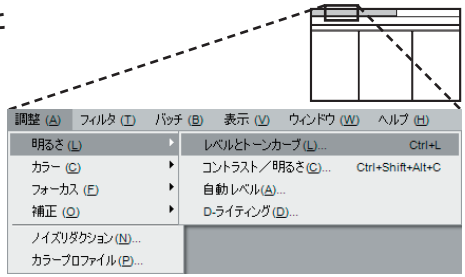
⑩ **ニュートラルポイントスポイトツール**	このボタンをクリックすると、マウスカーソルがイメージウィンドウ内でスポイトツールに変わります。画像をクリックするとその部分の色が選ばれ、赤、緑、青の3つのカラーチャンネルの［**中間調ポイントスライダー**］が、その色の値に変更されます。これにより、色調値に影響を与えずに選択された色をニュートラルに近づけます。［**ニュートラルポイントスポイトツール**］は、カラーバランスだけに影響を与えようとしますが、目標となる色がかなりの色合いを含んでいると、画像の色調に影響することもあります。画像中のニュートラルポイントをさらに細かく設定するには、［**ニュートラルコントロールポイント**］を使用してください。 参照 「ニュートラルコントロールポイント」(P.133)
⑪ **ブラックポイントスポイトツール**	このボタンをクリックすると、マウスカーソルがイメージウィンドウ内でスポイトツールに変わります。Ctrlキー（Mac OSはOptionキー）を押しながらクリックすると、現在のチャンネルのみ対象になります。画像をクリックするとその部分の色が選ばれ、赤、緑、青の3つのカラーチャンネルの［**ブラックポイントスライダー**］が、その色の値に変更されます。画像情報ウィンドウの［**2階調化**］とこのツールを使用して、画像中のもっとも暗い数値を見つけ出します。ブラックポイントスポイトツールは、カラーバランスだけでなく、画像の色調にも影響します。画像中のブラックポイントをさらに細かく設定するには、［**ブラックコントロールポイント**］を使用してください。 参照 「ヒストグラム」(P.62) 「ブラックコントロールポイント」(P.127)
⑫ **アンカーポイントの設定**	このボタンをクリックすると、マウスカーソルがイメージウィンドウ内でスポイトツールに変わります。イメージウィンドウ内をクリックすると、すべてのチャンネルのカーブ上に、その部分の色を表す新たなアンカーポイントを追加します。Ctrlキー（Mac OSはOptionキー）を押しながらクリックすると、現在のチャンネルにのみアンカーポイントを追加します。 アンカーポイントはダイアログ外にドラッグすると削除できます。
⑬ **現在のチャンネルをリセット**	このボタンをクリックすると、現在のチャンネルのトーンカーブを初期設定の値に戻します。
⑭ **すべてのチャンネルをリセット**	このボタンをクリックすると、すべてのチャンネルのトーンカーブを初期設定の値に戻します。
⑮ **一時キャンセル**	このボタンを押している間だけ、一時的に［**レベルとトーンカーブ**］の効果を取り消します。ボタンを放すと再び効果が現れます。

[レベルとトーンカーブ] で画像の明るさを補正する

1 [調整] メニューにある [明るさ] の [レベルとトーンカーブ] を選ぶ

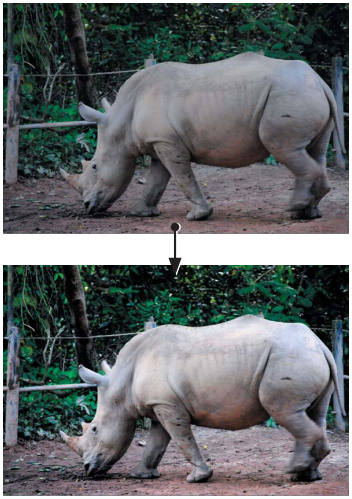
MEMO

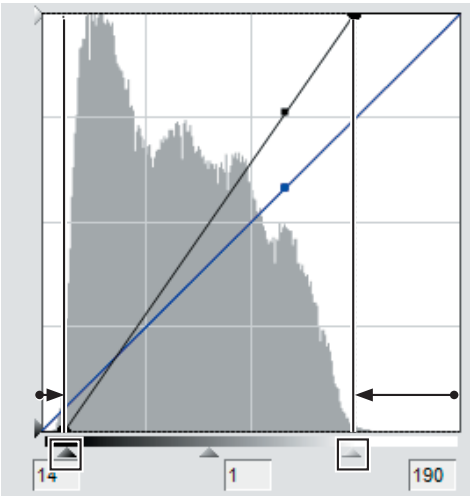
[**エディットリスト**] で新規ステップを作成し、[**調整を選択**] メニューにある [**明るさ**] の [**レベルとトーンカーブ**] からも選べます。



2 [ブラックポイントスライダー] と [ホワイトポイントスライダー] を動かしてコントラストを調整する

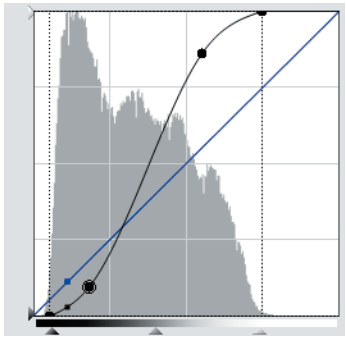
それぞれヒストグラムの山の端ぐらいまでスライダーを移動します。

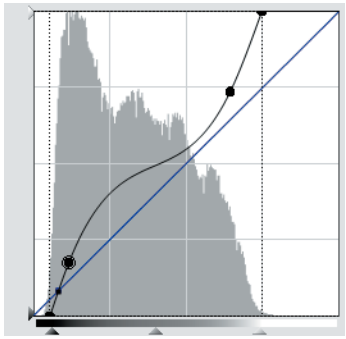




3 トーンカーブにアンカーポイントを追加して、アンカーポイントを動かして調整する

トーンカーブの形をS字状にするとコントラストが強まり、逆S字状にするとコントラストが弱まります。また、アンカーポイントはダイアログ外にドラッグすると削除できます。





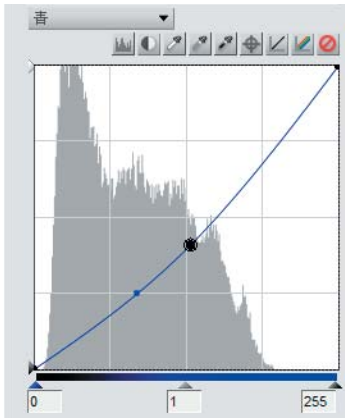




4 必要に応じて各チャンネルのトーンカーブも調整する

各チャンネルの調整を行うと、色かぶりなどを補正できます。



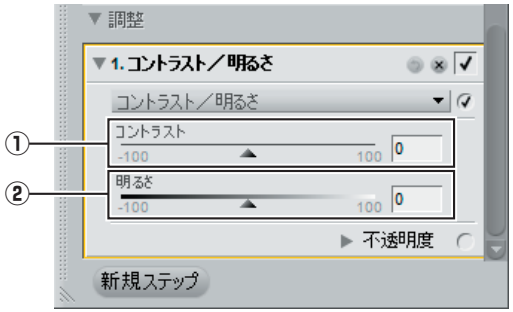


コントラスト/明るさ RAW TIFF JPEG

画像のコントラストと明るさを効果的に調整できます。

■ コントラスト/明るさダイアログ

［**コントラスト/明るさ**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



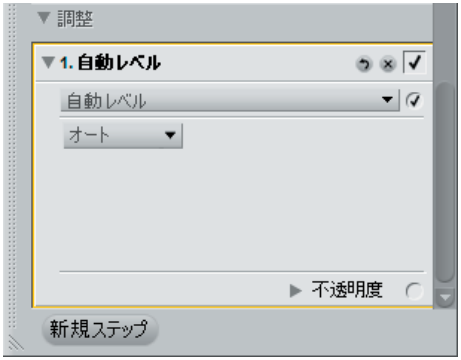
① コントラスト	画像のコントラストをコントロールできます。スライダーを左に動かすと画像全体のコントラストが弱まり、右に動かすとコントラストが強まります。
② 明るさ	画像を明るくしたり暗くしたりできます。スライダーを左に動かすと画像が暗くなり、右に動かすと明るくなります。

自動レベル RAW TIFF JPEG

画像の色調や明るさを判別し、画像の色情報を可能な色調の範囲全体に広げるよう自動的に調整します。

■ 自動レベルダイアログ

[**自動レベル**] を使用すると、[**エディットリスト**] に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



自動レベル方式

[**自動レベル**] を行う方法を選びます。

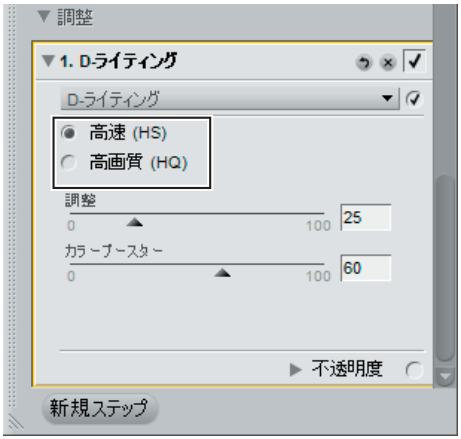
オート	画像の色調や明るさを判別し、画像のコントラストや色かぶりを自動的に調整します。
詳細設定	初期値（50）ではオートと同じ結果になります。コントラスト調整と色かぶり補正の度合いをスライダーで調整できます。  **コントラスト調整**：画像のコントラストを調整します。右に動かすとコントラストが強まります。 **色かぶり補正**：画像の色かぶり補正を調整します。右に動かすと補正の度合いが強まります。

D-ライティング RAW TIFF JPEG

逆光やフラッシュの光量不足などで暗くなった被写体を明るく調整したり、明るくなりすぎて白くとび気味な画像のハイライト部分の階調を調整します。

■ D-ライティングダイアログ

[**D-ライティング**] を使用すると、[**エディットリスト**] に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。まず、[**D-ライティング**] を適用する方法を [**高速 (HS)**] または [**高画質 (HQ)**] から選びます。選んだ方法によってダイアログの内容が変わります。



D-ライティング適用方法

[**D-ライティング**] を行う方法を選びます。

高速 (HS)	[**高画質 (HQ)**] よりも画質は劣りますが、短い時間で調整ができます。	
	調整	暗い部分、または白とび気味のハイライト部分を調整します。テキストボックスに数値 (0～100) を直接入力もできます。
	カラーブースター	[**D-ライティング**] に適した彩度を調整します。テキストボックスに数値 (0～100) を直接入力もできます。
高画質 (HQ)	[**高速 (HS)**] よりも時間はかかりますが、細かい調整ができます。	
	シャドー調整	画像の暗い部分を明るく調整します。テキストボックスに数値 (1～100) を直接入力することもできます。
	ハイライト調整	白くとび気味のハイライト部分のコントラストを補正し、ハイライト部分の階調を補正します。テキストボックスに数値 (1～100) を直接入力もできます。
	カラーブースター	[**D-ライティング**] に適した彩度を調整します。テキストボックスに数値 (0～100) を直接入力もできます。

画像のカラーを調整する

画像のカラーを調整するには、[**調整**] メニューにある [**カラー**] の各機能を使用します。

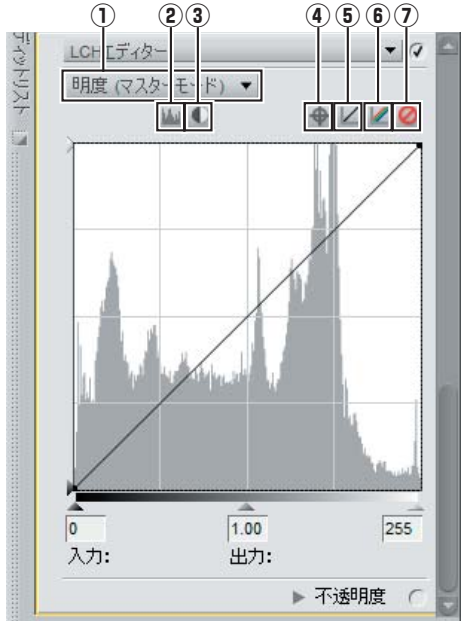
LCHエディター RAW TIFF JPEG

画像の明度、カラー明度、彩度、色相を [**チャンネルセレクター**] で選んで個別に調整できます。

ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Shiftキー ＋ Lキー

■ LCHエディターダイアログ

[**LCHエディター**] を使用すると、[**エディットリスト**] に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。ダイアログの内容は選んだチャンネルによって変わります。



① チャンネルセレクター	[**LCHエディター**] を適用するチャンネルを切り換えます。チャンネルには [**明度 (マスターモード)**]、[**カラー明度**]、[**彩度**]、[**色相**] があります。内容はそれぞれのチャンネルの説明を参照してください。 ショートカット 明度 (マスターモード) : Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ ^キー カラー明度 : Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ 1キー 彩度 : Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ 2キー 色相 : Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ 3キー

② **調整前/調整後ヒストグラム表示**	このボタンをクリックすると、調整前のヒストグラムと調整後のヒストグラムの表示を切り換えられます。調整後のヒストグラムは、[**LCHエディター**] で行なわれた変更と連動して常に更新されます。[**カラー明度**]、[**彩度**]、[**色相**] チャンネルでは使用できません。
③ **自動コントラスト**	ブラックポイントスライダーまたはホワイトポイントスライダーを自動的に移動させ、ヒストグラムのもっとも暗い点の値ともっとも明るい点の値に合わせます。[**カラー明度**]、[**彩度**]、[**色相**] チャンネルでは使用できません。
④ **アンカーポイントの設定**	このボタンをクリックすると、マウスカーソルがスポイトツールに変わります。イメージウィンドウ内をクリックすると、すべてのチャンネルのカーブ上に、その部分の色を表す新たなアンカーポイントを追加します。Ctrlキー(Mac OSはOptionキー) を押しながらクリックすると、現在のチャンネルにのみアンカーポイントを追加します。 アンカーポイントはダイアログ外にドラッグすると削除できます。
⑤ **現在のチャンネルをリセット**	このボタンをクリックすると、現在選んでいるチャンネルの変更を初期設定の値に戻します。
⑥ **すべてのチャンネルをリセット**	このボタンをクリックすると、[**LCHエディター**] で行ったすべてのチャンネルの変更を初期設定の値に戻します。
⑦ **一時キャンセル**	このボタンを押している間だけ、一時的に現在選んでいるチャンネルの効果を取り消します。ボタンを放すと再び効果が現れます。

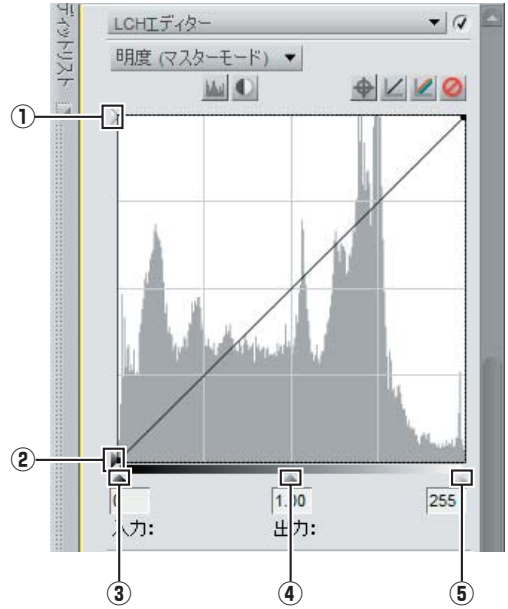
LCHエディター (明度(マスターモード)) ダイアログ

[**チャンネルセレクター**] で [**明度 (マスターモード)**] を選んだ場合のダイアログです。[**レベルとトーンカーブ**] とは異なり、カラーに影響せずに画像の明度だけを調整します。画像の色調を調整する場合に効果的です。画像内の明るさごとのピクセルの合計数を表すヒストグラムが表示されます。入力する明るさの値と出力する明るさの値の関係をコントロールするトーンカーブが、このヒストグラムに重ねて表示されます。

トーンカーブをクリックすると、アンカーポイントを作成できます。アンカーポイントを上に動かすと、色範囲で影響される部分にある色が明るくなります。同じアンカーポイントを下に動かすと、影響される色が暗くなります。アンカーポイントはダイアログ外にドラッグすると削除できます。

ヒストグラムは、同時に編集する場合はブラックからホワイトへの明るさを表します。個別のチャンネルを編集する場合はその色を一切含まないものからその色の最大の明るさまでを表します。画像の明るさを変更するには、[**ブラックポイントスライダー**]、[**ホワイトポイントスライダー**]、[**中間調ポイントスライダー**] を動かすか、トーンカーブを直接編集して行ないます。

参照 「ヒストグラム」(P.62)



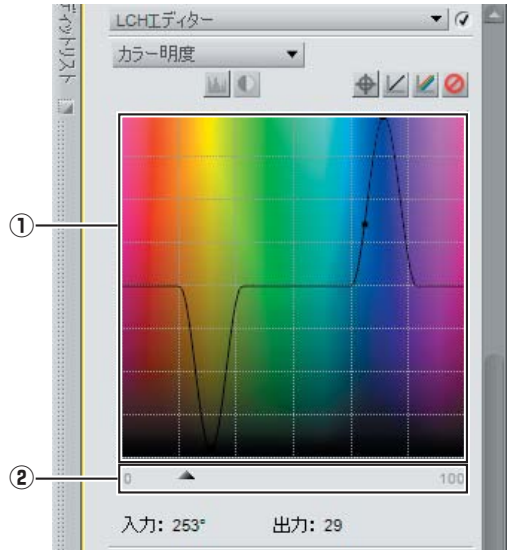
① **ホワイト出力スライダー**	画像の最大明るさレベルを設定します。[**ホワイト出力スライダー**] を下にドラッグすると画像のもっとも明るい部分が暗くなります。一般的にこのスライダーは、画像内でもっとも明るい色が白ではない場合に使用します。
② **ブラック出力スライダー**	画像の最小明るさレベルを設定します。[**ブラック出力スライダー**] を上にドラッグすると画像のもっとも暗い部分が明るくなります。一般的にこのスライダーは、画像内でもっとも暗い色が黒ではない場合に使用します。
③ **ブラックポイントスライダー**	[**ブラックポイントスライダー**] を右に動かすと、選択した点より左側の明るさを完全な黒（個別チャンネルの場合は、そのチャンネルの色がない色合い）に設定し、可能な数値範囲に明るさの範囲が収まるよう広げて再配分します。表示されているヒストグラムの左端の情報に [**ブラックポイントスライダー**] を合わせることをおすすめします。これにより、画像のもっとも暗い部分が、出力側で表示できるもっとも暗い部分に合うように画像が調整されます。
④ **中間調ポイントスライダー**	[**中間調ポイントスライダー**] を左に動かすと画像の中間色調が明るくなり、右に動かすと画像の中間色調が暗くなります。
⑤ **ホワイトポイントスライダー**	[**ホワイトポイントスライダー**] を左に動かすと、選択した点より右側の明るさの値を完全な白（個別チャンネルの場合は、そのチャンネルの色が最大の明るさの値）に設定し、可能な数値範囲に明るさの範囲が収まるよう広げて再配分します。表示されているヒストグラムの右端の情報に [**ホワイトポイントスライダー**] を合わせることをおすすめします。これにより、画像のもっとも明るい部分が、出力側で表示できるもっとも明るい部分に合うように画像が調整されます。

LCHエディター（カラー明度）ダイアログ

彩度や色相に影響を与えずに、特定の色の明度をコントロールします。カラー明度を使用すれば、他の被写体に影響を与えることなく肌の色を明るくしたり、風景の中の空を暗くしたりと、特定の色を目標として明度を上げられます。

カラー明度には［**色相マップ**］があります。水平軸が色のスペクトル全体、垂直軸が色の明度を表しています。［**色相マップ**］に重ねられるカラー明度カーブで個々の色の明るさを取り出して調整します。

カラー明度カーブをクリックすると、［**明度（マスターモード）**］のカーブ上にアンカーポイントを作成できます。Ctrlキー（Mac OSはOptionキー）を押しながらクリックすると、［**カラー明度**］のみ対象になります。アンカーポイントを上に動かすと、色範囲で影響される部分にある色の明度が高くなります。同じアンカーポイントを下に動かすと、影響される色の明度が低くなります。［**幅スライダー**］を利用して、アンカーポイントで特定される色に影響される類似の色の範囲を変更できます。アンカーポイントはダイアログ外にドラッグすると削除できます。



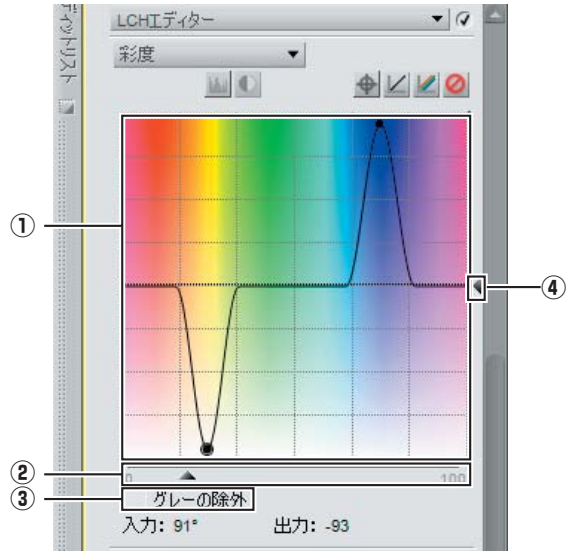
① **色相マップ**	水平軸は色のスペクトル全体、垂直軸は色の明度を表しています。
② **幅スライダー**	アンカーポイントで特定される色に影響される、類似の色の範囲を変更できます。

LCH エディター（彩度）ダイアログ

カラー明度や色相に影響を与えずに、特定の色の彩度をコントロールします。

彩度には［**色相マップ**］があります。水平軸が色のスペクトル全体、垂直軸が色の彩度を表しています。［**色相マップ**］に重ねられる彩度カーブで個々の色の彩度を取り出して調整します。

彩度カーブをクリックすると、［**明度（マスターモード）**］のカーブ上にアンカーポイントを作成できます。Ctrlキー（Mac OSはOptionキー）を押しながらクリックすると、［**彩度**］のみ対象になります。アンカーポイントを上に動かすと、色範囲で影響される部分にある色の彩度が高くなります。同じアンカーポイントを下に動かすと、影響される色の彩度が低くなります。幅スライダーを利用して、アンカーポイントで特定される色に影響される類似の色の範囲を変更できます。アンカーポイントはダイアログ外にドラッグすると削除できます。



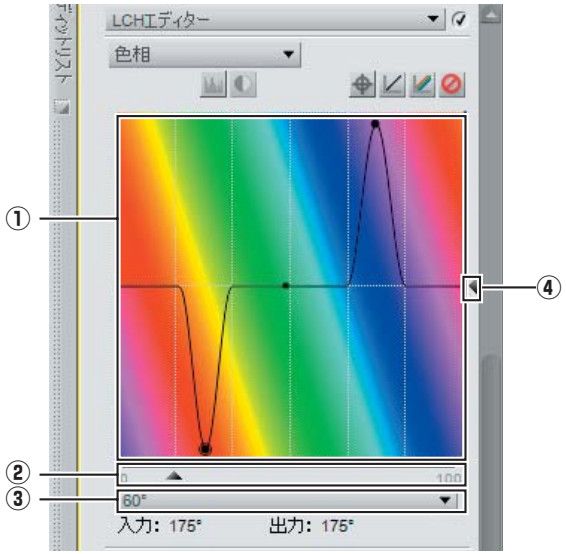
① 色相マップ	水平軸は色のスペクトル全体、垂直軸は色の彩度を表しています。
② 幅スライダー	アンカーポイントで特定される色に影響される、類似の色の範囲を変更できます。
③ グレーの除外	チェックを入れると、画像のニュートラルカラー（グレー）の彩度に影響を与えないようにします。彩度を高めると、ニュートラルカラーの彩度が高く見えすぎる場合があります。そのような場合に使用すると便利です。 MEMO 元画像の数値よりも彩度を低くした場合は影響ありません。
④ 出力スライダー	画像内にあるすべての色の彩度をコントロールします。スライダーを上に動かすとすべての色の彩度が高められ、下に動かすと低くなります。完全に彩度を落としてモノクロにすることはできません。

LCH エディター（色相）ダイアログ

カラー明度や彩度に影響を与えずに、特定の色の色相をコントロールします。画像の色を変更したり、画像の色がもっと自然な色相になるよう色を細かく調整できます。

色相には［**色相マップ**］があります。回転された水平軸に色のスペクトル全体を表します。初期設定では、［**色相マップ**］は60度回転しています。［**色相マップの回転**］プルダウンメニューからこの他の回転数値を選べます。［**色相マップ**］に重ねられる色相カーブで個々の色の色相を取り出して調整します。

色相カーブをクリックすると、［**明度（マスターモード）**］のカーブ上にアンカーポイントを作成できます。Ctrlキー（Mac OSはOptionキー）を押しながらクリックすると、［**色相**］のみ対象になります。アンカーポイントを動かすと、色範囲で影響される部分にある色が［**色相マップ**］で表示される別の色にシフトされます。このシフトは、［**色相マップ**］の回転に依存します。回転値が高ければ高いほど、大きなシフトが可能です。アンカーポイントはダイアログ外にドラッグすると削除できます。



① 色相マップ	水平軸は色のスペクトル全体、垂直軸は色の色相を表しています。
② 幅スライダー	アンカーポイントで特定される色に影響される、類似の色の範囲を変更できます。
③ 色相マップの回転	色相表示エリアの縦軸に表示される色相の範囲を、60 度、120 度、180 度から選択します。この角度は、表示可能な全ての色相を360 度とし、そのうちの縦軸上で選択可能な色の割合を意味します。角度が大きくなると選択できる色相が増え、角度が小さくなると色相が減り、微妙な調整がし易くなります。
④ 出力スライダー	画像内にあるすべての色の色相をコントロールします。スライダーを動かすとすべての色が同じ量だけシフトします。

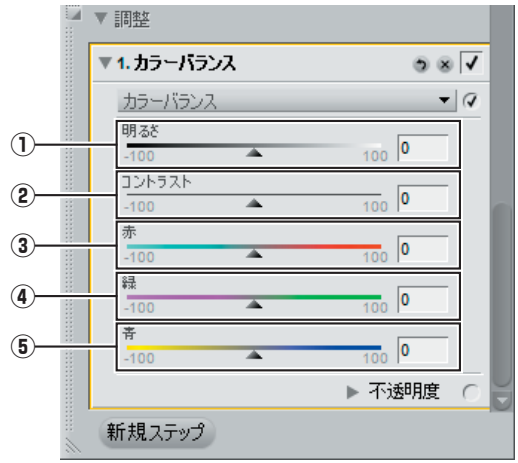
カラーバランス RAW TIFF JPEG

明るさ、コントラスト、カラーバランスを簡単に調整できます。

ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋Bキー

■ カラーバランスダイアログ

［**カラーバランス**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



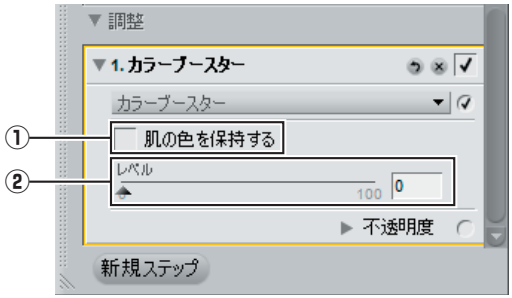
① **明るさ**	スライダーを左に動かすと画像が暗くなり、右に動かすと明るくなります。
② **コントラスト**	スライダーを左に動かすとコントラストが弱くなり、右に動かすと強くなります。
③ **赤**	スライダーを左に動かすと、画像の赤が弱くなりシアンが強くなります。右に動かすと、画像の赤が強くなりシアンが弱くなります。
④ **緑**	スライダーを左に動かすと、画像の緑が弱くなりマゼンタが強くなります。右に動かすと、画像の緑が強くなりマゼンタが弱くなります。
⑤ **青**	スライダーを左に動かすと、画像の青が弱くなりイエローが強くなります。右に動かすと、画像の青が強くなりイエローが弱くなります。

カラーブースター RAW TIFF JPEG

彩度を最適に調整し、画像の色の彩度を高めます。

■ カラーブースターダイアログ

［**カラーブースター**］を使用すると、［**エディットリスト**］に処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① 肌の色を保持する	チェックを入れると、肌の色に影響を与えずに画像の色を鮮やかにします。 チェックを外すと、肌の色にも影響を与えます。
② レベル	スライダーを右に動かすと彩度が高まります。

彩度/暖色 RAW TIFF JPEG

画像の彩度と暖色両方を効果的に調整します。

ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋Uキー

■ 彩度/暖色ダイアログ

［**彩度/暖色**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① 彩度	スライダーを左に動かすと彩度が低くなり、右に動かすと彩度が高まります。スライダーを左端まで動かすと、画像はモノクロ（彩度なし）になります。
② 暖色系調整	画像全体の寒色と暖色の色合いを調整します。スライダーを左に動かすと、画像全体の色調が青みがかった寒色系になります。右に動かすと、画像の色調の赤とオレンジが強くなった暖色系になります。

画像をぼかす

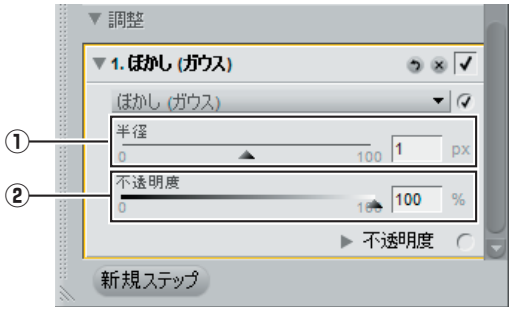
［**調整**］メニューにある［**フォーカス**］の［**ぼかし（ガウス）**］を使用すると、画像をぼかすことができます。

ぼかし（ガウス） RAW TIFF JPEG

画像の細部を大きく低下させてぼかします。目的の被写体を強調するには、周辺をぼかして視覚効果を低下させると効果的です。

■ ぼかし（ガウス）ダイアログ

［**ぼかし（ガウス）**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① 半径	画像に適用するぼかし効果の強さを設定します。スライダーを右に動かすほどぼかしが強くなります。
② 不透明度	［**ぼかし（ガウス）**］を元画像とブレンドし、細部とぼかし効果のバランスを調整できます。大きな半径と低い不透明度の組合わせは、かすんだようなソフトフォーカス効果を生み出し、小さな半径と中程度の不透明度の組合わせは、ぼんやりかすんだような仕上がりになります。

画像の細部を消去する

［**調整**］メニューにある［**フォーカス**］の［**ハイパス**］を使用すると、画像の細部を消去することができます。

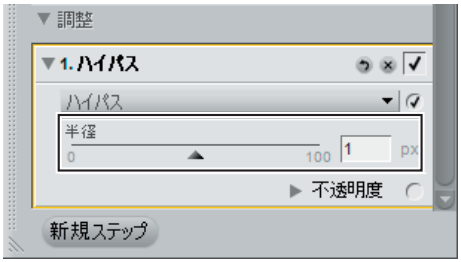
ハイパス RAW TIFF JPEG

画像の非常に強いエッジ以外の細部をすべて消去してグレー画像にします。画像内のエッジ部分だけが残るため、この処理の［**不透明度**］や［**描画モード**］を調整すれば細部のレベルを上げられます。

参照 「不透明度」(P.80)

■ ハイパスダイアログ

［**ハイパス**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



半径

画像で表示されるエッジの大きさをコントロールします。このスライダーの設定は画像サイズによるため、ある画像に適した半径設定でも異なる解像度の画像には適さないことがあります。

ハイパスを使用して細部のエッジを引き立てる

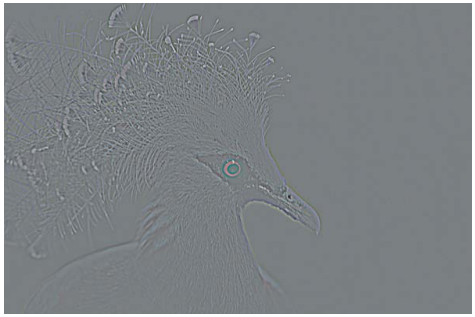
1 ［調整］メニューにある［フォーカス］の［ハイパス］を選ぶ

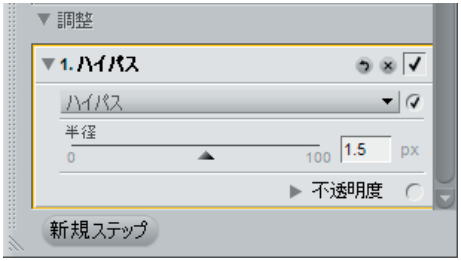
MEMO ［**エディットリスト**］で新規ステップを作成し、［**調整を選択**］メニューにある［**フォーカス**］の［**ハイパス**］からも選べます。



2 [エディットリスト] の [ハイパス] ダイアログで [半径] を調節する

エッジ部分だけを残して画像がグレーになります。





3 [エディットリスト] の [ハイパス] ダイアログで [不透明度] を開き、[明るさと色] モードを選ぶ

画像の表示は変わりません。

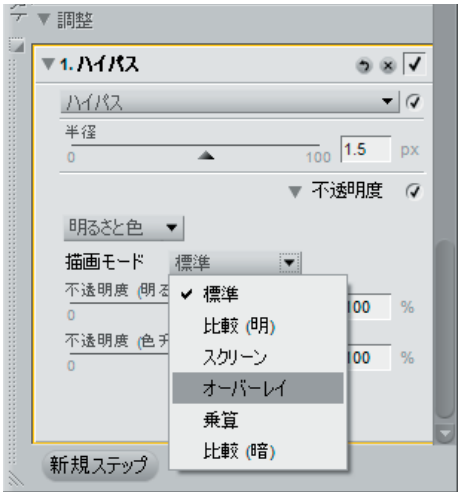


4 [ハイパス] ダイアログの [不透明度] にある [描画モード] で [オーバーレイ] 選ぶ

画像のエッジがより強調されます。







画像のシャープネスを向上させる

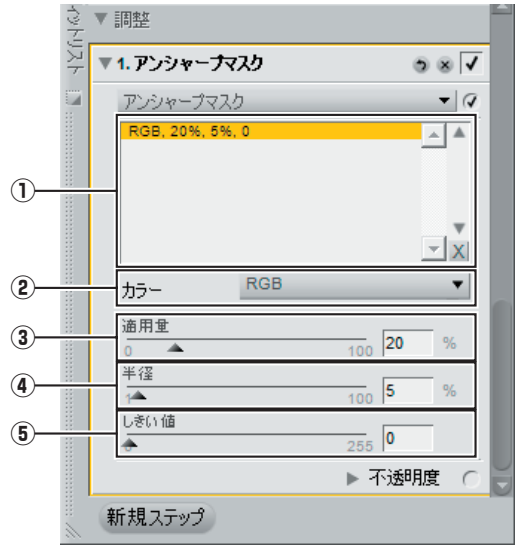
画像のシャープネスを向上させるには、[**調整**] メニューにある [**フォーカス**] の [**アンシャープマスク**] を使用します。

アンシャープマスク RAW TIFF JPEG

画像のエッジのコントラストを高めることで輪郭を強調して、シャープネスを向上させます。アンシャープマスクは、常に画像の輝度に対して輪郭強調が適用されるため、画像内の色ずれが起こりません。適切な値を探すには拡大率100%で行うことをおすすめします。

■ アンシャープマスクダイアログ

[**アンシャープマスク**] を使用すると、[**エディットリスト**] に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① リストボックス	すでに調整したチャンネルの適用値がリスト表示されています。リストをクリックすると再びそのチャンネルを調整できます。リストを選んで X ボタンをクリックすると、削除できます。また、リストを選んで ▲ / ▼ ボタンをクリックすると、処理の順番を入れ替えられます。
② カラー	シャープネスを上げたいチャンネルを選びます。初期設定ではRGBが選ばれ、すべてのチャンネルのシャープネスを向上させます。また、各チャンネルごとの調整もできます。
③ 適用量	シャープネスの強度を設定します。数値を大きくするほどシャープが強くかかり、濃いエッジがかかります。

④ 半径	エッジの太さを設定します。数値を大きくするほど太いエッジが、小さくするほど細いエッジがつきます。
⑤ しきい値	エッジをつけるかつけないかの適用基準を設定します。しきい値を0 にすると、すべてのエッジに対してシャープがかかります。数値を大きくすると、濃淡の変化が小さい部分にはエッジがつかず、シャープがかからなくなります。

■ 適用量のサンプル


元画像


適用量：50
半径：5
しきい値：0


適用量：100
半径：5
しきい値：0

■ 半径のサンプル


元画像


適用量：100
半径：20
しきい値：0


適用量：100
半径：60
しきい値：0

■ しきい値のサンプル


元画像


適用量：100
半径：5
しきい値：0


適用量：100
半径：5
しきい値：20

画像のゆがみを補正する

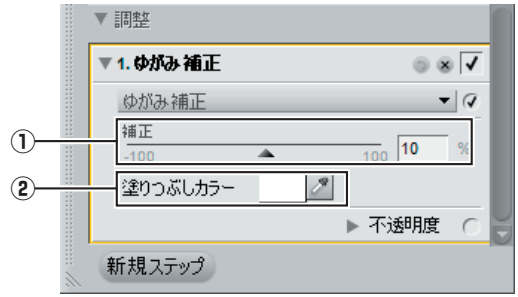
［**調整**］メニューにある［**補正**］の［**ゆがみ補正**］を使用すると、レンズによる画像のゆがみを補正できます。

ゆがみ補正 RAW TIFF JPEG

糸巻き形ゆがみや樽形ゆがみを補正します。糸巻き形ゆがみは、画像の中心に向かって引き込まれるかのように見えるもので、主に望遠レンズで撮影した画像で起こります。樽形ゆがみは、糸巻き形ゆがみとは逆に画像の中心から外に向かって弓形に押し出されているかのように見えるもので、主に広角レンズで撮影した画像で起こります。糸巻き形ゆがみと樽形ゆがみは、画像の端の方がはっきりします。

■ ゆがみ補正ダイアログ

［**ゆがみ補正**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① **補正**	糸巻き形ゆがみを補正するには、スライダーを左に動かします。樽形ゆがみを補正するには、スライダーを右に動かします。
② **塗りつぶしカラー**	糸巻き形ゆがみを大きく補正すると、元画像より小さくなり、画像情報が含まれていない部分が生じる場合があります。画像情報が含まれていない部分を塗りつぶす色をカラーピッカーで選びます。スポイトボタン をオンにして画像をクリックすると、その部分の色で塗りつぶします。

参照 「カラーピッカーで色を選ぶ」(P.260)

色ずれを補正する

［**調整**］メニューにある［**補正**］の［**色収差補正**］を使用すると、レンズによる画像の色ずれを補正できます。

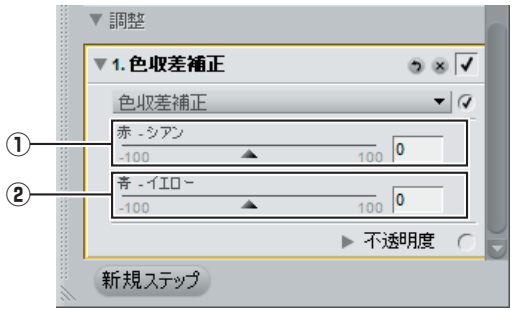
色収差補正 RAW TIFF JPEG

色収差による色ずれを調整・補正します。色収差とは、異なる波長の光がレンズを通り抜けて屈折する際に、その屈折角が異なるために起こる現象のことです。画像の中心から離れた位置にある被写体の縁に色ずれが起こります。処理の効果を見るには、画像の四隅を確認します。画像の四隅がわかりやすいように、拡大率100%で見ることをおすすめします。デジタル一眼レフのカメラで撮影されたRAW画像の場合、［**現像**］セクションにある［**カメラとレンズの補正**］の［**自動色収差補正**］が適用されています。

参照 「自動色収差補正」(P.111)

■ 色収差補正ダイアログ

［**色収差補正**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① 赤 — シアン	赤チャンネルを調整して、赤またはシアンの色にじみを減少させます。スライダーを左に動かすと赤の色にじみが減少し、右に動かすとシアンの色にじみが減少します。
② 青 — イエロー	青チャンネルを調整して、青またはイエローの色にじみを減少させます。スライダーを左に動かすと青の色にじみが減少し、右に動かすとイエローの色にじみが減少します。

画像のざらつきを軽減する

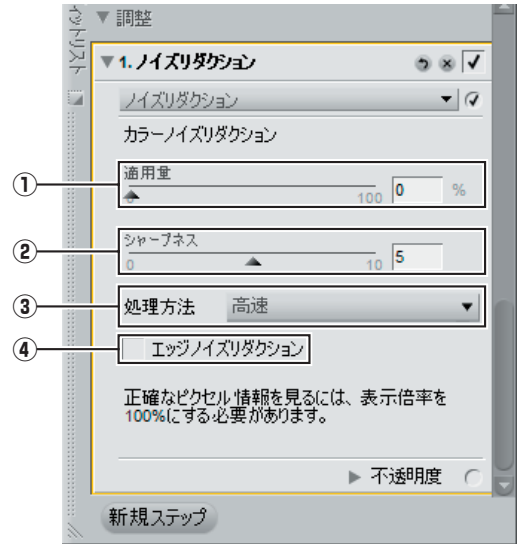
［**調整**］メニューの［**ノイズリダクション**］を使用すると、画像のざらつき感を軽減できます。

ノイズリダクション RAW TIFF JPEG

カメラで高感度撮影された画像などに現れるざらつき感を低減します。ノイズリダクションの量を判断する場合は、拡大率100%で見ることをおすすめします。

■ ノイズリダクションダイアログ

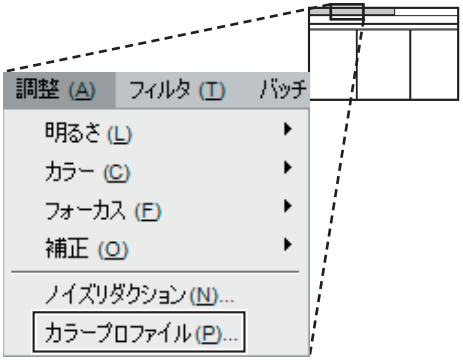
［**ノイズリダクション**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① **適用量**	スライダーを右に移動して値を上げると、画像全体のざらつき感が低減され、なめらかな状態になります。
② **シャープネス**	［**適用量**］を上げすぎるとなめらかになりすぎて解像度が低いような画像になりますが、スライダーを右に動かして［**シャープネス**］の数値を上げると質感を高められます。
③ **処理方法**	［**高速**］または［**高画質**］から選択します。［**高画質**］の場合、［**高速**］よりも処理時間はかかりますが、精度の高い処理を実行します。
④ **エッジノイズリダクション**	チェックを入れると、被写体のエッジのノイズを低減して輪郭をはっきりさせます。

画像にカラープロファイルを適用する

［**調整**］メニューの［**カラープロファイル**］を使用すると、画像にカラープロファイルを適用できます。



カラープロファイル RAW TIFF JPEG

カラーマネージメントを使用してプロファイルを適用したり、現在のプロファイルを変更したりします。

Capture NX 2は、使用されているOSの初期設定のカラープロファイルフォルダを利用します。他のプロファイルを追加または作成した場合は、新しいプロファイルが初期設定のフォルダにあることを確認してください。一般的にカラープロファイルは次のフォルダに保存されています。

Windows Vista: Windows/System32/spool/drivers/color

Windows XP: Windows/System32/Spool/Drivers/Color

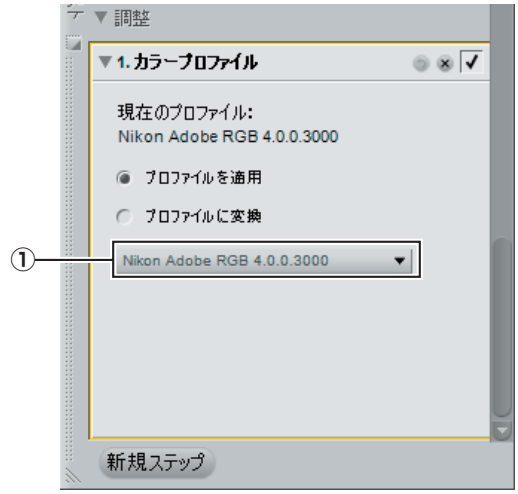
Mac OS X: Library/ColorSync/Profiles

［**カラープロファイル**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。ダイアログの内容は、［**プロファイルを適用**］または［**プロファイルに変換**］を選ぶことができます。

［**プロファイルを適用**］をオンにすると、表示されている画像に指定したプロファイルを適用します。例えば、表示されている画像の持つプロファイルが正しくない場合、適切なプロファイルを指定することにより、正しい色で表示することができます。画像を保存すると、適用したプロファイルの画像として保存されます。

［**プロファイルを変換**］をオンにすると、表示されている画像のプロファイルを指定したプロファイルに変換します。たとえば、表示されている画像の持つプロファイルが色域の広いAdobe RGBの場合、カラーマネージメントに対応していないアプリケーションで画像を開くと、色がくすんだ状態で表示されてしまいます。色域の狭いプロファイル（たとえばsRGB）に変換しておけば、このようなアプリケーションで画像を開いても、見栄えのいい色で表示できるようになります。

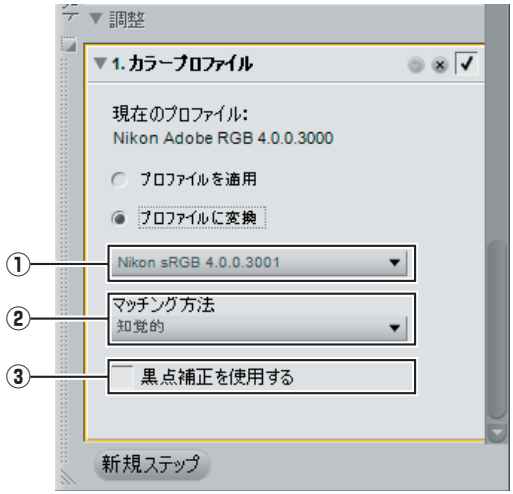
■［プロファイルを適用］を選択した場合



プロファイル
画像に適用するプロファイルを選びます。

MEMO プロファイルを適用すると、モニター上では画像が変化することがありますが、色の値は変化しません。これは、入力機器のために作成されたプロファイルに基づいて画像全体の色の表示を更新するためです。

■［プロファイルに変換］を選んだ場合



① **プロファイル**	変換先のプロファイルを選びます。
② **マッチング方法**	画像に適用するマッチング方法を選びます。マッチング方法は、設定したプロファイルをもとに、プリンターが作成できる色に合うように画像の色をコントロールします。

知覚的	選択した画像の色が設定したプロファイルが持つ色域の外にある場合に、設定したプロファイルの色域内に収まるように画像の色全体を圧縮します。
彩度	彩度の高い色を作りますが、オリジナルの画像の色と異なる場合があります。
相対的な色域	選択した画像の色が、設定したプロファイルが持つ色域内にある場合は、色の変更を行いません。設定したプロファイルが持つ色域外にある場合には、できるだけ近い色に置き換えます。
絶対的な色域	設定したプロファイルが持つ色域外にある場合には、できるだけ近い色に置き換えます。［相対的な色域］と似ていますが、画像のホワイトポイントを設定したプロファイルで定義されているホワイトポイントに置き換えません。用紙の色の影響も含めて出力機器の結果を再現するため、普段使用するプリンター以外の印刷機器で画像を校正する場合におすすめです。

③ **黒点補正を使用する**	チェックを入れると、黒点補正を使用します。画像の黒点がプリンターの黒点に対応するため、プリンターのカラー範囲をフルに使用できます。印刷結果にグレーのシャドー部分がある場合や画像の絵柄が細かくない場合はチェックを外してください。プリンターとプロファイルの組合せで問題が発生しない限り、常に使用することをおすすめします。［**マッチング方法**］で［**絶対的な色域**］を選ぶと使用できません。

白黒やセピアの画像にする

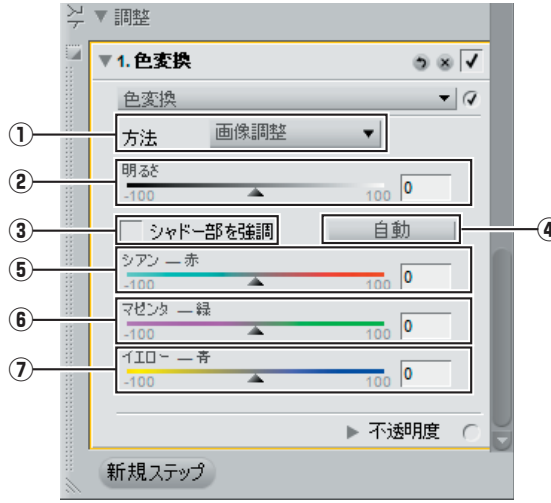
［**フィルタ**］メニューの［**色変換**］を使用すると、白黒やセピア色など、モノトーンの画像にできます。

色変換 RAW TIFF JPEG

白黒、セピア、その他の色味の画像を作成できます。また画像の色調をコントロールしたり、暗い色調を強調したり、カラーバランスの調整も行えます。

■ 色変換ダイアログ

［**色変換**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① 方法	画像に適用したい処理方法を選びます。ひとつのモードしか選べません。 画像調整：初期設定のモードで、画像の色調を調整したり、カラーバランスを調整できます。 白黒：画像を白黒画像に変換します。 セピア：画像をセピア画像に変換します。 その他の色味：画像をモノトーンに変換します。3つの色（シアン ― 赤、マゼンタ ― 緑、イエロー ― 青）のスライダーを使用して、モノトーン画像を着色できます。
② 明るさ	画像全体の色調を調整します。スライダーを左に動かすと画像が暗くなり、右に動かすと明るくなります。
③ シャドー部を強調	チェックを入れると、シャドー部をくっきりさせます。

④ 自動	自動的に明るさを調整します。また［**シャドー部を強調**］を適用するかを自動的に判断します。
⑤ シアン — 赤	画像の色をシアンから赤にシフトできます。スライダーを左に動かすと画像の赤が弱まってシアンが強くなり、右に動かすと画像の赤が強くなってシアンが弱まります。このスライダーは［**方法**］で［**セピア**］を選ぶと使用できません。
⑥ マゼンタ — 緑	画像の色をマゼンタから緑にシフトできます。スライダーを左に動かすと画像の緑が弱まってマゼンタが強くなり、右に動かすと画像の緑が強くなってマゼンタが弱まります。このスライダーは［**方法**］で［**セピア**］を選ぶと使用できません。
⑦ イエロー — 青	画像の色をイエローから青にシフトできます。スライダーを左に動かすと画像の青が弱まってイエローが強くなり、右に動かすと画像の青が強くなってイエローが弱まります。このスライダーは［**方法**］で［**セピア**］を選ぶと使用できません。

ノイズを加えてフィルム粒子風の効果を出す

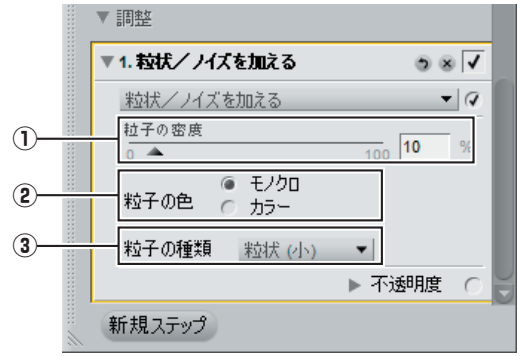
［**フィルタ**］メニューの［**粒状/ノイズを加える**］を使用すると、画像にノイズを加えられます。

粒状/ノイズを加える RAW TIFF JPEG

粒子あるいはノイズの効果を画像に加えます。さまざまな大きさのフィルム粒子のような効果を画像に適用すると、単調な画像に効果的な階調表現が生まれます。

■ 粒状/ノイズを加えるダイアログ

［**粒状/ノイズを加える**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① **粒子の密度**	スライダーを右に動かすと、粒状/ノイズの量が増えます。
② **粒子の色**	粒子/ノイズの色を［モノクロ］または［カラー］から選びます。
③ **粒子の種類**	処理方法をメニューから選びます。

特定色のコントラストを調整する

［**フィルタ**］メニューの［**コントラスト：色範囲**］を使用すると、特定の色の部分だけコントラストを調整できます。

コントラスト：色範囲 RAW TIFF JPEG

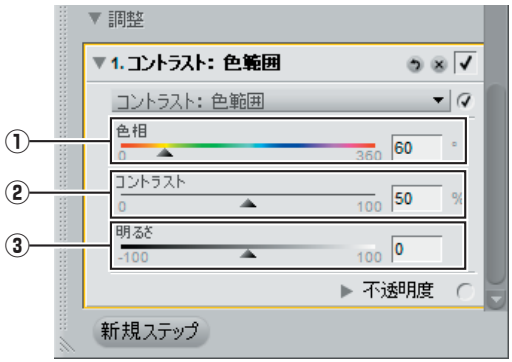
画像全体に色かぶりを生じさせず、画像内で選んだ色とその補色のコントラストを調整できます。

MEMO 補色とは、その色同士をかけ合わせると無彩色（グレー）になる色の組合せのことです。［**カラーピッカー**］の［**色ホイール**］で、それぞれの色の対面にある色が補色の関係になります。

参照 「カラーピッカーで色を選ぶ」（P.260）

■ コントラスト：色範囲ダイアログ

［**コントラスト：色範囲**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① **色相**	コントラストを適用するカラーレンジを選びます。選ばれた色は明るくなり、その色の補色は暗くなります。たとえばスライダーの赤の部分を選ぶと、赤が明るくなり、赤の補色のシアンは暗くなります。
② **コントラスト**	スライダーを右に動かすと効果が強くなり、選ばれた色はより明るく、補色はより暗くなります。左に動かすと効果が弱まります。
③ **明るさ**	画像全体の明るさを調整します。スライダーを左に動かすと画像が暗くなり、右に動かすと明るくなります。

画像に色を加える

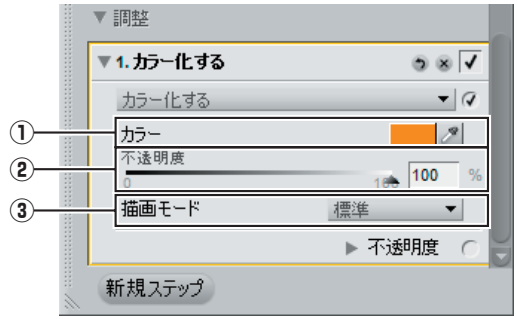
［**フィルタ**］メニューの［**カラー化する**］を使用すると、画像に他の色をかぶせることができます。

カラー化する RAW TIFF JPEG

画像全体または選択範囲部分を単色で塗りつぶします。［**不透明度**］や［**描画モード**］を調整すると、画像にカラーフィルタをかけたような印象になります。

■ カラー化するダイアログ

［**カラー化する**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① **カラー**	塗りつぶす色をカラーピッカーで選びます。また、スポイトボタン をオンにすると、クリックした部分の色を選べます。 参照 「カラーピッカーで色を選ぶ」(P.260)
② **不透明度**	スライダーを右に動かすほど不透明度が高くなり、濃く塗りつぶされます。
③ **描画モード**	元画像と塗りつぶした色をどのようにブレンドするかを設定します。 参照 「不透明度」(P.80)

白黒画像に変換する

［**フィルタ**］メニューの［**白黒変換**］を使用すると、画像を白黒に変換できます。

白黒変換 RAW TIFF JPEG

ハイライト、シャドー、元画像との関係を調整しながら、カラー画像を白黒に変換します。

ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Shiftキー ＋ Bキー

■ 白黒変換ダイアログ

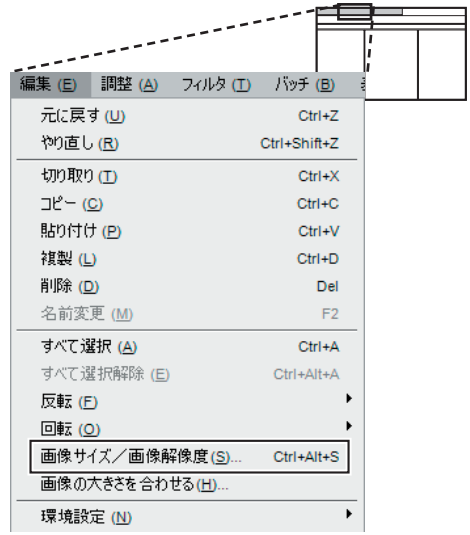
［**白黒変換**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① **フィルタ色相**	カラーから白黒に画像を変換する場合に使用するフィルタの色相を選びます。
② **カラーフィルタの強度**	フィルタの強度を設定します。スライダーを右に動かして強度を高く設定するほど、フィルタの結果が強調されます。
③ **明るさ**	画像全体の明るさを調整します。スライダーを左に動かすと画像が暗くなり、右に動かすと明るくなります。
④ **コントラスト**	画像のコントラストを調整できます。スライダーを左に動かすと画像全体のコントラストが弱まり、右に動かすとコントラストが強まります。

画像のサイズを調整する

［**編集**］メニューの［**画像サイズ/画像解像度**］を使用すると、画像のサイズを変更できます。また、［**編集**］メニューの［**画像の大きさを合わせる**］を使用すると、複数の画像のサイズを合わせられます。



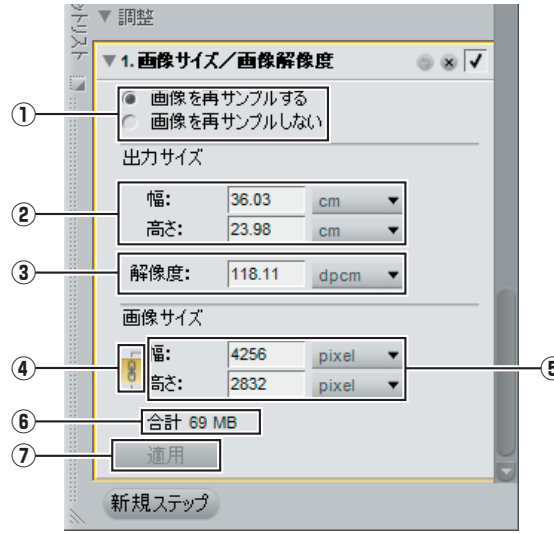
画像サイズ/画像解像度 RAW TIFF JPEG

出力する画像のサイズを変更できます。また、画像のピクセル数を増減してファイル自体の大きさを変えることもできます。

ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Altキー（Mac OSはoptionキー）＋ Sキー

■ 画像サイズ/画像解像度ダイアログ

［**画像サイズ/画像解像度**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① 画像サイズ変更モード	画像サイズを変更するモードを選びます。画像のピクセル数を変更して［**画像サイズ**］を変更するときは［**画像を再サンプルする**］を選びます。［**画像サイズ**］を変更せずに、［**出力サイズ**］や［**解像度**］を変更するときは［**画像を再サンプルしない**］を選びます。
② 出力サイズ	出力する場合のサイズを設定します。この値を変更すると、［**画像を再サンプルしない**］にチェックを入れている場合は、［**画像サイズ**］の値をもとに［**解像度**］が変更されます。［**画像を再サンプルする**］にチェックを入れている場合は、［**解像度**］をもとに［**画像サイズ**］が変更されます。
③ 解像度	画像の解像度を変更します。メニューで単位を［dpi］か［dpcm］から選べます。ここの値を変更すると、［**画像を再サンプルしない**］にチェックを入れている場合は、［**画像サイズ**］の値をもとに［**出力サイズ**］が変更されます。［**画像を再サンプルする**］にチェックを入れている場合は、［**出力サイズ**］をもとに［**画像サイズ**］が変更されます。
④ リンク	［**画像サイズ**］や［**出力サイズ**］で［**幅**］または［**高さ**］を変更すると、縦横比が保たれるようにもう一方の値が自動的に変更されます。このボタンをオフにすると、それぞれの値を個別に入力できます。
⑤ 画像サイズ	画像のピクセル数を変更して、画像自体のサイズを変更します。大きさに合わせてファイル容量も変更されます。大きく撮影した画像を縮小する場合に使用します。画像を大きくすることもできますが、画質が劣化するためおすすめしません。メニューで単位を［pixel］か［%］から選べます。［**画像を再サンプルする**］にチェックを入れている場合のみ有効になります。値を変更すると、［**解像度**］をもとに［**出力サイズ**］が変更されます。
⑥ ファイル容量	画像のファイル容量を表示します。
⑦ 適用	このボタンをクリックするとサイズが変更されます。

MEMO

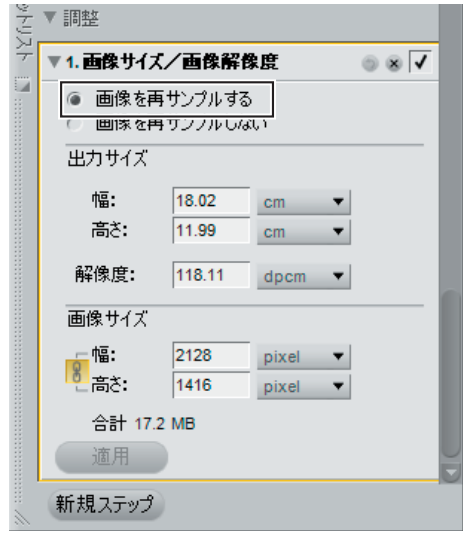
コントロールポイントを設定した後に、［**回転**］、［**クロップ**］、［**反転**］、［**傾き**］、［**画像サイズ/画像解像度**］を行うと、コントロールポイントの位置がずれて表示される場合があります。コントロールポイントを使用する場合は、これらの画像調整の後に行ってください。

画像のサイズを変更する

ここでは［**画像サイズ**］を縮小してファイル容量を減らす方法を説明します。

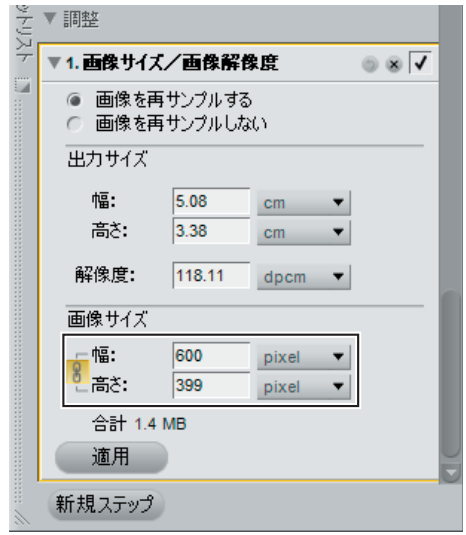
1 ［編集］メニューの［画像サイズ/画像解像度］を選び、［エディットリスト］で［画像を再サンプルする］を選ぶ

［**画像サイズ**］の欄が入力可能になります。



2 ［画像サイズ］の［幅］または［高さ］に変更したいサイズを入力する

一方を入力すると、もう一方も自動的に縦横比を保ったサイズに変更されます。ファイル容量も合わせて変化します。



MEMO

縦横比を変更する

それぞれの値を個別に入力するには［**リンク**］をオフにしてください。

サイズの単位

ピクセル数で指定するほか、パーセンテージでもサイズを変更できます。

3 ［適用］をクリックして処理を適用する

MEMO

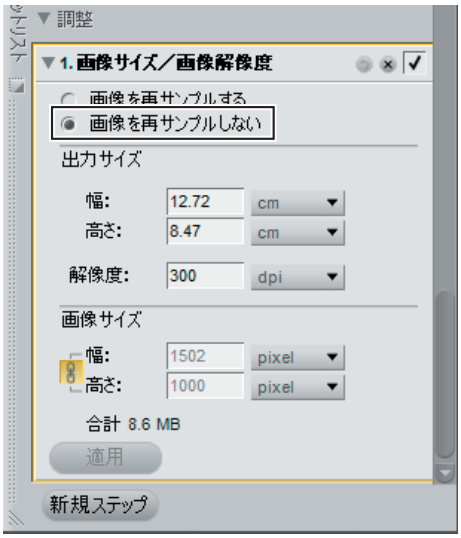
［**画像サイズ**］を変更すると、同じ処理を同じ値で適用しても効果が変わります。画像サイズの変更は、一連の画像処理の中で最初にすることをおすすめします。

画像の解像度を変更する

ここではプリントする画像を、解像度250dpi、幅約10センチメートルに設定する方法を例にとって説明します。

1 [編集] メニューの [画像サイズ/画像解像度] を選び、[エディットリスト] で [画像を再サンプルしない] を選ぶ

[**解像度**] と [**出力サイズ**] の欄が入力可能になります。

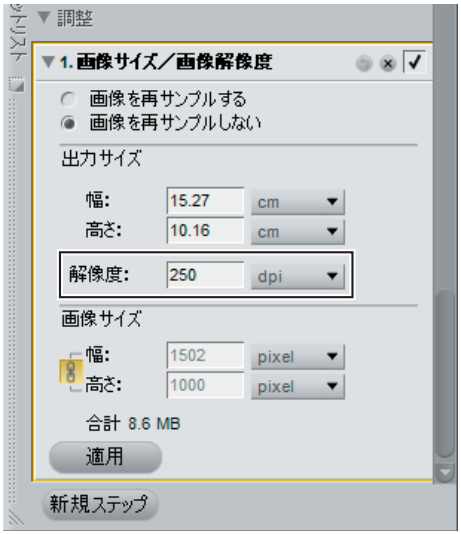


2 [解像度] を250dpiに設定する

[**解像度**] を250dpiに設定します。単位が [**dpcm**] になっていた場合、[**dpi**] に変更してください。家庭用プリンターで印刷する場合、解像度は150～300dpiが適切です。

[**解像度**] を変更すると、[**画像サイズ**] と [**解像度**] をもとにして [**出力サイズ**] が変更されます。たとえば250dpiに設定すると、幅1502ピクセル、高さ1000ピクセルの画像は幅15.27cm、高さ10.16cmで出力されます。

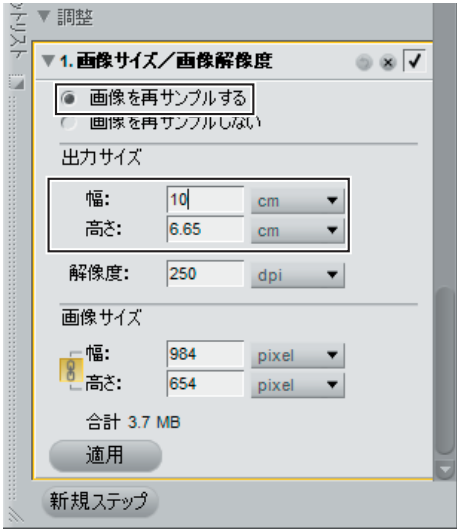
解像度だけを変更したい場合はこれで終了です。さらに [**出力サイズ**] を設定してプリントするサイズを指定する場合は次のステップに進みます。



3 [画像を再サンプルする] にチェックを入れて [出力サイズ] の [幅] または [高さ] に出力したいサイズを入力する

一方を入力すると、もう一方も自動的に縦横比を保ったサイズに変更されます。[**出力サイズ**] に値を入力すると、[**解像度**] と [**出力サイズ**] をもとに [**画像サイズ**] が変更されます。

解像度250dpi、幅10cm、高さ6.65cmで出力したい場合、必要な [**画像サイズ**] は幅984ピクセル、高さ654ピクセルになることがわかります。

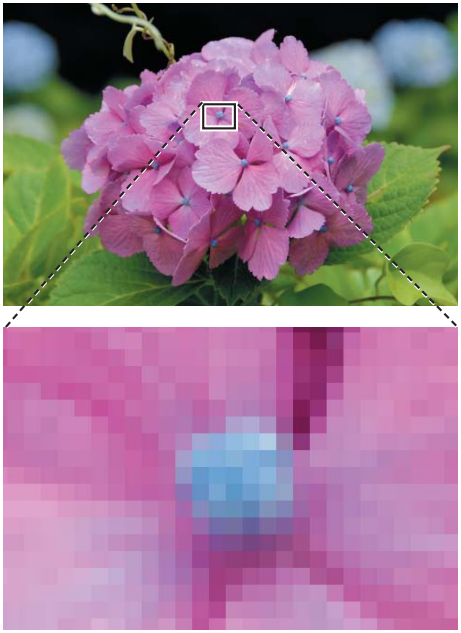


MEMO それぞれの値を個別に入力するには [**リンク**] をオフにしてください。

4 [適用] をクリックして処理を適用する

MEMO [**画像サイズ**] を変更すると、同じ処理を同じ値で適用しても効果が変わります。画像サイズの変更は、一連の画像処理の中で最初にすることをおすすめします。

解像度と出力サイズの関係



デジタルカメラで撮影した画像を拡大してみると、小さな四角で画像が構成されていることがわかります。この四角を「ピクセル（ドット）」といい、画像を構成する最小の単位です。[**画像サイズ**] の欄に表示されている数字は、画像が何ピクセルで構成されているかを示しています。

各ピクセルはそれぞれ色の情報を持っています。このピクセルが少しずつ色を変えて連続して並んでいるため、人間の目にはなめらかな画像に見えます。

このピクセルが、「1インチ（単位 [**dpi**] の場合）にいくつ入っているか」を表したものが解像度です。単位が [**dpcm**] の場合、「ピクセルが1センチメートルにいくつ入っているか」を表します。「解像度300dpi」ならば、「1インチの中に300ピクセル並んでいる」ということになります。

同じ1インチの中に多くのピクセルが入っていれば（解像度が高ければ）、画像はなめらかに見えます。反対に入っているピクセルが少なければ（解像度が低ければ）、画像はなめらかさを失い、ぼんやりしたりガタガタした印象に見えます。

解像度は高ければ高いほどいいというわけではなく、解像度には使用用途に合わせてそれぞれ適した値があります。

使用用途	適切な解像度
インターネットのWebページに掲載	72～96dpi
インクジェットプリンターで印刷	150～300dpi
書籍や雑誌などの商業用印刷	350～600dpi

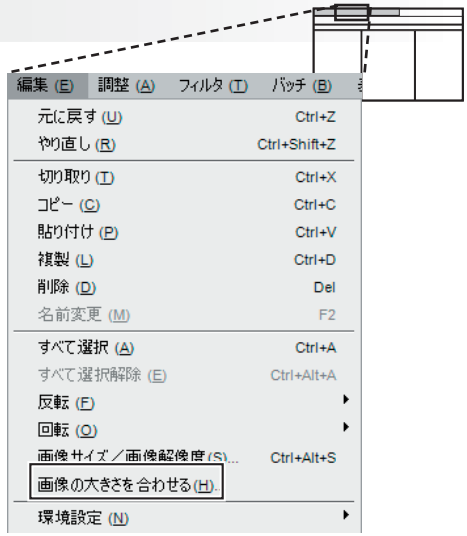
これは、それぞれの出力機器の性能によるものです。たとえばインターネットで使用する場合、出力機器はモニターになります。一般的なモニターの出力解像度は96dpiのため、画像の解像度は72～96dpiが適切となります。モニターと同様に、インクジェットプリンターや商業印刷用印刷機の出力解像度は上の表のような制限があり、画像の解像度をそれ以上に設定しても出力できません。

また、同じ画像サイズ（ピクセル数）の画像ならば、解像度を高くするほど実際に出力できる大きさ（出力サイズ）は小さくなります。たとえば、幅600ピクセルの画像があったとします。解像度を72dpiに設定すると、1インチあたり72ピクセル入るため、幅は約8.3インチ（約21.1センチメートル）で出力できます。解像度を300dpiにすると、1インチあたり300ピクセル入るため、幅は約2インチ（約5センチメートル）になります。

画像の大きさを合わせる RAW TIFF JPEG

画像の幅と高さを設定して画像サイズを変更します。画像の縦横比が設定サイズと合っていない場合、縦横比を保ちながら長辺の長さに合わせて画像サイズを変更します。この画像処理ステップを［**バッチ**］メニューの［**調整の保存**］で保存してバッチ処理を行えば、複数の画像のサイズを合わせられます。

参照 「調整の保存」(P.242)



■ 画像の大きさを合わせるダイアログ

［**画像の大きさを合わせる**］を使用すると、［**エディットリスト**］に画像処理ステップとしてダイアログが表示されます。



① 幅/高さ	画像のサイズを設定します。単位は［pixel］、［inch］、［mm］、［cm］から選べます。 MEMO サイズは［**幅**］と［**高さ**］両方に長辺の値を設定することをおすすめします。たとえば、50mm×30mmにサイズ変更したい場合、［**幅**］と［**高さ**］に50mmと設定すると、縦位置の画像と横位置の画像が混在しても、どちらの写真も長辺が50mmに設定されます。
② 適用	クリックすると、現在イメージウィンドウで開いている画像を指定した画像サイズに変更します。画像の縦横比は長辺の長さに合わせて保たれます。

画像の一部分を選択して調整する

Cacture NX 2には、画像の一部を選択してその部分だけを調整する機能があります。

画像に適用する処理の範囲を簡単に設定する P.188
画像処理を行う部分を選択する P.197
一部に対して処理効果を調整する P.200
画像処理をグラデーション状に適用する P.205
選択範囲内に処理を適用/削除する P.209
選択範囲を表示する P.210

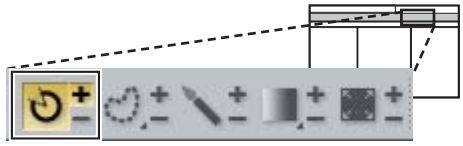
画像に適用する処理の範囲を簡単に設定する

[**選択コントロールポイント**] は、部分的に画像調整を行なうツールです。画像内の調整部分に置かれた [**選択コントロールポイント**] は、その部分の色の特性を識別し、調整部分を自動的に選択します。

参照 「コントロールポイントとは」(P.119)

選択コントロールポイント

選択コントロールポイントは、[**選択コントロールポイント**] ツールから使用します。画像をクリックすると、その場所に選択コントロールポイントが置かれます。選択コントロールポイントを置くと、現在適用している処理を部分的に適用できます。

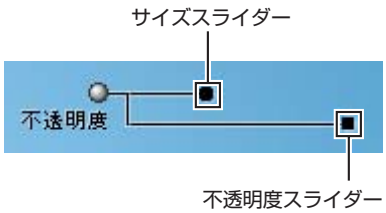


MEMO Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）+ Shiftキー + Cキー

選択コントロールポイントの用途

選択コントロールポイントは、配置された部分の色の特性を自動的に識別し、その色と似た色の部分を自動的に選んでその部分にのみ処理を適用したり、処理を削除したりできます。通常の画像編集ソフトでは、特定の部分だけに処理を適用するには選択範囲やマスクを作成する必要がありますが、選択コントロールポイントを使用すればそのような作業は必要ありません。この機能は、たとえば特定の被写体だけ [**アンシャープマスク**] を適用して輪郭を強調したり、反対に特定の被写体以外に [**ぼかし（ガウス）**] をかけて特定の被写体を目立たせたい、というような場合に便利です。

選択コントロールポイントを配置すると、[**サイズスライダー**] と [**不透明度スライダー**] が表示されます。[**不透明度**] とは、画像処理の適用度合いのことです。この値が大きいほど画像処理の効果が強く適用されます。

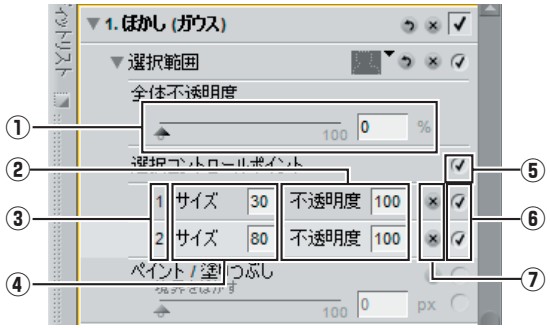


選択コントロールポイントにはプラス + ツールとマイナス − ツールがあります。プラスツールで選択コントロールポイントを配置すると [**不透明度スライダー**] が100%で設定され、マイナスツールで選択コントロールポイントを配置すると [**不透明度スライダー**] が0%で設定されます。

■ 選択コントロールポイント調整ダイアログ

処理を適用した画像上に選択コントロールポイントを置くと、選択範囲が作成されて［**エディットリスト**］の選択範囲表示領域に選択コントロールポイントの調整ダイアログが表示されます。また、選択コントロールポイントを置いてから［**エディットリスト**］の［**調整を選択**］で処理を適用することもできます。どちらを先に行っても結果は同じですが、処理の内容によっては順番を変えた方が便利なことがあります。ひとつの処理には、複数の選択コントロールポイントを設定できます。

参照 「選択範囲表示領域」(P.82)



① **全体不透明度**	画像全体の処理の適用度を0～100%で設定します。
② **不透明度**	選択コントロールポイントの不透明度を調節します。不透明度スライダーと連動しており、数値を変更すると不透明度スライダーも自動的に調整されます。［不透明度］で設定された調整量は［**全体不透明度**］よりも優先されます。
③ **選択コントロールポイント番号**	処理内で置いた順に、選択コントロールポイントに番号がつきます。選択コントロールポイントを直接クリックするか、ここをクリックして調整する選択コントロールポイントを選びます。選択コントロールポイントを複数同時に選ぶと、位置の移動や［**不透明度スライダー**］と［**サイズスライダー**］の調整を同時に行えます。 選択コントロールポイントはひとつの処理内にいくつでも置けますが、多くなるにつれて処理が重くなる場合があります。
④ **サイズ**	選択コントロールポイントのサイズを調節します。［**サイズスライダー**］と連動しており、数値を変更すると［**サイズスライダー**］も自動的に調整されます。
⑤ **選択コントロールポイントの調整**	⑥の選択コントロールポイントの適用/不適用を一括で行います。
⑥ **選択コントロールポイントの適用**	チェックを外すと、選択コントロールポイントの効果が適用されず、移動やサイズ調整などもできなくなります。
⑦ **削除ボタン**	その選択コントロールポイントを削除します。

[全体不透明度] と選択コントロールポイントの [不透明度] の関係

選択コントロールポイントにはプラス ＋ ツールとマイナス － ツールがあります。プラスツールで選択コントロールポイントを配置すると [**不透明度スライダー**] が 100% で設定され、[**全体不透明度**] は 0% になります。これは「処理を一部にだけ適用したい」という場合に使用します。



元画像





[ぼかし (ガウス)] でぼかします

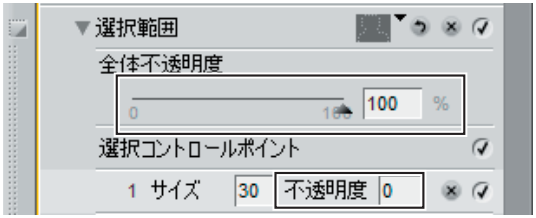


プラスツールでクリック。自動的に [**全体不透明度**] は 0%、選択コントロールポイントの [**不透明度**] は 100% に設定されます。選択コントロールポイントを中心に、花がぼかされ、それ以外の部分はぼかしが適用されません



これに対して、マイナスツールで選択コントロールポイントを配置すると［**不透明度スライダー**］が0%で設定され、［**全体不透明度**］は100%になります。これは「処理を一部にだけ適用したくない」という場合に使用します。





マイナスツールでクリック。自動的に［**全体不透明度**］は100%、選択コントロールポイントの［**不透明度**］は0%に設定されます。選択コントロールポイントを中心に、花の部分だけがぼかしが無効になっています

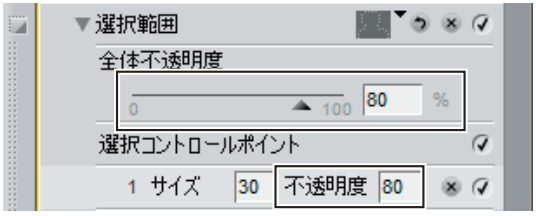


選択範囲表示領域に表示される［**全体不透明度**］は、選択コントロールポイントの有効範囲外の処理の適用度を調整し、選択コントロールポイントの［**不透明度**］は有効範囲内の処理の適用度を調整します。つまり、［**全体不透明度**］と選択コントロールポイントの［**不透明度**］を同じ値にすると、画像全体の処理の不透明度を調整することと同じで、選択コントロールポイントを配置する意味がなくなります（たとえば［**全体不透明度**］を80%、選択コントロールポイントの［**不透明度**］80%にすると、画像全体の処理の不透明度を80%に設定することと効果が同じになります）。

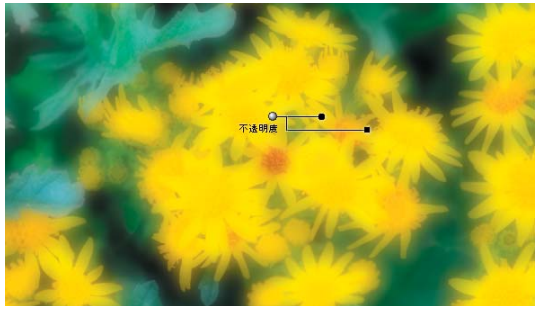


選択コントロールポイントを配置せず、画像全体の処理の［**不透明度**］を80%に設定





選択コントロールポイントを配置し、［**全体不透明度**］は80%、選択コントロールポイントの［**不透明度**］を80%に設定。画像全体の処理の［**不透明度**］を100%に設定



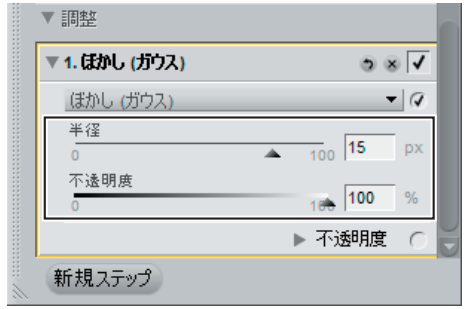
参照 「不透明度」（P.80）

画像処理の範囲を簡単に設定する

ここでは［**ぼかし（ガウス）**］を例にとって説明します。

1 ［調整］メニューにある［フォーカス］の［ぼかし（ガウス）］を選ぶ



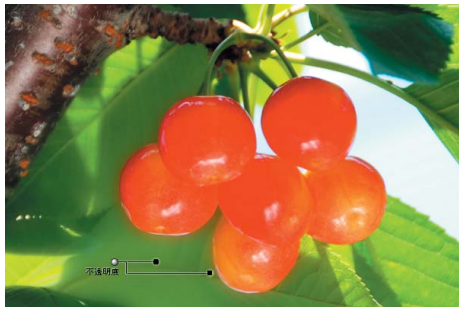


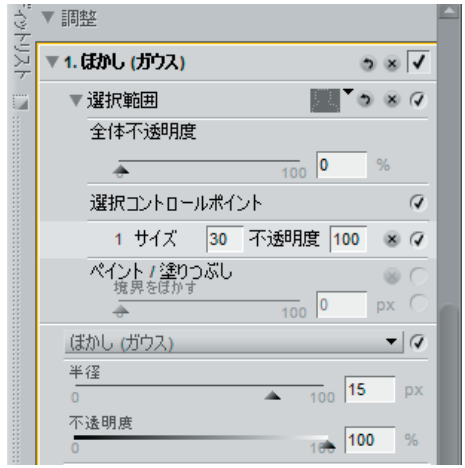
MEMO

- ［**エディットリスト**］の［**新規ステップ**］ボタンをクリックし、画像処理ステップ内に表示される［**調整を選択**］メニューからも選べます。
- 選択コントロールポイントは［**調整**］メニュー、［**フィルタ**］メニューのすべてのメニューに適用できます。

2 ［エディットリスト］で［ぼかし（ガウス）］の画像処理ステップを選び、選択コントロールポイント］のプラスツールで処理を適用したい場所をクリックする

クリックした場所に選択コントロールポイントが表示されます。画像処理ステップを選んでいない場合は、［新規ステップ］として選択コントロールポイントが適用されます。



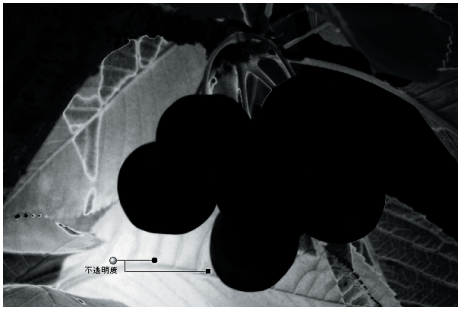


MEMO

選択コントロールポイントを置いてから、処理を実行することもできます。その場合、選択範囲がオーバーレイで表示され、適用する範囲をあらかじめ設定してから処理を実行できます。［**カラー化する**］や［**ぼかし（ガウス）**］を強くかけるなど、対象物の位置がわかりづらくなるような処理の場合、この手順の方が便利です。

3 [表示] メニューにある [選択範囲の表示] の [マスクの表示] を選んで適用する範囲を確認する

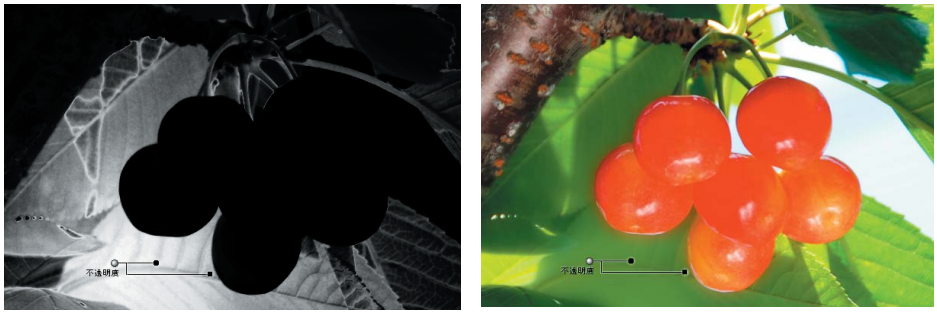
白く表示されている部分が、処理が適用される部分です。明るい部分ほど、強く適用されます。



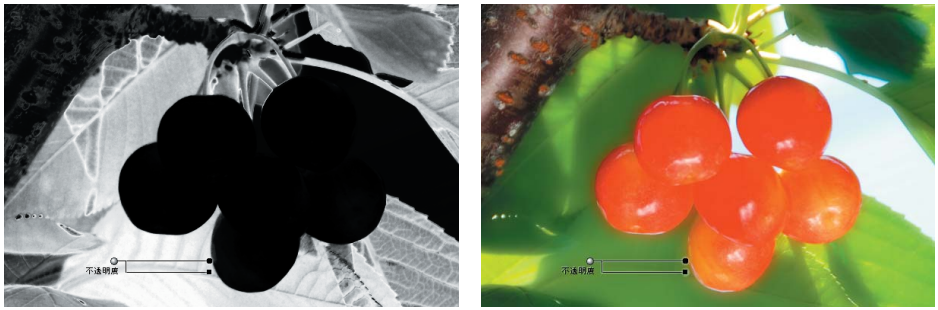
MEMO ［**エディットリスト**］の選択範囲表示領域にある［**選択範囲の表示**］メニューでも選べます。

4 サイズスライダーで適用する範囲を設定する

選択コントロールポイントの位置によって、スライダーの位置関係は異なります。選択コントロールポイントのサイズスライダーが長くなるほど、適用範囲が広くなります。［**選択範囲の表示**］で［**選択範囲を隠す**］/［**マスクの表示**］を切り換えながら範囲を設定します。



サイズスライダー：30　不透明度スライダー：100



サイズスライダー：100　不透明度スライダー：100

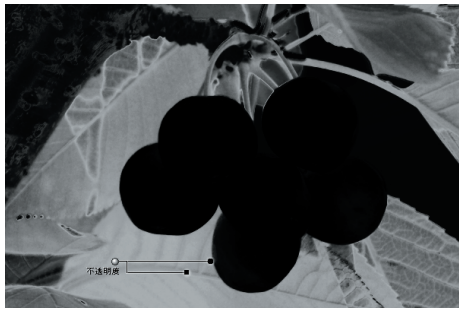
5 不透明度スライダーで適用量を設定する

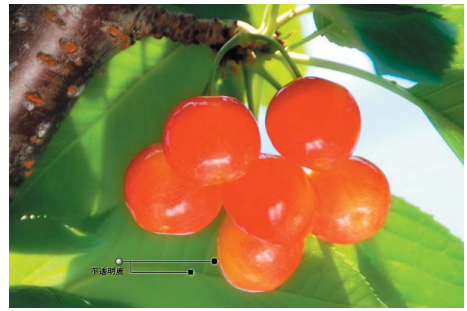
選択コントロールポイントの位置によって、スライダーの位置関係は異なります。選択コントロールポイントの不透明度スライダーが長くなるほど、適用量が多くなります。[**選択範囲の表示**] で [**選択範囲を隠す**] / [**マスクの表示**] を切り換えながら範囲を設定します。





サイズスライダー：30　不透明度スライダー：0



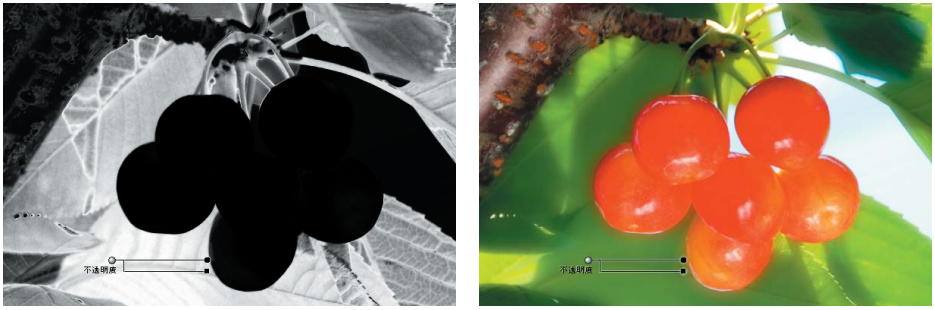


サイズスライダー：100　不透明度スライダー：70

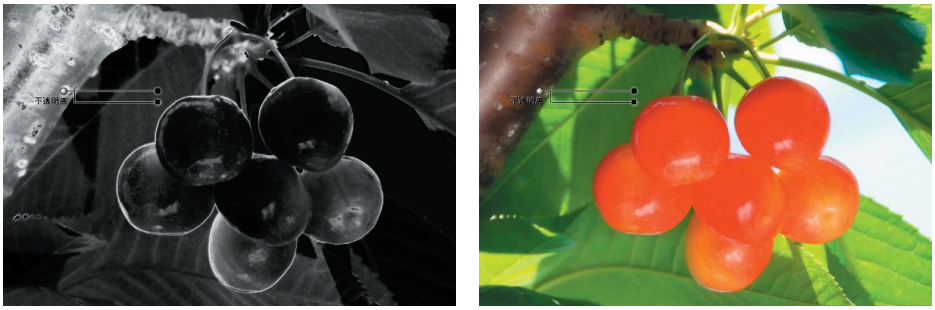
MEMO 選択コントロールポイントのサイズスライダーや不透明度スライダーは [**エディットリスト**] 内で数値で直接設定することもできます。

6 選択コントロールポイントをドラッグしながら移動して調整する

選択コントロールポイントの位置を移動すると、同じ範囲/適用量でも効果が大きく変化する場合があります。



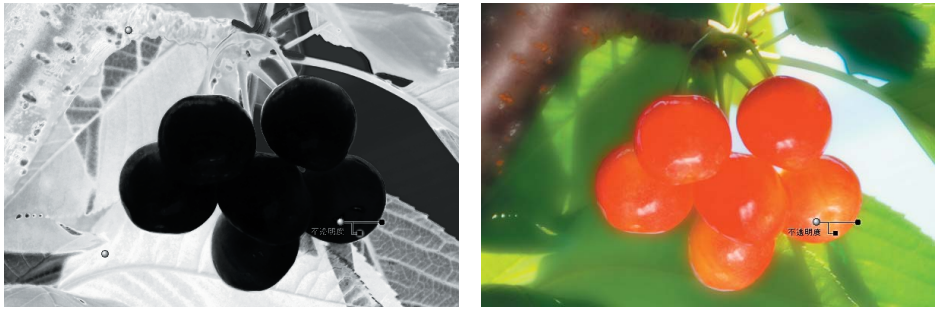
サイズスライダー：100　不透明度スライダー：100



サイズスライダー：100　不透明度スライダー：100

7 処理を適用する範囲を追加する場合、選択コントロールポイントを追加する

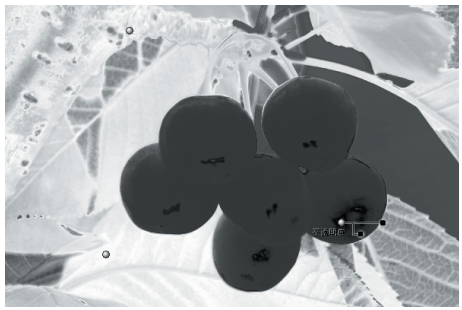
ステップ2～6を繰り返して選択コントロールポイントを追加します。ここではさくらんぼの部分に［**ぼかし（ガウス）**］が適用されないよう、マイナス ー ツールをさくらんぼに配置しています。



8 必要に応じて［エディットリスト］の［全体不透明度］で全体の雰囲気を整える

［**全体不透明度**］の値を増加させると、画像全体の処理の適用量が増加します。

［**全体不透明度**］よりも、選択コントロールポイントの不透明度の値が優先されます。ステップ7で不透明度の値を0にした選択コントロールポイントを置いたため、その選択コントロールポイントの範囲内には処理が適用されません。





全体不透明度：20

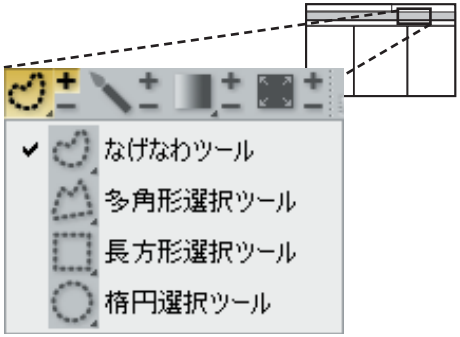
画像処理を行う部分を選択する

なげなわと選択ツールを使用すると、画像処理を適用する範囲を選択できます。選択範囲を作成すると、[**エディットリスト**] に [**選択範囲表示領域**] が表示され、画像処理の効果はその範囲内に限定されます。

参照 「選択範囲表示領域」(P.82)

なげなわと選択ツール

4種類のツールは、ツールバーを長押しまたは右下の三角形をクリックすると表示されるメニューから選びます。それぞれのツールにはプラス ✚ とマイナス ➖ があります。プラスは囲んだ部分を新規選択範囲として選択範囲を作成します（選択範囲を作成していない場合）。すでに選択範囲がある場合は、さらに範囲を追加します。マイナスは囲んだ部分以外を新規選択範囲として選択範囲を作成します（選択範囲を作成していない場合）。すでに選択範囲がある場合は、選択範囲から囲んだ部分を削除します。選択範囲外の場所をダブルクリックすると、選択範囲が解除されます。また、選択範囲の内部をドラッグすると、選択範囲を移動できます。プラスとマイナスはAltキー（Mac OSではoptionキー）を押すと、一時的に切り替わります。



[**なげなわと選択ツール**] で作成した選択範囲内では、[**選択ブラシ**] や [**選択範囲グラデーション**]、[**塗りつぶし/削除ツール**] の画像処理も限定されます。

ショートカット
なげなわツール：Lキー
長方形選択ツール：Mキー

参照 「選択ブラシ」(P.200)
「選択範囲グラデーション」(P.205)
「塗りつぶし/削除ツール」(P.209)

■ なげなわツール

フリーハンドで選択範囲を作成します。画面上をクリックしてドラッグし、選択したい対象物を囲むと、その軌跡に合わせて選択範囲が作成されます。囲み終わる前にマウスボタンを放すと、始点からその位置までが直線で結ばれます。



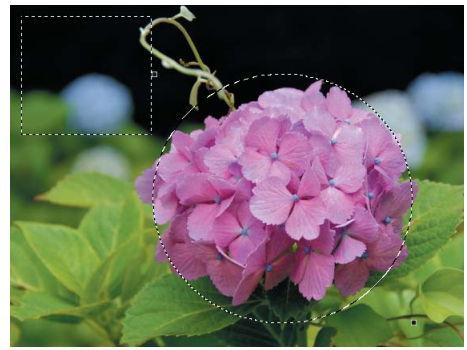
■ 多角形選択ツール

画面上をクリックするとアンカーポイント（■）が作成され、次にクリックして作成するアンカーポイントまでが直線で結ばれます。選択したい対象物を囲んで始点をクリックすると、選択範囲が作成されます。途中でダブルクリックすると、始点からその位置までを直線で結びます。選択範囲作成後、アンカーポイントをドラッグして選択範囲を変更できます。



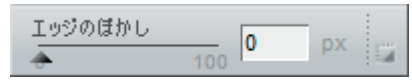
■ 長方形選択ツール / 楕円選択ツール

ドラッグして四角形/円の選択範囲を作成します。Shiftキーを押しながらドラッグすると、正方形/正円の選択範囲を作成できます。ドラッグしながらAltキー（Mac OSはoptionキー）を押すと、クリックした場所を中心に選択範囲が作成されます。選択範囲作成後、アンカーポイントをドラッグして選択範囲を変更できます。



■ なげなわと選択ツールオプション

それぞれの選択ツールには［**エッジのぼかし**］のオプションがあります。選択範囲の境界線のぼかしを0～100の間で選べます。［**エッジのぼかし**］は選択範囲を作成する前に設定しておく必要があります。



選択範囲を作成して範囲内だけに処理を適用する

1 選択ツールを組み合わせたり、追加/削除を行って選択範囲を作成する

白い破線に囲まれている部分が選択範囲です。



MEMO マイナスツールを使って「処理を適用したくない範囲」を囲めば、その部分以外が選択されます。選択したい範囲が広い場合は、この方法が便利です。

2 メニューまたは［エディットリスト］の［調整を選択］から処理を適用する

ここでは［**調整**］メニューにある［**明るさ**］の［**レベルとトーンカーブ**］を適用します。



3 選択範囲を追加した場合、［塗りつぶしツール］で選択範囲内をクリックする

選択範囲内だけに処理が適用されます。



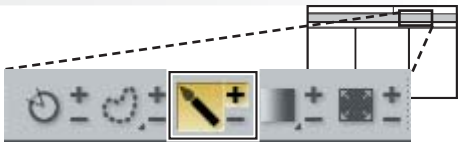
MEMO 選択範囲を移動したり、変形や削除する場合には、事前に処理の適用を［**削除ツール**］で削除しておきます。

MEMO 処理を適用してから、［**なげなわと選択ツール**］で選択範囲を作成して処理を適用することもできます。選択範囲を作成すると、処理が一時的にキャンセルされます。選択範囲の追加/削除を行って、選択範囲が完成したら、［**塗りつぶしツール**］で選択範囲内をクリックします。

一部に対して処理効果を調整する

[**選択ブラシ**] ツールは、ブラシで絵を描くような感覚で選択範囲を作成します。

選択ブラシ



[**選択ブラシ**] ツールにはプラス ✚ とマイナス ━ があります。プラスブラシツールは選択範囲を追加します。マイナスブラシツールは選択範囲を削除します。プラスとマイナスはAltキー（Mac OSではoptionキー）を押すと、一時的に切り替わります。

ショートカット Bキー

■ 選択ブラシツールオプション

[**選択ブラシ**] ツールには以下のオプションがあります。



① サイズ	ブラシのサイズを1～2000ピクセルの間で設定します。 ショートカット ブラシの拡大：]キー ブラシの縮小：[キー
② ブラシの硬さ	ブラシの硬さを0～100の間で設定します。0がもっとも柔らかく、ブラシが柔らかいほど境界線がぼかされます。 ショートカット ブラシを柔らかく：Shiftキー＋[キー ブラシを硬く：Shiftキー＋]キー
③ 不透明度	ブラシの不透明度を1～100の間で設定します。この値が大きいほど、プラスブラシの場合は選択される程度が増え、マイナスブラシの場合は選択される程度が減ります。 ショートカット 1～2桁の数字 1桁の数字（0～9）には、不透明度が10%単位で割り当てられています（1＝10%、2＝20% ... 0＝100%）。2桁の数字を入力すると、1%単位で不透明度を設定できます（55とキーを押すと55%に、06とキーを押すと6% に設定されます）。

④ 筆圧調整	ペンタブレットのような筆圧感知型入力装置を使用している場合、ブラシの筆圧を調整できます。筆圧感知型入力装置を使用していない場合、調整しても変化はありません。

しない	ブラシのサイズも不透明度も変更されないようにします。
不透明度	ブラシの不透明度を調整します。
サイズ	ブラシのサイズを調整します。
不透明とサイズ	ブラシのサイズと不透明度を調整します。

一部に対して処理を適用する

ここでは一部に［**コントラスト/明るさ**］を適用してみます。

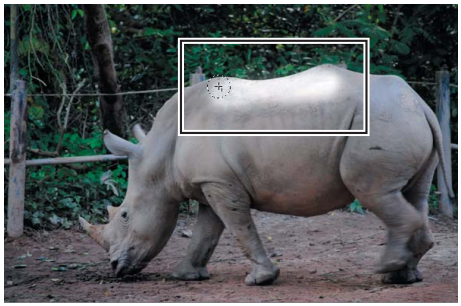
1 メニューバーにある［調整］メニューの［明るさ］から［コントラスト/明るさ］を選んで処理を適用する





2 プラスブラシを選び、［サイズ］、［ブラシの硬さ］、［不透明度］を調整しながら処理を適用したい部分だけをドラッグする

ステップ１で適用した処理が一時的にすべてキャンセルされます。［**選択ブラシ**］で塗られた部分だけに処理が適用されます。





3 [サイズ]、[ブラシの硬さ]、[不透明度] を調整しながらマイナスブラシで処理を適用しない部分だけをドラッグする

ステップ2で塗りすぎてしまった部分をマイナスブラシで調整します。ドラッグした部分の効果が削除されます。[**選択範囲の表示**] を [**マスクの表示**] にすると、選択範囲だけを表示でき、塗り残しなどを防げます。再度処理を適用したい場合はプラスブラシで塗り直します。また、[**選択範囲の表示**] を [**オーバーレイの表示**] にすると、ブラシでドラッグした部分が半透明の緑色に塗られます。画像と選択範囲が同時に確認できるので便利です。オーバーレイの色は [**環境設定**] の [**表示**] で変更できます。





参照 「表示」(P.253)

4 ［エディットリスト］にある［選択範囲表示領域］の［境界をぼかす］で処理をなじませる

選択範囲の境界線がぼかされ、処理が適用される部分とされない部分が自然な感じに仕上がります。





［**境界のぼかし**］：なし





［**境界のぼかし**］：30

MEMO ［**選択ブラシ**］で選択範囲を作成してから処理を適用することもできます。

一部に対して処理を適用しない

ここでは一部以外に［**ぼかし（ガウス）**］を適用してみます。

1 ［調整］メニューにある［フォーカス］の［ぼかし（ガウス）］を適用する





MEMO ［**エディットリスト**］の［**新規ステップ**］ボタンをクリックし、画像処理ステップ内に表示される［**調整を選択**］メニューからも処理が行えます。

2 マイナスブラシを選び、［サイズ］、［ブラシの硬さ］、［不透明度］を調整しながらマイナスブラシで処理を適用しない部分だけをドラッグする

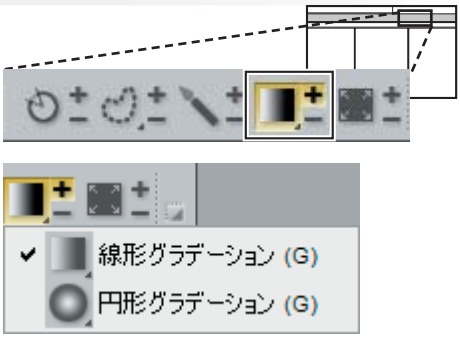
ドラッグした部分の効果が削除されます。これ以降は「一部に対して処理を適用する」と同様に、プラスブラシとマイナスブラシを併用しながら選択範囲を調整し、必要に応じて［**境界をぼかす**］で境界線をなじませます。



画像処理をグラデーション状に適用する

［**選択範囲グラデーション**］ツールを使用すると、処理をグラデーション状に適用できます。

選択範囲グラデーション



［**選択範囲グラデーション**］ツールには、［**線形グラデーション**］ツールと［**円形グラデーション**］ツールがあります。これらはツールバーを長押しまたは右下の三角形をクリックすると表示されるメニューから選びます。それぞれのツールにはプラス ✚ とマイナス ━ があります。プラスはすでにある選択範囲グラデーションにさらにグラデーションを追加し、マイナスはすでにある選択範囲グラデーションからグラデーションを削除します。プラスとマイナスはAltキー（Mac OSではoptionキー）を押すと、一時的に切り替わります。

ショートカット　Gキー

■ 線形グラデーション



境界線が直線状のグラデーションを作成します。画像上をドラッグしてグラデーションを作成します。クリックした位置が開始点となり、［**選択範囲グラデーションツールオプション**］で設定した［**始点の不透明度**］が適用されます。マウスボタンを放した位置が終点となり、［**選択範囲グラデーションツールオプション**］で設定した［**終点の不透明度**］が適用されます（マイナスツールの場合、始点に［**終点の不透明度**］、終点に［**始点の不透明度**］が適用されます）。始点と終点の間には中間点ができ、［**始点の不透明度**］と［**終点の不透明度**］の間の値が適用されます。中間点はドラッグして移動できます。

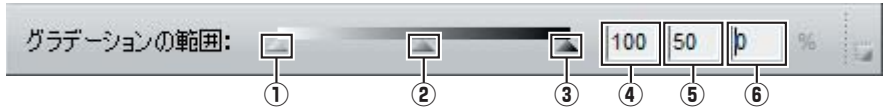
■ 円形グラデーション



境界線が放射状のグラデーションを作成します。画像上をドラッグしてグラデーションを作成します。始点、中間点、終点の扱いは線形グラデーションツールと同じです。

■ 選択範囲グラデーションツールオプション

それぞれの選択範囲グラデーションツールには［**グラデーションの範囲**］のオプションがあります。始点、中間点、終点の不透明度を0～100の間で選べます。中間点の位置を調整することで、中間点から一方はグラデーションを急激に、もう一方はグラデーションをゆるくできます。



① 始点スライダー	始点の不透明度を設定します。ここを設定すると［**始点テキストボックス**］も連動して変化します。
② 中間点スライダー	中間点の不透明度を設定します。ここを設定すると［**中間点テキストボックス**］も連動して変化します。
③ 終点スライダー	終点の不透明度を設定します。ここを設定すると［**終点テキストボックス**］も連動して変化します。
④ 始点テキストボックス	始点の不透明度を入力します。100～中間点の値+1の値を設定できます。ここを設定すると［**始点スライダー**］も連動して変化します。
⑤ 中間点テキストボックス	中間点の不透明度を1～99の間で入力します。ここを設定すると［**中間点スライダー**］も連動して変化します。
⑥ 終点テキストボックス	終点の不透明度を入力します。0～中間点の値－1の値を設定できます。ここを設定すると［**終点スライダー**］も連動して変化します。

処理をグラデーション状に適用する

ここでは［**ぼかし（ガウス）**］を例にとって説明します。

1 メニューバーにある［調整］メニューの［フォーカス］から［ぼかし（ガウス）］を選んで処理を適用する





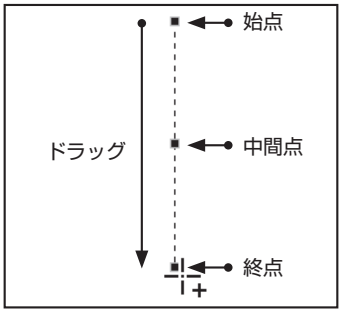
MEMO ［**エディットリスト**］の［**新規ステップ**］ボタンをクリックし、画像処理ステップ内に表示される［**調整を選択**］メニューからも処理が行えます。

2 プラスの［選択範囲グラデーション］ツールで画像をドラッグしてグラデーションを作成する

始点から終点までの間がグラデーション状に処理が適用されます。

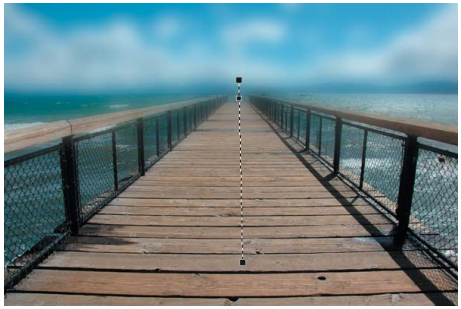
MEMO ここでは［**線形グラデーション**］ツールを使用していますが、［**円形グラデーション**］ツールもグラデーションの形状が異なるだけで操作方法は同じです。





3 始点、中間点、終点のアンカーポイントをドラッグして位置を調節する

アンカーポイント以外の部分をドラッグすると、新たにグラデーションを作成し直します。



4 必要に応じて［選択範囲グラデーションツールオプションバー］で不透明度を調節する

MEMO グラデーションを作成する前に設定しておくこともできます。

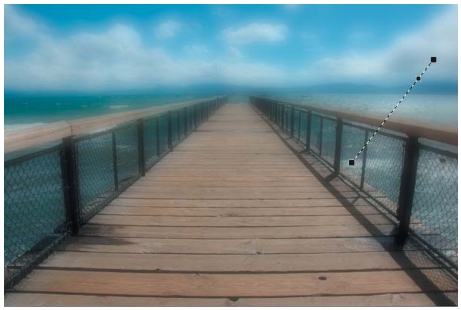


5 他のツールに切り換えてグラデーションを確定する

MEMO 一度確定したグラデーションはアンカーポイントがなくなり、調節ができなくなります。

6 必要に応じて選択範囲グラデーションツールで画像をドラッグしてグラデーションを追加/削除する

プラスツールで追加、マイナスツールで削除されます。ステップ2～5までの手順を繰り返して、グラデーションを調節します。



選択範囲内に処理を適用/削除する

［**塗りつぶし/削除ツール**］を使用すると、選択範囲内に現在の処理を適用/削除できます。

塗りつぶし/削除ツール

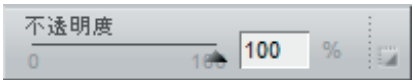


［**塗りつぶし（＋）ツール**］は、イメージウィンドウの選択範囲内をクリックすると現在の処理を適用します。［**削除（－）ツール**］は、選択範囲内から現在の処理を削除します。

また、選択範囲を作成せずにこれらのツールでイメージウィンドウをクリックすると、画像全体に処理を適用/削除します。［**選択ブラシ**］ツールや［**選択範囲グラデーション**］ツールで作成した選択範囲を削除して、画像全体に処理を適用させたい場合は［**塗りつぶしツール**］を、選択範囲を変更するために画像全体から一時的に処理を削除したい場合は［**削除ツール**］を使用します。プラスとマイナスはAltキー（Mac OSではoptionキー）を押すと、一時的に切り替わります。

参照
「なげなわと選択ツール」（P.197）
「選択ブラシ」（P.200）
「選択範囲グラデーション」（P.205）

■ 塗りつぶし/削除ツールオプション



塗りつぶし/削除ツールには［**不透明度**］のオプションがあります。塗りつぶしまたは削除の度合いを0～100の間で選べます。

選択範囲を表示する

［**表示**］メニューにある［**選択範囲の表示**］で、［**選択ブラシ**］、［**選択範囲グラデーション**］などで作成した選択範囲を表示します。また、選択コントロールポイントやカラーコントロールポイントの処理の適用部分も確認できます。



選択範囲の表示

選択範囲作成時に［**エディットリスト**］に表示される［**選択範囲表示領域**］の［**選択範囲の表示**］メニューと内容は同じです。

参照 「選択範囲表示領域」(P.82)

■ 選択範囲を隠す

オーバーレイやマスクを表示せず、画像処理の結果が表示されます。処理を適用してから選択範囲を作成した場合の初期設定のモードです。



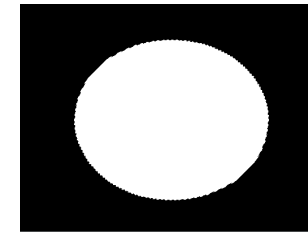
■ オーバーレイの表示

現在選択されている部分を半透明の緑で塗りつぶします。塗りつぶす色は［**環境設定**］で変更できます。画像処理の結果は一時的にキャンセルされます。画像を見ながら選択範囲を作成したい場合に便利です。



■ マスクの表示

処理が適用される部分が白、適用されない部分が黒で表示されます。適用される度合いによって色の濃淡が変わります。



画像を保存する

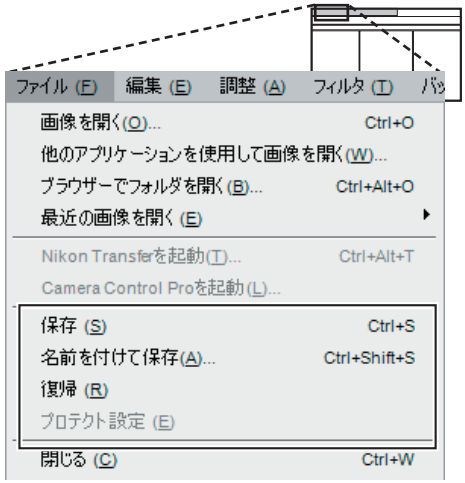
画像の保存方法を説明します。

編集した画像を保存する.....P.212
ファイル形式の違い.....P.217

編集した画像を保存する

保存

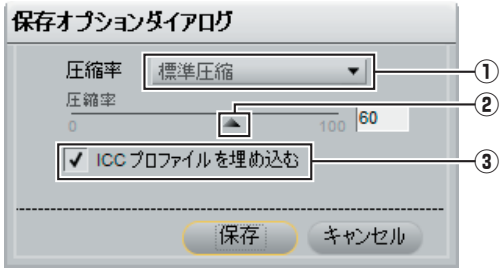
ファイルを保存するには、[**ファイル**] メニューから [**保存**] を選びます。ファイル形式やオプションは、元の画像と同じで保存されます。元画像がCOOLPIXまたは他社製のカメラやその他のアプリケーションで作成された画質（圧縮レベル）が不明のJPEG形式の場合のみ、設定オプションダイアログが表示されます。



MEMO 編集した画像が保存されていない場合、イメージウィンドウの画像名に「*」がつきます。画像を保存すると「*」は消えます。Mac OSの場合、イメージウィンドウの [**閉じる**] ボタンにグレーの「・」がつきます。

ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋Sキー

■ JPEG保存オプション



① **画質**	画質を選びます。画質が高いほどファイルサイズが大きくなります。
② **画質スライダー**	右に動かすほど圧縮率が低く画質が高くなり、左に動かすほど圧縮率が高く画質が低くなります。右のテキストボックスに直接入力することもできます。
③ **ICCプロファイルを埋め込む**	チェックを入れると、現在のカラープロファイルを画像に埋め込みます。

MEMO 画像を保存せずに閉じようとすると、確認のダイアログが表示されます。保存する場合は [**はい**（Mac OSは [**保存**])]、しない場合は [**いいえ**（Mac OSは [**保存しない**])]、閉じるのをやめる場合は [**キャンセル**] をクリックします。



名前を付けて保存

現在の画像を、別の画像として保存します。

ショートカット　Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Shiftキー ＋ Sキー

名前を付けて保存する

1 **［ファイル］メニューから［名前を付けて保存］を選ぶ**

2 **保存場所を選ぶ**

［**名前を付けて保存**］ダイアログが表示されます。フォルダは前回に開いた場所が表示されます。

3 **［ファイル名］に画像ファイル名を入力する**

現在の名前が表示されています。

4 **［ファイルの種類］でファイル形式を選ぶ**

［**NEF (*.nef)**］、［**TIFF (*.tif; *.tiff)**］、［**JPEG (*.jpg; *.jpeg)**］からファイル形式を選びます。ファイル形式を変更しない場合は［**保存**］をクリックして画像を保存します。

5 **ファイル形式のオプションを設定する**

ファイル形式を変更した場合と画質（圧縮レベル）の指定のないJPEG形式で保存する場合は、それぞれの形式の保存オプションダイアログが表示されます。保存オプションダイアログに関しては次ページ以降を参照してください。

6 **保存オプションダイアログで［保存］をクリックする**

・元の画像と保存場所、名前、ファイル形式がすべて同じ場合、上書きの確認ダイアログが表示されます。



・初期設定で選ばれているファイル形式は、［**環境設定**］の［**一般**］で変更できます。

MEMO

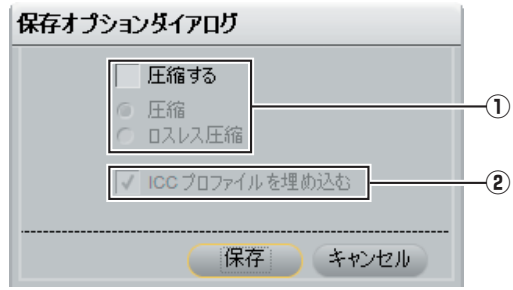
・ファイル名を指定する際には、次のことに留意してください。

Windows：ロングファイル名をサポートしない環境の場合は、ファイル名が半角で８文字以下になるように指定してください。また、ファイル名で、スペースと半角の「¥¥」、「/」、「:」、「;」、「*」、「?」、「"」、「<」、「>」、「|」は使用できません。また、ファイル名に「.」のみは使用できません。ロングファイル名をサポートする環境の場合は、ファイル名で、半角の「¥¥」、「/」、「:」、「;」、「*」、「?」、「"」、「<」、「>」、「|」は使用できません。また、ファイル名に「.」のみは使用できません。

Mac OS：ファイル名で「:」は使用できません。また、ファイル名の先頭に「.」は使用できません。

■ NEF保存オプション

NEF保存オプションは、非圧縮RAWで撮影した画像のみ設定できます。



① **圧縮する**	ファイルを圧縮する場合、チェックを入れます。[**圧縮**] または [**ロスレス圧縮**] のいずれかから圧縮方法を選びます。 **圧縮**：非可逆圧縮します。ファイルサイズが「非圧縮RAW」と比べて約45～60%になりますが、データは完全に復元できなくなります。記録した画像は「非圧縮RAW」とほぼ同等の画質になります。 **ロスレス圧縮**：可逆圧縮します。ファイルサイズが「非圧縮RAW」と比べて約60～80%になり、データも完全に復元できます。記録した画像は「非圧縮RAW」と同等の画質になります。
② **ICCプロファイルを埋め込む**	チェックを入れると、現在のカラープロファイルを画像に埋め込みます。NEF形式の場合、このオプションは外せません。

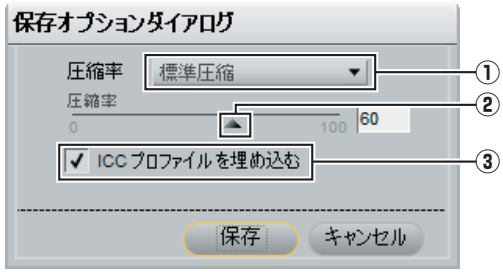
■ TIFF保存オプション



① カラーモデル	画像のカラーモデルを選びます。 RGB：赤（Red）、緑（Green）、青（Blue）チャンネルの画像として保存します。ほとんどの使用用途でおすすめします。 CMYK：シアン（Cyan）、マゼンタ（Magenta）、黄色（Yellow）、黒（blacK）チャンネルの画像として保存します。商業印刷などCMYK画像を必要とする印刷機器で利用する場合にのみおすすめします。
② ビット数	各チャンネルあたりのビット数を8ビットまたは16ビットから選びます。16ビットは元画像がRAW画像または16ビットの場合のみ選べます。
③ 圧縮	圧縮方法を選びます。 しない：画像を圧縮しません。 LZW：LZWアルゴリズムに基づいて、画像データ損失のない圧縮を行います。TIFF 形式(16-bit)ファイルをLZW 圧縮で保存した場合、元のサイズより大きくなる場合があります。
④ ICCプロファイルを埋め込む	チェックを入れると、現在のカラープロファイルを画像に埋め込みます。

MEMO ［**ビット数**］と［**圧縮**］はRGB画像のみ有効になります。

■ JPEG保存オプション



① **画質**	画質を選びます。画質が高いほどファイルサイズが大きくなります。
② **画質スライダー**	右に動かすほど圧縮率が低く画質が高くなり、左に動かすほど圧縮率が高く画質が低くなります。右のテキストボックスに直接入力することもできます。
③ **ICCプロファイルを埋め込む**	チェックを入れると、現在のカラープロファイルを画像に埋め込みます。

復帰

［**ファイル**］メニューの［**復帰**］で最後にファイルを保存した状態に戻ります。ファイル保存後の変更は、すべて取り除かれます。

プロテクト設定

イメージウィンドウで開いている画像または［**ブラウザー**］で選択している画像を読み取り専用にして上書き保存ができないようにします。［**プロテクト設定**］されている画像を［**保存**］しようとすると、警告ダイアログが表示され、自動的に［**名前を付けて保存**］になります。［**プロテクト設定**］を解除するには、再度［**ファイル**］メニューの［**プロテクト設定**］を選びます。また、カメラで設定したプロテクトを解除することもできます。画像をプロテクトすると、［**ブラウザー**］のサムネイルに アイコンが表示されます。

ファイル形式の違い

Capture NX 2で扱える画像のファイル形式は以下の3つです。

ファイル形式	拡張子
NEF形式	.NEF
TIFF形式	.TIF
JPEG形式	.JPG

画像の使用目的に合わせてファイル形式を選びます。

NEF形式

RAW画像ファイルを含むすべての画像を、ニコン専用画像フォーマットで保存できます。RAW画像を扱えるのはNEF形式だけです。元画像がTIFF形式やJPEG形式でも保存でき、JPEG形式の場合はオリジナルのJPEG保存時点での画質を保ちながらNEF形式で保存できます。

NEF形式で保存すると、Capture NX 2で行う各種の画像処理は、画像そのものを書き換えるのではなく、画像処理情報として保存されます。そのため、何度も調整と保存を繰り返しても元画像の画質を劣化させることなく、高い品質を保ちます。また、後で画像修正を加えたり、修正を削除したりできます。

NEF形式は一般的なアプリケーションで開けないことが多いため、画像を他のアプリケーションで開く場合には、［**ファイル**］メニューの［**名前を付けて保存**］でTIFF形式かJPEG形式に保存します。保存の際は、画質の劣化を最小限にとどめます。

どのような用途で画像を使用するか決まっていない場合や、将来いろいろなファイル形式で保存したい場合などは、NEF形式で保存しておくことをおすすめします。

また、元画像がRAW画像の場合、圧縮方法を非圧縮と圧縮から選択できます。元画像での圧縮方法により、選択できる圧縮方法は次のように異なります。

元画像の圧縮方法	非圧縮選択	圧縮	ロスレス圧縮
非圧縮	可能	可能	可能
圧縮	不可	可能	不可
ロスレス圧縮	不可	不可	可能

また、ICCプロファイルやXMP/IPTC情報も記録されます。

TIFF形式

高品位出力や出版に使用する画像は、TIFF形式が最適です。非圧縮モードのTIFF形式はファイルサイズが大きくなりますが、高品位な画質が保てます。多くのアプリケーションでもTIFF形式をサポートしており、Windows、Mac OSなど複数のプラットフォームで共通して扱えます。また、ICCプロファイルやXMP/IPTC情報も記録されます。

また圧縮方法を非圧縮とLZW圧縮から選ぶこともできます。LZW圧縮は、元画像の画質を劣化することなくファイルサイズを小さくできます。TIFF(RGB)で16ビット画像の場合は、階調を8ビットまたは16ビットから選べます。

MEMO TIFF形式（16ビット）ファイルをLZW圧縮で保存した場合、元のサイズより大きくなる場合があります。

JPEG形式

Webページなど、低い解像度で画像を使用する場合はJPEG形式が最適です。JPEG形式はファイルサイズが小さいため、他の非圧縮形式に比べて同じディスク容量に多くのファイルを保存できます。

ただし、JPEG形式で圧縮した画像は画質が劣化します。非可逆性圧縮のため、圧縮前の画質には戻せません。また、圧縮する際に「JPEGノイズ」と呼ばれるブロック状のノイズなどが発生する場合があります。

画像を劣化させずに繰り返し保存するには、NEF形式で保存します。JPEG形式ファイルはNEF形式ファイルとして保存しておき、実際にJPEG形式の画像が必要になったときに改めてJPEG形式に保存し直すことをおすすめします。

なお、ICCプロファイルやXMP/IPTC情報も記録されます。

画像を印刷する

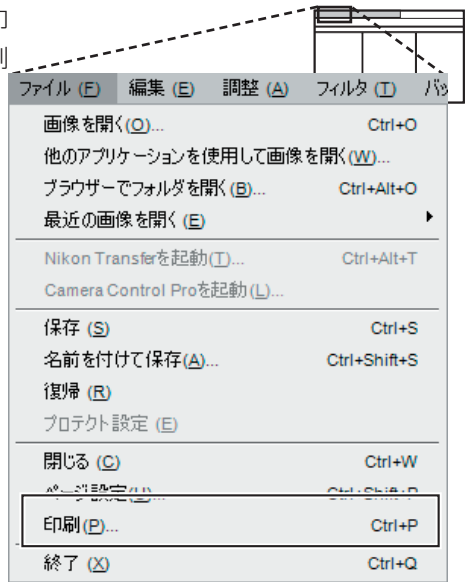
画像の印刷方法を説明します。

印刷する形態を設定する P.220
編集した画像を印刷する P.221

印刷する形態を設定する

ページ設定

［**ファイル**］メニューの［**ページ設定**］で、プリンターや印刷環境の設定が行えます。用紙サイズ、給紙方法、印刷の向きなどを設定できます。表示されるダイアログはOSやプリンターなど、環境によって異なります。印刷を実行する前にこのダイアログを開いて、設定の調整や確認することをおすすめします。



ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Shiftキー ＋ Pキー

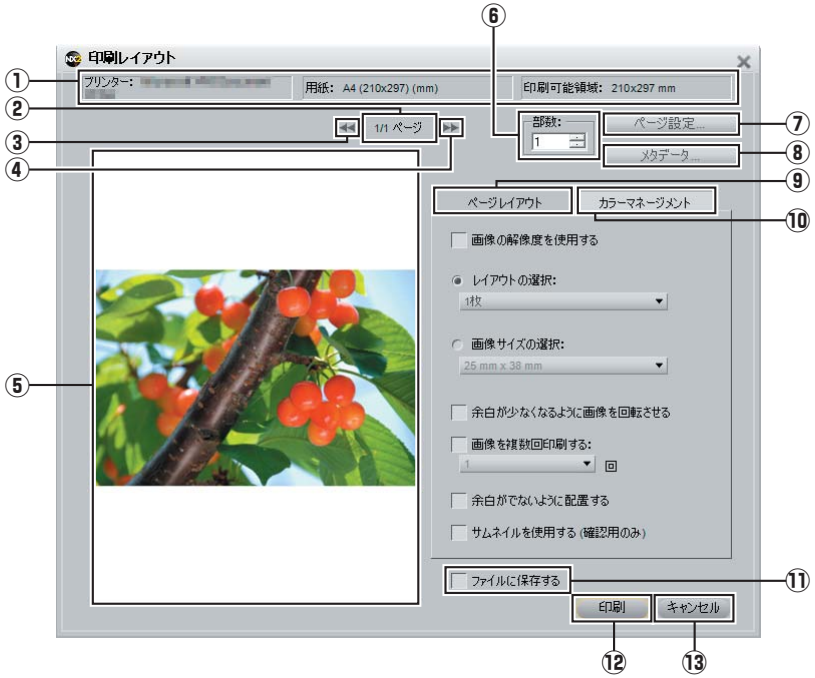
編集した画像を印刷する

印刷

［**アクティビティツールバー**］の［**プリント**］または［**ファイル**］メニューの［**印刷**］で、画像を印刷できます。これを選ぶと［**印刷レイアウト**］ダイアログが表示され、印刷する画像のレイアウトを変更したり印刷情報を加えたりできます。また、印刷のカラーマネージメントなども行えます。

［**印刷**］は現在イメージウィンドウで開いている画像または、［**ブラウザー**］で選んでいる画像を印刷できます。［**ブラウザー**］で複数の画像を選んだ場合は、レイアウト印刷やコンタクトシート作成もできます。

ショートカット　Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋Pキー



① 印刷情報

接続しているプリンター、選択している用紙サイズと印刷可能領域が表示されます。［**ページ設定**］で用紙サイズや印刷の向きを変更すると、この表示も変更されます。

② ページ表示
選ばれた画像の数により、プリンターに何枚のページが送られるかが「プレビュー表示しているページ/印刷するページ数」の形で表示されます。

③ 前のページ/④ 次のページ
印刷するページが複数枚のとき、それぞれのページのプレビューを見ることができます。

⑤ プレビュー
印刷のプレビューが表示されます。ページレイアウトの変更に合わせて、プレビューも変わります。

⑥ 部数
印刷する部数を設定します。

⑦ ページ設定
プリンターや印刷環境の設定ができます。[**ファイル**] メニューの [**ページ設定**] と同じダイアログが表示されます。

⑧ メタデータ
印刷する画像情報を、用紙の余白に印刷します。印刷する情報は、表示されるダイアログで選びます。それぞれの項目のチェックを入れます。

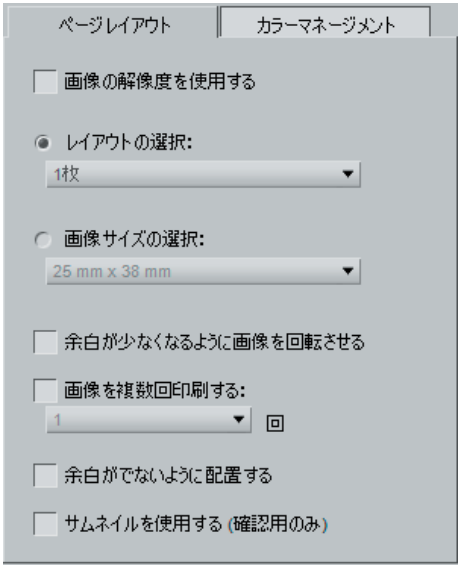


基本	画像のファイル名と撮影日が印刷されます。
追加情報	カメラ名、シャッタースピード、絞り値、画像サイズ、露出モード、ホワイトバランスが印刷されます。
詳細情報	測光モード、露出補正、焦点距離、AFモード、感度 (ISO) が印刷されます。
フォント	画像情報を印字するフォントが表示されます。[**変更**] をクリックすると変更できます。
日付のみ	撮影された年月日を画像の右下に印字します。
日付と時刻	日付に加えて、撮影された時間をの右下に印字します。
フォント	画像情報を印字するフォントが表示されます。[**変更**] をクリックするとフォントを変更できます。文字色もや文字飾りなども変更できます。

MEMO [**余白が出ないように配置する**] にチェックを入れてフチなし印刷をする場合、日付が切れる場合があります。日付を入れたい場合、フチあり印刷をおすすめします。

⑨ ページレイアウトタブ

印刷する画像のサイズやレイアウトを設定できます。



- 画像の解像度を使用する

  チェックを入れると、[**編集**] メニューの [**画像サイズ/画像解像度**] で設定されている解像度で印刷します。[**印刷レイアウト**] ダイアログでサイズは変更できません。また、[**レイアウトの選択**] や [**画像サイズの選択**]、[**余白が出ないように配置する**] は選べなくなり、1 枚の用紙に 1 枚の画像だけ印刷します。

> MEMO 画像のサイズによっては、[**レイアウトの選択**] や [**余白が出ないように配置する**] を設定すると、拡大して印刷されて画像が粗くなることがあります。これを防ぐには [**画像の解像度を使用する**] にチェックを入れます。

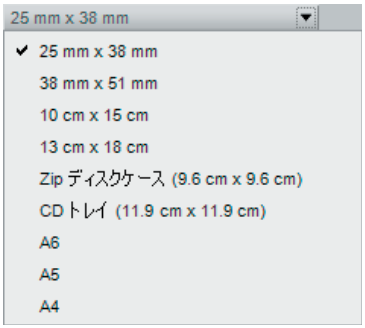
- レイアウトの選択

  メニューから印刷するレイアウトを選べます。レイアウトを変更すると、画像 1 枚あたりのサイズを自動的に調節し、それに合わせてプレビューも変化します。[**画像情報リスト**] を選ぶと、[**ブラウザー**] で選んでいる画像のファイル名や撮影日時などの画像情報が一覧で印刷されます。



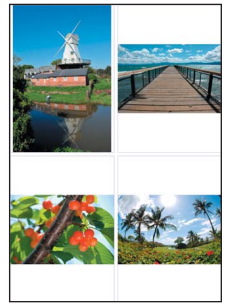
- 画像サイズの選択

  メニューから 1 枚の画像のサイズを選べます。使用したいサイズが決まっている場合、ここから選びます。サイズを変更すると、印刷する用紙サイズに合わせてレイアウトを自動的に調節し、それに合わせてプレビューも変化します。

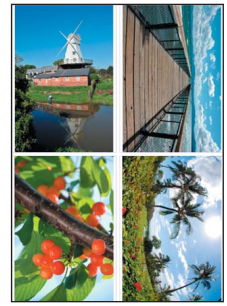


> MEMO メニューに表示される内容は、[**編集**] メニューにある [**環境設定**] の [**一覧**] で設定した [**初期設定の単位**] によって変化します。

- **余白が少なくなるように画像を回転させる**
  チェックを入れると、画像の向きがレイアウトの向きと合わない場合に、自動的に画像が回転します。



［余白が少なくなるように画像を回転させる］のチェックを外す

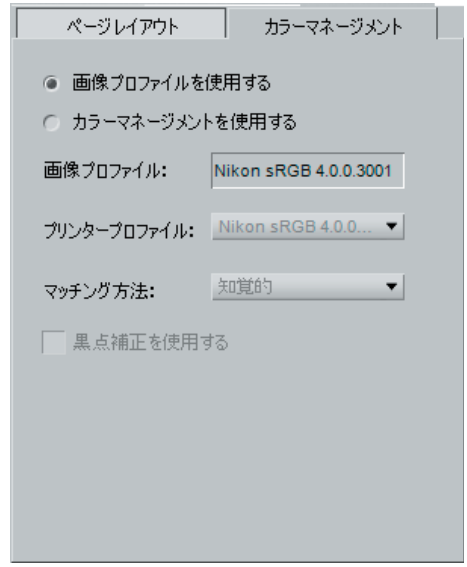


［余白が少なくなるように画像を回転させる］にチェックを入れる

- **画像を複数回印刷する**
  各画像を、何回印刷するかを選びます。メニューから2～10回または［**ページ全体**］が選べます。［**ページ全体**］を選ぶと、用紙全体に1枚の画像を複数回印刷します。何回印刷するかは、印刷のレイアウトまたは画像サイズによって変化します。
- **余白がでないように配置する**
  用紙に無駄なスペースがなくなるように、画像を配置します。レイアウトの縦横比と画像の縦横比が合わない場合、画像の一部が自動的に切り抜かれます。
- **サムネイルを使用（確認用のみ）**
  画像のサムネイルデータを使用して印刷します。印刷速度は速くなりますが、画質が大幅に低下します。

⑩ カラーマネージメントタブ

印刷する際のカラーマネージメントを設定できます。初期設定では、［**編集**］メニューにある［**環境設定**］の［**カラーマネージメント**］と同じになっています。



> MEMO
> カラーマネージメントを設定して印刷する場合、プリンタードライバー内のカラーマネージメントを無効にしないと、設定が反映されない場合があります。プリンターのカラーマネージメントを無効にする方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

画像プロファイルの選択

使用するプロファイルを選びます。［**画像プロファイルを使用する**］は現在の画像に適用されているカラープロファイルを使用します。［**カラーマネージメントを使用する**］は設定したカラーマネージメントを使用しま

す。設定は以下の項目を使用します。

<table>
<tr><td>画像
プロファイル</td><td>現在の画像に適用されているカラープロファイルが表示されます。[ブラウザー] から [印刷] を実行した場合には表示されません。</td></tr>
<tr><td>プリンター
プロファイル</td><td>プリンターで使用するプロファイルを選択します。どのプロファイルを使用するかわからない場合は、メニューの一番上のプロファイルを選びます。</td></tr>
<tr><td>マッチング方法</td><td>画像に適用するマッチング方法を選びます。マッチング方法は、プリンタープロファイルをもとに、プリンターが作成できる色に合うように画像の色をコントロールします。
<table>
<tr><td>知覚的</td><td>印刷画像が自然に見えるよう色の関係を維持します。色の関係は維持されますが、実際の色値は変更されます。</td></tr>
<tr><td>彩度</td><td>彩度の高い色を作りますが、オリジナルの画像の色と異なる場合があります。</td></tr>
<tr><td>相対的な色域</td><td>画像のホワイトポイントをプリンタープロファイルで定義されているホワイトポイントにマッピングして、色域内の色を正確に再現します。色域外の色はできるだけ再現可能な色にシフトされます。本来の色を可能な限り保持するため、画像の印刷には最適な場合が多くなります。</td></tr>
<tr><td>絶対的な色域</td><td>色域外の色をできるだけ再現可能な色にシフトされます。[相対的な色域] と似ていますが、画像のホワイトポイントをプリンタープロファイルで定義されているホワイトポイントにマッピングしません。用紙の色の影響も含めて出力機器の結果を再現するため、普段使用するプリンター以外の印刷機器で画像を校正する場合におすすめです。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>黒点補正を
使用する</td><td>チェックを入れると、黒点補正を使用します。画像の黒点がプリンターの黒点に対応するため、プリンターのカラー範囲をフルに使用できます。印刷結果にグレーのシャドー部分がある場合や画像の絵柄が細かくない場合はチェックを外してください。プリンターとプロファイルの組合せで問題が発生しない限り、常に使用することをおすすめします。[マッチング方法] で [絶対的な色域] を選ぶと使用できません。</td></tr>
</table>

⑪ ファイルに保存する

設定したレイアウトを画像ファイルとして保存します。チェックを入れると、[**印刷**] が [**保存**] に変わります。画像はJPEG形式で保存されます。画像の一覧をメールで送りたい場合に便利です。

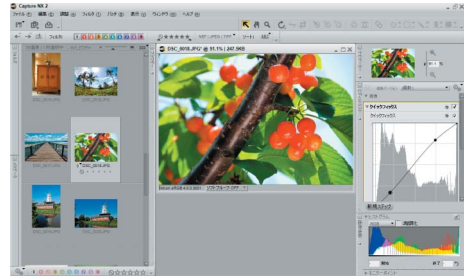
⑫ 印刷 /⑬ キャンセル

[**印刷**] をクリックするとOS標準の [**印刷**] ダイアログが表示され、[**OK**] をクリックすると印刷が始まります。印刷をキャンセルする場合は [**キャンセル**] をクリックします。

1枚の画像を1枚の用紙に印刷する

1 **[ブラウザー] で画像を選ぶか、イメージウィンドウで画像を開く**

複数のイメージウィンドウを開いている場合、アクティブな画像だけが対象になります。



2 **[ファイル] メニューの [印刷] を選ぶ**

[**印刷レイアウト**] ダイアログが表示されます。



3 **必要に応じて [ページ設定] をクリックして設定を変更する**

[**ページ設定**] ダイアログが表示されます。印刷したい用紙サイズを変更したい場合などにこの作業を行います。

4 **[メタデータ] をクリックして印字する情報を選ぶ**

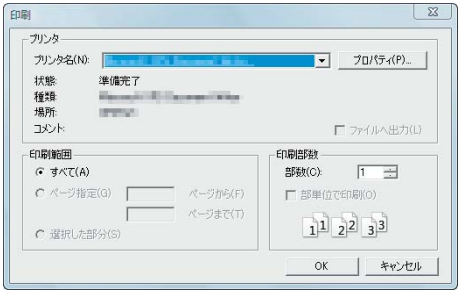
情報を印字しない場合は次のステップに進みます。

5 **ページレイアウトを設定する**



6 印刷する部数を設定して［印刷］をクリックする

［**印刷**］ダイアログが表示されます。このダイアログは環境によって異なります。［**OK**］をクリックすると、印刷が始まります。



複数の画像を１枚の用紙に印刷する

ここでは４枚の画像を１枚の用紙に印刷する場合を例にして説明します。

1 ［ブラウザー］で画像を選ぶ

Shiftキーを押しながら画像をクリックすると最初に選択した画像と最後に選択した画像の間のすべての画像が、Ctrlキー（Mac OSは⌘キー）を押しながら画像をクリックするとクリックした画像だけが複数選択されます。



2 ［ファイル］メニューの［印刷］を選ぶ

［**印刷レイアウト**］ダイアログが表示されます。



3 必要に応じて［ページ設定］をクリックして設定を変更する

［**ページ設定**］ダイアログが表示されます。印刷したい用紙サイズを変更したい場合などにこの作業を行います。

4 ［メタデータ］をクリックして印字する情報を選ぶ

情報を印字しない場合は次のステップに進みます。

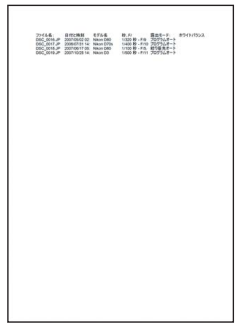
5 [レイアウトの選択] で [4枚] を選び、[余白が少なくなるように画像を回転させる]、[余白が出ないように配置する] にチェックを入れる

[**ページレイアウト**] の機能の組合せによって、下のようにさまざまなレイアウトが選べます。目的に合わせて、適切なレイアウトを設定してください。





[**レイアウトの選択**]：16枚
[**余白が少なくなるように画像を回転させる**]：チェックを入れる
[**画像を複数回印刷する**]：4回



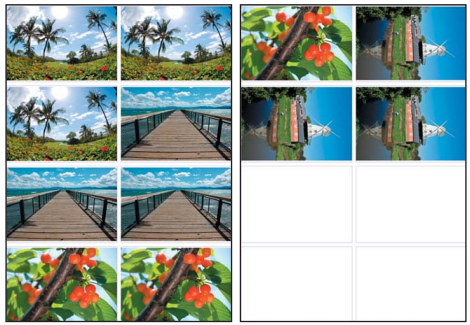
[**レイアウトの選択**]：画像情報リスト



[**レイアウトの選択**]：16枚
[**余白が少なくなるように画像を回転させる**]：チェックを入れる
[**画像を複数回印刷する**]：ページ全体（他3枚の画像も同様です）



[**画像サイズの選択**]：25mm×38mm
[**画像を複数回印刷する**]：ページ全体（他3枚の画像も同様です）



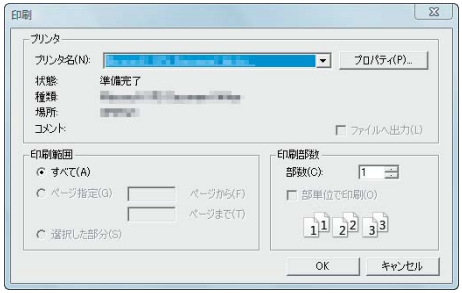
[**レイアウトの選択**]：8枚
[**余白が少なくなるように画像を回転させる**]：チェックを入れる
[**画像を複数回印刷する**]：3回



[**画像サイズの選択**]：CDトレイ（11.9cm×11.9cm）
[**余白がでないように配置する**]：チェックを入れる

6 印刷する部数を設定して［印刷］をクリックする

［**印刷**］ダイアログが表示されます。このダイアログは環境によって異なります。［**OK**］をクリックすると、印刷が始まります。



作業を効率的に行う

Capture NX 2で作業を行う場合、カメラで撮影した画像を何枚も扱います。その場合、作業の効率化を図ることが作業時間の短縮につながります。Capture NX 2には、作業効率を上げるための機能が用意されています。

画像処理の履歴を1枚の画像内に複数残す P.232
複数の画像に同じ処理を適用する（バッチ処理） P.234

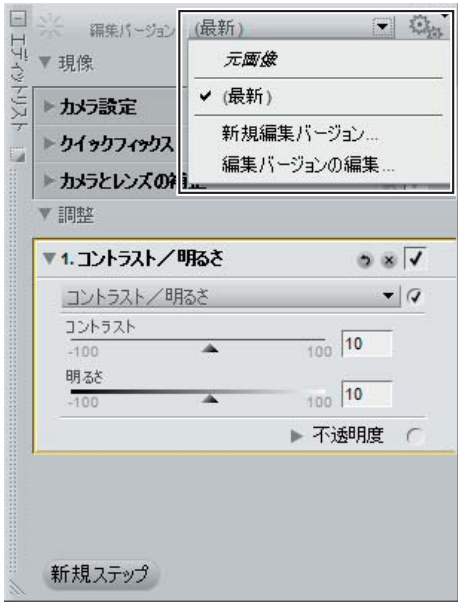
画像処理の履歴を１枚の画像内に複数残す

編集バージョンメニュー

編集バージョンとは、そこまでに行った画像調整の状態を保存する機能です。編集バージョンを追加しておくことで、そのあとに別の画像調整を行った場合でも、編集バージョンを追加した時点の状態に戻せます。NEF形式で保存した場合、編集バージョンも保存されているため、いつでも以前の状態に戻すことができます。TIFF形式やJPEG形式で保存した場合、編集バージョンは画像を閉じると失われます。

この機能は、さまざまな画像処理を試したり、複雑な処理を行った際に効果を見比べたりする場合に便利です。また、適用した画像処理が気に入らない場合でも、すぐに以前の状態に戻せるため無駄な反復作業を省けます。

編集バージョンメニューは［**エディットリスト**］にあります。



編集バージョンの種類

Capture NX 2には、初期設定で下記の３種類の編集バージョンが用意されています。

■ 元画像

Capture NX 2内で行われたすべての処理を適用しない、画像調整前の画像を表示します。NEF形式の場合、元画像編集バージョンは、Capture NXまたはCapture NX 2、ViewNX、Nikon Capture（マーカー）、PictureProject（マーカー）のいずれかによる以前の画像調整における変更を含め、変更前の状態の画像を表示します。

■ 最後に保存された状態

画像を保存すると編集バージョンポップアップメニューに表示されます。これを選択すると、最後に保存された状態まで戻ります。保存後に画像処理ステップを追加していた場合、その画像処理ステップは一時キャンセルされ、［**エディットリスト**］にも表示されなくなります。［**(最新)**］を選ぶと再度画像処理ステップが表示され、画像処理が適用されます。

■（最新）

保存後の画像に画像調整すると、編集バージョンポップアップメニューは自動的に［**(最新)**］になります。

編集バージョンの新規作成、編集

編集バージョンは、手動でも作成できます。手動で作成した編集バージョンは、行われた調整すべてを含む［**エディットリスト**］の現在の状態を保存するので、同一ファイル内に画像の複数の編集バージョンを作成できます。Capture NX 2の元画像を損なわない編集機能という特徴により、さまざまな編集バージョンを作成し、ある編集バージョンから次の編集バージョンへと切り換え、これらの編集バージョンを今後使用するために保存することが可能です。

これにより、異なる画像処理を行って、まったく印象の異なる編集バージョンを作成し、比較を行って最終的な仕上がりを決定できます。異なる画像処理ごとに［**ファイル**］メニューの［**名前を付けて保存**］することにも似ていますが、ひとつの画像内で行うことで作業の手間やパソコンのディスクスペースが節約できます。

■ 新規編集バージョンの作成

編集バージョンを作成するには、ボタンをクリックして、メニューから［**新規編集バージョン**］を選択します。新規編集バージョンの名前を入力して、［**OK**］をクリックします。新規編集バージョンは、編集バージョンメニューに表示され、表示されている画像の［**エディットリスト**］の最新状態を表わします。

■ 編集バージョンの編集

利用可能な編集バージョンを編集して、編集バージョン名を変更したり、現在のリストから編集バージョンを削除できます。［**編集バージョン**］ポップアップメニューから［**編集のバージョン**］を選択して、［**編集バージョンの編集**］ダイアログを表示します。変更したい編集バージョンをクリックし、次に［**名前の変更**］または［**削除**］をクリックします。

複数の画像に同じ処理を適用する（バッチ処理）

バッチ処理とは

Capture NX 2のバッチ処理機能は、画像の読み込みから、あらかじめ設定した各種画像調整の適用と保存までの処理を複数の画像に対して自動的に実行できます。

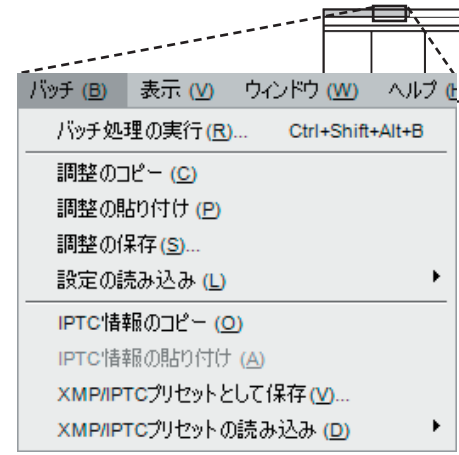
基本的にバッチ処理は、同一条件で撮影した複数枚の画像に対し、同一の画像処理を行う場合に有効です。これは、同じ条件で撮影した画像は、色合いや明るさが似た印象になるためです。つまり、1枚の画像に適用した処理を、他の画像にも適用すれば同様の仕上がりが得られます。しかし、1枚1枚画像を開いて処理を適用していては、大変な手間がかかります。バッチ処理を使用すれば、簡単に複数の画像に同一の処理を適用でき、作業を効率的に行えます。

Capture NX 2では画像調整のステップを保存できるため、さまざまな内容の処理を自動的に行えます。特に、同一条件で撮影が可能なスタジオ撮影などの場合、それぞれの状況に合わせた調整内容を画像調整ファイルとして保存しておくと便利です。また、そのほかにもグレースケールに変換したり、同じ解像度に統一するなど、さまざまな用途に使用できます。

MEMO

バッチ処理機能を使って画像を処理する場合は、［**バッチ処理**］ダイアログの［**調整を適用**］セクションで設定した処理内容に基づいて、［**元画像**］で指定したフォルダ内の画像すべてに同一の画像調整が適用されます。あらかじめバッチ処理機能を始める前にはテストを行い、画像調整の設定を決めることをおすすめします。

画像ごとに画像調整を変えたい場合や、異なる環境下で撮影された画像を調整する場合は、個々の画像を開いて処理または保存する方法が適しています。



バッチ処理の実行

ここでは、ハードディスクに保存された画像ファイルのフォルダに対してバッチ処理を行う方法と、［**ブラウザー**］上でバッチ処理を行う方法について説明します。

参照 「ブラウザー」(P.35)

フォルダ内の画像にバッチ処理を適用する

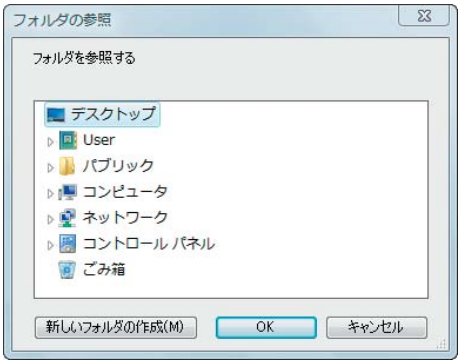
1 **［バッチ］メニューの［バッチ処理の実行］を選択する**

［**バッチ処理**］ダイアログが表示されます。



2 **［元画像］の［参照］をクリックして、バッチ処理を行う画像が入っているフォルダを指定する**

［**元画像**］の欄に指定フォルダが表示されます。また、下のチェックボックスでオプションを設定します。



サブフォルダを含める	チェックを入れると、選択したフォルダの中にあるサブフォルダの中の画像ファイルにもバッチ処理を行います。また、バッチ処理を行った画像の保存先のフォルダにも、同じ名前のサブフォルダが作成されます。
処理後フォルダから削除する	チェックを入れると、バッチ処理後に元画像のファイルを削除します。

MEMO すでにバッチ処理を実行したことがある場合、［**元画像**］には前に処理を適用したフォルダが選択されています。

3 [設定を適用] にチェックを入れて [参照] をクリックし、画像に適用する設定ファイルを選択する

[**設定を適用**] にチェックを入れると、チェックボックス右のメニューが選べるようになります。画像調整の設定ファイルを適用しないでバッチ処理を行う場合は、チェックを外してください。

<table>
<tr><td>設定ファイルを使用する</td><td>あらかじめ保存しておいた、画像に適用する処理の設定ファイルを選択します。また、[コンフリクト管理] が選べるようになります。
コンフリクト管理：元画像がNEF形式の場合、バッチで行う処理と元画像の間で相反する機能が使用されていることがあります。その場合に、Capture NX 2がどのように対処するかを設定します。<table><tr><td>新規設定を追加する</td><td>設定ファイルの処理を、すべて [エディットリスト] の最後に追加します。</td></tr><tr><td>現在の設定を置き換える</td><td>設定ファイルの処理を、バッチ処理を適用するすべての画像に適用します。もし元画像に、バッチ処理と相反する処理が行われていた場合、処理は上書きされます。</td></tr><tr><td>違いを表示</td><td>元画像で適用された処理と、バッチ処理で適用される処理が異なっている場合、ダイアログが開きます。そのダイアログでどの処理を置き換え、どの処理を保持するかを選択できます。</td></tr></table>参照 「調整の保存」(P.242)</td></tr>
<tr><td>撮影時の状態に戻す</td><td>NEF形式の画像を撮影時の状態に戻します。またNEF形式に変換したファイルの場合は、すべての画像調整を削除してNEFに変換した時点の状態に戻します。JPEG、TIFF形式の場合はそのまま保存されます。</td></tr>
</table>

MEMO バッチ処理の対象となるフォルダは常に固定しておくと便利です。例えば、「Batch In」フォルダを作成し、バッチ処理を行いたい各画像ファイルを「Batch In」フォルダに複製（コピー）します。

4 処理を適用した画像の名前を指定する

［**名前を変更**］にチェックを入れると、バッチ処理を適用した画像の名前を任意に変更できます。［**編集**］をクリックすると表示される、［**ファイル名の作成ルール**］ダイアログで、連番や撮影日時など、さまざまな条件を付加したファイル名に変更できます。

MEMO 処理はファイル名順に適用されます。



プレフィックス	ファイル名の最初につける文字列を指定します。	
	元の名前	元画像の名前をそのまま使用します。
	新規名	新しい任意の名前を指定できます。下のテキストボックスに使用したい文字列を入力します。
	なし	プレフィックスを使用しません。
連番	処理を適用した画像に、連番や撮影日などを付加します。	
	連番	1～8桁までの連番を指定できます。［**開始番号**］のテキストボックスで連番の最初の番号を指定できます。［**桁数**］のスライダーを左右に動かして、1～8桁まで指定します。桁数を指定していても、［**開始番号**］のテキストボックスにその桁以上の数字を入力すると、自動的に桁数が増えます。
	撮影日	画像を撮影した年月日/月日をファイル名に追加します。［**yyyymmdd**］は4桁の西暦と2桁の月/日の順に数字が並びます。［**yymmdd**］は2桁の年/月/日、［**mmddyyyy**］は2桁の月/日と4桁の西暦、［**mmddyy**］は2桁の月/日/年、［**mmdd**］は2桁の月/日の順で数字がつけられます。撮影日と連番の間には［**アンダーバー (_)**］［**ハイフン (-)**］［**スペース**］を入れられます。［**なし**］を選択すると、撮影日と連番の間には何も入りません。
	撮影日時	画像を撮影した日時をファイル名として使用します。撮影日と撮影時間の間には［**アンダーバー (_)**］［**ハイフン (-)**］［**スペース**］を入れられます。［**なし**］を選択すると、撮影日と撮影時間の間には何も入りません。撮影時間は［**hhmmss***］を選択すると2桁の時/分/秒が、［**hhmm***］を選択すると2桁の時/分がファイル名として使用されます。もし同じ時間に撮影された画像の場合、末尾に連番が自動的に追加されます。
サフィックス	ファイル名の最後につける文字列を指定します。内容は［**プレフィックス**］と同様です。	

ファイル名を指定する際には、次のことに留意してください。

Windows

・ロングファイル名をサポートしない環境の場合は、ファイル名が半角で８文字以下になるように指定してください。また、ファイル名で、スペースと半角の「¥¥」、「/」、「:」、「;」、「*」、「?」、「″」、「<」、「>」、「|」は使用できません。また、ファイル名に「.」のみは使用できません。

・ロングファイル名をサポートする環境の場合は、ファイル名で、「¥¥」、「/」、「:」、「;」、「*」、「?」、「″」、「<」、「>」、「|」は使用できません。また、ファイル名に「.」のみは使用できません。

Mac OS

ファイル名で「:」は使用できません。また、ファイル名の先頭に「.」は使用できません。

5 処理後の保存ファイル形式を選択する

ファイル形式には［**JPG**］［**NEF**］［**TIF**］が選択できます。［**詳細設定**］の三角形のアイコンをクリックすると、それぞれの形式の保存オプションを選択できます。

参照 「名前を付けて保存」（P.213）

6 保存先のフォルダを選択する

［フォルダを選択］

［**参照**］をクリックして、フォルダを指定します。

［元画像フォルダを使用］

元画像と同じフォルダに保存します。**［名前を変更］のチェックが外され、元画像と保存後の画像のファイル形式が同じ場合は画像が上書きされます。**［**処理後にフォルダから削除する**］にチェックが入っている場合は、処理を行ったファイルは削除され、バッチ処理によって作成されたファイルが保存されます。

7 [OK] をクリックする

バッチ処理が開始され、[**待機リスト**] が表示されます。[**待機リスト**] は、現在のバッチ処理の状態を表示し、バッチ処理を中断・再開できます。[**待機リスト**] は最小化されて表示されるため、別の画像で作業を行なうことができます。[**待機リスト**] を最大化するには、[**詳細表示**] の三角形のアイコンをクリックします。



[開始] / [一時停止]	現在行っているバッチ処理を一時中断/再開します。処理を一時停止させると、保存先やファイル名、保存するファイル形式を変更できます。処理が行なわれている間は変更できません。
[待機中] タブ	現在処理を待っている画像のリストを表示します。画像のチェックを外すと、その画像の処理が一時停止されます。また、画像名をクリックすると、その画像が選択されます。その後、[**リストから削除**] をクリックすると、待機リストウィンドウから選択された画像を削除します。これは、現在バッチ処理待ちの画像を処理したくない場合に便利です。
[ログ] タブ	バッチ処理を適用した日時や、すでに処理が終わった画像のリストを表示します。 **エラーと警告だけを表示**：バッチ処理中にエラーが起きたり、警告が表示された画像のみ表示します。 **ファイルパスを表示**：保存先のフォルダと、元画像のあるフォルダのファイルパスを表示します。
[保存先]	バッチ処理を適用した画像を保存するフォルダを選択します。 **フォルダを選択**：[**参照**] をクリックして、フォルダを指定します。 **元画像フォルダを使用**：元画像と同じフォルダに保存します。[**名前を変更**] のチェックが外れている場合、処理後のファイル形式が同一の画像は上書きされます。
[ファイル名]	バッチ処理を適用する画像のファイル名を任意に指定できます。 **名前変更**：[**編集**] をクリックすると、P.237の[**ファイル名の作成ルール**] ダイアログが表示され、任意の名前をつけられます。 **元画像ファイル名を使用**：元画像の名前をそのまま使用します。保存先のフォルダが元画像と同じ場合、画像が上書きされます。

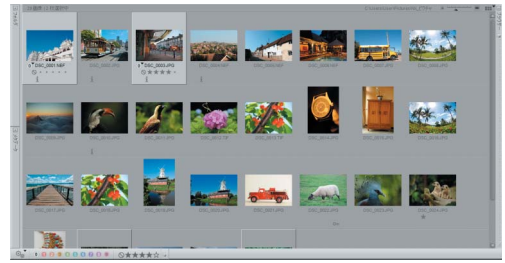
[ファイル形式を選択]	バッチ処理を適用した画像を保存するファイル形式を選択します。ファイル形式には［JPG］、［NEF］、［TIF］が選択できます。［**詳細設定**］では、それぞれの形式の保存オプションを選択できます。 参照 「名前を付けて保存」（P.213）
［処理後閉じる］	バッチ処置が終わると、自動的に待機リストを閉じます。
［処理後通知］	バッチ処置が終わると、ダイアログを表示します。

8 バッチ処理の完了

バッチ処理が終了すると、ステップ7で［**処理後閉じる**］が選ばれている場合、［**待機リスト**］ダイアログが閉じられ、処理が完了します。［**処理後通知**］が選ばれている場合、バッチ処理完了のダイアログが表示されます。

［ブラウザー］でバッチを適用する

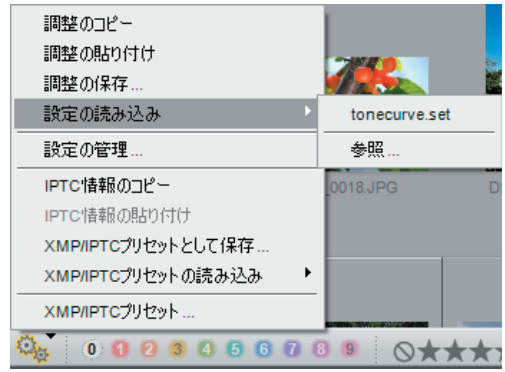
1 ［ブラウザー］でバッチ処理を行いたい画像を選ぶ



画像をクリックすると、背景が明転し、選ばれた状態になります。

画像は複数選択可能です。このとき、Shiftキーを押しながらクリックすると最初に選んだ画像と最後に選んだ画像の間のすべての画像が、Ctrlキー（Mac OSは⌘ キー）を押しながらクリックするとクリックした画像だけが複数選ばれます。

2 ラベルとレーティングツールバーにある［バッチ］メニューの［設定の読み込み］で設定ファイルを読み込む



3 ［待機リスト］の［OK］をクリックする

［**待機リスト**］が表示されます。これ以降はP.239の「フォルダ内の画像にバッチ処理を適用する」のステップ7と同じです。

調整のコピー

現在の画像の設定全体あるいは［**エディットリスト**］の選択された画像処理ステップだけをCapture NX 2のクリップボードにコピーします。コピーした画像処理は、他の画像や同じ画像に貼り付けて、同じ効果を適用できます。

現在の画像の設定全体をコピーするには、バッチメニューまたは［**エディットリスト**］のバッチメニューの［**調整のコピー**］を選択します。［**エディットリスト**］から選択された設定をコピーするには、その画像処理ステップをクリックします。

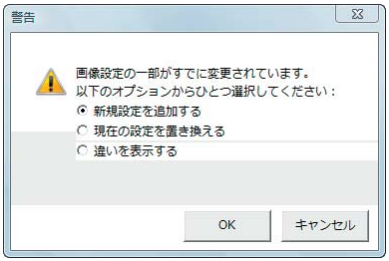


MEMO 一度に複数の画像処理ステップをコピーするには、Ctrlキー（Mac OSは⌘ キー）を押しながらクリックします。また、画像処理ステップあるいは画像処理ステップの範囲全体を選択するには、コピーする範囲内の最初の画像処理ステップをクリックして、Shiftキーを押しながら範囲内の最後の画像処理ステップをクリックします。

調整の貼り付け

［**調整のコピー**］でコピーされた設定を、画像あるいは［**ブラウザー**］内で選択された画像に貼り付けます。コピー後、バッチメニューまたは［**エディットリスト**］のバッチメニューの［設定の貼り付け］を選択します。設定はイメージウィンドウあるいは［**ブラウザー**］内の現在の画像に貼り付けられます。また、［**ブラウザー**］内で選択された複数の画像に貼り付けることもできます。貼り付けられた設定は、選択された画像の［**エディットリスト**］の最後に付け加えられます。

対象の画像がすでに編集され、貼り付けた設定と相反する設定を持っていた場合、右のダイアログが表示され、どのように対処するかが設定できます。



MEMO 画像は［**現像**］セクションの設定をひとつしか持てません。［**現像**］セクションの設定をコピーして画像に貼り付けると、ダイアログが表示されます。［**現在の設定を置き換える**］を選んで［**OK**］をクリックすると、元の［**現像**］セクションの設定の内容が、貼り付けた［**現像**］セクションの設定の内容に置き換わります。［**現像**］セクションの設定全体が上書きされないようにするには、［**現像**］セクションの設定内の個別の画像処理を選択し、コピーし貼り付けます。

調整の保存

現在までに処理されている調整を保存するには、以下の手順を行います。

操作手順

1 ［バッチ］メニューの［調整の保存］を選択

［**調整の保存**］ダイアログが表示され、現在の画像の編集リストが表示されます。



2 設定ファイルに保存したい処理を選択する

設定ファイルに保存したい調整項目にチェックを入れます。

MEMO 調整に選択範囲を設定していた場合、選択範囲を保存するには調整と合わせてチェックを入れる必要があります。チェックを外して保存すると、画像全体に設定が適用されます。

3 設定ファイル名を入力する

入力されたファイル名は、［**設定の読み込み**］時にサブメニューに表示されます。

4 設定ファイルの保存先を指定する

設定ファイルの保存先は、初期設定ではCapture NX 2の設定フォルダになっています。また、設定フォルダ内の設定ファイルは、すべて［**設定の読み込み**］サブメニューに表示されます。

ひとつの画像処理のみ設定ファイルに保存する場合、選択された画像処理の名前のフォルダに設定ファイルが保存されます。

別のフォルダに保存したい場合は、［**参照**］をクリックして別のフォルダを設定します。

設定の読み込み

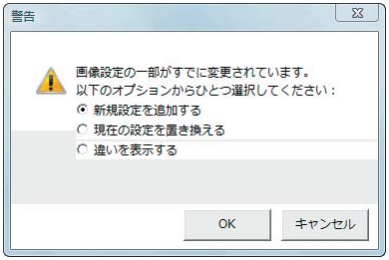
［**設定の読み込み**］を行うと、現在の画像または［**ブラウザー**］で選択している画像に、選択した設定ファイルの処理を適用できます。［**設定の読み込み**］サブメニューには、使用できる設定ファイルのリストが表示されています。開いているファイルに適用するには、バッチメニューまたは［**エディットリスト**］のバッチメニューから［**設定の読み込み**］を選択し、使用する設定ファイルを指定します。

複数の画像に適用する場合、［**ブラウザー**］上で処理を適用したい画像を選択し、バッチメニューまたは［**ブラウザー**］のバッチメニューから［**設定の読み込み**］を選択し、使用する設定ファイルを指定します。

MEMO ［**設定の読み込み**］サブメニューに表示されている設定ファイルのリストは、［**編集**］メニューにある［**環境設定**］の［**設定の管理**］で変更できます。また、サブメニューに表示させる設定ファイルの追加や、設定ファイルの削除なども行えます。

■ バッチ処理の警告

元画像がNEF形式の場合、［**設定の読み込み**］で行うバッチ処理と、元画像の間で相反する機能が使用されていることがあります。その場合、右のようなダイアログが表示され、どのように対処するかが設定できます。



新規設定を追加する	設定ファイルの処理を、すべての画像に自動的に追加します。
現在の設定を置き換える	設定ファイルの処理を、すべての画像に適用します。もし元画像に、バッチ処理と相反する処理が行われていた場合、処理は上書きされます。
違いを表示する	［**違いを表示する**］を選択すると、右のダイアログが表示され、バッチ処理の対象となる画像の現在の設定と、設定ファイルの項目を含むポップアップメニューを表示します。［**現像**］セクション以外の画像処理ステップの新規設定プルダウンメニューには、設定ファイル内の画像処理すべてのリストが含まれています。画像処理ステップの元の設定を保持する、設定ファイル内の項目とその画像処理ステップの項目を置き換える、画像処理ステップそのものを削除するのいずれかを選択できます。［**OK**］をクリックすると、P.239の［**待機リスト**］が表示されます。



IPTC情報のコピー

現在イメージウィンドウで開いている画像のIPTC情報をコピーします。



IPTC情報の貼り付け

現在コピーされているIPTC情報をイメージウィンドウで開いている画像に貼り付けます。

XMP/IPTCプリセットの保存

XMP/IPTC情報をプリセットとして設定して保存します。



XMP/IPTCプリセットの読み込み

現在の画像または［**ブラウザー**］で選択している画像に、選択したXMP/IPTC情報のプリセットを適用できます。

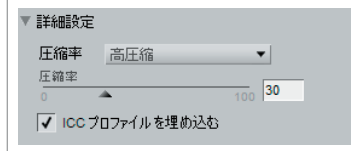
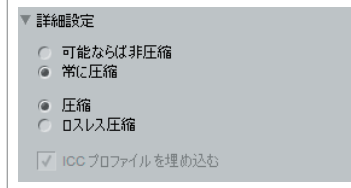
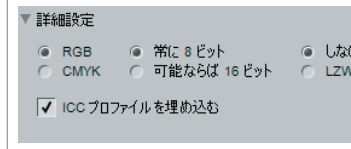
監視フォルダ

監視フォルダは、あらかじめ設定した時間間隔でバッチ処理の対象となるフォルダを調べて、フォルダに新規画像がある場合自動的にバッチ処理を開始します。この機能は、別売のCamera Control Pro 2*を使用してカメラで撮影した画像を直接パソコンのフォルダに送信し、バッチ処理を行う場合などに便利です。監視フォルダ機能には次のコントロール機能があります。

* Camera Control Pro 2 の対応バージョンは、ver.2.1.0 以降となります。対応バージョンは、Nikon Message Center よりダウンロードが可能です。



監視フォルダ	バッチ処理を適用する新規画像の追加状況を監視するフォルダを、［**参照**］をクリックして指定します。	
	サブフォルダを含める	チェックを入れると、フォルダ内のすべてのフォルダの画像に対して監視が行われます。
	処理をすぐに実行する	監視フォルダに新規画像があるかどうかを常に調べ、新規画像があるとすぐに設定ファイルを適用します。
	処理の実行間隔	テキストボックスに入力された間隔の時間で監視フォルダを調べます。
設定を適用	チェックを入れると、設定ファイルを画像に適用したり、NEF形式の画像を元の状態に戻せます。画像調整の設定ファイルを適用しないでバッチ処理を行う場合は、チェックを外してください。	
	設定ファイルを使用する	［**参照**］を使用して、監視フォルダ内の画像に適用する設定ファイルを選択できます。
	撮影時の状態に戻す	NEF形式の画像を撮影時の状態に戻します。またNEF形式に変換したファイルの場合は、すべての画像調整を削除して元の状態に戻します。JPEG形式、TIFF形式の場合、そのままの状態で保存されます。
コンフリクト管理	元画像がNEF形式の場合、バッチで行う処理と元画像の間で相反する機能が使用されていることがあります。その場合に、Capture NX 2がどのように対処するかを設定します。	
	新規設定を追加する	［**現像**］セクションの処理については設定ファイルを置き換え、画像ステップについては新規に追加してバッチ処理を行います。
	現在の設定を置き換える	［**現像**］セクションの処理と画像ステップの両方の設定ファイルを置き換えてバッチ処理を行います。
	スキップして継続	相反する画像調整が検出された場合、処理を行わずにスキップします。画像名とコンフリクトが発生した時間を含むエラーがログに書き込まれます。

<table>
<tr><td>名前変更</td><td>チェックを入れて、[編集] をクリックするとP.237の [ファイル名の作成ルール] ダイアログが表示され、そこで設定したルールに沿って新しく名前が付けられます。</td></tr>
<tr><td>ファイル形式を選択</td><td>プルダウンメニューでバッチ処理後の画像のファイル形式を [JPG]、[NEF]、[TIF] から選択します。また、それぞれの形式に合わせた [詳細設定] をオプションとして選択できます。[詳細設定] の内容を表示させるには、三角形のアイコンをクリックします。
<table>
<tr><td>JPG</td><td>[詳細設定] メニューのプルダウンメニューで圧縮率を選べます。また、画質スライダーで圧縮率を調整することもできます。
[ICCプロファイルを埋め込む] にチェックを入れると、ファイル保存時にICCプロファイルが埋め込まれます。</td><td> 
</td></tr>
<tr><td>NEF</td><td>[詳細設定] メニューで圧縮方法を選択できます。</td><td> 
</td></tr>
<tr><td>TIF</td><td>[詳細設定] メニューで [RGB]、[CMYK] のどちらかを選択できるようになります。[RGB] を選択した場合、さらに [常に8ビット] または [可能ならば16ビット]、[しない] または [LZW] のそれぞれいずれかを選択できます。
[ICCプロファイルを埋め込む] にチェックを入れると、ファイル保存時にICCプロファイルが埋め込まれます。</td><td> 
</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>保存先</td><td>処理を適用した画像の保存先を指定します。
<table>
<tr><td>フォルダを選択</td><td>画像の保存先として使用するフォルダを、手動で指定できます。[参照] をクリックし、フォルダを指定します。</td></tr>
<tr><td>元画像フォルダを使用する</td><td>処理を適用したファイルを元のフォルダに保存します。[名前を変更] のチェックを外すと、画像は上書きされます。</td></tr>
</table>
監視フォルダで用いるパラメータを設定し、[OK] をクリックします。P.239の [待機リスト] が表示され、監視フォルダが実行中であることを表示します。[待機リスト] を最小化すれば、別の画像の作業を行いながらバッチ処理を適用できます。</td></tr>
</table>

Capture NX 2を使いこなす

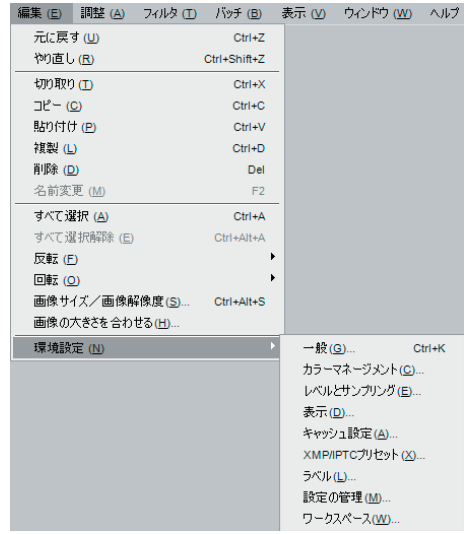
Capture NX 2にはこれまでに紹介してきた機能以外にも、便利な機能があります。

環境設定を変更する.....P.248
カラーピッカーで色を選ぶ.....P.260
ピクチャーコントロールを管理する.....P.262
メニュー 一覧.....P.272
ショートカットキー 一覧.....P.280

環境設定を変更する

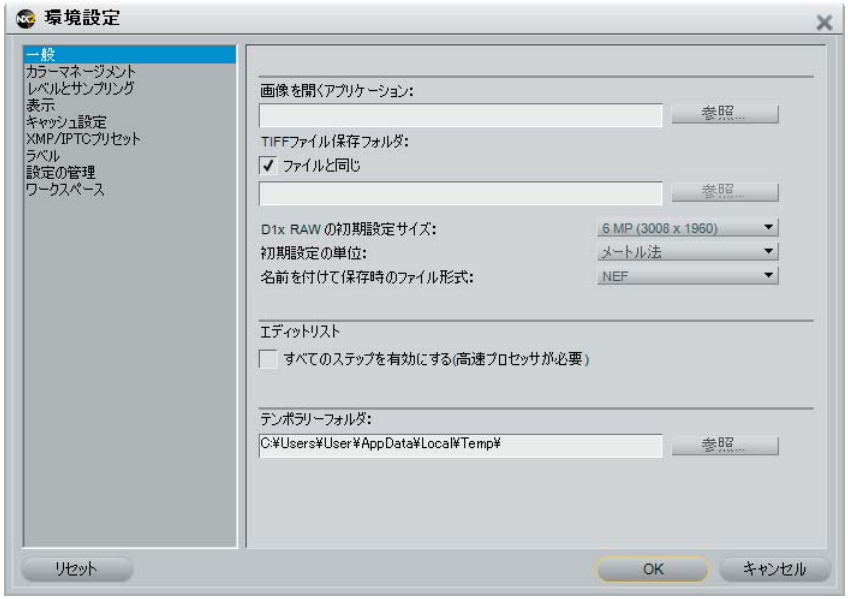
環境設定ではCapture NX 2を使用する上でユーザー独自の設定ができます。

環境設定は［**編集**］メニュー（Mac OSでは［**Capture NX 2**］メニュー）の［**環境設定**］から表示できます。



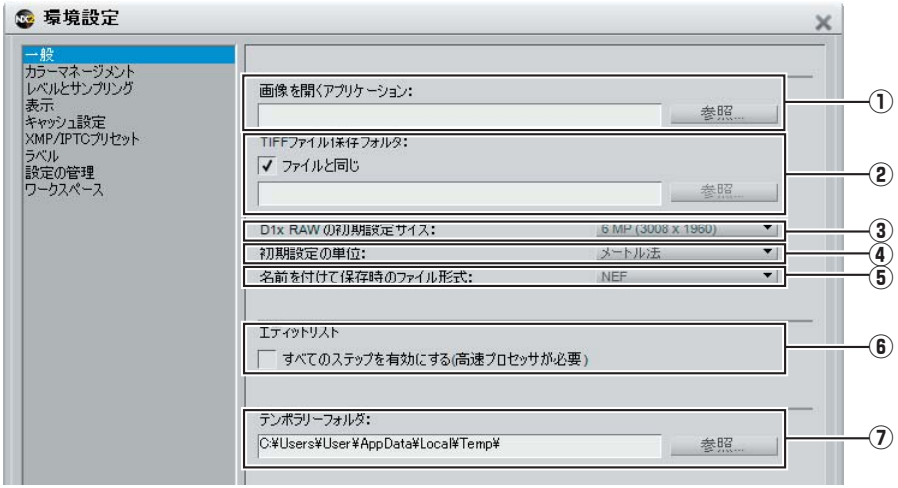
ショートカット　Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋Kキー

MEMO　変更した環境設定をリセットするには、左下の［**リセット**］をクリックします。



一般

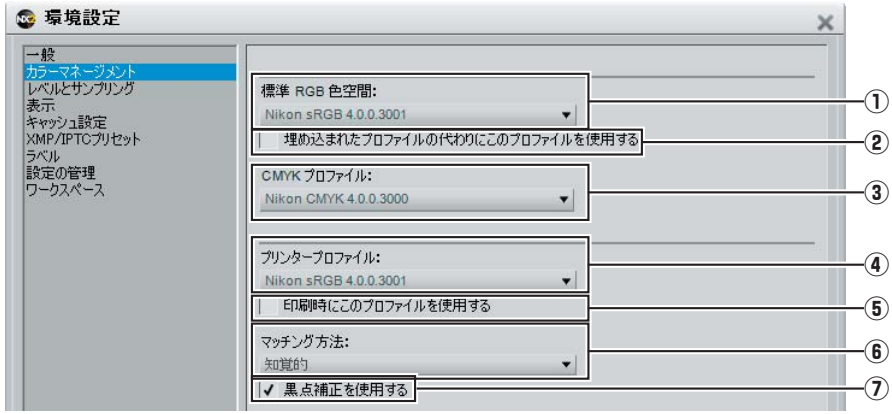
Capture NX 2の操作一般に関する項目です。



① **画像を開く アプリケーション**	[**ファイル**] メニューの [**他のアプリケーションで画像を開く**] で使用するアプリケーションを指定します。
② **TIFFファイル保存 フォルダ**	画像を他のアプリケーションで開く場合、常にTIFF形式（16bit）のファイルを作成してその画像を開きます。その作成したファイルを保存する場所を指定します。[**ファイルと同じ**] にチェックを入れると、元画像と同じフォルダに作成します。
③ **D1x RAWの 初期設定サイズ**	D1xで撮影したRAW 画像を表示する場合の、初期設定の画像ファイルサイズを設定します。[6MP（3008 × 1960)] と [10MP（4016 × 2616)] から選択します。
④ **初期設定の単位**	画像の大きさなどの単位をインチまたはミリメートルに設定します。この単位は [**編集**] メニューの [**画像サイズ/画像解像度**] や、[**印刷**] のダイアログに使用します。
⑤ **名前を付けて保存時の ファイル形式**	[**ファイル**] メニューの [**名前を付けて保存**] で保存する場合、初期設定で選ばれているファイル形式を設定します。
⑥ **エディットリスト**	チェックを外すと、[**現像**] セクションの処理を行ったり、[**調整**] セクションで現在行っている画像処理以前の処理を再調整すると、その処理以降の画像処理ステップが一時キャンセルされます。チェックを入れると、現在行っている画像処理以前の画像処理ステップを編集している間も、それ以降の画像処理ステップが一時的にキャンセルされません。これはパソコンに負荷がかかるため、ご使用になっているパソコンの性能によっては処理に非常に時間がかかる場合があります。
⑦ **テンポラリーフォルダ**	一時データを保存するフォルダを設定します。起動ディスク以外のディスク上のフォルダを選ぶことをおすすめします。

カラーマネージメント

カラーマネージメントに関する項目です。



① **標準RGB色空間**	画像で使用する標準RGB色空間を設定します。
② **埋め込まれたプロファイルの代わりにこのプロファイルを使用**	チェックを入れると、標準RGB空間で設定された色空間が作業用色空間となります。チェックを外すと、画像ファイルに埋め込まれているプロファイルが作業用色空間となります。
③ **CMYKプロファイル**	TIFF形式をCMYKで保存する場合に使用するCMYKプロファイルを設定します。
④ **プリンタープロファイル**	印刷する際に使用するプリンタープロファイルを設定します。
⑤ **印刷時にこのプロファイルを使用する**	チェックを入れると、プリンタープロファイルを使用して印刷します。

<table>
<tr>
<td>⑥ マッチング方法</td>
<td>画像に適用するマッチング方法を選びます。マッチング方法は、プリンタープロファイルをもとに、プリンターが作成できる色に合うように画像の色をコントロールします。
<table>
<tr><td>知覚的</td><td>印刷画像が自然に見えるよう色の関係を維持します。色の関係は維持されますが、実際の色値は変更されます。</td></tr>
<tr><td>彩度</td><td>彩度の高い色を作りますが、オリジナルの画像の色と異なる場合があります。</td></tr>
<tr><td>相対的な色域</td><td>画像のホワイトポイントをプリンタープロファイルで定義されているホワイトポイントにマッピングして、色域内の色を正確に再現します。色域外の色はできるだけ再現可能な色にシフトされます。本来の色を可能な限り保持するため、画像の印刷には最適な場合が多くなります。</td></tr>
<tr><td>絶対的な色域</td><td>色域外の色をできるだけ再現可能な色にシフトされます。[相対的な色域] と似ていますが、画像のホワイトポイントをプリンタープロファイルで定義されているホワイトポイントにマッピングしません。用紙の色の影響も含めて出力機器の結果を再現するため、普段使用するプリンター以外の印刷機器で画像を校正する場合におすすめです。</td></tr>
</table>


プリンターと用紙の組合わせが異なる場合などは、マッチング方法を変えると効果的です。使用するワークフローに合った方法を見つけ出すために、さまざまなマッチング方法をお試しいただくことをおすすめします。</td>
</tr>
<tr>
<td>⑦ 黒点補正を使用する</td>
<td>チェックを入れると、黒点補正を使用します。画像の黒点がプリンターの黒点に対応するため、プリンターのカラー範囲をフルに使用できます。プリンターとプロファイルの組合せで問題が発生しない限り、常にチェックを入れることをおすすめします。印刷結果にグレーのシャドー部分がある場合や画像の絵柄が細かくない場合はチェックを外してください。[マッチング方法] で [絶対的な色域] を選ぶと使用できません。</td>
</tr>
</table>

レベルとサンプリング

［**レベルとトーンカーブ**］に関する項目です。

参照 「レベルとトーンカーブ」(P.145)



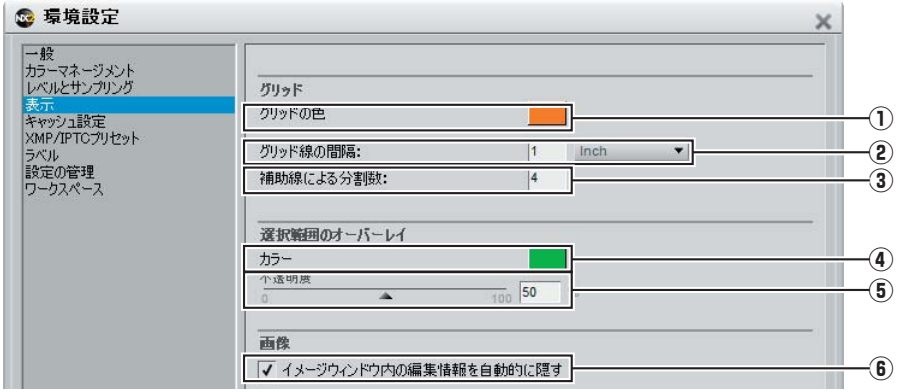
① **ブラックポイントを設定**	［**レベルとトーンカーブ**］ダイアログ内でブラックポイントとして使用する値を設定します。初期設定では0, 0, 0に設定されています。
② **ホワイトポイントを設定**	［**レベルとトーンカーブ**］ダイアログ内でホワイトポイントとして使用する値を設定します。初期設定では255, 255, 255に設定されています。
③ **ニュートラルポイントを設定**	［**レベルとトーンカーブ**］ダイアログ内でニュートラルポイントとして使用する値を設定します。初期設定では128, 128, 128に設定されています。
④ **自動コントラストの黒側クリップ**	［**レベルとトーンカーブ**］ダイアログ内でシャドーを使用する際、除外するもっとも暗いピクセルのパーセンテージを設定します。
⑤ **自動コントラストの白側クリップ**	［**レベルとトーンカーブ**］ダイアログ内でハイライトを使用する際、除外するもっとも明るいピクセルのパーセンテージを設定します。
⑥ **サンプルサイズ**	［**モニターポイント**］と［**レベルとトーンカーブ**］ダイアログ内でスポイトツールを使用する際のサンプルサイズを設定します。

1画素	1ピクセルのみサンプリングします。詳しくそのピクセルの色を確認する場合に使用します。表示倍率を高くして設定することをおすすめします。
3×3画素平均	縦横3ピクセルずつサンプリングし、各ピクセルの色の平均値を表示します。一般的に、同じ色に見えていても、隣接する各ピクセルの色は微妙に異なります。これを選ぶと、目標領域の色がより正確に描写できます。
5×5画素平均	縦横5ピクセルずつサンプリングし、各ピクセルの色の平均値を表示します。画像サイズの大きい画像の場合に使用をおすすめします。

表示

[**表示**] メニューの [**グリッドの表示**] で表示されるグリッドと、[**選択範囲の表示**] の [**オーバーレイの表示**] に関する項目です。

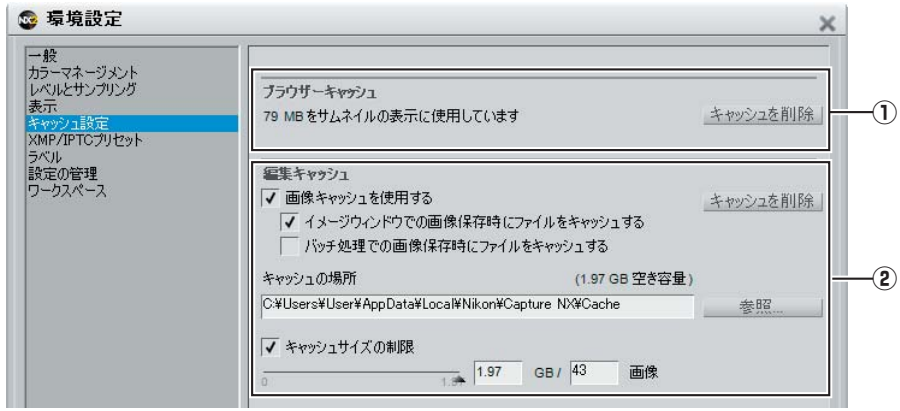
参照 「選択範囲の表示」(P.210)
「グリッドの表示」(P.277)



① **グリッドの色**	カラーピッカーでグリッドの色を選びます。 参照 「カラーピッカーで色を選ぶ」(P.260)
② **グリッド線の間隔**	グリッド線の間隔と単位を設定します。
③ **補助線による分割数**	主要グリッド線の間に、細いグリッド線を表示するよう設定できます。
④ **カラー**	カラーピッカーでオーバーレイの表示の色を選びます。 参照 「カラーピッカーで色を選ぶ」(P.260)
⑤ **不透明度**	オーバーレイで表示される色の不透明度を設定します。
⑥ **イメージウィンドウ内の編集情報を自動的に隠す**	チェックを入れると、マウスポインタがイメージウィンドウの外に出た場合に選択範囲、現在選択されていないコントロールポイント、モニターポイント、グリッドが自動的に非表示になります。マウスポインタをイメージウィンドウ上に戻すと、自動的に再表示されます。

キャッシュ設定

キャッシュ機能は、以前Capture NX 2で開いた画像をすばやく開けるようにするものです。Capture NX 2では、画像のキャッシュ作成方法と、キャッシュファイルを保存する場所やサイズの制限が設定できます。キャッシュには［**ブラウザーキャッシュ**］と［**編集キャッシュ**］があります。

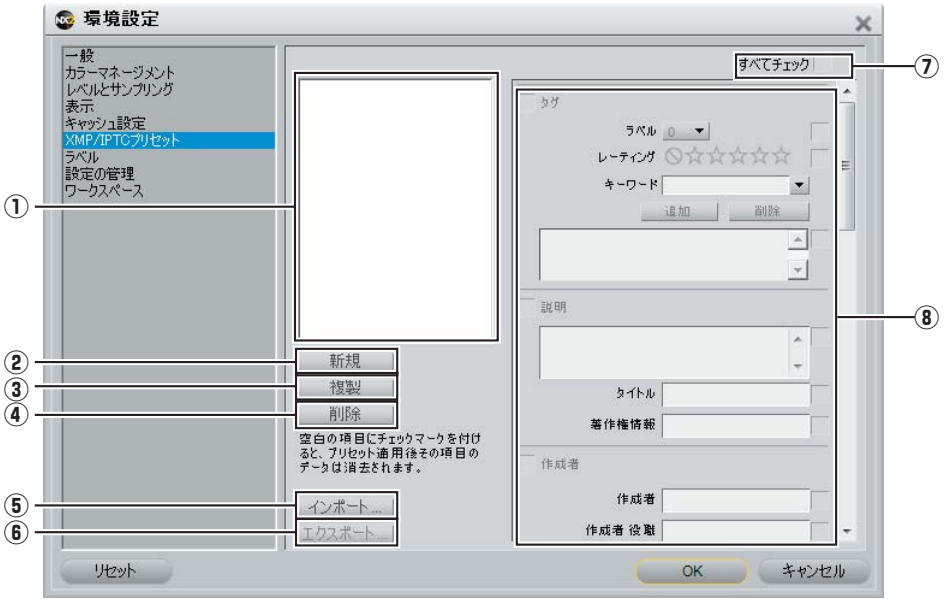


① **ブラウザーキャッシュ**	［**ブラウザー**］のサムネイルを表示する際に使用しているキャッシュファイルのサイズを表示します。［**キャッシュを削除**］をクリックすると、キャッシュを削除します。
② **編集キャッシュ**	［**画像キャッシュを使用する**］にチェックを入れると、キャッシュファイル機能が有効になり、以下の機能を設定できます。 ［**イメージウィンドウでの画像保存時に作成されたキャッシュファイル**］にチェックを入れると、イメージウィンドウで画像をNEF形式で保存したときにキャッシュファイルを作成します。［**バッチ処理で作成されたキャッシュファイル**］にチェックを入れると、バッチ処理で画像をNEF形式で保存したときにキャッシュファイルを作成します。この設定はバッチ処理と監視フォルダによる処理の両方に適用されます。 キャッシュ機能が有効の場合、NEF形式で保存すると、［**キャッシュの場所**］で指定されたフォルダにキャッシュファイルが自動的に作成されます。初期設定では、キャッシュファイルを2GBハードディスク上に確保します。この2GBがすべてキャッシュファイルで利用されてしまうと、古いものから順番に新規キャッシュファイルで置き換えられます。キャッシュファイルがなくなっても画像ファイルの情報が失われたり画質が低下したりすることはありませんが、画像を開くときに時間がかかります。 参照 「バッチ処理とは」(P.234)

キャッシュを削除	Capture NX 2の編集キャッシュを削除します。
キャッシュの場所	［**参照**］をクリックして、キャッシュファイルを保存するフォルダを選択します。起動ディスク以外のディスクを指定することをおすすめします。
キャッシュサイズの制限	チェックを入れると、保存するキャッシュファイルのサイズ（容量）を制限します。割り当てる容量はスライダーで調整します。スライダーの横には、現在割り当てられている容量と、大まかな保存可能な画像数が表示されます。

XMP/IPTCプリセット

XMP/IPTC情報に関する項目です。[**バッチ**] メニューの [**XMP/IPTCプリセットとして保存**] で保存したXMP/IPTCプリセットを管理したり、新規に作成することができます。他の環境で保存したXMP/IPTCプリセットファイルを読み込んだり、XMP/IPTCプリセットをファイルとして保存することもできます。



① プリセット	[**XMP/IPTCプリセットとして保存**] で保存したXMP/IPTCプリセットが表示されています。また、新規に作成するとここにプリセットが表示されます。
② 新規	新規のXMP/IPTCプリセットを作成します。
③ 複製	選んだXMP/IPTCプリセットを複製します。
④ 削除	選んだXMP/IPTCプリセットを削除します。
⑤ インポート	保存されているXMP/IPTCプリセットファイル(拡張子 ".XMP") を読み込みます。
⑥ エクスポート	XMP/IPTCプリセットファイル(拡張子 ".XMP") を保存します。
⑦ すべてチェック	チェックを入れると、XMP/IPTCタグのすべての項目にチェックを入れます。

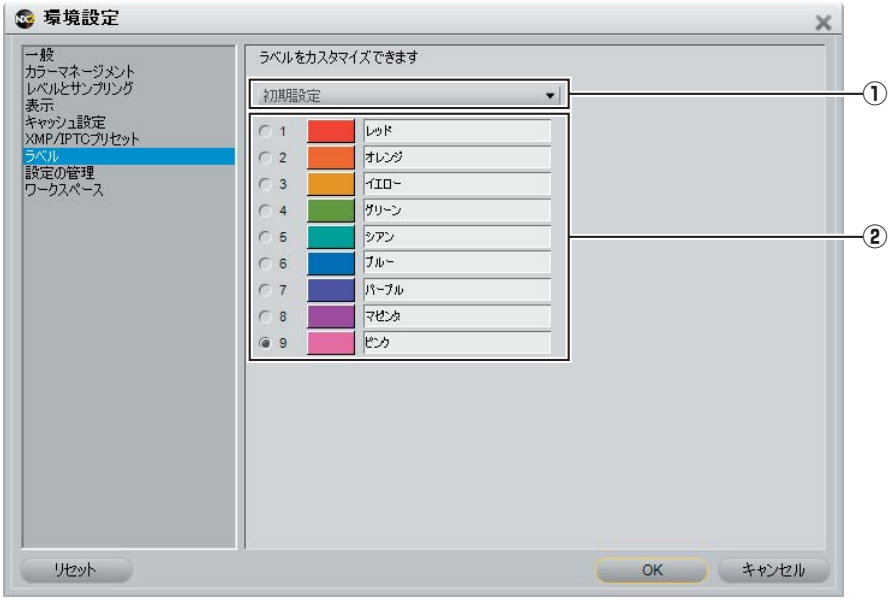
⑧ XMP/IPTCタグ	選んだXMP/IPTCプリセットに適用するタグを設定します。

タグ	ラベルやレーティングなどが設定できます。
説明	画像についての説明コメントを設定できます。
作成者	画像の作成者に関する情報を設定できます。
内容	見出しや撮影場所などの情報を設定できます。
作成元	作成日や国名などの情報を設定できます。
カテゴリー	その画像のカテゴリーに関しての情報を設定できます。

参照 「XMP/IPTC情報」(P.69)、「ラベルとレーティングツールバー」(P.38)

ラベル

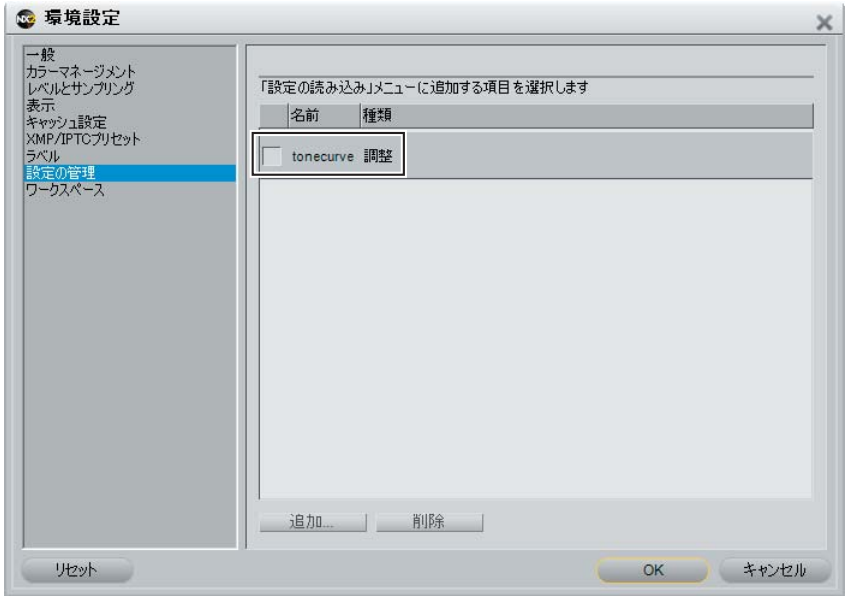
ラベルの数や色を設定できます。また、ニコン製の他アプリケーションとラベルを合わせることもできます。



① 設定	ラベルの設定を選びます。 **初期設定**：Capture NX 2の初期設定に戻します。 **カスタム**：初期設定以外の設定を行うと自動的に［**カスタム**］になります。 **Capture NX 1.0対応／Adobe Bridge CS2対応／Adobe Bridge CS3対応／Microsoft Expression Media対応**：それぞれのアプリケーションのラベルの初期設定に合わせます。
② ラベル	選択したラベルまでを有効にします。画面では「9」が選ばれているので、1～9までのラベルが有効になります。カラーサンプルをクリックしてカラーピッカーで色を変更したり、ラベル名を変更したりできます。ラベルの色、名称の変更は、ViewNXやNikon Transferとは連動しません。 参照 「カラーピッカーで色を選ぶ」（P.260）

設定の管理

バッチ処理の［**設定の読み込み**］で表示する項目を管理します。



項目

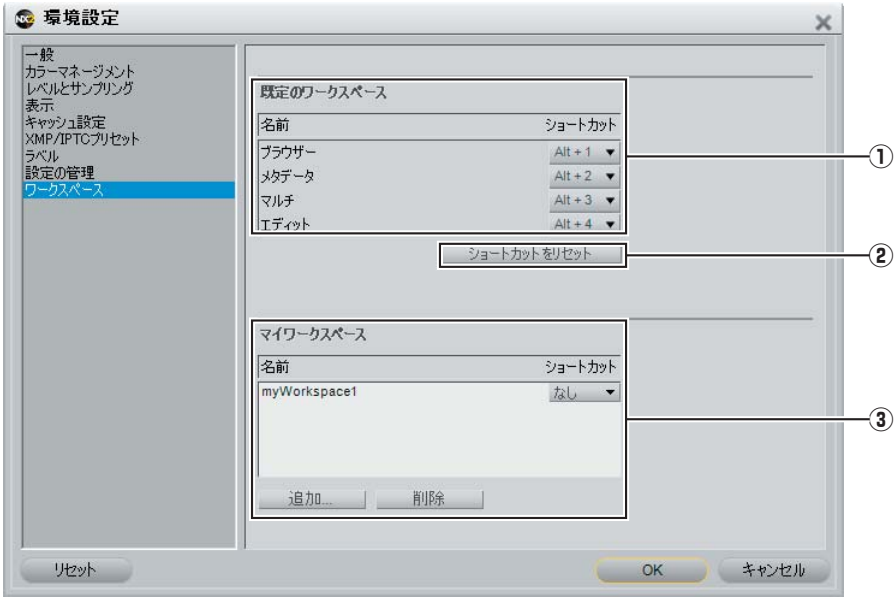
チェックを入れた項目を［**バッチ**］メニューの［**設定の読み込み**］サブメニューで読み込みます。［**追加**］で項目を追加し、［**削除**］で選択した項目を削除します。［**削除**］を実行すると、設定ファイル自体もパソコンから削除されます。

MEMO 追加で登録できる設定ファイルは、Capture NX、Capture NX 2、Nikon Capture 4(ただしDigital DEEを除く)で作成した物のみです。

参照 「設定の読み込み」(P.243)

ワークスペース

ワークスペースを切り換えるショートカットキーを変更したり、カスタマイズしたワークスペースを管理します。



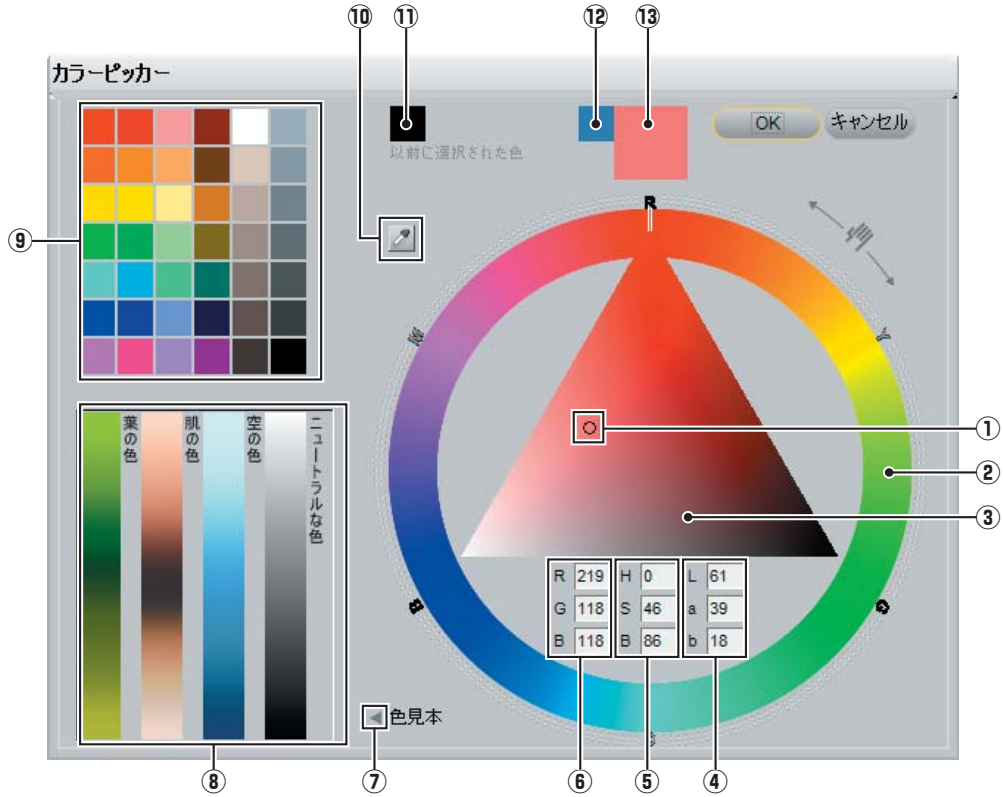
① 既定のワークスペース	あらかじめ設定されているワークスペースの、ショートカットキーの割り当てを変更できます。ポップアップメニューで［**なし**］または［Altキー（Mac OSではoption）＋１キー］～［Altキー＋９キー］までを割り当てられます。すでに割り当てられているショートカットキーを選択した場合、新たに設定した方が有効となり、以前に割り当てられていた方は［**なし**］に変更されます。
② ショートカットをリセット	あらかじめ設定されているワークスペースの、ショートカットキーの割り当てが変更されている場合、初期設定に戻します。
③ マイワークスペース	カスタマイズしたワークスペースの削除やショートカットキーの割り当てを設定できます。また、ワークスペースの保存や削除もできます。

追加	現在のワークスペースを新規ワークスペースとして保存します。［**ワークスペースの追加**］ダイアログで任意の名前を入力します。
削除	ワークスペースを選んでクリックすると、そのワークスペースが削除されます。

参照 「ウィンドウの配置（ワークスペース）を変更する」(P.24)

カラーピッカーで色を選ぶ

カラーピッカーはカラーコントロールポイントなどの画像処理で使用されます。RGB、HSB、Lab色空間内であらゆる色を選べる機能があります。



① **カラーピッカー**	この円内の色が現在選んでいる色です。
② **色ホイール**	色相を選べます。色ホイール内をクリックすると、その色の色相になります。色ホイール外をドラッグすると、色相を細かく回転して選ぶ色を調整できます。
③ **色三角形**	[**色ホイール**] で指定された色の色相の彩度と明度を調整できます。色三角形の頂点には彩度100%を表わす色が表示されます。色三角形の左辺では、色が白に近くなる色明度を調整し、右辺では色が黒に近くなる色明度を調整します。下辺には中間色が表示され、下辺の中央はニュートラルグレーを表しています。[**色三角形**] の先端は、選んだ色の色相を示します。

④ **Lab選択ボックス**	それぞれLab（明度（Lightness）、緑から赤（a）、青から黄色（b））、HSB（色相（Hue）、彩度（Saturation）、明度（Blightness））、RGB（赤（Red）、緑（Green）、青（Blue））で現在の色を表示します。それぞれのテキストボックスに数値を直接入力すると、目標となる色に変更できます。
⑤ **HSB選択ボックス**	
⑥ **RGB選択ボックス**	
⑦ **色見本表示/非表示三角形**	クリックして［**記憶色領域**］と［**色見本**］の表示/非表示を切り換えます。初期設定は非表示です。
⑧ **記憶色領域**	記憶色を含む４つの異なる色領域です。記憶色とは、空の色、肌の色、葉の色など、普段目にしてイメージとして頭に記憶されている色のことです。ニュートラル色領域は、色相がない中間色が選べます。
⑨ **色見本**	あらかじめ用意された色見本のグループです。現在選択している色としてピックアップできます。
⑩ **色スポイトツール**	イメージウィンドウで表示されている画像の中から色を選べます。色スポイトツールをクリックすると、アイコンがスポイトの形（  ）になります。その後、イメージウィンドウ内をクリックすると、その部分の色が選ばれます。
⑪ **以前に選択された色**	最後に選ばれた色５色が表示されます。［**前回選択された色見本**］は、［**最後に選択された色見本**］より前に選ばれた４色が表示されます。
⑫ **最後に選択された色**	
⑬ **現在選択している色**	［**カラーピッカー**］の色が反映されます。［**OK**］をクリックすると、この色が確定します。

ピクチャーコントロールを管理する

「ピクチャーコントロールシステム（Picture Control System）」は、対応するカメラまたはソフトウェアで使用できるニコンの画作り設定システムで、初心者からプロフェッショナルまで、ユーザーの好みに合わせて画像の仕上がりを柔軟に設定できます。

「ピクチャーコントロールシステム」の同じ設定を選べば、どの対応カメラでも、輪郭強調、コントラスト、明るさ、色の濃さ（彩度）、色合い（色相）、などがほぼ同じ仕上がりの画像で撮影できます。また、ニコンデジタル一眼レフカメラで撮影したRAW画像であれば、対応ソフトウェアで同一の「ピクチャーコントロールシステム」を同一の設定で適用すれば、ほぼ同じ仕上がりの画像を得られます。

ニコンが提供するピクチャーコントロールを総称して「ニコンピクチャーコントロール」といいます。「ニコンピクチャーコントロール」には、カメラにあらかじめ搭載されているピクチャーコントロールとニコンのホームページからダウンロードできる「オプションピクチャーコントロール」があります。この「ニコンピクチャーコントロール」を元に、使用する方がお好みで調整してカスタム登録したものを「カスタムピクチャーコントロール」といいます。

「カスタムピクチャーコントロール」は設定ファイルとして保存でき、対応カメラと対応ソフトウェアの間で相互に活用できます。

ピクチャーコントロールユーティリティーは単体でも起動でき、「カスタムピクチャーコントロール」の作成や編集、メモリーカードへのインポート/エクスポートが行えます。

ピクチャーコントロールユーティリティー（Picture Control Utillity）

「ピクチャーコントロールユーティリティー」で作成したカスタムピクチャーコントロールは、対応ソフトウェアにて、画像調整の際にお使いいただけます。ピクチャーコントロールユーティリティーを起動すると、Windowsのタスクバー（Mac OSはDock）内にアイコンが表示されます。
ピクチャーコントロールでは、以下のことができます。

- カスタムピクチャーコントロールを作成する
  「ピクチャーコントロールユーティリティー」を使って新たにカスタムピクチャーコントロールを作成したり、編集したりできます。カスタムピクチャーコントロールを作成するには「レベル調整の設定項目」もあわせてご覧ください。

参照 「レベル調整の設定項目」（P.267）

- ピクチャーコントロールをカメラと共有する
  「ピクチャーコントロールユーティリティー」で作成したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードへエクスポートしたり、カメラで作成したカスタムピクチャーコントロールをインポートしたりできます。

- ピクチャーコントロールを管理する
  カスタムピクチャーコントロールを作成したり、インポートしたカスタムピクチャーコントロールの名前を変更したり、削除できます。

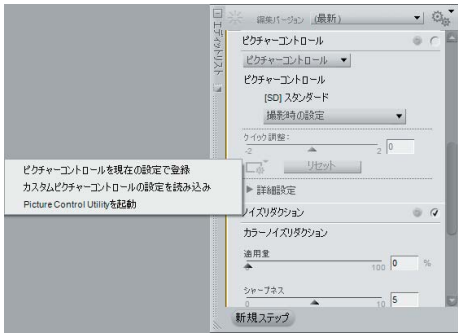
MEMO

- カスタムピクチャーコントロールで調整したRAW画像を、「ピクチャーコントロールシステム」に対応していないアプリケーションで表示すると、ピクチャーコントロールの調整が反映されない場合があります。
- ピクチャーコントロールのインポートとエクスポートは、ピクチャーコントロール機能に対応したカメラのみで行えます。
- 以下のデジタル一眼レフカメラはピクチャーコントロールシステムに対応していません。D2シリーズ、D1シリーズ、D200、D100、D80、D70シリーズ、D60、D50、D40シリーズ

ピクチャーコントロールユーティリティーの起動

Capture NX 2で「ピクチャーコントロールユーティリティー」を開くには、[**現像**] セクションにある [**カメラ設定**] の [**ピクチャーコントロール**] にあるメニューから、[**Picture Control Utillity を起動**] を選びます。

参照 「ピクチャーコントロール」(P.97)



カスタムピクチャーコントロールの作成

カスタムピクチャーコントロールを作成するには「ニコンピクチャーコントロール」、またはすでに作成済みの「カスタムピクチャーコントロール」を編集します。

■ ニコンピクチャーコントロールについて

ニコンピクチャーコントロールは、明るさやコントラスト、色合いなどをバランス良く調整できるよう最適な設定値でRAW調整するニコンおすすめのピクチャーコントロールです。

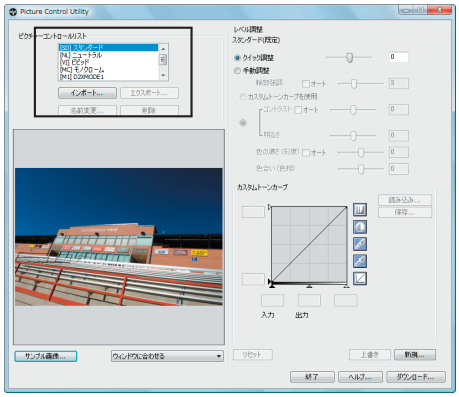
ニコンピクチャーコントロールには、お好みに合わせてRAW調整ができるように7つのピクチャーコントロールが用意されています。

SD：スタンダード	鮮やかでバランスの取れた標準的な画質です。
NL：ニュートラル	素材性を重視した自然な画質です。
VI：ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画質です。
MC：モノクローム	単色の濃淡で表現した画像です。
D2XMODE1 **D2XMODE2** **D2XMODE3**	D2XまたはD2Xsの [**カラー設定**] の各カラーモードに対応した、3種類の「オプションピクチャーコントロール」のセットです。D2XまたはD2Xsと近い色再現を適用できます。

MEMO 「オプションピクチャーコントロール」は、ニコンのホームページからダウンロードできるピクチャーコントロールです。

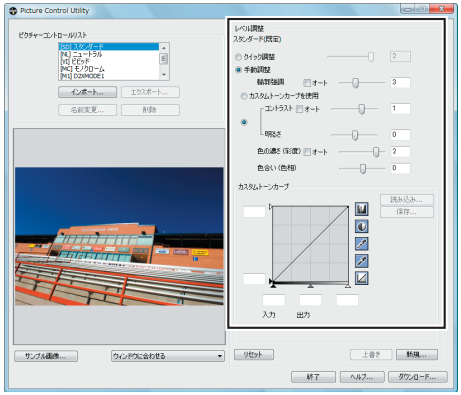
カスタムピクチャーコントロールを作成する

1 ベースとなるピクチャーコントロールを一覧から選択する



2 [レベル調整] で各項目を設定する

各項目の設定については「レベル調整の設定項目」をご覧ください。各項目の設定はすぐに画像に反映されます。



参照 「レベル調整の設定項目」(P.267)

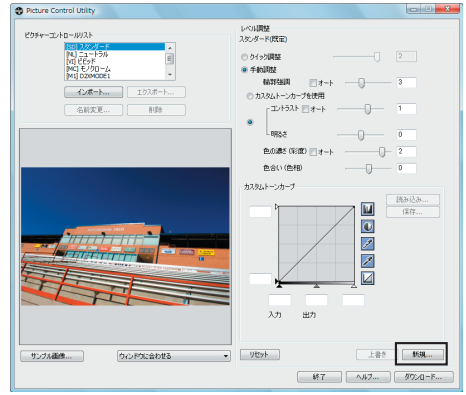
MEMO

[**サンプル画像**] をクリックすると、表示する画像を選択する画面が表示されます。選択できる画像はRAW画像 (NEF) のみです。以下のRAW画像 (NEF) は選択できません。

- Capture NXまたはCapture NX 2で編集/保存されたRAW画像
- Nikon Capture 4またはPictureProjectで編集されたRAW画像
- COOLPIXで撮影されたRAW画像

3 [新規] をクリックしてピクチャーコントロールの名前を付ける

ピクチャーコントロールの名前を入力する画面が表示されます。



MEMO

[**上書き**] をクリックすると、上書きの確認画面が表示されます。[**OK**] をクリックすると、選択したカスタムピクチャーコントロールが上書きされます。「ニコンピクチャーコントロール」の [**[SD] スタンダード**]、[**[NL] ニュートラル**]、[**[VI] ビビッド**]、[**[MC] モノクローム**]、[**[M1～3] D2XMODE1～3**] またはオプションピクチャーコントロールは上書きできません。

4 名前を入力し、[OK] をクリックする

カスタムピクチャーコントロールが新規作成されます。

ニコンピクチャーコントロールの下に、新たに作成したカスタムピクチャーコントロールが順番に登録されます。

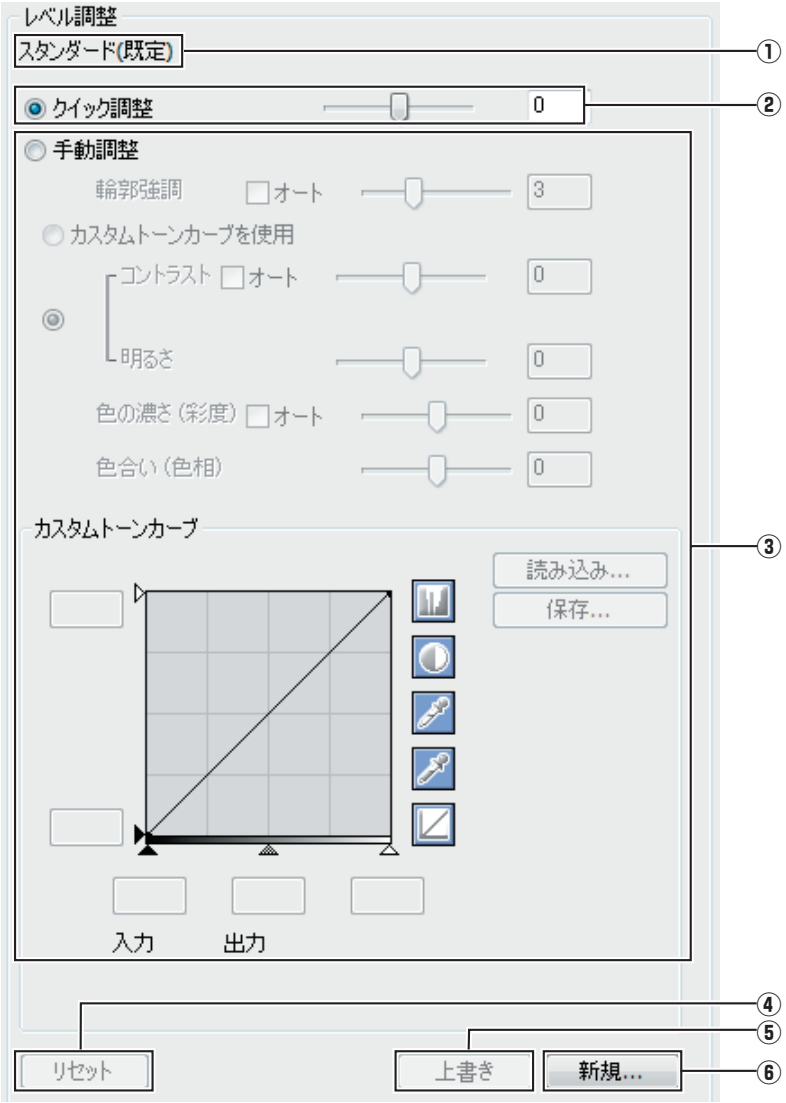


MEMO

使用できる文字数は以下の半角英数文字で18文字までです。

- アルファベット: AからZ（大文字または小文字）
- 数字：0から9
- 記号：「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「+」「,」「-」「.」「/」「:」「;」「<」「=」「>」「?」「@」「[」「\」「]」「^」「_」「`」「{」「|」「}」「~」「半角スペース」

レベル調整の設定項目



① **ピクチャーコントロールの名前**	選択しているピクチャーコントロールの名前を表示します。
② **クイック調整**	選択すると各項目のレベルを自動で調整します。スライダーを左右に動かして調整します。また入力ボックスに数値を入力することもできます。ベースとなるピクチャーコントロールで［**[NL] ニュートラル**］、［**[MC] モノクローム**］、またはカスタムピクチャーコントロールを選択している場合、［**クイック調整**］では調整できません。［**クイック調整**］を選んだ場合、［**手動調整**］は選べません。

<table>
<tr><td>③ 手動調整</td><td>各項目のレベルを手動で調整します。[手動調整] を選んだ場合、[クイック調整] は選べません。
<table>
<tr><td>輪郭強調</td><td>輪郭の強弱を調整します。スライダー左に動かすと輪郭がぼやけ、右に動かすと強調されます。入力ボックスに数値を入力することもできます。[オート] にチェックを入れると、輪郭強調を自動で調整します。</td></tr>
<tr><td>カスタムトーンカーブを使用</td><td>ここを選ぶと、トーンカーブを編集してコントラストと明るさを手動で調整できます。[コントラスト/明るさ] を選んだ場合、[カスタムトーンカーブを使用] は調整できません。</td></tr>
<tr><td>コントラスト/明るさ</td><td>コントラストと明るさを調整します。それぞれスライダーを左右に動かして調整します。また入力ボックスに数値を入力することもできます。コントラストは [オート] と、コントラストを自動で調整します。[カスタムトーンカーブを使用] を選んだ場合、[コントラスト/明るさ] は調整できません。</td></tr>
<tr><td>色の濃さ (彩度)</td><td>彩度を調整します。スライダーを左右に動かして調整します。また入力ボックスに数値を入力することもできます。[オート] にチェックを入れると、彩度を自動で調整します。</td></tr>
<tr><td>色合い (色相)</td><td>色合いを調整します。スライダーを左右に動かして調整します。また入力ボックスに数値を入力することもできます。</td></tr>
<tr><td>フィルター効果</td><td>ベースとなるニコンピクチャーコントロールが [[MC] モノクローム] の場合のみ、設定できます。メニューからフィルター効果の項目を選びます。</td></tr>
<tr><td>調色</td><td>ベースとなるニコンピクチャーコントロールが [[MC] モノクローム] の場合のみ、設定できます。メニューからフィルター効果の項目を選び、スライダーを動かしてして強弱を設定します。入力ボックスに数値を入力することもできます。</td></tr>
<tr><td>カスタムトーンカーブ</td><td>[カスタムトーンカーブを使用] を選択した場合、トーンカーブを使用して明るさやコントラストを調整します。[読み込み] ですでに作成済みのカーブをピクチャーコントロールユーティリティーに読み込めます。[保存] で作成したトーンカーブを保存します。</td></tr>
</table>
参照 「レベルとトーンカーブ」(P.145)</td></tr>
<tr><td>④ リセット</td><td>すべての設定項目を調整前にリセットします。カスタムピクチャーコントロールの場合、前回保存した状態に戻ります。</td></tr>
<tr><td>⑤ 上書き</td><td rowspan="2">設定したピクチャーコントロールの各項目を上書き、または名前を付けて保存します。</td></tr>
<tr><td>⑥ 新規</td></tr>
</table>

カスタムピクチャーコントロールをカメラと共有する

「ピクチャーコントロールユーティリティー」を使って、メモリーカードからカスタムピクチャーコントロールをインポート（読み込み）したり、反対に作成したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにエクスポート（書き出し）したりできます。インポート/エクスポートする際には以下の点にご注意ください。

- **インポート/エクスポートを行えるカメラ**
  カスタムピクチャーコントロールの読み込みと書き出しは、ピクチャーコントロールシステムに対応したカメラでのみ行えます。カードリーダーなどを使用してメモリーカードとパソコンを接続してください。
- **メモリーカードに保存できるピクチャーコントロール**
  01から99までの99個保存できます。
- **ピクチャーコントロールユーティリティーに保存できるピクチャーコントロール**
  150個まで保存できます。

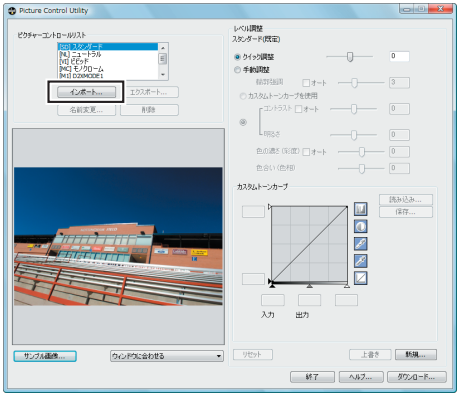
カスタムピクチャーコントロールをインポートする

カスタムピクチャーコントロールをメモリーカードからインポートします。インポートするには、カスタムピクチャーコントロールが保存されているメモリーカードとパソコンが、あらかじめ接続されている必要があります。

1 [インポート] をクリックする

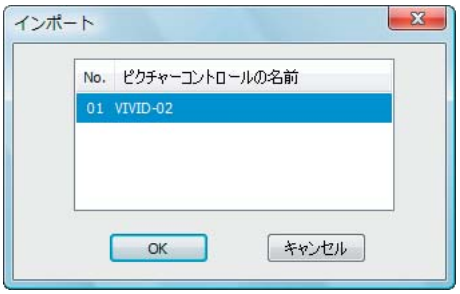
インポートするピクチャーコントロールを選択する画面が表示されます。

> MEMO
> インポート元のメモリーカードが複数ある場合は、メモリーカードを選択する画面が表示されます。インポートしたいカスタムピクチャーコントロールが含まれているメモリーカードを選択して、[OK] をクリックします。



2 インポートするカスタムピクチャーコントロールを選択し、[OK] をクリックする

カスタムピクチャーコントロールがインポートされ、一覧に表示されます。

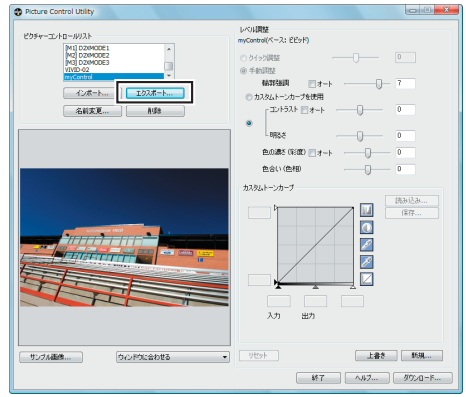


カスタムピクチャーコントロールをエクスポートする

カスタムピクチャーコントロールをメモリーカードへエクスポートします。エクスポートするには、対応カメラでフォーマットしたメモリーカードとパソコンがあらかじめ接続されている必要があります。

1 エクスポートしたいカスタムピクチャーコントロールを選択し、[エクスポート] をクリックする

エクスポート先を選択する画面が表示されます。



MEMO

「ニコンピクチャーコントロール」の [[SD] スタンダード]、[[NL] ニュートラル]、[[VI] ビビッド]、[[MC] モノクローム]、[[M1～3] D2XMODE1～3] またはオプションピクチャーコントロールはエクスポートできません。

2 エクスポートするカスタムピクチャーコントロールの場所を選択し、[OK] をクリックする

カスタムピクチャーコントロールがエクスポートされます。



MEMO

- エクスポート先のメモリーカードが複数ある場合は、メモリーカードを選択する画面が表示されます。エクスポートしたいメモリーカードを選択して、[OK] をクリックします。
- エクスポート先のメモリーカードにすでにカスタムピクチャーコントロールが保存されている場合は、空いている番号を選択してください。すでに保存されている番号を選択すると、カスタムピクチャーコントロールは上書きされます。

3 エクスポートしたカスタムピクチャーコントロールをカメラで使用する

カメラへの読み込みや使用方法などはカメラの取扱説明書を参照してください。

ピクチャーコントロールを管理する

「ピクチャーコントロールユーティリティー」では、新規作成したりインポートしたカスタムピクチャーコントロールの名前を変更したり、削除することができます。

名前を変更するには、[**ピクチャーコントロールリスト**] から名前を変更したいカスタムピクチャーコントロールを選択し、[**名前変更**] をクリックして表示されるダイアログで変更します。

MEMO

使用できる文字数は以下の半角英数文字で18文字までです。
- アルファベット: AからZ（大文字または小文字）
- 数字：0から9
- 記号：「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「+」「,」「-」「.」「/」「:」「;」「<」「=」「>」「?」「@」「[」「\」「]」「^」「_」「`」「{」「|」「}」「~」「半角スペース」

削除するには、[**ピクチャーコントロールリスト**] から削除したいカスタムピクチャーコントロールを選択し、[**削除**] をクリックして削除します。

オプションピクチャーコントロールをダウンロードする

「ピクチャーコントロールユーティリティー」の [ダウンロード] ボタンをクリックすると、インターネットブラウザーが自動的に起動してオプションピクチャーコントロールをダウンロードできます。

ピクチャーコントロールユーティリティーを終了する

Capture NX 2から「ピクチャーコントロールユーティリティー」を起動した場合、Capture NX 2を終了してもピクチャーコントロールユーティリティーは終了しません。「ピクチャーコントロールユーティリティー」を終了するには [**終了**] をクリックします。

メニュー 一覧

Capture NX 2のメニューには以下のものがあります。

ファイルメニュー

画像を開く	参照 「メニューから開く」(P.33)
他のアプリケーションを使用して画像を開く	
ブラウザーでフォルダを開く	
最近の画像を開く	
Nikon Transferを起動/Camera Control Proを起動	それぞれのアプリケーションがインストールされている場合に起動します。 ショートカット Nikon Transferを起動：Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Altキー（Mac OSは optionキー）＋ Tキー
保存	参照 「編集した画像を保存する」(P.212)
名前を付けて保存	
復帰	
プロテクト設定	
閉じる	参照 「画像を閉じる」(P.48)
ページ設定	参照 「印刷する形態を設定する」(P.220) 「編集した画像を印刷する」(P.221)
印刷	
終了（Windowsのみ）	参照 「Capture NX 2を終了する」(P.19)

Capture NXメニュー（Mac OSのみ）

Capture NX 2について	Capture NX 2のバージョンを表示します。この情報はテクニカルサポートに連絡する場合に必要です。
環境設定	参照 「環境設定を変更する」(P.248)
終了	参照 「Capture NX 2を終了する」(P.19)

編集メニュー

元に戻す	1つ前の状態に戻り、画像に対して行なった変更や現在のダイアログ内での変更を取り消せます。画像を保存するまで、いくつ前でも元に戻すことができます。 ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Zキー
やり直し	[元に戻す] で戻された状態を再び適用できます。 ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Shiftキー ＋ Zキー
切り取り	テキストやコントロールポイント、[**ブラウザー**] 内の画像などを消去し、Capture NX 2のクリップボード上に一時的に保存し、[**貼り付け**] が利用できるようにします。[**切り取り**] は、次のものに対して利用できます。 ・テキストボックス内のテキスト ・選択されたコントロールポイント ・[**ブラウザー**] 内の画像 ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Xキー
コピー	選択されたもののコピーをCapture NX 2のクリップボード上に一時的に保存し、[**貼り付け**] が利用できるようにします。[**コピー**] は、次のものに対して利用できます。 ・テキストボックス内のテキスト ・選択されたコントロールポイント ・[**ブラウザー**] 内の画像 ・[**エディットリスト**] 内で選択された画像処理ステップあるいは画像処理 ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Cキー
貼り付け	Capture NX 2 のクリップボード上に置かれているものを現在の選択エリアに配置します。[**貼り付け**] は、次のものに対して利用できます。 ・テキストボックス内のテキスト ・選択されたコントロールポイント ・[**ブラウザー**] 内の画像 ・[**エディットリスト**] 内で選択された画像処理ステップあるいは画像処理 ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Vキー

複製	現在選択されているものを複製します。[**複製**] は、次の複製を作成します。 ・選択されたコントロールポイント ・現在の画像 ・[**ブラウザー**] 内の画像 ・[**エディットリスト**] 内で選択された画像処理ステップあるいは画像処理 ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Dキー
削除	現在選択されているものを削除します。[**削除**] は、次のものに対して使用できます。 ・テキストボックス内のテキスト ・選択されたコントロールポイント ・[**ブラウザー**] 内の画像 ・[**エディットリスト**] 内で選択された画像処理ステップあるいは画像処理 ショートカット Deleteキー
名前変更	[**ファイル名の作成ルール**] ダイアログを表示します。 参照 「バッチ処理の実行」(P.235) ショートカット F2キー
すべて選択	選択領域内のものをすべて選択します。[**すべて選択**] は、次のものに対して使用できます。 ・テキストボックス内ですべてのテキストの選択 ・画像内で画像内に現在あるコントロールポイントすべての選択 ・[**エディットリスト**] のすべての画像処理ステップの選択 ・[**ブラウザー**] 内ですべての画像の選択 ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Aキー
すべて選択解除	現在の選択をすべて解除します。 ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋ Altキー（Mac OSは option キー）＋ Aキー
反転 **回転**	参照 「画像を回転/反転する」(P.54)
画像サイズ/画像解像度 **画像の大きさを合わせる**	参照 「画像のサイズを調整する」(P.180)
環境設定（Windowsのみ）	参照 「環境設定を変更する」(P.248)

調整メニュー

明るさ	レベルとトーンカーブ / コントラスト / 明るさ / 自動レベル /D-ライティング 参照 「画像の明るさを調整する」(P.145)
カラー	LCHエディター / カラーバランス / カラーブースター / 彩度 / 暖色 参照 「画像のカラーを調整する」(P.154)
フォーカス	ぼかし (ガウス) / ハイパス / アンシャープマスク 参照 「画像をぼかす」(P.163) 「画像の細部を消去する」(P.164) 「画像のシャープネスを向上させる」(P.166)
補正	ゆがみ補正 / 色収差補正 参照 「画像のゆがみを補正する」(P.168) 「色ずれを補正する」(P.169)
ノイズリダクション	参照 「画像のざらつきを軽減する」(P.170)
カラープロファイル	参照 「画像にカラープロファイルを適用する」(P.171)

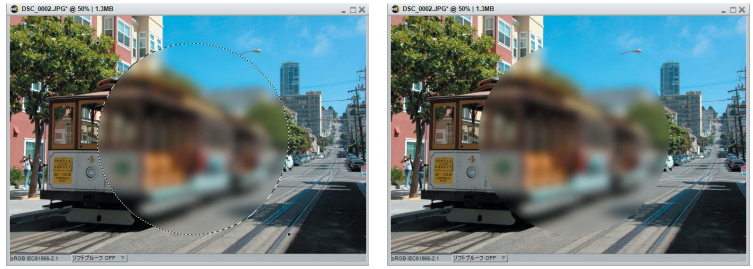
フィルタメニュー

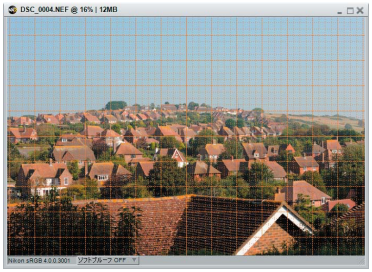
色変換	参照 「白黒やセピアの画像にする」(P.174)
粒状 / ノイズを加える	参照 「ノイズを加えてフィルム粒子風の効果を出す」(P.176)
コントラスト：色範囲	参照 「特定色のコントラストを調整する」(P.177)
カラー化する	参照 「画像に色を加える」(P.178)
白黒変換	参照 「白黒画像に変換する」(P.179)

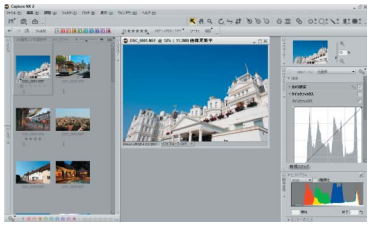
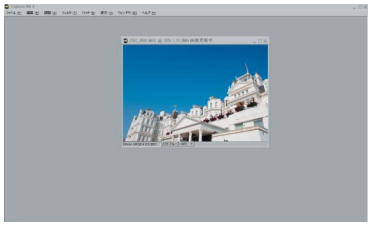
バッチメニュー

バッチ処理の実行	参照 「複数の画像に同じ処理を適用する（バッチ処理）」(P.234)
調整のコピー	
調整の貼り付け	
調整の保存	
設定の読み込み	
IPTC情報のコピー	
IPTC情報の貼り付け	
XMP/IPTC プリセットとして保存	
XMP/IPTC プリセットの読み込み	

表示メニュー

選択範囲の表示	参照 「選択範囲を表示する」(P.210)
コントロールポイントをすべて表示	参照 「コントロールポイントの表示/非表示を切り換える」(P.123)
現在の選択範囲の表示	選択範囲を示す点線を表示します。  ショートカット Ctrlキー（Mac OSは ⌘ キー）＋Hキー
モニターポイントの表示	画像内に作成したモニターポイントを表示します。 参照 「ポインター部分のピクセル情報を確認する」(P.64)

<table>
<tr><td>グリッドの表示</td><td>画像にグリッドを表示します。グリッドの色や間隔は［編集］メニューにある［環境設定］の［表示］で変更できます。
 

参照 「表示」(P.253)</td></tr>
<tr><td>フォーカスポイント表示</td><td>参照 「フォーカスポイント（フォーカスエリア）を確認する」(P.67)</td></tr>
<tr><td>白とび表示
黒つぶれ表示</td><td>参照 「白とび/黒つぶれを確認する」(P.65)</td></tr>
<tr><td>100%で表示
画面に合わせて表示
ズームイン
ズームアウト
全画面表示
プレゼンテーション</td><td>参照 「画像を拡大/縮小表示する」(P.51)</td></tr>
<tr><td>パレットを隠す</td><td>作業領域内のパレット（ウィンドウ）をすべて隠します。
  
ショートカット tabキー</td></tr>
<tr><td>画像の比較</td><td>参照 「処理した画像を比較する」(P.70)</td></tr>
</table>

ウィンドウメニュー

ワークスペース	参照 「ウィンドウの配置（ワークスペース）を変更する」（P.24）
ワークスペースのリセット	現在のウィンドウのレイアウトを、選ばれているワークスペースの初期設定の状態に戻します。
ブラウザー	それぞれのウィンドウを表示します。 参照 「Capture NX 2の各部名称」（P.20）
フォルダ	
メタデータ	
ツールバー	
ナビゲーター	
エディットリスト	
画像情報	
重ねて表示	参照 「開いた画像の並べ方を設定する」（P.47）
並べて表示	

ヘルプメニュー

目次	指定されているインターネットブラウザーが起動し、目次が表示されます。検索機能でヘルプの情報を利用できます。 ショートカット F1キー（Mac OSは ⌘ キー＋?キー）
テクニカルサポート	指定されているインターネットブラウザーが起動し、Capture NX 2で利用できるさまざまなテクニカルサポートオプションへのリンクを表示します。リンクをどれか選び、オンラインテクニカルサポートに接続します。 MEMO オンラインテクニカルサポートに接続するには、インターネットに接続している必要があります。
「Welcome画面」を表示	参照 「「Welcome」画面から開く」（P.32）
Capture NX 2の更新	Capture NX 2の更新情報を確認できます。 MEMO Capture NX 2をインストールすると、自動的にCapture NX 2などの更新情報を確認するニコンメッセージセンター（Nikon Message Center）というソフトウェアがインストールされます。ご使用のパソコンがインターネットに接続されているときにCapture NX 2を起動すると、ニコンメッセージセンターはCapture NX 2の更新情報などを確認します（初期設定）。更新情報がある場合は、Nikon Message Centerダイアログが自動的に表示されます。
Capture NX 2について（Windowsのみ）	Capture NX 2のバージョンを表示します。この情報はテクニカルサポートに連絡する場合に必要です。

ショートカットキー 一覧

ツール	Windows	Mac OS
同時に使用するキー		
選択ツール	A	A
	Ctrl（Windows）またはOption（Mac OS）キーを押しながら画像を［**ブラウザー**］内にドラッグすると画像がコピーされます。	
手のひらツール	H	H
	あるツールでの作業中にスペースバーを押すと一時的にそのツールを手のひらツールに切り換えます。	
ズーム	Z	Z
	Ctrl + スペースバー（Windows）またはCommand + スペースバー（Mac OS）を押すと一時的にツールをズームアップツールに切り換えます。	
	Ctrl + Alt + スペースバー（Windows）または Command + Option + スペースバー（Mac OS）を押すと一時的にツールをズームアウトツールに切り換えます。	
90度回転（時計回り）	Ctrl + R	⌘ + R
90度回転（反時計回り）	Ctrl + Shift + R	⌘ + shift + R
クロップ	C	C
	クロップ中にAlt/Optionキーを押すとクロップグリッドラインが表示されます。	
カラーコントロールポイント	Ctrl + Shift + A	⌘ + shift + A
自動レタッチブラシ	R	R
ブラシのサイズを小さくする	[	[
ブラシのサイズを大きくする	]	]
選択コントロールポイント	Ctrl + Shift + C	⌘ + shift + C
なげなわツール	L	L
	なげなわツールを使用中にAlt（Windows）またはOption（Mac OS）を押すと一時的にプラスとマイナスを切り換えます。	
長方形選択ツール	M	M
選択ブラシ	B	B
	選択ブラシを使用中にAlt（Windows）またはOption（Mac OS）を押すと一時的にプラスとマイナスを切り換えます。	
ブラシのサイズを小さくする	[	[
ブラシのサイズを大きくする	]	]
ブラシを柔らかく	Shift + [	shift + [
ブラシを硬く	Shift +]	shift +]
選択範囲グラデーション	G	G
	選択範囲グラデーションを使用中にAlt（Windows）またはOption（Mac OS）を押すと一時的にプラスとマイナスを切り換えます。	

ツール	Windows	Mac OS
同時に使用するキー		
塗りつぶし	Alt + Backspace	option + backspace
塗りつぶしの削除	Shift + Backspace	shift + backspace
Capture NX 2を隠す	−	⌘ + H
画像を開く	Ctrl + O	⌘ + O
ブラウザーでフォルダを開く	Ctrl + Alt + O	⌘ + option + O
Nikon Transferを起動	Ctrl + Alt + T	⌘ + option + T
保存	Ctrl + S	⌘ + S
名前を付けて保存	Ctrl + Shift + S	⌘ + shift + S
閉じる	Ctrl + W	⌘ + W
ページ設定	Ctrl + Shift + P	⌘ + shift + P
印刷	Ctrl + P	⌘ + P
終了	Ctrl + Q	⌘ + Q
元に戻す	Ctrl + Z	⌘ + Z
やり直し	Ctrl + Shift + Z	⌘ + shift + Z
切り取り	Ctrl + X	⌘ + X
コピー	Ctrl + C	⌘ + C
貼り付け	Ctrl + V	⌘ + V
複製	Ctrl + D	⌘ + D
削除	Delete	delete
名前変更	F2	F2
すべて選択	Ctrl + A	⌘ + A
すべて選択解除	Ctrl + Alt + A	⌘ + option + A
画像サイズ/画像解像度	Ctrl + Alt + S	⌘ + option + S
環境設定	Ctrl + K	⌘ + K
レベルとトーンカーブ	Ctrl + L / Ctrl + M	⌘ + L / ⌘ + M
コントラスト/明るさ	Ctrl + Alt + Shift + C	⌘ + option + shift + C
LCHエディター	Ctrl + Shift + L	⌘ + shift + L
カラーバランス	Ctrl + B	⌘ + B
彩度/暖色	Ctrl + U	⌘ + U
白黒変換	Ctrl + Shift + B	⌘ + shift + B
バッチ処理の実行	Ctrl + Alt + Shift + B	⌘ + option + shift + B
選択範囲のオーバーレイの表示切り換え	Shift + O	shift + O
選択範囲のマスクの表示切り換え	Shift + M	shift + M
現在の選択範囲の表示	Ctrl + H	⌘ + H
フォーカスポイント表示	Ctrl + Shift + F	⌘ + shift + F
白とび表示	Shift + H	shift + H
黒つぶれ表示	Shift + S	shift + S

ツール	Windows	Mac OS
同時に使用するキー		
100%で表示	Ctrl + Alt + 0（ゼロ）	⌘ + option + 0（ゼロ）
画面に合わせて表示	Ctrl + 0（ゼロ）	⌘ + 0（ゼロ）
ズームイン	Ctrl + '+'	⌘ + '+'
ズームアウト	Ctrl + '−'	⌘ + '−'
全画面表示	F	F
プレゼンテーション	P	P
パレットを隠す	Tab	Tab
開いているイメージウィンドウの切り換え	Ctrl + Tab	⌘ + Tab
ソフトプルーフON / OFF切り換え	Ctrl + Y	⌘ + Y
2階調化オン/オフ切り換え	Shift + T	shift + T
目次	F1	⌘ + ?
ラベルの適用 - ラベル 1 ～ 9	1 ～ 9	1 ～ 9
ラベルの適用 - ラベルの削除	0	0
ラベルでフィルター - ラベル 0 ～ 9	Shift + 0 ～ 9	shift + 0 ～ 9
レーティングの適用 - ★ ～ ★★★★★	Ctrl + 1 ～ 5	⌘ + 1 ～ 5
レーティングの適用 - レーティングの削除	Ctrl + 6（または現在設定されているレーティングと同じショートカットでも可）	⌘ + 6（または現在設定されているレーティングと同じショートカットでも可）
レーティングでフィルター - レーティング なし ～ ★★★★★	Ctrl + Shift + 0 ～ 5	control +shift + 0 ～ 5
プラス/マイナスツールをプラスに切り換え	+	+
プラス/マイナスツールをマイナスに切り換え	-	-
ワークスペース - ブラウザー（グリッド表示）	Alt + 1	option + 1
ワークスペース - メタデータ	Alt + 2	option + 2
ワークスペース - マルチ	Alt + 3	option + 3
ワークスペース - エディット	Alt + 4	option + 4

資料

Capture NX 2を使用するうえで役に立つ資料です。

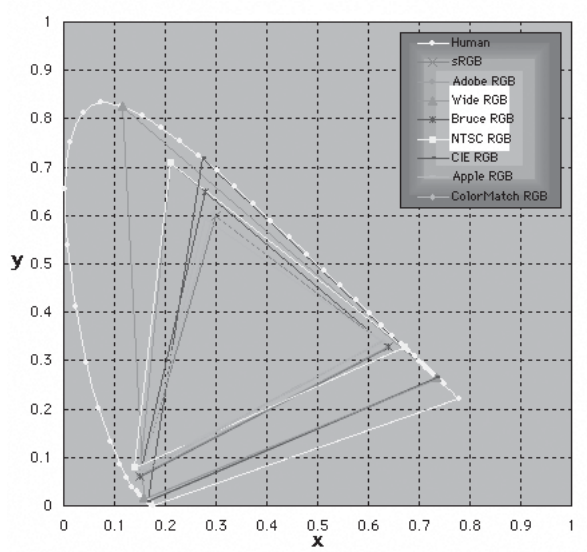
Capture NX 2がサポートする色空間について.....P.284
ヒントと追加情報.....P.287
アンインストール.....P.296
トラブルシューティング.....P.298
用語集.....P.300

Capture NX 2がサポートする色空間について

Capture NX 2がサポートする色空間は次のとおりです。

Capture NX 2がサポートする標準RGB色空間

以下に各色空間の色域（色再現領域）のxy色度図を示します。三角形が大きいほど広い色域を表します。



ガンマ1.8系

色空間	Windows	Mac OS	内容
Apple RGB	NKApple.icm	Nikon Apple RGB 4.0.0.3000	Adobe Photoshop 4.0以前のバージョンで使用されていたRGB色空間です。各種Mac OS用モニターの平均的なRGB色空間で、DTPアプリケーションでも使用されています。Mac OS上で画像を表示して仕事をする場合に適しており、バージョン5.0以降のAdobe PhotoshopのRGB設定の「Apple RGB」に相当します。
ColorMatch RGB	NKCMatch.icm	Nikon ColorMatch RGB 4.0.0.3000	Radius社のPressviewモニター用の色空間で、Apple RGBよりもやや色域が広く、特に青の色域が広いのが特徴です。バージョン5.0以降のAdobe PhotoshopのRGB設定の「Color Match RGB」に相当します。

ガンマ2.2系			
色空間	Windows	Mac OS	内容
sRGB	NKsRGB. icm	Nikon sRGB 4.0.0.3001	ほとんどのWindows用モニターの代表として定義された色空間です。この色空間を初期設定色空間として使用するハードウェア、ソフトウェアが多く見受けられ、Webページ上に貼り付ける画像の標準色空間としても使用されています。また、一般的なカラーTVの色空間にも非常に似通っており、デジタルTV放送用色空間でもあります。スキャンした画像を編集またはプリントせず、そのまま電子画像として使用する場合に適しています。色域が狭く、特に青の色域が狭いのが特徴です。Adobe Photoshop 5.0または5.5におけるRGB設定の「sRGB」、Adobe Photoshop 6.0以降における「sRGB IEC61966-2.1」に相当します。
Bruce RGB	NKBruce.icm	Nikon Bruce RGB 4.0.0.3000	Bruce Fraser氏が定義した色空間です。Gの色度をxy色度図上で「Adobe RGB」のGと「sRGB」のGの間に定義し、sRGBの青色色域を広げてSWOP CMYKの色域を包含しています。Bruce RGBのRとBは「Adobe RGB」と一致しています。
NTSC (1953)	NKNTSC.icm	NTSC (1953) 4.0.0.3000	National Television Standard Committee（NTSC）で定義されたビデオ色空間で、従来のカラーテレビの標準RGB色空間です。バージョン5.0以降のAdobe PhotoshopのRGB設定の「NTSC（1953）」に相当します。
Adobe RGB (1998)	NKAdobe.icm	Nikon Adobe RGB (1998) 4.0.0.3000	Adobe Photoshop 5.0で定義された色空間です。sRGBよりもかなり色域が広く、ほとんどのプリンターのCMYK色域を包含しているので、DTP関連の仕事に適しています。Adobe Photoshop 5.0のRGB設定の「SMPTE-240M」、バージョン5.5以降の「Adobe RGB（1998）」に相当します。
CIE RGB	NKCIE.icm	Nikon CIE RGB 4.0.0.3000	Commission Internationale d'Eclairage（CIE） で定義された色空間です。色域はかなり広めですが、シアン系の色域が狭いのが特徴です。バージョン5.0以降のAdobe PhotoshopのRGB設定の「CIE RGB」に相当します。
Adobe Wide RGB	NKWide.icm	Nikon AdobeWide RGB 4.0.0.3000	Adobe社が定義した可視カラーの大半を表現できる色空間です。しかしこの色空間で定義される色の大半は一般的なモニターやプリンターでは表現できない色となります。バージョン5.0以降のAdobe PhotoshopのRGB設定の「Adobe Wide RGB」に相当します。

各色空間の詳細データ

各色空間のガンマ、白点色度座標、色温度等のデータです。

RGB空間名	白点色度座標値			ガンマ値	RGB色度座標値				
	白点色温度	値			RGB色度名		R	G	B
Apple RGB	6500 K (D65)	x	0.3127159	1.8	Trinitron	x	0.625	0.28	0.155
		y	0.3290015			y	0.34	0.595	0.07
Color Match RGB	5000 K (D50)	x	0.3457029	1.8	P22-EBU	x	0.63	0.295	0.155
		y	0.3585386			y	0.34	0.605	0.077
sRGB	6500 K(D65)	x	0.3127159	2.2	HDTV (CCIR 709)	x	0.64	0.3	0.15
		y	0.3290015			y	0.33	0.6	0.06
NTSC (1953)	Std Illuminant C	x	0.3101	2.2	NTSC (1953)	x	0.67	0.21	0.14
		y	0.3162			y	0.33	0.71	0.08
Bruce RGB	6500 K (D65)	x	0.3127159	2.2	Bruce RGB	x	0.64	0.28	0.15
		y	0.3290015			y	0.33	0.65	0.06
Adobe RGB (1998)	6500 K (D65)	x	0.3127159	2.2	Adobe RGB (1998)	x	0.64	0.21	0.15
		y	0.3290015			y	0.33	0.71	0.06
CIE RGB	Std Illuminant C	x	0.3333333	2.2	CIE RGB	x	0.735	0.274	0.167
		y	0.3333333			y	0.265	0.717	0.009
Adobe Wide RGB	5000 K (D50)	x	0.3457029	2.2	700/525/4 50 nm	x	0.735	0.717	0.009
		y	0.3585386			y	0.265	0.826	0.018
Windows デフォルト モニター設定	6500 K(D65)	x	0.3127159	2.2	HDTV (CCIR 709)	x	0.64	0.3	0.15
		y	0.3290015			y	0.33	0.6	0.006
Mac OS デフォルト モニター設定	5000 K (D50)	x	0.3457029	2.2	Trinitron	x	0.625	0.28	0.155
		y	0.3585386			y	0.34	0.595	0.07

Capture NX 2の出力色空間	Adobe Photoshopの出力色空間
sRGB (Nikon sRGB 4.0.0.3001)	sRGB
Apple RGB (Nikon Apple RGB 4.0.0.3000)	Apple RGB
Color Match RGB (Nikon Color Match RGB 4.0.0.3000)	Color Match RGB
Bruce RGB (Nikon Bruce RGB 4.0.0.3000)	–
NTSC (1953) (Nikon NTSC (1953) 4.0.0.3000)	NTSC (1953)
Adobe RGB (1998) (Nikon Adobe RGB (1998) 4.0.0.3000)	Ver. 5.5より前：SMPTE-240M Ver. 5.5以降：　Adobe RGB（1998）
CIE RGB (Nikon CIE RGB 4.0.0.3000)	CIE RGB
Adobe Wide RGB (Nikon Adobe Wide RGB 4.0.0.3000)	Ver. 5.5より前：Adobe Wide RGB Ver. 5.5以降：　Wide Gamut RGB

ヒントと追加情報

一般

バックアップコピーを作成する

重要な画像は、画像編集を行う前にバックアップコピーを作成してください。画像の喪失や遺失の損害に関し、製品の不具合に起因したと見られる場合であっても、ニコンは一切責任を負うものではありません。

ニコンメッセージセンター

自動アップデート

Capture NX 2をインストールすると、自動的にCapture NX 2などの更新情報を確認するニコンメッセージセンター（Nikon Message Center）というソフトウェアがインストールされます。ご使用のパソコンがインターネットに接続されているときにCapture NX 2を起動すると、ニコンメッセージセンターはCapture NX 2 の更新情報などを確認します。更新情報がある場合は、［**Nikon Message Center**］ダイアログが自動的に表示されます。

ソフトウェアアップデートする場合のご注意

ソフトウェアアップデートする場合、ご使用のパソコンがインターネットに接続できる環境である必要があります。また、インターネットサービスプロバイダーの使用料や電話料金がかかることがあります。

接続状態の解除について

モデムやISDNのターミナルアダプターでダイアルアップ接続をしてソフトウェアアップデートする場合、アップデートが終了しても、自動では接続状態の解除を行いません。手動で接続状態の解除を行ってください。

ダイアルアップ接続

ダイアルアップ接続の場合、ダウンロードが完了してもインターネット接続は自動的には終了されません。インターネット接続の終了を確実に行ってください。

プライバシーポリシーについて

お客様の個人情報を本サービスにより提供された場合、お客様の同意なしに第三者に開示することはありません。

インストール

ログイン

Capture NX 2のインストール、アンインストールを行う場合は、管理者権限のアカウントでログインする必要があります。

参照 「インストール」(P.7)、「アンインストール」(P.296)

ピクチャーコントロール不使用

[カラー設定]、[輪郭強調]、[階調補正]、[彩度]

D2シリーズ、D1シリーズ、D200、D100、D80、D70シリーズ、D60、D50、D40シリーズで撮影した画像の場合、[**輪郭強調**]、[**階調補正**]、[**カラー設定**]、[**彩度**] 内のポップアップメニューには、カメラで設定していた項目に「*」マークが表示されます ([**オート**] の場合を除きます)。

[**輪郭強調**]、[**階調補正**]、[**カラー設定**]、[**彩度**] にて撮影した際のカメラ側の設定をそのまま使用するには、[**撮影時の設定**] を選択してください。[**撮影時の設定**] 以外の項目が選択された場合、Capture NX 2が改めて画像調整を行います。そのため、撮影時のカメラ側の設定と同じ項目を選んでも、結果が同じにならないことがあります。

参照 「ピクチャーコントロール不使用」(P.104)

ホワイトバランス

ミレッド

ミレッドとは色温度の逆数を百万倍 (10^6) したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも、6000ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000ケルビン付近では光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度補正フィルターの単位としても利用されます。

色温度による変化	ミレッド
4000K − 3000K = 1000K	83ミレッド
7000K − 6000K = 1000K	24ミレッド

ゲイン

赤と青のゲインは、撮影時に決定されたそれぞれのゲインを1.0と見なした倍率です。

ゲインの値を選ぶ

ゲインの大きな値も小さな値も、画質低下をもたらすことがあります。

参照 「ホワイトバランス」(P.94)

カラー設定

カラー設定

［**環境設定**］ダイアログで［**埋め込まれたプロファイルの代わりにこのプロファイルを使用**］にチェックが入っている場合、画像に埋め込まれているプロファイルにかかわらず、すべての画像で選ばれたプロファイルが標準RGB色空間として使用されます。

［**埋め込まれたプロファイルの代わりにこのプロファイルを使用**］のチェックが外れている場合は、Adobe RGB色空間が作業用色空間としてモード II 画像で自動的に使用されます。モード I、Ia、III、IIIa 画像の作業用色空間は、カメラで設定されている色空間（D2X、D2XS、D200 のみ）かsRGB色空間（その他のカメラ）になります。NTSC 画像（D1のみ）の作業用色空間は、NTSC になります。

sRGB 色空間に適合するモード I または Ia は、ポートレートをわずかの変更しか行わずに印刷する場合に適しています。Adobe RGB色空間に適合するモード II は、sRGB色空間よりも幅広い全カラー領域を表現できるので、大きな処理や修正を行う画像に適しています。sRGB色空間に適合するモード III または IIIa は、自然や風景をわずかの変更しか行わずに印刷する場合に適しています。

露出補正

露出補正

バージョン4.4以前のNikon Captureで露出補正を－（マイナス）側に設定した画像をCapture NX 2で開くと、白とびしていた部分の調整結果が変わる場合があります。

イメージダストオフ

イメージダストオフデータを取得できるカメラについて

イメージダストオフデータ機能は、CPUレンズを装着して撮影した画像の場合のみ使用できます。イメージダストオフデータはイメージダストオフデータ取得機能のあるカメラまたはD100またはファームウェアバージョンが1.10以降のD1XかD1H のカメラで取得できます。D1、または上記以前のファームウェアバージョンのD1XまたはD1Hではイメージダストオフデータを取得できません。また、D1X、D1H、D100で取得したイメージダストオフデータのファイルの拡張子は「.nef」となりますが、拡張子を変更しないでください。

イメージダストオフデータの取得方法

D100またはファームウェアバージョンが1.10以降のD1XかD1Hのカメラを使ってイメージダストオフデータを撮影する場合は、以下の操作を行ってください。

1 カメラ側の設定を行う

カメラ側の設定を以下の手順で行ってください。

1. CPUレンズを装着する（焦点距離が50mm以上のレンズをおすすめします）。
2. ズームレンズを使用する場合は望遠側にセットしてください。
3. フォーカスモードをM（マニュアル）に設定してフォーカスを手動で無限遠にします。
4. [**撮像感度**] をカメラで設定できるもっとも低い値に設定します。
5. [**画質モード**] を [**RAW**] に設定します。
6. [露出モード] をA（絞り優先オート）に設定します。
7. 絞りを最小絞りにします（F値を最大に設定します）。

2 レンズ先端から10cmほど離れた無地の被写体を撮影する

3 撮影したRAW画像をパソコンに転送する

このRAW画像がイメージダストオフデータとして取り扱われます。

イメージダストオフデータについてのご注意

・イメージダストオフデータ取得時には、少々手ぶれが起きても問題はありません。

・イメージダストオフは、絵柄のある部分の周辺では処理を行いません。画像の均一面（無地の部分）のみでのゴミやほこりを軽減します。

・[**イメージダストオフ**] の設定を他の画像に貼り付ける場合や、保存した設定を他の画像に適用する場合、設定時に使用した画像と、貼り付けまたは適用する画像が同じカメラで撮影された画像であることを確認してください。他のカメラで撮影した画像に [**イメージダストオフ**] の設定を貼り付けまたは適用しようとすると、警告メッセージが表示されます。

・次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、ローパスフィルター表面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。

1. イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
2. イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき

ヴィネットコントロール

PCニッコールレンズまたはフラッシュ撮影により生じた周辺光量の低下は調整できません。

参照 「イメージダストオフ」（P.109）

画像を開く

D1Xで作成したRAW画像

D1Xで撮影したRAW画像は、Capture NX 2のイメージウィンドウで開く場合、初期設定サイズを環境設定の[D1X RAWの初期設定サイズ]で選べます。6メガピクセル（3,008×1,960）または10メガピクセル（4,016×2,616）を選んでください。

TIFF CMYK画像

CMYK画像データとしてTIFF形式で保存された画像は、Capture NX 2では開けません。

参照 「画像を開く」（P.31）

画像の保存

Capture NX 2で保存した画像ファイル

Capture NX 2で保存した画像ファイルは、カメラで再生できません。

NEF 形式（Nikon Capture 4以前）

Capture NX 2で作成されたNEF形式は、Capture NXまたはNikon Captureでは開けますが、反映されない機能があります。Capture NXまたはNikon Captureで作成されたNEF形式は、Capture NX 2で使用できます。

TIFF形式（16ビット）ファイルをLZW圧縮で保存するときの注意点

TIFF形式（16ビット）ファイルをLZW圧縮で保存した場合、元のサイズより大きくなる場合があります。

JPEG

JPEG形式で画像を保存すると、圧縮により画質が低下する場合があります。画質を低下させずに保存したい場合や繰り返し保存を行う場合は、NEF形式をおすすめします。

ハイライト部とシャドー部

NEF形式以外で画像を保存する場合は、画像のハイライト部やシャドー部が白とびまたは黒つぶれを起こさないように画像処理を調整してください。画像処理によって起きた白とびや黒つぶれは、NEF形式以外で保存すると回復できなくなります。

編集バージョン

編集バージョンは、NEF形式の場合は画像とともに保存され、イメージウィンドウを閉じても保持されています。TIFF形式やJPEG形式で保存した場合、イメージウィンドウを閉じると編集バージョンは失われます。

参照 「画像処理の履歴を1枚の画像内に複数残す」（P.232）

画像サイズ/画像解像度

NEF形式で画像を保存すると、画像解像度やクロップサイズも含めた画像情報すべてが保存されます。

参照 「画像サイズ/画像解像度」(P.180)

ファイル名の制限事項について

ファイル名を指定する際には、次のことに留意してください。

Windows

ロングファイル名をサポートしない環境の場合：ファイル名が半角で8文字以下になるように指定してください。また、ファイル名にスペースと半角の「\」、「/」、「:」、「;」、「*」、「?」、「″」、「<」、「>」、「|」は使用できません。また、ファイル名に「.」のみは使用できません。

ロングファイル名をサポートする環境の場合：ファイル名に半角の「\」、「/」、「:」、「;」、「*」、「?」、「″」、「<」、「>」、「|」は使用できません。また、ファイル名に「.」のみは使用できません。

Mac OS

ファイル名に「:」は使用できません。また、ファイル名の先頭に「.」は使用できません。

参照 「保存」(P.212)、「名前を付けて保存」(P.213)

印刷

プリンターの設定

プリンターが正しく接続され、プリンタードライバが正しくインストールされていることを確認してください。

画像の出力サイズが用紙サイズよりも大きい場合

[**画像の解像度を使用する**] にチェックを入れて、画像の出力サイズが印刷可能領域に収まらない場合に [**印刷**] をクリックすると、「画像サイズが印刷可能領域よりも大きいため、画像の一部が切り取られます。処理を継続しますか。」という警告メッセージが表示されます。この場合には、紙のサイズを大きくするか、[**画像の解像度を使用する**] のチェックを外すか、[**画像サイズ/画像解像度**] で画像の出力サイズを小さくしてから印刷を行ってください。

参照 「印刷」(P.221)、「画像サイズ/画像解像度」(P.180)

カラーマネージメント

カラープロファイルについて

- Capture NX 2 はICC（International Color Consortium）モニターとCMYKプロファイルをサポートしています。特にCMYKプロファイルを設定する場合、出力機器メーカーによってはICCプロファイルではないことがあるのでご注意ください。
- [**Nikon CMYK 4.0.0.3000**] プロファイルは、特定のインクセットではなくほぼ中庸で一般的なプロファイルであるため、使用条件に適したプロファイルがない場合や、使用条件が分からない場合などに使用します。

参照 「Capture NX 2 がサポートする色空間について」（P.284）

カラーマネージメント（Windows）

マルチディスプレイ

マルチディスプレイの環境で表示する場合は、主に画像を表示するディスプレイに合ったプロファイルを設定してください。

レベルとトーンカーブ

[レベルとトーンカーブ] と[LCHエディター] の使い方について

[**LCHエディター**] は、[**レベルとトーンカーブ**] で色の調整が難しい場合に使用します。[**LCHエディター**] を使用すると、純粋な明るさ、色味、または色の濃さを調節できますが、RGBチャンネル上で色飽和が起こる場合があります。[**レベルとトーンカーブ**] では、[**RGB**] [**赤**] [**緑**] [**青**] のチャンネルを切り換えて階調をコントロールできます。また、飽和の状態を確認しながら画像調整ができます。

参照 「レベルとトーンカーブ」（P.145）、「LCHエディター」（P.154）

自動コントラスト設定

自動コントラスト、シャドー、ハイライト設定は、[**環境設定**] ダイアログ内の [**レベルとサンプリング**] で調整できます。

参照 「レベルとサンプリング」（P.252）

トーンカーブ編集表示

[**トーンカーブ**] ダイアログへの入出力値は0から255（他の画像編集ソフトで一般的な8ビットの精度）ですが、トーンカーブの変更結果は、16ビットの精度で計算されます。これにより12ビットまたは14ビットのRAW画像を、画質低下することなく処理できます。

ヒストグラム(RAW/16ビットTIFF画像のみ)

大量の画像データを処理する場合、表示までの時間を短縮するために垂直線を含むヒストグラムを表示することがあります。

現行のチャンネルのためのホワイトポイントまたはブラックポイントのサンプリング

[**ホワイトポイントスポイトツール**] や [**ブラックポイントスポイトツール**] で画像のサンプリングをする場合、初期設定ではすべてのチャンネルが対象となり、マスターチャンネルにホワイトポイントやブラックポイントが表示されます。特定のチャンネルだけでホワイトポイントやブラックポイントを設定するには、Ctrlキー(Mac OSではoptionキー) を押しながら画像のサンプリングします。

また、マスターチャンネル以外の各チャンネルにはニュートラルポイントを設定できません。選ばれているチャンネルにかかわらず、[**ニュートラルポイントスポイトツール**] でサンプリングをすると、すべてのチャンネルが対象となり、マスターチャンネルにニュートラルポイントが表示されます。

ガンマ

ガンマ (“γ”) は、入力信号に対する出力信号の相対的な程度を決定する、画像システムの基本特性のひとつです。ガンマを計算する際、可能な最大強度に1が割り当てられ、可能な最小強度 (入力なし) にゼロが割り当てられます。出力は、ガンマ値の逆数を指数とする入力値により計算されます (出力 = 入力 (1/γ))。具体的には、ガンマ値を増加させることは、中間ポイントスライダーを左に動かすことと同じで、最大値最小値を変更せずに中間ポイントの値を増加させ画像を明るくします。ガンマ値を減少させることは、中間ポイントスライダーを右に動かすことと同じで、中間ポイントの値を減少させ画像を暗くします。ガンマの初期設定値は1で、入力値と出力値が等しい線形の関係です。ガンマは0.05から6.00までの任意の数値に設定できます。

バージョン3.5.x以前のNikon Captureで調整を行った画像の場合(NEF形式の画像のみ)

Capture NX 2では、最初にカラーバランスの調整、次にトーンカーブの調整という順序で画像調整を行います。Ver.3.5.x以前のNikon Captureとは処理の順序が異なるため、Nikon Captureでトーンカーブとカラーバランスの調整を行ったNEF画像をCapture NX 2で開くと、画像の調整結果が変わる場合があります。

D-ライティング

Digital DEE

Nikon Captureで作成された設定ファイルをCapture NX 2で読み込むと、Digital DEEの効果は反映されません。Digital DEE設定ファイル (拡張子 “.ndd”) は、Capture NX 2では読み込めません。

階調がない画像

撮影した画像の暗い部分や明るい部分に階調がまったくない場合 (完全に黒くつぶれていたり白くとんでいるような場合) は、D-ライティングを使用しても効果は得られません。

参照 「D-ライティング」(P.153)

アンシャープマスク

アンシャープマスク

アンシャープマスクは、明るさのみを調整することでカラーバランスに影響を与えずに被写体の境界をシャープにします。この効果は、Adobe Photoshop Labカラーモードで明るさチャンネルを選択してアンシャープマスクを実行する場合と同じです。赤のような単一チャンネルにアンシャープマスクを適用する場合、色値を用いてどの部分が赤であるか判定し、それらの点に対してのみ明るさチャンネルでアンシャープマスクを実行します。Capture NX 2における20%の適用量は、Adobe Photoshopにおける100%の適用量にほぼ相当します。適用量をゼロに設定すると境界強調は適用されません。境界強調を適用するには、1%以上の適用量が必要です。

参照 「アンシャープマスク」(P.166)

色収差補正

倍率色収差

レンズの屈折率は、光の波長（色）によりわずかに異なるため色によって焦点の位置がずれ、画像の中心と周辺部では倍率が異なります。これにより、周辺部の色がにじんで見える倍率色収差と呼ばれる現象を引き起こします。

参照 「色収差補正」(P.169)

バッチ処理

バッチ処理を行う前に

バッチ処理で予想通りの結果を得るためには、バッチ処理の実行前にテスト画像を使って同じ処理をすることをおすすめします。バッチ処理は、選んだ画像に対して同じ画像処理を適用するので、各画像に異なる処理を適用できません。画像ごとに画像調整を変えたいという場合は、個々の画像を開いて処理または保存する方法をおすすめします。

エラーメッセージ

バッチ処理の実行中に、無効なファイル名が検出されたり、エラーが起きたりするとメッセージが表示されます。メッセージにしたがって設定を変更してください。

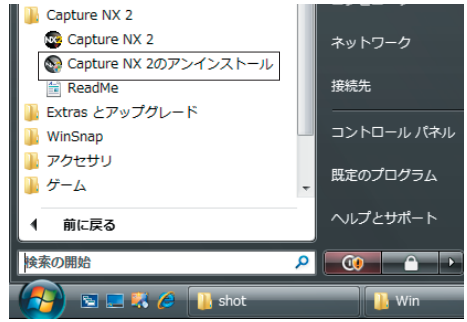
アンインストール

Capture NX 2をアンインストールする場合は、以下の手順で行います。

Windows

1 [スタート] メニューにある [すべてのプログラム] の [Capture NX 2] から [Capture NX 2 のアンインストール] を選ぶ

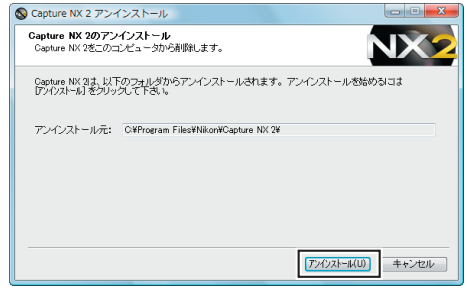
[**Capture NX 2のアンインストール**] ダイアログが表示されます。



> MEMO Capture NX 2のアンインストールをする場合は、管理者権限のアカウントでログインする必要があります。

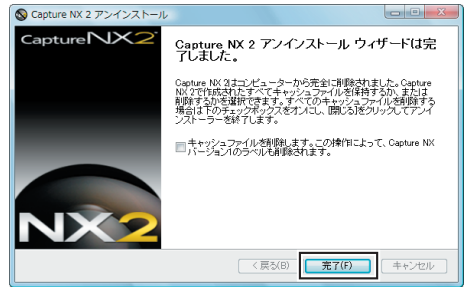
2 [Capture NX 2のアンインストール] ダイアログで [アンインストール] をクリックする

アンインストールが開始されます。



3 [Capture NX 2のアンインストール] ダイアログで [完了] をクリックする

[**キャッシュファイルを削除します。この操作によって、Capture NXバージョン1のラベルも削除されます。**] にチェックを入れて [**完了**] をクリックすると、Capture NX 2のキャッシュファイルもすべて削除されます。また、Capture NXバージョン1でつけたラベルの情報もすべて削除されます。



Mac OS

1 **Capture NX 2をインストールしたフォルダの [Capture NX 2] から [Capture NX 2 アンインストール] をダブルクリックする**

[Capture NX 2のアンインストール] ダイアログが表示されます。



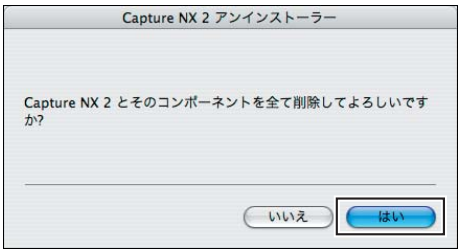
2 **管理者の [名前] と [パスワード] を入力して、[OK] をクリックする**

MEMO Capture NX 2のアンインストールをする場合は、管理者権限のアカウントでログインする必要があります。



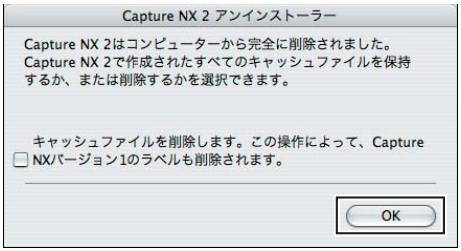
3 **[Capture NX 2のアンインストール] ダイアログで [はい] をクリックする**

アンインストールが開始されます。



4 **[OK] をクリックする**

[**キャッシュファイルを削除します。この操作によって、Capture NXバージョン1のラベルも削除されます。**] にチェックを入れて [OK] をクリックすると、Capture NX 2のキャッシュファイルもすべて削除されます。また、Capture NXバージョン1でつけたラベルの情報もすべて削除されます。



トラブルシューティング

Capture NX 2を使用しているときに問題が発生した場合は、ニコンカスタマーサポートセンターにお問い合わせいただく前に、次の点を確認してください。

Capture NX 2の起動

症 状	対 策	参照
Capture NX 2が起動できない	Capture NX 2に必要な環境（パソコン、OS、メモリの空き容量など）があるかを確認してください。	P.7 P.12
「Welcome」画面が表示されない	[**ヘルプ**] メニューの [**「Welcome」画面を表示**] を選んでください。Capture NX 2の起動時に必ず「Welcome」画面を表示させたい場合は、[**今後表示しない**] にチェックが入っていないことを確認してください。	P.32 P.279

ブラウザー

症 状	対 策	参照
[ブラウザー] に画像が表示されない	[**ブラウザー**] で選択しているフォルダ内に画像が入っていることを確認してください。また、[**ビューコントロールバー**] で次の項目でフィルタリングしていないか確認してください。 ・画像に設定していない [**ラベル**] の番号でフィルタリングしている ・画像に設定していない [**レーティング**] でフィルタリングしている ・画像と異なる [**ファイル形式**] でフィルタリングしている	P.35 P.41

エディットリスト

症 状	対 策	参照
[カメラ設定] が表示されない	[**カメラ設定**] が使用できるのは、RAW画像だけです。NEF形式の画像でも、元の画像がTIFF形式やJPEG形式の場合は使用できません。	P.92
[カメラとレンズの補正] 内に [色モアレリダクション]、[イメージダストオフ]、[自動色収差補正] が表示されない	[**色モアレリダクション**]、[**イメージダストオフ**]、[**自動色収差補正**] が使用できるのは、RAW画像だけです。NEF形式の画像でも、元の画像がTIFF形式やJPEG形式の場合は使用できません。	P.93
以前の [画像処理ステップ] や [編集バージョン] が残っていない	[**画像処理ステップ**] や [**編集バージョン**] を含めて保存できるのは、NEF形式だけです。TIFF形式やJPEG形式で保存した場合は破棄されます。	P.74 P.217 P.232

イメージウィンドウ

症 状	対 策	参照
画像が真っ暗または真っ白で何も表示されない	次の項目を確認してください。 ・[**表示**] メニューにある [**選択範囲の表示**] の [**マスクの表示**] をオンにしている ・画像処理ステップにある [**選択範囲の表示**] の [**マスクの表示**] を選んでいる ・[**表示**] メニューの [**白とび表示**] をオンにしている ・[**表示**] メニューの [**黒つぶれ表示**] をオンにしている	P.65 P.66 P.83 P.210
画像がグレーで何も表示されない	[**ヒストグラム**] で [**2階調化**] にチェックが入っていないかを確認してください。	P.63
イメージウィンドウ内の画像の一部が点滅する	[**ヒストグラム**] でヒストグラムをドラッグしていないかを確認してください。	P.62

その他ウィンドウ

症 状	対 策	参照
ウィンドウが表示されなくなった	次の項目を確認してください。 ・[**表示**] メニューの [**プレゼンテーション**] をオンにしている ・[**表示**] メニューの [**パレットを隠す**] をオンにしている	P.53 P.277

用語集

ここでは、この使用説明書で使われている用語の説明をしています。

CMS	「Color Management System」の略。「カラーマネージメントシステム」を参照。
CMYK	色を規定し表現するためのカラーモデルのひとつで、主に印刷用に使われます。「C」はシアン（Cyan = 水色）、「M」はマゼンタ（Magenta = 赤紫）、「Y」はイエロー（Yellow = 黄）、「K」はブラック（blacK = 黒）を意味します。CMYは「色の三原色」と呼ばれ、3色を組み合わせて色を表現しますが、印刷インクの場合はCMYだけでは純粋な黒色を再現できないため、ブラックインク（K）を使用するのが一般的です。RGBの加色混合法に対して、減色混合法と呼ばれています。
ColorSync	Apple社が提唱するMac OSレベルのカラーマネージメントシステム。カラーマネージメントとは、スキャナ、モニター、プリンターなどの各装置での異なる色再現域を補正して、各装置間での色の受け渡しを管理するシステムをいいます。
ICC	「International Color Consortium」（国際カラーコンソシアム）の略。ICCは、カラーマネージメントシステムの標準化とカラープロファイル形式の検討を目的に集まったボランティア組織です。異なる装置間での色再現域データを交換するために、汎用的なICCプロファイルとしてまとめられています。現在、このICCプロファイルが業界標準となりつつあり、ISOの制定候補項目にも含まれています。
dpc（dpcm）	「dot per centimeter」の略。解像度の単位で、1センチあたりのドット（画素）の数を表します。dpcの数値が高いほど高解像度となり、なめらかな表現が可能になります。「ppc（pixel per centimeter）」も同様。
dpi	「dot per inch」の略。解像度の単位で、1インチあたりのドット（画素）の数を表します。dpiの数値が高いほど高解像度となり、なめらかな表現が可能になります。「ppi（pixel per inch）」も同様。もっとも一般的な単位として使用されます。
JPEG	「Joint Photographic Experts Group」が規格した圧縮形式またはそのファイル形式のひとつ。人間の視覚が高周波になるほど低下し、低周波になるほど敏感なことを利用し、低周波成分ほど細かく量子化をしています。このため圧縮による見た目の劣化が目立ちづらく、多くのデジタルカメラで使用されているフォーマットです。圧縮率を設定でき、それによってファイル容量は元の画像の1/10～1/100まで小さくなります。圧縮は非可逆性圧縮で、一度圧縮した画像は元に戻せません。
NEF	「Nikon Electronic Format」の略。ニコン専用の画像ファイル形式です。高解像な12ビットまたは14ビットのRAW画像もサポートし、Windows の場合はファイル名の拡張子として使われます。また、Capture NX 2では画像処理ステップや編集バージョンなどのCapture NX 2独自の機能も保存できます。
ppc（ppcm）	「pixels per centimeter」の略。「dpc」を参照。
ppi	「pixels per inch」の略。「dpi」を参照。
RAW画像	カメラの画質モードを「RAW」に設定して撮影した画像で、撮像素子からの生出力が12ビットまたは14ビットの非圧縮形式で記録されます。この画像は、RAW対応のソフトウェアのみで開くことができ、他のアプリケーションで使用するためにはTIFFやJPEGのような一般的なファイル形式で保存し直す必要があります。Capture NX 2でRAW画像のまま保存すれば、各種の画像処理情報（トーンカーブ、色調整、アンシャープマスク、ノイズリダクション、サイズと解像度など）の設定を記録できるため画質を損ないません。

RGB	色を規定し表現するためのカラーモデルのひとつで、主にモニターなどの発光体に使われます。「R」は赤（Red）、「G」は緑（Green）、「B」は青（Blue）を意味します。RGBは「光の三原色」と呼ばれ、赤、緑、青すべて100%で混ぜ合わせると「白」になり、すべて0%の場合は「黒」になります。これらの3色を混ぜることで色を表現することを加色混合法といいます。
TIFF	「Tagged Image File Format」の略で、ビットマップファイル形式のひとつ。グレースケールやフルカラーの画像を扱い、写真などの画像を保存するのに適しています。TIFF（RGB）形式で画像を保存する場合、LZW圧縮を行えば画像情報を失うことなくファイルサイズを小さくできます。
USB	「Universal Serial Bus」の略で、パソコンと周辺機器を接続する代表的な規格。接続を自動的に認識するプラグアンドプレイ機能や、パソコンや周辺機器の電源を入れたままで接続/取り外しができるホットプラグ機能をサポートしています。 なおパソコン側のインターフェースによって、ハイスピード（最高転送速度480Mbps：USB 2.0 のみ）またはフルスピード（最高転送速度12Mbps：USB 1.1 / USB 2.0）のいずれかの動作となります。
圧縮	一定のアルゴリズムを使って、画像データなどのファイルサイズを小さくすること。フルカラーで高解像度の写真画像は、比較的大きなファイルサイズになるので、データの保存や転送のためにファイルサイズを減らす必要があります。 圧縮方法には可逆圧縮と非可逆圧縮の2つのタイプがあります。LZWなどに代表される可逆圧縮は、解凍（展開）すれば元通りになるため、画像品質の損失なしにファイルサイズを減らせます。JPEGなどに代表される不可逆圧縮は、圧縮すると元には戻せません。画質劣化の恐れのある典型的な方法ですが、可逆圧縮よりもファイルサイズを小さくできます。
アンシャープマスク	ビットマップ画像の鮮鋭度を高めるためのフィルターで、シャープネス処理のひとつ。「USM」と略すことがあります。アンシャープマスクをかけると、輪郭部分の色や明るさの差が強調されます。
解像度	画像の細かさを表す画素密度のことで、単位はdpiやppi。与えられた空間にピクセル（ドット）が多いほど解像度は高くなります。「72dpi（72ドット/インチ）」のように、1インチあたりのピクセル数で表します。解像度が高いと、細部がより鮮明になります。ただし、ディスプレイや出力装置によって限界があるため、使用用途に合わせた設定が必要です。
階調	色をステップで細かく分けたときに、各ステップの色の細かさのことで、単位はnビット（bit）またはn階調。「トーン」ともいいます。階調数が多いほど、色の表現はなめらかになります。Capture NX 2では、チャンネルごとに256階調（8ビット）と4096階調（12ビット）、16384階調（14ビット）が扱え、12ビットまたは14ビットの場合は16ビットとして扱われます。
カーブ	「トーンカーブ」を参照。
カラースペース	入出力機器のカラースペースは、その入出力機器で表現可能な色再現域を定義します。スキャナ、プリンター、モニターといったさまざまな入出力機器によって色再現域は異なり、入力から出力までのカラー環境を整えるには、各デバイスでの異なる色再現域を補正/管理し、スキャナ、プリンター、モニターや最終印刷物に再現される色をマッチングする必要があります。「色空間」ともいいます。

カラーマネージメントシステム	スキャナ、プリンター、モニターなどの入出力機器では、同一のデータにも関わらず、色の再現が異なります。これは、同じデータでも入出力機器ごとに表現方法が異なることから起こります。入力から出力までの各工程で、各機器の色の再現性に依存しない一貫した色再現を実現するシステムを「カラーマネージメントシステム」といいます。Apple社の「ColorSync」は、カラーマネージメントシステムのひとつです。
環境設定	ユーザーが定義するソフトウェアの動作環境。ソフトウェアによって設定できる内容は異なります。使い方や条件などによって、ユーザーが任意で設定・変更します。
ガンマ	ガンマ（γ）は、電子映像分野で階調性を表す方法として使用され、出力=（入力）γの指数的な関係を持ちます。ガンマは、値が大きくなるにつれてカーブが大きく弓なりになっていき、γ＞ 1 の場合は入力時よりも暗い画像に、γ＜ 1 の場合は入力時より明るい画像になります。
クリップ（自動コントラスト調節）	明るさや色を一定にする処理のこと。自動コントラスト調節時に、ハイライトまたはシャドーをピクセルパーセントの値で除外する処理がクリップに相当します。
クロップ	画像全体ではなく、ある部分だけをファイルに出力したい場合に、出力の対象となる画像内の必要な範囲を選択すること、または選択された範囲のことです。切り抜きともいいます。
サムネイル	元画像に対する見本画像の意味。サイズの小さな画像で、おもに閲覧画像として使用されます。Capture NX 2の［**ブラウザー**］上に表示されている画像がサムネイルです。
色域	モニター表示または印刷で表現できる色の範囲。人間の目で見ることができる色の範囲は、RGBやCMYKなどのカラーモデルの色域より広いので、モニター表示や印刷などではすべての色を再現できません。基本的なRGBの加色混合法（デジタルカメラやスキャナ、モニター）の色域は、CMYKの減色混合法（プリンター）の色域と大きく異なります。RGBに比べてCMYKは色域が狭いため、RGB画像をCMYKに変換したり、プリントしたりすると、モニターで見ていたときよりもくすんだ印象になる場合があります。色域は「Gamut」ともいいます。
しきい値	アンシャープマスク処理で、処理が適用されない境界値。エッジを付けるかどうかの適用基準となるレベルを設定します。数値を大きくすると、濃淡変化が小さい部分にはエッジが付きません。ノイズの多い画像や目の粗い画像は、しきい値を大きくして平坦な部分のざらつきを抑えると効果的です。
スピードライト	ニコンの別売フラッシュ製品の総称。
スポイトツール	ブラックポイントやホワイトポイント、中間調ポイントの値を抽出するために使うツール。
チャンネル	画像の色成分のこと。［**レベルとトーンカーブ**］ダイアログでは、「**RGB**」「**赤**」「**緑**」「**青**」の4 つのチャンネルがあり、それぞれのチャンネル内の画像分布のコントロールができます。
中間調ポイント	画像内の中間階調色を変更するポイント。［トーンカーブ］ダイアログで中間調ポイントを指定すると、カーブの形が変わり、中間階調の明るさが変化します。
トーンカーブ	画像の階調（明るさ・コントラスト）を視覚的に表示し、調整を可能にするもの。カーブの形を変えることで、入力（元の画像の色）と出力（元の画像の色が最終画像でどのように再現されるか）の関係が変わるので、特定の階調範囲での明るさとコントラストを細かく調節できます。
ノイズ	画像劣化要素のひとつ。被写体には関係なく画像の中に入る情報（画像を形成しない情報）。おもに画像の暗い部分に現れますが、露出を明るいところに合わせて撮影したり、暗い部分に補助光を当てて撮影することで少なくできます。
倍率	元の画像のサイズと出力画像のサイズの比率。縮尺率。倍率が50%のとき、画像は元の画像の半分のサイズで出力されます。

半径	アンシャープマスク処理が適用される範囲で、中心からのパーセントで表します。エッジの太さを変えるもので、数値を増やすと太いエッジが付きます。数値を減らすと細い繊細な輪郭になります。
ビット数	色数、またはカラー深度ともいいます。画像を表現するために用いられている色情報の量（1ピクセルあたりのビット数）を表します。画像のビット数が大きいほど、より多くの色数とよりなめらかな階調を持つことになります。 ビット数は、個々のチャンネル（赤、緑、青）または画像全体のチャンネル（RGB）のどちらの場合も使われます。RGB各チャンネル8ビットの画像の場合、3つのチャンネルを持つため24ビットの画像となります。また、1 ビットの画像は2値画像となります。
ヒストグラム	画像の明るさの分布グラフ。横軸は明るさ、縦軸は各明るさの出現頻度を表します。ヒストグラムの山が左に寄っていれば全体的に暗い画像となり、右に寄っていれば全体的に明るい画像となります。 ［**レベルとトーンカーブ**］ダイアログでは、チャンネルを切換えて各チャンネルごと（RGB、赤、緑、青）にヒストグラムを表示し、階調の状態を見ることができます。また、3つのレベルスライダー（シャドー、中間調、ハイライト）を調整することで、デジタル的に配分できます。この調整は、デジタル的に配分を変化させているため、情報量自体は増えません。そのため、大きく調整するとトーンブレイク（階調が不連続になり、縞模様が現れること）が起きることがあります。
フィッシュアイレンズ	約180度以上の視野を写し込む（画角を得る）ことができるレンズ。全方向に180度の画角を持つ全周魚眼レンズと、対角線方向にだけ約180度の画角を持つ対角線魚眼レンズがあります。フィッシュアイレンズで撮影すると、直線の被写体は画面の周辺に近づくほど歪曲し、画面の中心線に近いほど被写体は直線を保ちます。［**フィッシュアイレンズ**］を使うと、AF DX Fisheye-Nikkor ED 10.5mm F2.8GまたはAF Fisheye-Nikkor 16mm F2.8Dで撮影した画像を、通常のワイドレンズで撮影された画像に近い形に補正できます。
ブラックポイント	画像内のもっとも暗い部分を指定するポイント。［**レベルとトーンカーブ**］ダイアログ内のカーブの左端がブラックポイントとなる。デフォルトでは「0」になっていますが、実際の入力画像のもっとも暗い色を指定することで、シャドーの細部を損なわずに中間階調色を暗くできます。
プロファイル	各デバイスの色再現域特性を定義したファイル。カラーマネージメントシステムでは、このプロファイルを使って、画像の入出力時にデバイス間の色の違いを補正し、各デバイス間での色の受け渡しを管理します。 ニコンカラーマネージメントシステムは、ICCプロファイルを採用しています。
補色	その色同士をかけ合わせると中間色（グレー）になる組合せの色。R（赤）とC（シアン）、G（緑）とM（マゼンタ）、B（青）とY（黄）が補色の関係になります。カラーピッカーのカラーホイール（色相環）で対面にある色が補色の関係になります。
ホワイトバランス	人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラなどでは、照明光の色に合わせてバランス調整を行い、白い被写体が白に見えるようにします。この調整をホワイトバランスを合わせるといいます。
ホワイトポイント	画像内のもっとも明るい部分を指定するポイント。［**レベルとトーンカーブ**］ダイアログ内のカーブの右端がホワイトポイントとなります。デフォルトでは「255」になっていますが、実際の入力画像のもっとも明るい色を指定することで、ハイライトの細部をぼかすことなく中間階調の色を明るくできます。
メモリーカード	カメラの画像記憶媒体として使うカード。

索引

数字

100% で表示 52
2 階調化 63

C

Capture NX 2がサポートする
色空間について 284
Capture NX 2メニュー 272

D

D- ライティング ..... 153 , 294

I

IPTC情報のコピー 244
IPTC情報の貼り付け 244

J

JPEG形式 218
JPEG保存オプション 216

L

LCH エディター 154

N

NEF 保存オプション 214
NEF形式 217

T

TIFF 保存オプション 215
TIFF形式 218

W

「Welcome」画面 32

X

XMP/IPTC 情報 69
XMP/IPTCプリセットの保存 244
XMP/IPTCプリセットの読み込み 244

あ

赤目補正コントロールポイント 141
アクティビティツールバー 29
アクティブD- ライティング 107
アンインストール 296
アンシャープマスク ..... 166 , 295
イメージウィンドウ ..... 21 , 45
イメージダストオフ ..... 109 , 289
色収差補正 ..... 169 , 295
色変換 174
色モアレリダクション 108
印刷 ..... 221 , 292
ヴィネットコントロール 113
ウィンドウメニュー 278

エディットリスト.....21 , 73 , 74
お気に入りフォルダ.....43
オプションピクチャーコントロール.....98

か

回転.....54
回転ツール.....54
重ねて表示.....47
カスタムピクチャーコントロール.....264
画像サイズ / 画像解像度.....180
画像情報.....21
画像の大きさを合わせる.....186
画像の比較.....70
画像を開く.....33 , 291
傾き.....57
傾きツール.....57
カメラ設定.....92
カメラとレンズの補正.....93
画面に合わせて表示.....52
カラー化する.....178
カラーコントロールポイント.....137
カラー設定.....289
カラーバランス.....160
カラーピッカー.....260
カラーブースター.....161
カラープロファイル.....171
カラーマネージメント.....293
環境設定.....248
XMP/IPTCプリセット.....255
一般.....249
カラーマネージメント.....250
キャッシュ設定.....254
設定の管理.....258
表示.....253
ラベル.....257
レベルとサンプリング.....252
ワークスペース.....259
監視フォルダ.....245
境界をぼかす.....82
[境界をぼかす] 適用チェックボックス.....83
クイックフィックス.....93 , 116
グリップエッジ.....22
クロップツール.....59
黒つぶれ表示.....66
[現像] セクション.....74 , 92
コピー.....123
コントラスト / 明るさ.....151
コントラスト：色範囲.....177
コントロールポイント.....6
コントロールポイントの削除.....122
コントロールポイントをすべて表示.....123

さ

最近の画像を開く.....33
最小化 / 最大化ボタン.....22
サイズ変更コントロール.....23
彩度 / 暖色.....162
削除.....122
削除ボタン.....75 , 83
自動赤目補正.....112
自動色収差補正.....111
自動レタッチブラシ.....143

自動レベル 152
ショートカットキー 280
白黒変換 179
白とび表示 65
新規ステップボタン ..... 76 , 79
新規編集バージョンの作成 233
ズームアウト 52
ズームイン 52
ズームツール 51
すべて選択 124
設定の読み込み ..... 240 , 243
設定を適用 236
全画面表示 53
全体不透明度 ..... 82 , 190
選択コントロールポイント 188
選択ツール 126
選択範囲グラデーション 205
　円形グラデーション 205
　線形グラデーション 205
選択範囲の表示 ..... 83 , 210
　オーバーレイの表示 ..... 83 , 210
　選択範囲を隠す ..... 83 , 210
　マスクの表示 ..... 83 , 210
選択範囲表示領域 82
［選択範囲表示領域］適用チェックボックス ..83
選択ブラシ 200

た

待機リスト 239
他のアプリケーションで開く 33
チャンネル 80
［調整］セクション 75
調整のコピー ..... 84 , 241
調整の貼り付け ..... 85 , 241
調整の保存 242
調整メニュー 275
ツールオプションバー 20
ツールバー 20
［適用］チェックボックス 75
手のひらツール 50

な

なげなわと選択ツール 197
　楕円選択ツール 198
　多角形選択ツール 198
　長方形選択ツール 198
　なげなわツール 198
ナビゲーター ..... 21 , 61
名前を付けて保存 213
並べて表示 47
ニコンメッセージセンター 287
ニュートラルコントロールポイント 133
塗りつぶし / 削除ツール 209
塗りつぶしを削除 82
ノイズリダクション ..... 106 , 170

は

ハイパス 164
バッチ処理 ..... 234 , 295
バッチ処理の実行 235
バッチボタン 38
バッチメニュー ..... 76 , 276

貼り付け 123
反転 56
ピクチャーコントロール 97
ピクチャーコントロールシステム 262
ピクチャーコントロール不使用 .. 104 , 288
ピクチャーコントロールユーティリティー 263
ヒストグラム 62
ビューコントロールバー ..... 20 , 41
描画モード 81
表示 / 非表示三角形 76
表示メニュー 276
ファイル / 撮影情報 68
ファイル名の作成ルール 237
ファイルメニュー 272
フィッシュアイレンズ 114
フィルタメニュー 275
フォーカスポイント表示 67
フォルダ ..... 21 , 43
複製 123
復帰 216
不透明度 80
ブラウザー ..... 21 , 34 , 35
ブラウザーでフォルダを開く 33
ブラックコントロールポイント 127
プレゼンテーション 53
プロテクト設定 216
ページ設定 220
ヘルプメニュー 279
編集バージョンの編集 233
編集バージョンメニュー ..... 76 , 232
編集メニュー 273
ぼかし（ガウス） 163
保存 212
ホワイトコントロールポイント 127
ホワイトバランス ..... 94 , 288

ま

マイワークスペース 26
メタデータ 21
メニューバー 20
モニターポイント 64

や

ゆがみ補正 168

ら

ラベル 38
ラベルとレーティングツールバー ..... 21 , 38
リセットボタン ..... 75 , 83
粒状 / ノイズを加える 176
リンクアイコン 76
レーティング 38
レベル調整 267
レベルとトーンカーブ ..... 145 , 293
露出補正 289
ワークスペース 24
　エディット 25
　ブラウザー 24
　マルチ 25
　メタデータ 25
ワークスペースの保存 26
ワークスペースの読み込み 26

カスタマーサポートについて

この製品の操作方法についてのお問い合わせは

この製品の操作方法について、さらにご質問がございましたら下記のニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

ニコンカスタマーサポートセンター

市内通話料でOK ナビダイヤル®

TEL 0570-02-8000

営業時間9:30 ～ 18:00 <年末年始、夏期休業等を除く毎日>

- お電話は、市内通話料金でご利用いただけます。
- 全国共通電話番号**0570-02-8000**にお電話いただき、音声によるご案内にしたがってご利用の製品グループ窓口の番号を入力していただければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせていただきます。
- 携帯電話、PHS、IP電話等をご利用のお客様は、**(03)5977-7033**におかけください。
- FAXでのご相談は、**(03)5977-7499**におかけください。

お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社Webサイトでご覧いただくことができます。

  http://www.nikon-image.com/jpn/support/

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

FAX : 03-5977-7499

【お問い合わせ承り書】

太枠内のみご記入ください

お問い合わせ年月日：　　年　　月　　日
お買い上げ日：　　年　　月　　日
製品名：　　シリアル番号：
フリガナ お名前：
連絡先ご住所：□自宅　□会社 〒 TEL: FAX:
ご使用のパソコンの機種名： メモリ容量：　　ハードディスクの空き容量： OSのバージョン：　　ご使用のインターフェースカード名： その他接続している周辺機器名： ご使用のアプリケーションソフト名： ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：
問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

Nikon

技術的なお問い合わせのご案内

内容および操作に関する技術的なお問い合わせは、下記ニコンカスタマーサポートセンターをご利用ください。

<ニコンカスタマーサポートセンター>

全国共通電話番号 **0570-02-8000** にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

市内通話料でOK ナビダイヤル®

☎ **0570-02-8000**
市内通話料金でご利用いただけます

営業時間:9:30〜18:00(年末年始、夏期休業等を除く毎日)
携帯電話、PHS、IP電話等をご使用の場合は、(03)5977-7033 におかけください。
FAXでのご相談は、(03)5977-7499 におかけください。

株式会社 ニコン

Printed in Japan
SB8F03(10)
6MS54810-03